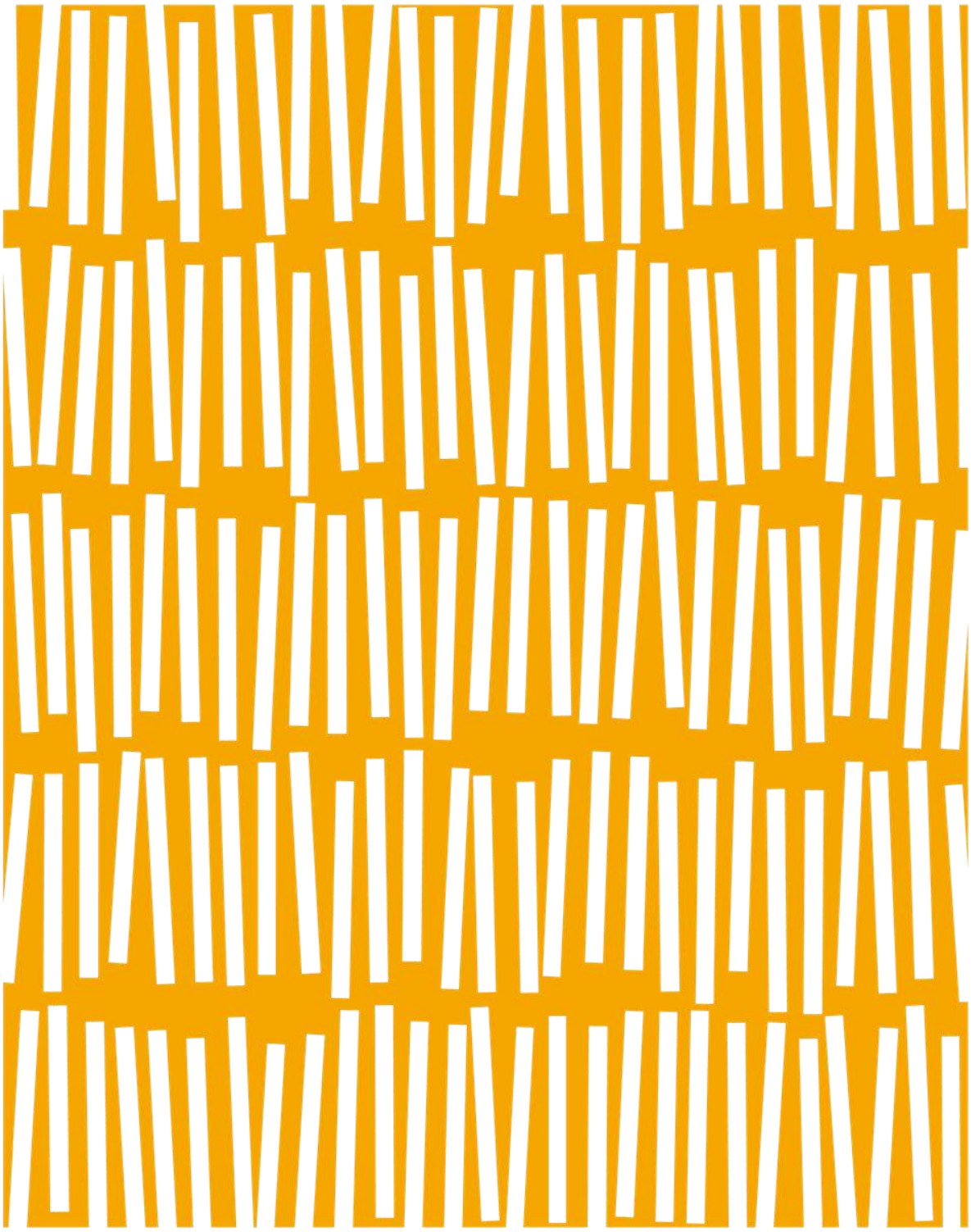
虹のキャラヴァンサライ
あいちトリエンナーレ2016
Aichi Triennale 2016 Rainbow Caravan
8.11→10.23



開催報告書

目次

Ⅰ　主催者あいさつ ……1

Ⅱ　芸術監督報告 ……2

Ⅲ　開催概要 ……6

Ⅳ　企画体制 ……15

Ⅴ　展開概要
1　現代美術
(1) 国際展 ……17
(2) 映像プログラム ……21
(3) 主なイベント等 ……23
(4) チケット ……25

2　舞台芸術
(1) パフォーミングアーツ ……26
(2) プロデュースオペラ ……29

3　普及・教育
(1) 創作プログラム ……30
(2) 鑑賞プログラム ……33
(3) レクチャープログラム ……36
(4) 学校等団体向けプログラム ……38
(5) その他 ……41

4　連携事業
(1) モバイル・トリエンナーレ ……42
(2) 舞台芸術公募プログラム ……43
(3) 芸術大学連携プロジェクト ……44
(4) 特別連携事業 ……45
(5) 並行企画事業 ……45
(6) パートナーシップ事業 ……46
(7) ボランティア ……51
(8) 市民団体等によるあいちトリエンナーレ 2016 連携事業 ……53

5　その他
(1) 会場運営 ……54
(2) 広報・ＰＲ ……56
(3) 公式出版物 ……66
(4) オフィシャルグッズ ……67
(5) ベロタクシー ……68
(6) 旅行商品 ……69
(7) 会場周辺店舗との連携 ……69
(8) 企業・団体等からの協賛・協力 …70

【会期中のイベント・プログラム】 ……71

Ⅵ　来場者の状況等
1　来場者数 ……79
2　チケットの販売状況 ……83
3　アンケート調査結果
(1) 来場者アンケート ……86
(2) 関係者アンケート ……113
(3) 文化芸術関係機関等アンケート ……121
4　有識者意見 ……129
5　経済波及効果 ……133
6　パブリシティ効果 ……134

Ⅶ　実行委員会の状況等
1　実行委員会の収支状況 ……135
2　実行委員会委員等 ……138
3　実行委員会事務局組織 ……140

資料
・あいちトリエンナーレの開催経緯 ……141
・あいちトリエンナーレ実行委員会規約 ……145
・あいちトリエンナーレの推移 ……149

《御利用にあたって》
　数字の表示単位未満は、四捨五入を原則としました。したがって、合計の数字と内訳が一致しない場合があります。

Ⅰ　主催者あいさつ

2016 年 8 月から 10 月にかけて、愛知県で 3 回目となる国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2016」を開催致しました。「虹のキャラヴァンサライ　創造する人間の旅」をテーマとして、現代美術、舞台芸術、普及・教育の各プログラムや連携事業を展開し、74 日間の会期中には、60 万人を超える多くの皆様に御来場いただき、盛況のうち無事終了することができました。

今回のトリエンナーレでは、特徴のひとつとして、「参加アーティストと企画体制の地域的な拡がり」が挙げられます。芸術監督には、南米での滞在経験を経て、フランスを活動拠点の一つとする港千尋氏を迎え、キュレーターには、ブラジルを拠点とするダニエラ・カストロ、トルコ拠点のゼイネップ・オズを招聘しました。それにより、これまで紹介される機会が少なかった南米、アフリカ、中東などを含め、過去最多となる 38 の国と地域からアーティストが参加し、それぞれの国・地域の歴史や独自の文化を踏まえた魅力ある作品を紹介することができました。

また、会場については、前回の名古屋市、岡崎市に加えて、豊橋市内でも展示や公演を展開しました。再開発で注目される名古屋駅周辺、岡崎城をはじめとした歴史的建造物が数多く残る岡崎、路面電車が走る味わいのあるまちなみの豊橋と、それぞれの地域や会場の雰囲気に合わせた魅力ある作品展示を行いました。更には、設楽町・大府市・一宮市・安城市の県内 4 市町でも移動型展示「モバイル・トリエンナーレ」を実施し、多くの方に現代アートに触れていただく機会となりました。

さて、このたび、開催概要や、各プログラムの実施結果、来場者の皆様へのアンケート結果などを内容とする報告書を取りまとめました。私どもといたしましては、今回の成果や課題を活かしながら、皆様により一層親しんでいただけるトリエンナーレとして大切に育て、創造性豊かな地域づくりに繋げてまいりたいと考えております。

最後になりますが、御来場いただきました皆様をはじめ、出品してくださったアーティスト、開催に当たり御支援、御協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

2017 年 3 月
あいちトリエンナーレ実行委員会

Ⅱ　芸術監督報告

［あいちトリエンナーレ 2016 の報告］

共創の時代へ

あいちトリエンナーレ 2016 芸術監督
港 千尋

特別な年だった。真夏に始まる 74 日間、60 万人を超える人々と分かちあった芸術の季節。チャレンジングでありながら無比のプレゼントともなるような、本当に特別な経験となった。イエローオーカーはそれを表す色として、一生の記憶として残るだろう。

「あいちトリエンナーレ」は毎回芸術監督が交代し、それぞれの経験と専門性をもって貢献するのが特徴のひとつである。2014 年に打診があったとき、初回の建畠さんが「都市」をテーマに総合的な芸術祭という方向付けを行い、また前回の五十嵐さんが専門である建築や都市論をベースに大震災と直接向き合い、それぞれ立派な成果を出したことを考えて、では 2016 年に何が可能なのかと、まず自分と向き合わざるを得なかった。3 回目となると、少なくとも愛知では「トリエンナーレ」の意味を説明する必要はない。つまりイベントとして定着しているというアドバンテージがある反面、既視感とマンネリ化のリスクも負うことにもなり、やはり「ターニングポイント」を意識することになる。「都市」「大地」の次は「人間」を中心に据えたいと思いつつしばらく悩んだが、自身写真家として、また人類学の研究者として、長らく旅のなかで制作と思索を続けてきたこともあり、「創造する人間の旅」がコンセプトとして出てきた。愛知県をあらためて地図のなかで眺めると、ちょうど列島の中央に位置している。東西南北、あらゆる方角から旅人が集まり、共に創造を分かち合う場所としての芸術祭。さらに愛知県の特性や地域の魅力をアーティストとともに発掘するというふたつの意味を兼ねて「虹のキャラヴァンサライ」がテーマとなった。

虹は多様性のシンボルである。舞台芸術、オペラ、映画、音楽と現代の芸術領域を広くカバーするという、世界的に見ても最大規模の芸術祭で、しかもそれぞれの分野の最先端を見せなければならない。あらゆる意味でチャレンジングであるが、幅が拡がり規模が大きくなればなるほど、統一性を実現するのは難しい。今回は「虹」のイメージに託し、さまざまな感覚の「スペクトル」「変換」や「横断」を扱う表現を取り上げてゆくことで、参加者と作品のあいだに交感が生まれることを期待した。また参加アーティストの出身地域を地球大に拡大しつつ、予期しないような出会いや共鳴の場となることを目指した。

ダニエラ・カストロとゼイネップ・オズの 2 名の海外キュレーターは、そのために欠くことのできない力となった。ブラジルでは大統領が弾劾され、トルコではテロが相次ぐという、政治的激動というしかない現実のなかにあって、ふたりは危機を乗り越える力もアートにあるという、強い意思を示したと言えるだろう。それぞれの部門でキュレーターが素晴らしい仕事をしたこと、アシスタントキュレーター、コーディネーター、アーキテクト、エディター、エデュケーター等々と多彩な人材が一体となって、三都市開催という大きなスケールを乗り切った。それぞれの会場でのボランティアのみなさんの丁寧で積極的な姿勢にも感銘を受けた。

事務局職員の方々の献身的な努力にもほんとうに脱帽した。今回の「創る人間」の概念には作品の制作だけでなく、芸術祭を創るための準備、調整、実務、広報、現場の運用、問題解決など、すべての人間の活動が含まれる。どれをとっても容易い仕事ではなく、さまざまな問題点や障害をひとつひとつクリアしながら、限られた時間と闘わなければならない仕事でもある。そこに共

に創造する世界、共創の世界の素晴らしさがある。この点でわたしは、ほんとうに人材に恵まれたと思う。この場を借りて心から感謝したい。

2016 の特徴をいくつかピックアップしながら、今後の課題にも触れておきたい。まず広報に関してはスマートフォン対応を含めたウェブのデザイン、SNS の活用など、情報環境の変化に対するキャッチアップを目指した。激変する情報技術にとって 3 年というスパンはとても長く、この部分は毎回バージョンアップが求められると思われる。いっぽう今回はカタログを出版社から出すことで、全国の書店やネット通販でも買うことができ、閉幕後も入手が可能となった。今回初めて作ったコンセプトブックと合わせて期間中に出版するのは、現場にとってはかなりの負担となってしまったが、おそらく他の芸術祭ではなかなか真似のできない事例となったのではないかと思う。amazon などを通して海外でも買えるので、国際芸術祭にとって出版物の一般流通は、今後も重要な条件となると思う。

また、まちなかのサイン、出版物、グッズ類まで含めてデザインの統一性を出すには、デザイン部門のディレクターの存在が欠かせなかったことも特筆したい。デジタルサイネージやフォントデザインについては、情報デザインにおける一連の研究を動員できたことも大きかったが、印刷物とモノとネットをつなぐインテグラルなデザインをどこまで実現できるかは、特に「あいち」のような規模の大きな国際展にとっては重要である。たとえば次の開催時には、デジタルサイネージが IoT の一部になるかもしれない。日本のデザイン力・技術力の見せ所でもあるだろう。

あいちトリエンナーレの際立った性格はジャンルだけでなく組織やオペレーションも含めた、複合性にあると思われる。ビエンナーレ、トリエンナーレに関してこうした複合性をもつイベント主体は、わたしの知る限りベネチアビエンナーレ財団くらいしか思い浮かばない。ベネチアビエンナーレの美術展は 2007 年の第 52 回になって、エデュケーションに本格的に力を入れ、パブリックとの関係を再考するようになり、コンテンポラリーアートにおける「教育普及」の新しい展開への対応を試みた。あいちトリエンナーレも普及教育に力を入れているが、国際展の水準においてはまだ模索段階にあると言っていいだろう。世界的には上からの教育という意味での「エデュケーション」から、観客を主体とした「パブリックラーニング」へと向かっている。今回の参加作品では西尾美也の『パブローブ』が、会期中に次々とプログラムを立ち上げていったが、そこには従来のエデュケーションとは異なる「パブリックラーニング」へのヒントがあると思う。

今回導入した「コラム展示」は、キュレーションにおける複合性の試みである。キュレーターとアーティストやゲストキュレーターが、異なるテーマでプロジェクトを立ち上げるという、ある程度未知数を残せるような複合的キュレーションを導入した。もともとあいちトリエンナーレには、現存する作家による参加を前提とし、物故作家を含まないという方針がある。それを尊重しつつ、国際展のなかにコラム的に独立した小展覧会を設定することで、歴史的なリサーチや実験性をもった活動を開けるのではないかというアイデアでもあった。

合計 8 つの展覧会のうち『異郷にて―西江雅之が歩いた世界』と『マライーニ家の鏡―民族学者と 20 世紀日本』のふたつは、それぞれタイトルが示すように文化人類学者の業績を通して、歴史や文化への眼差しをたどる内容になった。前者では南山大学人類学博物館に寄贈された西江コレクションの一部に生前最後のインタビューを加えた立体的な展示。後者はイタリアの文化人類学者で写真家のフォスコ・マライーニが第二次世界大戦中、愛知県で「敵性外国人」として拘束され、一家全員が厳しい拘留生活を送ったという一般的にはあまり知られていない事実に注目し、マライーニの自筆資料や写真や映像とともに歴史を辿る試みである。個人的には西江先生には若い時からお世話になったこともあり、今回の展示を通じて、世界的な学者の足跡に多くのひとが触れるきっかけが作れたように思う。

展示は芸術祭期間中「ライブラリー」として設けられた図書コーナーに隣接し、関連書籍を読むことで来場者の個別の好奇心に応えられるように便宜がはかられた。参加作家 LPACK.による「ライブラリー」は、トーク、コラム展示、資料という、三つの異なるリソースがひとつの空間のなかに配置されているところに新しさがある。実はこうした「知の空間化」は、公立の図書館が模索している取り組みでもあり、今回は美術の側から「共創の空間」を提案したとも言えるだろう。実験的な試みだが、今後の参考になるだろうと思う。

いっぽう美術展と舞台芸術をエデュケーションとどのように関係づけるかは、今後も考えてゆくことになるだろうが、コラム展示的な企画もふくめたパブリックラーニング、あるいはパブリックプロジェクトの一部としての「エデュケーション」を考えることもできるのではないか。もちろんトリエンナーレでもはじめての試みであり、内容的な掘り下げにバラつきがあったのではないかと反省もある。だが国際芸術祭が増加傾向にあるなか、やがてフォーマット化が避けられない状況が予想されるとすれば、「展覧会内展覧会」のような方式は、マンネリに陥らないための自由度を確保する手段になりうるとも感じた。

芸術監督の依頼があったとき、最初に伝えられたことのひとつは「世界の文化芸術の発展に貢献」、「文化芸術の日常生活への浸透」、「地域の魅力の向上」という 3 つの骨子であった。シンプルで志が高いと思ったが、これはある程度、同時代の他の芸術祭にも共通する目標ではないだろうか。果たしてあいちトリエンナーレ 2016 においてそれがどこまで実現されたかは、冷静な評価を待たなければならない。

個々の会場の運営と作品については、動員数だけでなく、そこで何が起き、どのような経験がもたらされたかという質的な評価も必要だろう。たとえば豊橋会場でのラウラ・リマ作品の小鳥をめぐる問題もそのひとつで、ますます表現の範囲を拡張する現代美術にあっては、外部の専門知識集団との勉強会や協同が必要になる局面も多々ある、という認識をわれわれは持たなければならない。共に創造することこそが、世界の文化芸術の発展につながる。

また「日常生活への浸透」と「地域の魅力の向上」についてはモバイル・トリエンナーレも重要な役割を担っている。会期中 4 つのモバイル会場すべてを訪れたが、特に地理的に離れた設楽町の特設会場に、次々と見に来る地域の人々の姿は忘れられない。コンパクトにまとめられた展示は、それぞれの会場の特徴を際立たせるとともに、われわれにとっても、巨大なトリエンナーレのエッセンスを理解する上で、有益だったことも付け加えておきたい。加えて 3 回目以降になると、芸術祭の歴史をどのように残すべきかが問われるようになる。国際シンポジウムでも議論となった「レガシー」の問題でもあるが、開催期間の外にあっても、日常生活のなかに芸術祭がもたらしたアートが存在するには、どのような形態が可能なのか、工夫と議論が待たれる。

芸術祭の成功とは、ボランティアや地元の方々からのご支援も含めて、すべての人が全力で取りかかり、やりきった真摯な努力の結果としてある。こうして愛知にかかった大きな虹は、次のトリエンナーレへの期待の徴でもあるだろう。三年後の再会がいまから楽しみである。

Ⅲ　開催概要

開催目的

・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。
・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。

名称

あいちトリエンナーレ 2016／Aichi Triennale 2016

テーマ

虹のキャラヴァンサライ　創造する人間の旅
Homo Faber：A Rainbow Caravan

芸術監督

港 千尋（写真家・著述家｜多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授（映像人類学））

会期

2016 年（平成 28 年）8 月 11 日（木・祝）～10 月 23 日（日）［74 日間］

主な会場

・愛知芸術文化センター
・名古屋市美術館
・名古屋市内のまちなか（長者町会場、栄会場、名古屋駅会場）
・豊橋市内のまちなか（PLAT 会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場）
・岡崎市内のまちなか（東岡崎駅会場、康生会場、六供会場）

事業展開

・現代美術を基軸としながら、ダンスやオペラなどの舞台芸術も展開する。
・まちなかでのパフォーマンスや作品展示等の展開により、賑わいを創出する。
・幅広い層を対象とした普及・教育プログラムを展開する。
・多様な主体との連携による様々な事業を展開する。
・県内での広域展開を図り、より多くの方々に現代芸術に触れていただける機会を創出する。

主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

後援

在大阪イタリア総領事館／スペイン大使館／ブラジル大使館／メキシコ大使館／イタリア文化会館 – 大阪／在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本／駐日韓国大使館 韓国文化院／ブリティッシュ・カウンシル

助成

文化庁／一般財団法人地域創造／Acción Cultural Española(AC/E)／一般財団法人自治体国際化協会／オランダ王国大使館／公益財団法人朝日新聞文化財団／一般財団法人東海テレビ国際基金／Office for Contemporary Art Norway (OCA)／The Swedish Arts Grants Committee's International Programme for Visual Artists（iaspis）／アンスティチュ・フランセ パリ本部／在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本／la Ville de Montpellier／le Département de l'Herault／la Région Languedoc Roussillon Midi-Pyrénées／la DRAC Languedoc-Roussillon-Midi-Pyrénées

協賛

イオン株式会社／栢森新治／公益社団法人愛知県医師会／損害保険ジャパン日本興亜株式会社／一般社団法人愛知県歯科医師会／公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会／岡谷鋼機株式会社／名古屋競馬株式会社／株式会社ニッショー／株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行／名古屋南ロータリークラブ／一般社団法人愛知県薬剤師会／一般社団法人愛知県土木研究会／ＮＤＳ株式会社／小原建設株式会社／株式会社サンゲツ／株式会社資生堂／トヨタ自動車株式会社／一般社団法人愛知県浄化槽協会／東和不動産株式会社／愛知県信用保証協会／愛知県私学協会／名古屋ファッション専門学校／株式会社メニコン／株式会社豊田自動織機／愛知県農業土木研究会／サーラグループ／名港海運株式会社／株式会社日建設計／株式会社 LIXIL 中部支社／アイシン精機株式会社／中部美容専門学校 一宮校・岡崎校・名古屋校／株式会社デンソー／豊田通商株式会社／愛知県女性団体連盟／一般社団法人愛知ビルメンテナンス協会／公益社団法人愛知建築士会／ブラザー工業株式会社／ホーユー株式会社／東海光学株式会社／一般社団法人愛知県鍼灸マッサージ師会／愛知県農業土木測量設計技術研究会／中部ファッション専門学校／長者町福利協同組合／名古屋長者町協同組合／株式会社ＮＨＫプラネット中部支社／興和株式会社／大同メタル工業株式会社／中部土木株式会社／トーテックアメニティ株式会社／豊橋信用金庫／阪和興業株式会社／トヨタ車体株式会社／愛知県美術館友の会／天野エンザイム株式会社／オーエスジー株式会社／岡崎信用金庫／株式会社ジェイテクト／セクダム株式会社／有限会社津島ロックサービス／東邦ガス株式会社／名古屋トヨペット株式会社／日本空調システム株式会社／公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会／ハイビックス株式会社／ヤマサちくわ株式会社／リンナイ株式会社／ワンピース倶楽部

協力

株式会社ダイテック／株式会社学書／堀田商事株式会社／株式会社ＮＴＴドコモ／株式会社坪井花苑／八木兵殖産株式会社／長谷工グループ／名古屋鉄道株式会社／日本郵便株式会社／東海旅客鉄道株式会社／株式会社ジェイアール東海高島屋／名工建設株式会社／中部国際空港株式会社／愛知県タクシー協会岡崎支部／株式会社プライズメント／日本ユニシス株式会社／ポッカサッポロフード＆ビバレッジ株式会社／株式会社タケナカ／トロテック・レーザー・ジャパン株式会社／株式会社コングレ／日本航空株式会社／アート・ビオトープ那須／株式会社両口屋是清／公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター／ぺんてる株式会社

会場提供

株式会社岡崎表屋／岡崎シビコ／協同組合岡ビル百貨店／喫茶クラウン／旧石原家住宅（通称 石原邸）／松應寺／株式会社総合開発機構／学校法人創造学園 創造学園高等学校／大豊商店街／合資会社不二商会／吉田商事株式会社

認定

公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファンド

〇テーマ

虹のキャラヴァンサライ　創造する人間の旅

Homo Faber：A Rainbow Caravan

〇コンセプト

3 回目となるあいちトリエンナーレは、創造しながら旅（キャラヴァン）を続ける人間をテーマにしたい。それは常に未知への、好奇心による無限の探求のかたちをとる。

人間が創り出した物のうちで、現時点で我々から最も遠いところにあって、その旅を続けているのは、アメリカが宇宙へ送った探査機である。このうち 1977 年に打ち上げられたヴォイジャー1 号と 2 号には「ゴールデンレコード」と呼ばれる金属板が搭載され、そこには 55 の言語による挨拶、さまざまな国の異なる音楽、自然界の音、画像などが記録されていた。太陽系を出て次の恒星にすれ違うのは、およそ四万年後とされるから、仮に人間以外の生命からメッセージが届いたとしても、地球がその時どうなっているかは誰にも分からない。当時の合衆国大統領は打ち上げに先立ち「われわれが現在直面している課題を解消し、銀河文明の一員となることを期待する」と語ったが、この間に解消された課題が何なのか、自信を持って言える「銀河文明の一員」はまだいないだろう。途方もない距離と時間の中で、好奇心を持つ人間による未知への旅は続くのだ。

これらのヴォイジャーとは時の向きが逆になるが、人間が創り出した最初の芸術的造形は、およそ三万五千年前の洞窟の闇のなかに残されている。それは人間以外の生命の像で、さまざまな動物のイメージだった。それ以来、芸術は人間以外の存在への好奇心とその連続性を示してきた。音、リズム、色彩、身ぶりなど、芸術は自然界のなかに秩序を認め、その要素を組み合わせて変換しつつ、自然界には存在しない別の秩序をも探してきたが、芸術と自然界の間には常に知性と感性が取り持つ交流があった。もし仮にその交流が困難になり、知性と感性とが分離してしまえばどうなるだろうか。おそらく知性のみによる自然の隷属化、人間の人間以外の生命からの絶対的な離脱、生命と土地との切断、さらには人間自身の人間性からの乖離という、最も深刻な課題に直面せざるを得ないだろう。

白い光のなかに自然科学は「虹」の多色のスペクトルを見る。同様に世界の神話は大空を貫くドラゴンを語る。詩は光のなかに感情を、音楽は光のなかに諧調を聴く。これらもすべて「虹」である。こうして、自分以外の存在との連続性のなかから、音と色彩を見つけ出し、それを歌や踊りに変え、言葉とイメージを作りだしてきた人間は、2016 年までに、どのような新たなヴィジョンを創り出しているだろうか。生きている土地との長い関係を通じて生まれ育まれてきた芸能と芸術、そして技術の伝統があり、そのイノヴェーションを続けてきた愛知は、世界に向けて「先端的」であることを提案するこの国際芸術祭の格好の舞台となるだろう。

あいちトリエンナーレは美術、映像、音楽、パフォーマンス、オペラなど、現代行われている芸術活動をできる限り「複合的」に扱おうとする稀有な国際芸術祭である。これは芸術が専門化してジャンルに分化する以前に、原初的に持っていたであろう、自然界との連続性を再発見するにはまたとない機会となる。また、同時代に生きる人間が創造行為を通して自由にアイデアを交換し、その方法を知り、感動を共有する、開かれた「祝祭的」な場ともなる。

芸術そのものが未知への旅である。同様に、人間の営みそのものが未知への旅である。そして、芸術祭のかたちもひとつの旅だ。それはたくさんの人が集い、あらゆるボーダーを越え、来るべき響きとかたちを求める探究のキャラヴァンである。わたしたちの時代の「ゴールデンレコード」はわたしたちで作ろう。展覧会、舞台芸術をはじめ、さまざまな好奇心をもった人が集う多彩なイヴェントが行われる場所が、わたしたちの「キャラヴァンサライ」、つまり、旅の疲れを癒しつつも、次なる未知への旅への英気を養う家（サライ）となるのだ。

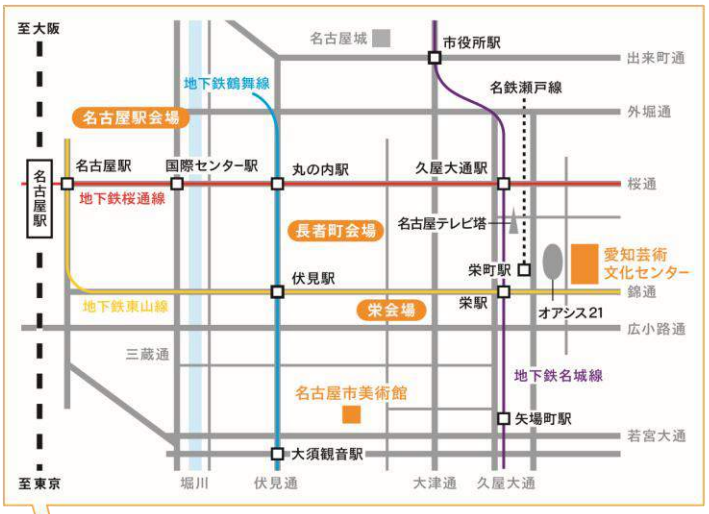
今、無限の想像力を結集して創造の旅（キャラヴァン）が出発する。

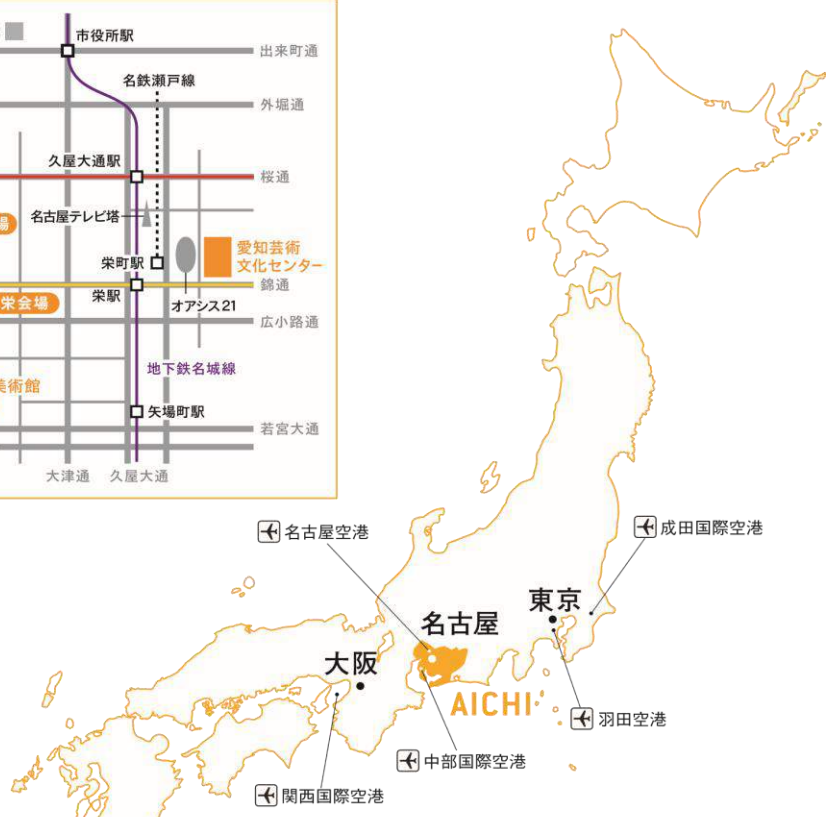
港 千尋

［キャラヴァンサライ］
キャラヴァンサライとはペルシア語で、隊商宿を意味する。広い中庭には厩や倉庫や取引所があり、二階に宿泊所を設けた立派なもの。キャラヴァンが旅の疲れを癒す休息の場所でもある。

キャラヴァンサライ
エディルネ（トルコ）2014
（撮影：港 千尋）

○会場周辺図





[代表的な愛知県までのアクセス]

| 東京から |

東京駅ー約1時間40分ー名古屋駅（JR東海道新幹線「のぞみ」利用）

東京駅ー約1時間23分ー豊橋駅（JR東海道新幹線「ひかり」利用）

| 大阪から |

新大阪駅ー約50分ー名古屋駅（JR東海道新幹線「のぞみ」利用）

| 航空機利用の場合 |

各空港→中部国際空港 セントレアー約28分ー名古屋駅
（名古屋鉄道「ミュースカイ」利用）

各空港→県営名古屋空港ー約30分ー名古屋駅
（あおい交通の空港バス利用）

| 名古屋駅から豊橋地区、岡崎地区へのアクセス |

名古屋駅ー約19分ー豊橋駅（JR東海道新幹線「ひかり」利用）

名古屋駅ー約54分ー豊橋駅（JR東海道本線快速利用）

名古屋駅ー約53分ー豊橋駅(名古屋鉄道特急利用)

名古屋駅ー約31分ー東岡崎駅(名古屋鉄道特急利用)

○主な会場

名古屋 | 愛知県の西部に位置する人口約 230 万人の政令指定都市で、中部地方の政治、経済、文化の中心。歴史とモノづくり文化・産業が調和するまちである。

愛知芸術文化センター（名古屋市東区東桜 1-13-2）
愛知県美術館と大ホール、コンサートホール、小ホールを備えた愛知県芸術劇場などが複合した日本屈指の大規模文化芸術施設。1992 年開館。

名古屋市美術館（名古屋市中区栄 2-17-25）
都心の緑豊かな白川公園に建つ美術館。設計は黒川紀章。モディリアーニの「おさげ髪の少女」をはじめ約 6000 点の作品を収蔵。これらを展示する「常設展」と随時開催する「特別展」がある。1988 年開館。

長者町会場（名古屋市中区）
名古屋の中心地・栄と名古屋駅の間に位置し、戦後は日本三大繊維問屋街の一つとして発展してきた。過去 2 回のあいちトリエンナーレのまちなか会場でもあった。

栄会場（名古屋市中区）
名古屋駅とともに名古屋の都心を構成する商業地区。前回、前々回に会場となった中央広小路ビルのほか、昭和初期に建てられた旧明治屋栄ビルや高層ビルの損保ジャパン日本興亜名古屋ビルなどで展示。

名古屋駅会場（名古屋市中村区）
愛知の玄関口として、1 日に 100 万人以上が利用する地区。2027 年のリニア開業を見据え、高層ビルの建設が進む。その一つ JP タワー名古屋で展示。

豊橋 | 愛知県の南東部に位置する人口約 38 万人の東三河の中心都市。太平洋や三河湾などの豊かな自然に恵まれ、まちなかには、市民の足として親しまれている路面電車が走る風景がある。

PLAT 会場（豊橋市西小田原町 123）
本格的な舞台芸術が上演可能なホールを持ち、PLAT（プラット）の愛称で親しまれる穂の国とよはし芸術劇場で展示。2013 年開館。

水上ビル会場（豊橋市駅前大通）
まちなかを流れる用水路上に建てられた長さ約 800 メートルの商店街ビル、通称「水上ビル」の空き店舗で展示。

豊橋駅前大通会場(豊橋市駅前大通二丁目)
豊橋の中心市街地である豊橋駅東口駅前に位置し、大通りには路面電車が走っている。オフィスや飲食店などが入居する開発ビルなどで展示。

岡崎 | 愛知県の中央部に位置する人口約 38 万人の西三河の中心都市。江戸幕府を開いた「徳川家康公」の生誕地として有名で、歴史と伝統に恵まれた資産豊かなまちである。

東岡崎駅会場（岡崎市明大寺本町 4）
岡崎市の玄関口として、多くの人が行き交う名古屋鉄道の駅。昭和中頃の雰囲気を色濃く残す岡ビル百貨店で展示。

康生会場（岡崎市康生通西、康生町ほか）
徳川家康公の生誕地・岡崎城の城下町、東海道の宿場町として発展してきた中心市街地。三河武士発祥の地としても知られる。岡崎城のある岡崎公園、商業施設岡崎シビコなどで展示。

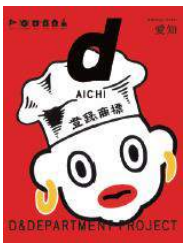
六供会場（岡崎市六供町杉本 70）
なだらかな丘陵地に寺や住宅が並び、細い路地が通る旧市街。展示には、幕末に建てられた通称石原邸（国登録有形文化財「旧石原家住宅」）を使用。

○あいちトリエンナーレ 2016 の特徴

①参加アーティストと企画体制の地域的な拡がり

3 回を数えるあいちトリエンナーレ 2016 では、南米での滞在経験を経て、フランスを活動拠点の一つとする港千尋芸術監督に加え、キュレーターにブラジル拠点のダニエラ・カストロとトルコ拠点のゼイネップ・オズを招聘。それによって、参加するアーティストの出身国・地域は拡大し、海外のアーティストの比率も増加しました。国内に関しても北海道や沖縄までの幅広い地域での活動を紹介し内外で創作活動が盛んに行われていることを示します。

②従来のアートの枠組みを越境



あいちトリエンナーレ 2016 はアートの定義の再考を促し、その枠組みの拡大を試みます。ディアンドデパートメントプロジェクト(デザイン)は編集部が約 2 ヶ月かけて県内で滞在リサーチし、出会ったものを展示します。ハーバード大学感覚民族誌学ラボ(文化人類学)や関口涼子(文学)などユニークな視点で活動を展開してきた個人や団体も紹介します。パフォーミングアーツでも、フラメンコの革命児と称されるイスラエル・ガルバン、能と現代音楽を融合させた舞台を創る青木涼子が参加。Co.山田うんは愛知県奥三河地方で数百年間継承されてきた神事の花祭をベースに、コンテンポラリーダンスを創作します。

③グループとして多様な活動をするアーティストを紹介

世界のさまざまな地域へ出張して展開する北九州国際ビエンナーレや、アートスペースやコミュニティラジオ局の運営などの活動で、アートを通して活動地域に大きなインパクトを与えているルアンルパ(インドネシア)など、アイデアを共有して活動するアーティストのグループを紹介します。また期間限定で「空気の建築家」を名乗る、アーキテクツ・オブ・エアー(英国)がデザインする巨大なドーム型の空気彫刻「ペンタルム・ルミナリウム(光の家)」を岡崎公園に設置。中に入って、光が透過するカラフルな色の世界を直接体感することができます。

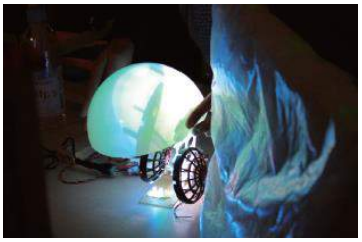
④文化人類学的視点

世界各地の人々の活動や言語を調査研究する文化人類学。今回、アーティストと作品を選ぶ上で、この文化人類学が問いかけるそれぞれの「文化」が持つ独自の形を意識しています。また、我々人類が地球上で長く共存してきた動物たち、人類が登場する以前から存在していた土などの自然との関係を考えるとともに、洞窟壁画など先史時代の人類による美術についても紹介します。

⑤国際展のなかの小企画「コラムプロジェクト」

国際展では参加アーティストによる展示に加えて、「コラムプロジェクト」という小企画を展開。展示やレクチャー、ワークショップなど、さまざまな形式のプロジェクトを実施します。「コラム(column)」とは古代ギリシャやローマなどの古典主義の建築に登場する石の列柱のことです。新聞ではエピソードなどを紹介したり、意見を述べたりする副次的なものとして扱われ、紙面を構成する時にとても重要なものです。本展における「コラム」は、今回のテーマ/コンセプトを支えるとともに、参加アーティストの作品を補間していくものです。

⑥先端的ものづくりプロジェクト「ツクロッカ」



あいちトリエンナーレ 2016 では「Homo Faber*」をテーマに掲げ、先史より続く人類のものづくりの行為に焦点を当てています。「LOCUS FABER **ツクロッカ」は、ものづくりの可能性を広げつつ、芸術表現との関わりを追求するプロジェクト。近年のデジタル技術の発達と普及は、単に生産活動だけでなく、現代アートの作品制作においても変化をもたらそうとしています。「ツクロッカ」では実際にこれらの技術を用い、アーティストと一般からの参加者が共同で一つの展示を作り上げます。

*ホモファベル/"創造する人間"の意　　**ロクスファベル/"創造する場所"の意

①アドリアナ・ミノリーティ《Primavera /Otoño (Spring / Autum)》 2015 Courtesy of the artist and Galería Agustina Ferreya, Puerto Rico ②ディアンドデパートメントプロジェクト『d design travel AICHI』 2016 Courtesy of D & DEPARTMENT Inc. ③アーキテクツ・オブ・エアー《ペンタルム・ルミナリウム》 2013 photo: Alan Parkinson ④田附 勝《使わなくなるライフル》 2014 Courtesy of the artist and GALLERY SIDE 2 copyright Masaru Tatsuki ⑤勝又公仁彦《#IMG_8768》「cities on the move」より 2012 Courtesy of the artist ⑥「LOCUS FABER ツクロッカ」ワークショップ風景

⑦舞台芸術公演が集中する「レインボーウィークス」

10 月 6 日から会期終了までの期間を「レインボーウィークス」と称し、パフォーミングアーツの公演を集中して開催。多様な演目を短期間の滞在で鑑賞することができるようになりました。ここではカンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレが歌、ライブ演奏、芝居などで繰り広げる夢幻的なスペクタクルをはじめ、複合性を特徴とする演目が並びます。会場も愛知県芸術劇場の他に、名古屋市内では名古屋市芸術創造センターや名古屋市青少年文化センター（アートピア）、そして豊橋市内や岡崎市内でも展開します。

⑧世界的才能が創り出すオペラ「魔笛」

シカネーダーが脚本を書き、モーツァルトが作曲したドイツ語によるオペラ「魔笛」は、エジプトを舞台に展開される、ポピュラーでありながら、奥の深い作品です。舞台には「鳥刺し」が登場し、試練を与えられた若い男女の主人公たちの別れと出会いが展開。設定として洞窟なども登場し、文化人類学的に意味のある神話的な構造が見て取れます。若手イタリア人指揮者デスピノーサが指揮を、多彩な芸術的才能を持つ勅使川原三郎が独自の演出を行うとともに、舞台美術、衣裳、振付までを総合的に手掛けます。

⑨ダミコルームとキャラヴァンファクトリー

ビクトル・ダミコ考案の装置「アートティーチング・トイ」を用いて、来場者が作品を鑑賞するに際し、触覚や視覚そして運動感覚を研ぎ澄まし、頭と目と体の準備運動をする場所「ダミコルーム」を愛知芸術文化センター12 階アートスペース H に設けます。また会期中は、大人も子どもも参加して、用意された材料や道具を使って自らのアート作品を制作できる場所として「キャラヴァンファクトリー」を同 12 階アートスペース G に設置します。

⑩愛知とブラジルの関わりを意識した展開

2016 年 6 月末現在、愛知県の外国人住民数は 217,465 人。外国人住民数を国籍（出身地）別に見るとブラジルが 49,444 人で、最も多い 22.7%を占めています。中でも、今回の会場となる豊橋市と岡崎市にはブラジル人が多く居住しています。今回は、一般参加型の作品を展開するジョアン・モデ（国際展）やダニ・リマ（パフォーミングアーツ）をはじめ、マウロ・レスティフェ、リビジウンガ・カルドーゾ、ラウラ・リマ（いずれも国際展）といったブラジルを拠点に活動するアーティストが参加します。

⑪豊橋市と岡崎市でのまちなか展開

前回の名古屋市と岡崎市に加え、路面電車の走る豊橋市が新たに会場として加わります。2013 年にオープンした、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT を起点に、駅前大通の開発ビルを中心に展開するほか、1960 年代に用水路の上に作られたユニークな水上ビルの一部も使用します。同時に豊橋公園でもパフォーミングアーツを行います。岡崎市では前回の岡崎シビコと名鉄東岡崎駅ビルのほか、新たに六供会場の石原邸、康生会場の岡崎公園でも展示を行います。

⑫名古屋市内の新たな展示会場

2010 年と 2013 年に展示が行われた長者町会場は、世界のアートシーンで「CHOJAMACHI」として知られるようになりました。また栄会場では、広小路通に面した名古屋の近代建築を代表する重厚な建物、旧明治屋栄ビルと、桜通に面した損保ジャパン日本興亜名古屋ビルでも展示。今回から新たに加わる名古屋駅会場では、再開発により注目を浴びる名古屋駅前に完成した、JP タワー名古屋で展示を行います。

⑦カンパニーDCA ／フィリップ・ドゥクフレ『CONTACT』2014 photo: Laurent Philippe ⑧初演時のパパゲーノの衣裳を着たエマヌエル・シカネーダー ⑨アートティーチング・トイ体験の様子 提供:愛知県児童総合センター ⑩ジョアン・モデ《NET Project》ウルグアイとブラジルの国境での展示風景 2003- photo: João Modé ⑪水上ビル外観 ⑫旧明治屋栄ビル外観

○あいちトリエンナーレ実行委員会組織図

平成 28 年 8 月 11 日現在

【芸術部門】
芸術監督
＜役割＞
学芸業務の責任者。トリエンナーレ全体の企画を統括

・港　千尋
（写真家・著述家
多摩美術大学教授）

キュレーター
＜役割＞
芸術監督の指揮の下に学芸業務を担当

【運営会議】
＜役割＞
意思決定機関。芸術監督選任、テーマ・コンセプト、事業計画、予算等決定

会長　　：愛知県知事
会長代行：名古屋市長
副会長　：名古屋商工会議所会頭
　　(一社)中部経済連合会会長
委員　　：名古屋商工会議所専務理事
　　(一社)中部経済連合会専務理事
　　中日新聞社代表取締役社長
　　NHK名古屋放送局局長
　　(独)国際交流基金理事
　　愛知芸術文化センター総長
　　愛知県県民生活部長
　　名古屋市観光文化交流局長
　　(公財)愛知県文化振興事業団理事長
　　(公財)名古屋市文化振興事業団理事長
　　馬場駿吉（名古屋ボストン美術館館長）
　　松村公嗣（愛知県立芸術大学学長）
　　高階秀爾（大原美術館館長）
　　峯村敏明(多摩美術大学名誉教授)
　　北爪道夫（愛知県立芸術大学名誉教授）
　　野田邦弘（鳥取大学教授）

【顧　問】
＜役割＞
運営に関し、会長の相談に応じる

・愛知県議会議長
・名古屋市会議長
・愛知県市長会会長
・愛知県町村会会長

【芸術顧問】
＜役割＞
トリエンナーレの学芸業務に関し、会長及び芸術監督の相談に応じる

・建畠　哲
（元芸術監督、多摩美術大学学長）

【アドバイザー】
＜役割＞
専門的な観点から助言
・(独)国際交流基金文化事業部長
・五十嵐太郎（前芸術監督、東北大学大学院教授）

【監　事】
・柘植里恵（公認会計士・税理士）
・中谷光孝（文化行政経験者）

【参　与】
＜役割＞
事業に関し、会長の相談に応じる

・愛知県議会総務県民委員会委員長
・名古屋市会経済水道委員会委員長
・中京テレビ放送代表取締役社長
・CBCテレビ代表取締役社長
・テレビ愛知代表取締役社長
・東海テレビ放送代表取締役社長
・名古屋テレビ放送代表取締役社長
・朝日新聞社名古屋本社代表
・日本経済新聞社常務執行役員名古屋支社代表
・毎日新聞社中部本社常務執行役員中部代表
・読売新聞東京本社執行役員中部支社長
・名古屋音楽大学学長
・名古屋芸術大学学長
・名古屋造形大学学長
・愛知県小中学校長会会長
・愛知県公立高等学校長会会長
・名古屋市立小中学校長会会長
・愛知県私学協会会長
・愛知芸術文化協会顧問
・愛知県美術館館長
・愛知県芸術劇場館長
・名古屋市美術館館長
・豊橋市副市長
・岡崎市副市長

【幹事】
＜役割＞
実行委員会の円滑な運営を図るため、運営会議の下に設置

・愛知県県民生活部文化芸術課長
・名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部長
・名古屋商工会議所企画振興部長
・(一社) 中部経済連合会企画部長
・愛知芸術文化センター管理部長
・(公財) 愛知県文化振興事業団常務理事

Ⅳ　企画体制

■芸術監督

港 千尋　MINATO Chihiro

1960 年神奈川県生まれ。写真家・著述家。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授（映像人類学）。早稲田大学政治経済学部卒業。2013 年より国際交流基金国際展事業委員を務める。群衆や記憶など文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション等、幅広い活動を続けている。著作『記憶–創造と想起の力』（講談社／1996）でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。2006 年に釜山ビエンナーレ共同キュレーターを、2012 年に台北ビエンナーレ共同キュレーターを務める。2007 年にはヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館のコミッショナーも務めた。

現代美術（国際展）

■チーフ・キュレーター

拝戸雅彦（愛知県国際芸術祭推進室）

■キュレーター

金井 直、服部浩之、ダニエラ・カストロ、ゼイネップ・オズ

■アシスタント・キュレーター

石崎 尚、中村史子、副田一穂（以上、愛知県美術館）
石田大祐（岡崎市）
加藤 慶、西田雅希、趙 純恵、水谷仁美

■コーディネーター

清澤暁子、板垣美香、奥田浩貴、若山満大（以上、愛知県国際芸術祭推進室）
舟橋牧子、立花嘉乃、那波佳子、辻本泰子、小山冴子、近藤令子

■プロジェクト・コーディネーター

有田泰子、廣田 緑、児玉真伍、谷口裕子、中村ゆかり

■シニア・アーキテクト

武藤 隆

■アーキテクト

栗本真壱、丸田知明、山岸 綾

■テクニカル・マネージャー

小川智彦

■テクニカル・スタッフ

宮路雅行、土方 大

映像プログラム

■キュレーター

越後谷卓司（愛知県美術館）、濱 治佳

■コーディネーター

梅原麻紀（愛知県国際芸術祭推進室）

舞台芸術

■キュレーター（パフォーミングアーツ）
藤井明子、唐津絵理（以上、公益財団法人愛知県文化振興事業団）
■プロデューサー（プロデュースオペラ）
水野 学（公益財団法人愛知県文化振興事業団）
■コーディネーター
丸田鞠衣絵、那木萌美（以上、愛知県国際芸術祭推進室）
岡田理絵、森 信子
■テクニカル・コーディネーター
金井勇一郎

普及・教育

■チーフ・エデュケーター
伊藤優子
■エデュケーター
田中由紀子、寺島千絵、松村淳子
■アシスタント・エデュケーター
霜山博也、谷澤陽佑
■コーディネーター
藤井真由、千葉浩子（以上、愛知県国際芸術祭推進室）

広報

工藤千愛子、牧野妙子（以上、愛知県国際芸術祭推進室）
市川靖子、原 三枝

公式デザイン

■公式デザイナー
永原康史
■デザインチーム
湯浅哲也、白澤真生、溝田尚子、青木奈美、平井秀和、石井善博

編集

■エディター
田尻佳佑

○メインビジュアル

虹の
キャラヴァンサライ
あいち
トリエンナーレ
2016

＜デザイナー＞
永原康史

＜デザインコンセプト＞
コンピューターによって自動生成された線は、シンプルでありながらもひとつとして同じかたちにならず、それらが集まってもうひとつのイメージをつくりだします。創造と探求の旅をテーマに、根源的でありながら未来に向かおうとする芸術の数々を、変化する線の集まりに重ねました。テーマカラーは太古の色であるイエローオーカーをベースに選定しました。

Ⅴ　展開概要

1　現代美術

(1) 国際展

・国内外から 85 組のアーティストが出品し、最先端の現代美術を紹介する日本最大級の国際芸術祭。
・愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市内（長者町会場、栄会場、名古屋駅会場）、豊橋市内（PLAT 会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場）、岡崎市内（東岡崎駅会場、康生会場、六供会場）など広域に展開した。
・今回のテーマに沿って、それぞれコンセプトを持った小企画展示である「コラムプロジェクト」を計 8 つ、各地区で展開した。
・参加アーティストや作品の選定において、「旅」の視点を取り入れた。

■スケジュール

会場	内容	開催日
愛知芸術文化センター（愛知県美術館、アートスペースなど）	国際展／エデュケーションプログラム／映像プログラム	8 月 11 日(木・祝) ～ 10 月 23 日（日）
名古屋市美術館、長者町会場	国際展／エデュケーションプログラム	
栄会場、名古屋駅会場	国際展	
PLAT 会場、豊橋駅前大通会場	国際展／エデュケーションプログラム	
水上ビル会場	国際展／エデュケーションプログラム	
東岡崎駅会場	国際展／エデュケーションプログラム	
康生会場、六供会場	国際展／エデュケーションプログラム	

■展示面積

会場		展示面積	備考
名古屋地区	愛知芸術文化センター	7,492 ㎡	
	名古屋市美術館	1,766 ㎡	
	長者町会場	1,818 ㎡	壁面含む
	栄会場	1,492 ㎡	
	名古屋駅会場	83 ㎡	ジェイアール名古屋タカシマヤ、壁面含む
	計	12,651 ㎡	
豊橋地区	PLAT 会場	459 ㎡	
	水上ビル会場	258 ㎡	
	豊橋駅前大通会場	3,453 ㎡	
	計	4,170 ㎡	
岡崎地区	東岡崎駅会場	470 ㎡	
	康生会場	3,979 ㎡	岡崎公園多目的広場を含む
	六供会場	374 ㎡	籠田公園を含む
	計	4,823 ㎡	
計		21,644 ㎡	

※常設的な展示を行った会場の面積を計上

■参加アーティスト一覧

	作家名	出生年	出身地（国）	ジャンル	会場
1	⋆キャンディ・ファクトリー・プロジェクト／北九州国際ビエンナーレ in 愛知 マイク・ボード、ヨンヘ・チャン・ヘヴィー・インダストリーズ、ジョン・ミラー、宮川敬一、古郷卓司	1998	神奈川県	映像インスタレーション	長者町
2	味岡伸太郎	1949	愛知県	絵画	芸文
3	赤石隆明	1985	静岡県	写真	康生
4	アブドラ・アル・サーディ	1967	アラブ首長国連邦	絵画、彫刻	市美
5	アローラ＆カルサディーラ	1995	―	映像インスタレーション、パフォーマンス	芸文、豊橋市公会堂
6	ジョヴァンニ・アンセルモ	1934	イタリア	彫刻	市美
7	アーキテクツ・オブ・エアー	1992	イギリス	彫刻	岡崎公園
8	ルーカス・ブラロック	1978	アメリカ	写真	康生
9	ノミン・ボルド	1982	モンゴル	絵画	市美
10	ケルスティン・ブレチュ	1979	ドイツ	絵画、映像インスタレーション	栄
11	リビジウンガ・カルドーゾ（別名：レアンドロ・ネレフ）	1975	ブラジル	インスタレーション	豊橋駅前
12	マリアナ・カスティーリョ・デバル	1975	メキシコ	彫刻	市美
13	ニダル・シャメック	1985	チュニジア	絵画	芸文
14	アリ・シェリ	1976	レバノン	インスタレーション	芸文
15	ディアンドデパートメントプロジェクト	2000	東京都	プロジェクト	芸文、長者町
16	カワヤン・デ・ギア	1979	フィリピン	彫刻、映像	芸文、六供
17	インジ・エヴィネル	1956	トルコ	映像	芸文
18	ニコラス・ガラニン	1979	アメリカ	インスタレーション	豊橋駅前
19	ジェリー・グレッツィンガー	1942	アメリカ	絵画	芸文
20	キオ・グリフィス	1963	神奈川県	サウンドインスタレーション	芸文
21	グリナラ・カスマリエワ＆ムラトベック・ジュマリエフ	1998	キルギス共和国	映像	豊橋駅前
22	端 聡	1960	北海道	インスタレーション	栄
23	タロイ・ハヴィニ	1981	パプアニューギニア	彫刻	芸文
24	久門剛史	1981	京都府	インスタレーション	豊橋駅前
25	今村 文	1982	愛知県	絵画	長者町
26	石田尚志	1972	東京都	映像インスタレーション	豊橋駅前
27	イマン・アイッサ	1979	エジプト	彫刻	芸文
28	菅野 創＋やんツー	2011	―	プロジェクト	芸文
29	シュレヤス・カルレ	1981	インド	インスタレーション	康生
30	勝又公仁彦	―	静岡県	写真	康生
31	ハッサン・ハーン	1975	イギリス	サウンドインスタレーション	長者町、康生
32	チェルシー・ナイト with ニック・ハレット、マシュー・ポール・ジンクス、クリスティン・サン・キム、ライアン・トレイシー	1976	アメリカ	映像	芸文
33	小林耕平	1974	東京都	インスタレーション	豊橋駅前
34	ヴァルサン・クールマ・コッレリ	1953	インド	彫刻	芸文
35	小杉武久	1938	東京都	サウンドインスタレーション	市美
36	小山泰介＋名和晃平	2011	―	写真、彫刻	康生
37	イグナス・クルングレヴィチュス	1979	リトアニア	映像	水上ビル
38	賴 志盛（ライ・ヅーシャン）	1971	台湾	インスタレーション	市美
39	チャールズ・リム・イー・ヨン	1973	シンガポール	インスタレーション	芸文
40	ラウラ・リマ	1971	ブラジル	インスタレーション	水上ビル

	作家名	出生年	出身地(国)	ジャンル	会場
41	刘 韡(リウ・ウェイ)	1972	中国	インスタレーション	芸文
42	LOCUS FABER ツクロッカ	2015	愛知県	プロジェクト	芸文
43	L PACK.	2007	神奈川県	プロジェクト	芸文
44	マーク・マンダース	1968	オランダ	彫刻	芸文
45	ヨルネル・マルティネス	1981	キューバ	インスタレーション	水上ビル
46	松原 慈	1977	東京都	インスタレーション	芸文
47	アドリアナ・ミノリーティ	1980	アルゼンチン	インスタレーション	長者町
48	三田村光土里	1964	愛知県	インスタレーション	芸文
49	ミヤギフトシ	1981	沖縄県	映像	栄
50	ジョアン・モデ	1961	ブラジル	プロジェクト	芸文、市美、PLAT、六供
51	森北 伸	1969	愛知県	彫刻、絵画	芸文、名駅
52	オスカー・ムリーリョ	1986	コロンビア	プロジェクト	芸文
53	中村裕太	1983	東京都	インスタレーション	芸文
54	ウダム・チャン・グエン	1971	ベトナム	映像	芸文、PLAT、東岡崎駅
55	西尾美也 +403architecture[dajiba]	1982/2011	奈良県／静岡県	プロジェクト	芸文
56	二藤建人	1986	埼玉県	彫刻、インスタレーション	東岡崎駅
57	野村 在	1979	兵庫県	インスタレーション	康生
58	大巻伸嗣	1971	岐阜県	インスタレーション	芸文、栄、PLAT
59	岡部昌生	1942	北海道	絵画	芸文、市美、豊橋駅前
60	大木裕之	1964	東京都	映像インスタレーション	長者町
61	マチュー・ペルノ	1970	フランス	写真、映像	芸文、六供
62	ハリル・ラバー	1961	エルサレム	インスタレーション	豊橋駅前
63	マウロ・レスティフェ	1970	ブラジル	写真	市美
64	ルアンルパ	2000	インドネシア	プロジェクト	長者町
65	ナターシャ・サドゥル・ハギギャン	1968	ドイツ	インスタレーション	長者町
66	佐々木愛	1976	大阪府	絵画	豊橋駅前
67	佐藤克久	1973	広島県	絵画	市美
68	佐藤 翠	1984	愛知県	絵画	長者町、六供
69	関口涼子	1970	東京都	インスタレーション	六供
70	ハーバード大学感覚民族誌学ラボ	2006	アメリカ	映像	豊橋駅前
71	柴田眞理子	1957	愛知県	陶芸	六供
72	白川昌生	1948	福岡県	インスタレーション	長者町
73	ソン・サンヒ	1970	韓国	映像インスタレーション	栄
74	多田友充	1979	広島県	絵画	市美
75	田島秀彦	1973	岐阜県	インスタレーション	芸文、六供
76	高橋士郎	1943	東京都	インスタレーション	芸文
77	竹川宣彰	1977	東京都	インスタレーション	芸文
78	田附 勝	1974	富山県	写真	芸文、六供
79	寺田就子	1973	大阪府	インスタレーション	栄
80	ウェンデリン・ファン・オルデンボルフ	1962	オランダ	映像インスタレーション	豊橋駅前
81	クリス・ワトソン	1953	イギリス	サウンドインスタレーション	芸文
82	ディレク・ウィンチェスター	1974	トルコ	映像、インスタレーション	芸文
83	山田 亘	1964	愛知県	プロジェクト	栄、長者町
84	山城知佳子	1976	沖縄県	映像	栄
85	横田大輔	1983	埼玉県	写真	康生

芸文＝愛知芸術文化センター／市美＝名古屋市美術館／長者町＝長者町会場／栄＝栄会場／名駅＝名古屋駅会場／PLAT＝PLAT 会場／水上ビル＝水上ビル会場／豊橋駅前＝豊橋駅前大通会場／東岡崎駅＝東岡崎駅会場／康生＝康生会場／六供＝六供会場

■コラムプロジェクト

・今回のトリエンナーレのテーマに沿ってそれぞれコンセプトを持った小企画展示（計 8 企画）を、各地区で展開した。

・地域の活動の背景となる歴史的なものを掘り下げること、参加するアーティストたちの活動を共通項でつなぐこと、先端的で実験的な表現を紹介することを目的として実施した。展示やレクチャーなどさまざまな形で展開し、全体のコンセプトを補完するとともに、アーティストの展示を背後で支え、時に相対化するものとして機能した。

企画名	展示会場	内容等
異郷にてー西江雅之が歩いた世界	名古屋地区（愛知県美術館 8 階ギャラリーJ）	西江雅之（1937-2015）はアフリカやカリブ海域など世界各地でフィールドワークを重ねた言語学者、文化人類学者で、特にピジン・クレオール諸語の研究者として知られる。西江が収集した民族資料や自身が撮影した写真、親交の深かった港千尋によるインタビュー映像などにより世界中をわたり歩いた裸足の学者、西江雅之の仕事を紹介した。
マライーニ家の鏡ー民族学者と 20 世紀日本	名古屋地区（愛知県美術館 8 階ギャラリーJ）	イタリアの文化人類学者、フォスコ・マライーニ（1912-2004）は登山家、写真家として名高いが、同時に、日本の多様な文化の紹介者としても広く知られている。フォスコによる写真作品に加え、戦時中愛知県内で強制収容されていた際の資料を紹介した。
アーティストの虹ー色景	名古屋地区（愛知県美術館 8 階ギャラリーJ）	アーティストらが選んだ写真と色をもとに、港千尋と三木学が考案した画像色彩解析ソフトウェアを用いて、あいちトリエンナーレ 2016 オリジナルのカラーチャートを作成。それらの集積を「世界の色景」として眺めることで、色の文化がもつ多様性を考察した。
洞窟芸術への旅	名古屋地区（愛知県美術館 8 階ギャラリーJ）	フランス文化省の協力により、2015 年のショーヴェ洞窟の原寸大の複製としてオープンした「ポン・ダルク洞窟」や、2016 年末にオープンするラスコー洞窟の複製「ラスコー4」で使われた映像表現などにより、はるか時空を超えた対話を新しいイメージによって紹介した。
コレクティブ・アジアーオキュパイ／生存権／ユーモア	名古屋地区（長者町会場［堀田商事株式会社］）	毎週水曜夜に行われる全 10 回のレクチャー、トークを通じて、アジア各都市で「集合的な芸術・文化・社会実践を行う集団（コレクティブ）」を紹介していくプロジェクト。コレクティブの実践や、直面している問題、リアルな声を収集・翻訳・編集することで、アジア圏における芸術と社会実践の関係性を捉え直すための共有アーカイブの制作を行った。
交わる水ー邂逅する北海道／沖縄	名古屋地区（栄会場［中央広小路ビル］）	北海道と沖縄は隣国と身近に接する場所であり、「先端」として時代の激しい変化や異文化との接触を直接的に体験してきた。その地に根ざし制作を続けること、また、それぞれを訪れ、交流を重ねるとともに影響を受けあい表現していく作家を取り上げた。（総合ディレクター：端聡／キュレーター：町田恵美／プロジェクトアシスタント：佐野由美子／参加作家：石田尚志、岡部昌生、ミヤギフトシ、山城知佳子、端 聡）
鳥の歌ーメッセンジャーの系譜学	豊橋地区（PLAT 会場［穂の国とよはし芸術劇 PLAT］）	森の鳥たちの声を採集するクリス・ワトソンのように、鳥と縁の深いアーティストたちによる作品に加えて、東海地方の遺跡からしか出土しないという鳥の蓋鈕をもった須恵器をはじめ、神話や呪術、音楽と結びついた鳥にまつわる資料等を紹介した。
トランスディメンションーイメージの未来形	岡崎地区（康生会場［岡崎シビコ］）	写真の未来形の顕著な動向としての「次元」の問題、ポスト・インターネット時代における写真の 3D 化シンドロームに焦点をあて「トランスディメンション」をキーワードに構成し、展示した。（ディレクター：後藤繁雄／参加作家：赤石隆明、ルーカス・ブラロック、勝又公仁彦、小山泰介＋名和晃平、横田大輔）

(2) 映像プログラム

・「プレイタイム！」と銘打ち、愛知芸術文化センターを中心に国内外 25 組の映像プログラムを上映した。

■スケジュール

愛知県芸術文化センター12 階 アートスペースＡ

上映日	上映作品等	入場者数
8.19(金)	『バリクバヤン#1』	125 人
	オープニングイベント「東と西」キドラック・タヒミック×港千尋	125 人
8.20(土)	『都市と都市のあいだ』	37 人
	『モツ・マエヴァ』	42 人
	『孤島の葬列』	64 人
	『残響世界』	59 人
	『変魚路』	68 人
	「短編集 1」	46 人
8.21(日)	「短編集 4」	39 人
	『モツ・マエヴァ』	34 人
	『千の太陽』	47 人
	『南極から赤道まで』	57 人
	「短編集 4」	31 人
	「短編集 1」	46 人
8.23(火)	「短編集 2」	47 人
	『都市と都市のあいだ』	35 人
8.24(水)	『凱里ブルース』	42 人
8.25(木)	『アスマハーンの耐えられない存在感』	42 人
	「短編集 3」	44 人
	ゲストトーク「映像・映画の越境」大木裕之×濱 治佳	46 人
8.26(金)	「短編集 4」	30 人
	『孤島の葬列』	37 人
8.27(土)	『都市と都市のあいだ』	33 人
	『モツ・マエヴァ』	36 人
	「短編集 3」	80 人
	『アスマハーンの耐えられない存在感』	59 人
	『残響世界』	47 人
	『凱里ブルース』	68 人
	ゲストトーク「旅・移動・移民」金子遊	38 人
8.28(日)	「短編集 4」	43 人
	『南極から赤道まで』	42 人
	『千の太陽』	64 人
	「短編集 2」	58 人
	『南極から赤道まで』	37 人
	『HOMO SAPIENS』（原題）	44 人
8.31(水)	活弁イベント「発掘の旅」作品上映＆トーク：安井喜雄×越後谷卓司	107 人
9.1(木)	「短編集 3」	39 人
	『都市と都市のあいだ』	33 人
9.2(金)	『千の太陽』	36 人
	「短編集 2」	71 人
9.2(金)	ゲストトーク「夜の虹」ミヤギフトシ	50 人
9.3(土)	『孤島の葬列』	41 人
	「短編集 1」	154 人
	『アスマハーンの耐えられない存在感』	54 人
	『残響世界』	45 人
	『彷徨える河』	107 人
9.4(日)	「短編集 2」	75 人
	『都市と都市のあいだ』	69 人
	「短編集 3」	105 人
	『千の太陽』	53 人
	『孤島の葬列』	47 人
9.6(火)	『モツ・マエヴァ』	50 人
	『アスマハーンの耐えられない存在感』	43 人
9.7(水)	「短編集 2」	45 人
	『孤島の葬列』	34 人
9.8(木)	『残響世界』	37 人
	『千の太陽』	36 人
9.9(金)	『アスマハーンの耐えられない存在感』	50 人
	『モツ・マエヴァ』	47 人
9.10(土)	「短編集 3」	82 人
	『残響世界』	61 人
	『凱里ブルース』	94 人
	『HOMO SAPIENS』（原題）	121 人
	『バリクバヤン#1』	81 人
9.11(日)	「短編集 4」	64 人
	『南極から赤道まで』	51 人
	「短編集 1」	187 人
	『南極から赤道まで』	101 人
	『変魚路』	178 人
	ゲストトーク「芝居と映画」高嶺 剛×港千尋	124 人
計		4,364 人

短編集 1／音楽 写真 夢
『魔王』、『サティの「パラード」』、『キューバのみなさん、こんにちは』
短編集 2／イメージとランドスケープの交歓
『イメージの地層』、『Rhizome』、『ロマン派の音楽』、『花の名前』
短編集 3／ユーモアとホラーを巡らして
『めまい』、『I think you're a little confused』、『ヴォイス-オーバー』
短編集 4／ふるさとは遠く
『ズドラーストヴィチェ！』、『海上の宮殿』、『海外移住組合の移住地実況』

愛知県芸術劇場　小ホール

上映日	上映作品等	入場者数
8.30(火)	『三人の女』	146 人
8.31(水)	『三人の女』	201 人
	ゲストトーク「第三の映画」伊藤高志×荒木優光×港千尋	112 人
計		459 人

松應寺（岡崎市）

上映日	上映作品	入場者数
9.17(土)	『彷徨える河』	57 人

豊橋市公会堂

上映日	上映作品等	入場者数
9.30(金)	ゲストトーク「魔術の宵」山村浩二×港千尋	99 人
	「短編集 1」	123 人
計		222 人

地下鉄伏見駅旧サービスセンター

上映日	上映作品
8.11(木・祝) ～ 9.16 (金) ※8.22(月)、9.12(月)は休み	短編集 5 旅する映画① 『ズドラーストヴィチェ！』、『Rhizome』、『西遊記 孫悟空物語』
9.17(土) ～ 10.23(日) ※10.3(月)は休み	短編集 6 旅する映画② 『イメージの地層』、『ズドラーストヴィチェ！』、『西遊記 孫悟空物語』

■参加アーティスト・団体

	名前	生年	出身地（国）	上映作品
1	畢 赣（ビー・ガン）	1989 年	中国	『凱里ブルース』2015 年
2	陳 界仁（チェン・ジエレン）	1960 年	台湾	『残響世界』2014 年
3	マティ・ディオップ	1982 年	フランス	『千の太陽』2013 年
4	アッザ・エル・ハサン	1971 年	ヨルダン	『アスマハーンの耐えられない存在感』2014 年
5	エクスシネマ	2014 年設立	アメリカ	『都市と都市のあいだ』2015 年
6	モーレン・ファゼンデイロ	1989 年	フランス	『モツ・マエヴァ』2014 年
7	クリストフ・ゴートリー	1976 年	フランス	『めまい』2012 年 （共作：マチュー・ブリスブラ）
8	ニコラウス・ゲイハルター	1972 年	オーストリア	『HOMO SAPIENS』（原題）2016 年
9	イェルバン・ジャニキアン＆ アンジェラ・リッチ・ルッキ	1975 年 共同制作	イタリア	『南極から赤道まで』1986 年
10	シーロ・ゲーラ	1981 年	コロンビア	『彷徨える河』2015 年
11	伊藤高志	1956 年	福岡県	『三人の女』2016 年
12	ボリス・ラベ	1987 年	フランス	『Rhizome』2015 年
13	ミヤギフトシ	1981 年	沖縄県	『ロマン派の音楽』『花の名前』2015 年
14	小川 育	1988 年	東京都	『I think you're a little confused』2016 年
15	ロイス・パティ―ニョ	1983 年	スペイン	『イメージの地層』2015 年
16	プラネット映画資料図書館	1974 年設立	大阪府	大藤信郎『西遊記 孫悟空物語』1926 年
17	ジョルジュ･シュヴィッツゲベル	1944 年	スイス	『魔王』2015 年
18	キドラット・タヒミック	1942 年	フィリピン	『バリクバヤン＃1』2015 年
19	高嶺 剛	1948 年	沖縄県	『変魚路』2016 年
20	ピムパカー・トーウィラ	1967 年	タイ	『孤島の葬列』2015 年
21	アニエス・ヴァルダ	1928 年	ベルギー	『キューバのみなさん、こんにちは』1963 年
22	ロイ・ヴィルフォーイェ	1960 年	オランダ	『ヴォイス-オーバー』2014 年
23	山村浩二	1964 年	愛知県	『サティの「パラード」』2016 年
24	幸 洋子	1987 年	愛知県	『ズドラーストヴィチェ！』2015 年
25	ミディＺ	1982 年	ミャンマー	『海上の宮殿』2014 年

(3) 主なイベント等

■オープニングイベント

開催日	内容	実施場所
8月10日 (水)	内覧会、プレスツアー （豊橋地区、岡崎地区のプレスツアーは8月11日(木・祝)）	全会場
	記者会見	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA
	ダニ・リマ 『Little collection of everything』 招待公演	愛知県芸術劇場小ホール
	オープニングレセプション	名古屋東急ホテル3階 ヴェルサイユ

■石田尚志『絵馬・絵巻／プロジェクション』

開催日	①8月11日(木･祝)　②9月2日(金)
場所	①豊橋市公会堂（正面外壁）　②日本銀行名古屋支店（南東角外壁）
内容	石田尚志による作品「絵馬・絵巻」のプロジェクションを開催。建物の外壁を使用して「絵馬堂」のようなイメージを投影した。
参加者数	①600人　②1,263人

■ジョアン・モデ『NET Project』

開催日	①8月11日(木･祝)～10月16日(日) ②10月17日(月)～10月23日(日)
場所	①名古屋市美術館・穂の国とよはし芸術劇場PLAT・籠田公園 ②愛知芸術文化センター ※その他モバイル・トリエンナーレの各会場にも設置
内容	ジョアン・モデによる作品。鑑賞者がさまざまな素材と色の紐を結びつけていく参加型の作品。名古屋、豊橋、岡崎の3会場で制作されたネットが、最後は愛知芸術文化センターで1つになり、巨大なネットとして展示された。
参加者数	①42,439人　②6,864人

■三田村光土里『Art & Breakfast Day あいちトリエンナーレ』

開催日	①8月13日(土)・14日(日)　②8月21日(日)　③9月11日(日)
場所	①長者町会場周辺店舗、②豊橋市内の店舗、③大府市勤労文化会館
内容	三田村光土里の企画により、朝食を通じてアーティストや様々な人とコミュニケーションを楽しむというイベントを実施した。
参加者数	①170人　②17人　③22人

■オープニングシンポジウム『旅・創造・共同体』

開催日	8月14日(日)
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA
内容	それぞれの立場と背景を織り交ぜながら、今回のテーマである創造の視点から導きだされる「共同体」のあり方について語り合うシンポジウムを開催した。 《モデレーター》 港 千尋（あいちトリエンナーレ2016芸術監督） 《パネリスト》 拝戸雅彦（あいちトリエンナーレ2016国際展チーフ・キュレーター） ダニエラ・カストロ（あいちトリエンナーレ2016国際展キュレーター） 服部浩之（あいちトリエンナーレ2016国際展キュレーター） 金井 直（あいちトリエンナーレ2016国際展キュレーター） ゼイネップ・オズ（あいちトリエンナーレ2016国際展キュレーター） 《ゲスト》 白川昌生（あいちトリエンナーレ2016国際展参加アーティスト） アデ・ダルマワン（あいちトリエンナーレ2016国際展参加アーティスト／ルアンルパ ディレクター）
参加者数	160人

■アーキテクツ・オブ・エアー『ペンタルム・ルミナリウム』

展示期間	10 月 1 日(土)～16 日(日)
場所	康生会場（岡崎公園多目的広場）
内容	「アーキテクツ・オブ・エアー」（空気の建築家）による、全長約 50mにもなる空気で膨らむビニール製の建築物「ルミナリウム」のひとつで、五角形をテーマとした「ペンタルム」を期間限定で展示した。
参加者数	11,551 人

■国際シンポジウム『文化・成熟・発酵』

開催日	10 月 1 日(土)・2 日(日)
場所	愛知芸術文化センター12 階 アートスペース A
内容	外部からの視点を持ちより「あいちトリエンナーレ」について考え、さらに芸術や美術とは区別されがちな「食」や「味覚」に関する視点も差し込みながら、「芸術祭」、「文化」について考えるシンポジウムを開催した。 《登壇者等》 藤川哲（山口大学教授） ルイス・ビッグス（フリーランス・キュレーター） ボース・クリシュナマチャリ（キュレーター／アーティスト） 飯田志保子（インディペンデント・キュレーター／東京藝術大学准教授） 安田文吉（東海学園大学特任教授） 味岡伸太郎（あいちトリエンナーレ 2016 国際展参加アーティスト） 関口涼子（あいちトリエンナーレ 2016 国際展参加アーティスト） 港 千尋（あいちトリエンナーレ 2016 芸術監督） 拝戸雅彦（あいちトリエンナーレ 2016 国際展チーフ・キュレーター） 服部浩之（あいちトリエンナーレ 2016 国際展キュレーター） 金井 直（あいちトリエンナーレ 2016 国際展キュレーター）
助成	一般財団法人自治体国際化協会
参加者数	129 人

■アローラ＆カルサディーラ『Lifespan』

開催日	10 月 8 日(土)・9 日(日)・10 日(月･祝)
場所	豊橋市公会堂
内容	デヴィッド・ラング作曲、アローラ＆カルサディーラ監修による、三名のパフォーマーの口笛と息吹によるユニークなサウンド・パフォーマンス『Lifespan』を行った。（日本初演）
参加者数	918 人

(4) チケット

チケットの種類	区分	チケット料金		
		会期中販売券 （8 月 11 日～10 月 23 日）	前売券 （5 月 1 日～8 月 10 日）	特別先行前売券 （4 月 1 日～4 月 30 日）
普通チケット	一般	1, 800 円	1, 400 円	1, 100 円
	大学生	1, 300 円	1, 000 円	700 円
	高校生	700 円	500 円	300 円
フリーパス	一般	3, 600 円	3, 100 円	－
	大学生	2, 500 円	2, 000 円	－
	高校生	1, 200 円	1, 000 円	－
豊橋・岡崎地区限定チケット	高校生以上	300 円	－	－
愛知県美術館 10 階限定チケット	高校生以上	300 円	－	－

※普通チケットは入場当日のみ、同会場での再入場が可能。会場ごとに日を改めて入場可能
※フリーパスは期間中、国際展のすべての会場を何度でも入場可能
※愛知県美術館 10 階限定チケットは 10 月 11 日より、愛知芸術文化センター愛知県美術館 10 階チケット売場のみで販売
※中学生以下は入場無料
※国際展会場のチケット売場において、会期中販売券（普通チケット、フリーパス）を購入する場合に限り、各種割引あり（障害者割引、 団体（20 人以上）割引、関連チケット等の提示による割引）

表面

裏面

２　舞台芸術

(1) パフォーミングアーツ

・国内外から 10 団体が参加し、ダンス、音楽等の上演のほか、ワークショップも実施した。
・会期を通して作品を上演し、特に 10 月の「レインボーウィークス」には、週末に集中して作品を上演した。
・愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市内、豊橋市内、岡崎市内でも広域に開催した。
・「旅」というテーマに合わせ、先鋭的なダンス・音楽等で世界を架橋する作品を上演した。

■ホール公演 スケジュール

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
愛知県芸術劇場大ホール	カンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレ	『CONTACT』（日本初演）	10 月 15 日(土)・16 日(日)	1,263 人
愛知県芸術劇場小ホール	ダニ・リマ	『Little collection of everything』（日本初演・初来日）	8 月 10 日(水)（招待公演）	145 人
			8 月 11 日(木･祝)～14 日(日)	531 人
	イスラエル・ガルバン	『SOLO』（日本初演）	10 月 7 日(金)～9 日(日)	588 人
	小杉武久	『MUSIC EXPANDED #1』	10 月 22 日(土)	209 人
		『MUSIC EXPANDED #2』	10 月 23 日(日)	195 人
名古屋市芸術創造センター	イスラエル・ガルバン	『FLA.CO.MEN』（日本初演）	10 月 15 日(土)・16 日(日)	733 人
	Co.山田うん	『いきのね』（新作）	10 月 22 日(土)・23 日(日)	564 人
名古屋市青少年文化センター（アートピア）	青木涼子	『秘密の閨(ねや)』（新作）	10 月 23 日(日)	340 人
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース	ダニ・リマ	『Little collection of everything』（日本初演・初来日）	8 月 17 日(水)・18 日(木)	277 人
計				4,845 人

■まちなか公演 スケジュール

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
オアシス 21	虹のカーニヴァル ※フラメンコ、日舞、サンバ等の一般参加型プログラム		9 月 24 日(土)・25 日(日)	17,000 人
岡崎シビコ	アジアン・サウンズ・リサーチ(プロジェクト・ディレクター：Sachiko M)	『OPEN GATE 2016』動き続ける展覧会 an ever-changing exhibition（日本初演）	10 月 6 日(木)～10 日(月･祝)	1,127 人
豊橋公園	アニマル・レリジョン	『Chicken Legz』（日本初演・初来日）	10 月 8 日(土)～10 日(月･祝)	2,172 人
名古屋市美術館サンクンガーデン	カンパニー・ディディエ・テロン	『AIR』（新作）	10 月 21 日(金)・22 日(土)	1,230 人
長者町会場	カンパニー・ディディエ・テロン	『LA GRANDE PHRASE』	10 月 22 日(土)・23 日（日）	3,240 人
計				24,769 人

■ダンスワークショップ

講師等	開催場所	開催日	参加者数
ダニ・リマ	愛知県芸術劇場 中リハーサル室	8 月 8 日(月)	18 人
	こども未来館ここにこ スタジオ A	8 月 16 日(火)	15 人
虹のカーニヴァル・サンバワークショップ	愛知県芸術劇場 中リハーサル室	9 月 11 日(日)	64 人
イスラエル・ガルバン	愛知県芸術劇場 大リハーサル室	10 月 10 日(月)・11 日(日)	98 人
計			195 人

■参加アーティスト・団体

	名前	生年	出身地 （国）	公演場所
1	アニマル・レリジョン	2012 年 活動開始	―	豊橋公園
2	青木涼子	―	大分県	名古屋市青少年文化センター （アートピア）
3	アジアン・サウンズ・リサーチ （プロジェクト・ディレクター：Sachiko M）	2014 年 始動	―	岡崎シビコ
4	カンパニー・ディディエ・テロン	1987 年 活動開始	―	名古屋市美術館サンクガーデン、長者町会場
5	カンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレ	1961 年	フランス	愛知県芸術劇場大ホール
6	Co.山田うん	2002 年 結成	東京都	名古屋市芸術創造センター
7	イスラエル・ガルバン	1973 年	スペイン	愛知県芸術劇場小ホール、 名古屋市芸術創造センター
8	小杉武久	1938 年	―	愛知県芸術劇場小ホール
9	ダニ・リマ	―	ブラジル	愛知県芸術劇場小ホール、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース
10	虹のカーニヴァル	―	―	オアシス 21

■チケット

団体名等・演目	料金	販売開始日
ダニ・リマ 『Little collection of everything』	前売：3,000 円（当日：3,500 円） 学生：1,500 円　中学生以下：500 円 ※3 歳以下無料	6 月 25 日(土)
アジアン・サウンズ・リサーチ （プロジェクト・ディレクター：Sachiko M） 『OPEN GATE 2016』動き続ける展覧会 an ever-changing exhibition	5 日間パス：1,000 円	
イスラエル・ガルバン 『SOLO』	5,000 円 学生：3,000 円	
イスラエル・ガルバン 『FLA.CO.MEN』	S 席：6,000 円（学生：3,000 円） A 席：4,000 円（学生：2,000 円）	
カンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレ 『CONTACT』	SS 席：8,000 円　S 席：6,000 円 A 席：4,000 円（学生：2,000 円）	
Co.山田うん 『いきのね』	S 席：4,000 円（学生：2,000 円） A 席：3,000 円（学生：1,500 円）	
小杉武久 『MUSIC EXPANDED #1』『MUSIC EXPANDED #2』	前売：4,000 円（当日：4,500 円） 学生：2,000 円	
青木涼子 『秘密の閨（ねや）』	S 席：4,000 円（学生：2,000 円） A 席：3,000 円（学生：1,500 円）	

※セット券（限定各 30 席）

〇10 月 16 日（日）2 演目券　10,000 円
　イスラエル・ガルバン『FLA.CO.MEN』：S 席　カンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレ『CONTACT』：S 席

〇10 月 23 日（日）3 演目券　10,000 円
　Co.山田うん『いきのね』：S 席　小杉武久『MUSIC EXPANDED #2』：一般　青木涼子『秘密の閨』：S 席

〇レインボーウィークス 6 演目券（公演日選択可能）　25,000 円
　イスラエル・ガルバン『SOLO』：一般　イスラエル・ガルバン『FLA.CO.MEN』：S 席　カンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレ：S 席　Co.山田うん：S 席　小杉武久：一般　青木涼子：S 席

■レインボーウィークス連携事業

・10 月に開催された愛知県芸術劇場主催公演のうち、トリエンナーレのテーマや企画と連携した内容で実施された事業を「レインボーウィークス連携事業」とし、一体的かつ相互に広報展開することで、レインボーウィークスの盛り上がりを図った。

〇公演一覧

公演場所	団体名等	演目	公演日
愛知県芸術劇場小ホール	ヴェルテダンス	『CORRECTION』	10 月 14 日(金)・15 日(土)
愛知県芸術劇場小ホール	archaiclightbody、奥野美和、環 ROY、関かおり/PUNCTUMUN、usaginingen、川村美紀子、安野太郎、東京 ELECTOROCK STAIRS/KENTARO!!	『パフォーミングアーツ・セレクション』	10 月 18 日(火)・19 日(水)

(2) プロデュースオペラ

・ダンサーとして演出家として、また美術・照明・衣裳などを自ら手掛ける美術家として、独創的なセンスにより世界的に高く評価されている勅使川原三郎と、豊かな音楽的才能で注目を集めるイタリア人の若手指揮者ガエタノ・デスピノーサにより、モーツァルトが最後に作曲したオペラ『魔笛』を上演した。
・東京バレエ団・名古屋フィルハーモニー交響楽団・愛知県芸術劇場合唱団とともに、あいちトリエンナーレならではの新しいオペラを上演した。
・関連事業として、中学生を対象とした招待公演と、小学 4 年生から 6 年生を対象とする体験型のオペラ普及事業を実施した。

■スケジュール

会場	演目	公演日	入場者数
愛知県芸術劇場 大ホール	W.A.モーツァルト作曲 オペラ『魔笛』 （全 2 幕、ドイツ語上演、日本語字幕付、日本語ナレーション）	9 月 17 日(土)・19 日(月･祝) 両日とも 15:00 開演	3,628 人

■主なスタッフ・キャスト

名前	役	出生年	出身地（国）
ガエタノ・デスピノーサ	指揮	1978 年	イタリア
勅使川原三郎	演出・美術・照明・衣裳	1953 年	東京都
妻屋秀和	賢者ザラストロ	―	大阪府
高橋 維	夜の女王	―	新潟県
鈴木 准	王子タミーノ	―	青森県
森谷真理	王女パミーナ	―	栃木県
宮本益光	鳥刺しパパゲーノ	―	愛媛県
小森輝彦	弁者＆神官Ⅰ	―	東京都
醍醐園佳	恋人パパゲーナ	―	東京都
北原瑠美	侍女Ⅰ	―	千葉県
磯地美樹	侍女Ⅱ	―	千葉県
丸山奈津美	侍女Ⅲ	―	東京都
青柳素晴	従者モノスタトゥス	―	福岡県
高田正人	神官Ⅱ	―	栃木県
渡邉公威	武士Ⅰ	―	宮城県
小田桐貴樹	武士Ⅱ	―	北海道
井口侑奏	童子Ⅰ	―	香川県
森 季子	童子Ⅱ	―	京都府
安藤千尋	童子Ⅲ	―	愛知県
佐東利穂子	ダンサー・ナレーション	―	東京都

■チケット

料金	販売開始日
S 席 15,000 円　A 席 12,000 円　B 席 9,000 円　C 席 6,000 円 D 席 3,000 円（学生 1,500 円）　車椅子席 9,600 円	4 月 23 日(土)

■関連事業

行事名	開催日	対象	会場	参加者数
学校公演	9 月 16 日(金)	中学生	愛知県芸術劇場大ホール	1,927 人
ワクワク！オペラ体験！	9 月 18 日(日)	小学 4～6 年生	愛知県芸術劇場大ホール	250 人
計				2,177 人

３　普及・教育

・「虹のキャラヴァンサライ」というテーマのもと、「人間性の復活」「ブリコラージュの思考」「オープン・クリエーション」「コミュニケーション」「未知への旅」をキーワードに、「みる」「出会う」「体験する」「つくる」「かんがえる」「しる」「しらべる」活動を展開した。
・国際展参加アーティスト L PACK.が、普及・教育活動の拠点として 4 つの特別な空間「ダミコルーム」、「キャラヴァンファクトリー」、「エスタシオン」、「ライブラリー」の空間デザインを手がけた。
・普及・教育事業のプログラムへの参加費は無料とした。（国際展会場で実施するものなど、有料の会場については入場時に入場料が必要）

(1) 創作プログラム

・子どもから大人まで創作を楽しめる場を設けるとともに、アートを体感できるワークショップなどを開催した。

■ダミコルーム

・ビクトル・ダミコ（ニューヨーク近代美術館初代教育部長として美術教育の先駆的な活動を行った）が 1942 年に考案したアートを体験する装置『アートティーチング・トイ』の展示を行った。来場者は、みて、触れて、光・かたち・色など美術を構成する要素から直感的に刺激を受けることで、アートとの出会いを楽しんだ。

会場	愛知芸術文化センター12 階　アートスペース H
開館日	8 月 11 日(木･祝)～10 月 23 日(日)
時間	10：00～17：00
対象	だれでも（未就学児は保護者同伴）
参加方法	当日受付（混雑時は整理券を配布）
参加者数	21,012 人

ダミコルーム全景

入口での説明の様子

アートティーチング・トイ体験の様子

コラージュ体験の様子

■キャラヴァンファクトリー

・こどもから大人まで『創意工夫』を体験する、つくること、工夫することを楽しむ３つのプログラムを実施した。

会場	愛知芸術文化センター12 階　アートスペース G
開館日	8 月 11 日(木・祝) ～10 月 23 日(日)
時間	10：00～17：00
対象	だれでも（未就学児は保護者同伴）
参加方法	当日受付
参加者数	22,601 人

タイトル	内容	開催日	定員
「とことん」プログラム	ある材料と道具を使って、親子やグループで協力してオリジナルの“なにか”をつくってみよう!	8 月毎日・9 月と 10 月の土日祝（休館日は除く） 1 日 4 回	各回 10 組（先着順）
「のびのび」プログラム	気軽に参加できる 15 分程度のプチプログラムから好きなものを選んで、切ったり貼ったり、手を動かすことを楽しもう。	9 月と 10 月の平日（休館日は除く）	30 名程度（随時入替え）
「いつでも」プログラム	みたり、ふれたり、きいたり、好奇心をくすぐるしかけで遊んでみよう。	毎日	随時入場可能

ワークショップスペース全景

「とことん」プログラム体験の様子

「のびのび」プログラム体験の様子

「いつでも」プログラム体験の様子

■アーティストプログラム

・トリエンナーレの参加アーティストが、作品に関連したワークショップを実施した。（要申込）

タイトル	講師等	会場	開催日	対象	参加者数
旅するお弁当	コラムプロジェクト「交わる水―邂逅する北海道／沖縄」	愛知県児童総合センター	9 月 3 日(土)	小学 4 年生～中学生（保護者と二人一組で申込）	14 人
東海道中膝栗毛を 5 分で表現する	小林耕平	開発ビル 6 階他（豊橋地区）	9 月 10 日(土)	小学 4 年生以上	5 人
だれかの重さを考える	二藤建人	東岡崎駅他（岡崎地区）	10 月 2 日(日)	小学生以上（小学生は保護者と一緒に申込）	9 人
計					28 人

「旅するお弁当」

「東海道中膝栗毛を 5 分で表現する」

「だれかの重さを考える」

(2) 鑑賞プログラム

・子どもや一般の方々を対象に、作家や作品についての理解を深めるため、ワークシートの配布や国際展のガイドなどを実施した。

■エスタシオン

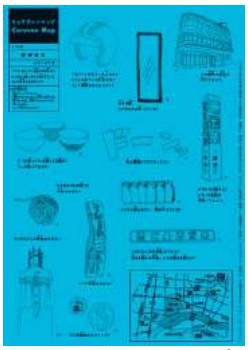
会場	愛知芸術文化センター10 階ラウンジ、名古屋市美術館 1 階ロビー、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT1 階、岡崎シビコ 1 階ビジターセンター内
開館日	8 月 11 日(木･祝) ～10 月 23 日(日)
時間	愛知芸術文化センター　10：00～17：00（金曜日は 10：00～19：00） 他の 3 会場　各会場の開館時間による

・ポルトガル語で“駅”を意味する「エスタシオン」は、トリエンナーレの作品理解を深めるための拠点として設置し、一般向けワークシート「キャラヴァンマップ」の配布を行うなど、美術鑑賞をサポートした。

キャラヴァンマップ
（愛知芸術文化センター）

キャラヴァンマップ
（名古屋市美術館）

キャラヴァンマップ
（豊橋地区）


キャラヴァンマップ
（岡崎地区）

・愛知芸術文化センターでは鑑賞用のツールが入ったバッグ「はっけんツール キャラヴァンバッグ」を貸出し、子どもから親子まで楽しみながら現代美術の作品を鑑賞するプログラムを実施した。他者と気づきを共有しながら鑑賞できるように、キャラヴァンバッグは 1 人ひとつではなく、グループにひとつ貸し出した。

・バッグは「かんたん」「ふつう」「むずかしい」の 3 種類用意し、16 種類の鑑賞ツールの中から、それぞれのバッグに 3 つのツールをセットして貸し出した。また、会期を 3 期に分けてバッグの内容の入替を行った。

キャラヴァンバッグ

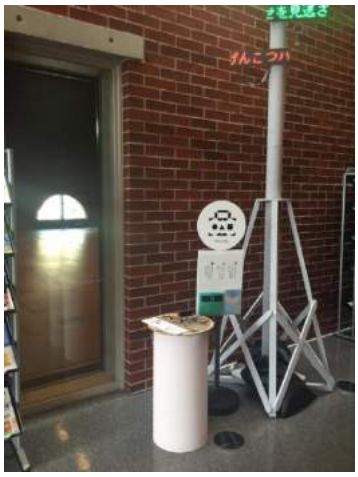
キャラヴァンバッグ鑑賞ツールの一部

・エスタシオンのデザインは国際展参加アーティスト L PACK.が行い、エスタシオンを「好奇心のスイッチ」「未知なる旅へ向かうための起点」と位置づけ、好奇心の源となるたくさんの質問を記載したペーパー「クエスチョンシート」の配布を行った。また、エスタシオンは会場ごとに異なるデザインとし、クエスチョンシートの答えを知るポイントとしての機能を設けた。

エスタシオン（愛知芸術文化センター）

エスタシオン（名古屋市美術館）

エスタシオン（岡崎地区）

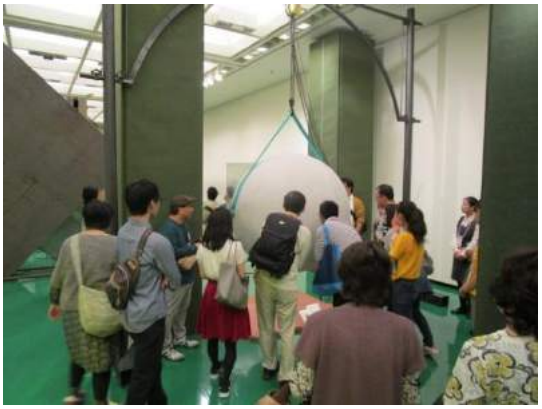


エスタシオン（豊橋地区）

■ボランティアによるガイドツアー「ガイドキャラヴァン」

・一般来場者を対象に、ガイドツアーボランティアが 2～3 人体制で、1 回あたり 60 分程度の対話式のガイドを行った。（事前申込不要）

会場	日程	実施回数	参加者数
愛知芸術文化センター10 階	毎日（平日各 1 回・土日祝日各 2 回）	87 回	1,424 人
愛知芸術文化センター8 階	毎日（平日各 1 回・土日祝日各 2 回）	87 回	1,224 人
名古屋市美術館	土曜日及び日曜日（各日 2 回）	68 回	665 人
長者町会場	土曜日、日曜日及び祝日（各日 2 回）	92 回	423 人
豊橋駅前大通会場	土曜日、日曜日及び祝日（各日 2 回）	92 回	503 人
康生会場～六供会場	土曜日、日曜日及び祝日（各日 2 回）	92 回	508 人
計		346 回	4,747 人



ガイドキャラヴァンの様子

■子どもを対象としたプログラム「こどもキャラヴァン」

・小学生～中学生を対象に、グループになって作品を鑑賞し、感想を発表しあうワークショップを行った。（要申込、定員各回 15 名）

会場	開催日	参加者数
愛知芸術文化センター	8 月 24 日(水)・10 月 8 日(土)	22 人
名古屋市美術館	8 月 25 日(木)・10 月 16 日(日)	26 人
豊橋地区	8 月 23 日(火)	3 人
岡崎地区	8 月 26 日(金)・9 月 22 日(木･祝)・10 月 10 日(月･祝) ※9 月 22 日は台風接近等により、全申込についてキャンセルがあったため中止	16 人
計		67 人

■家族を対象としたプログラム「かぞくキャラヴァン」

・小学生～中学生の子どもと保護者を対象に、子どもと大人に分かれて鑑賞し、感想を発表しあうワークショップを行った。（要申込、定員各回 10 名）

会場	開催日	参加者数
愛知芸術文化センター	9 月 11 日(日)・19 日(月･祝)	26 人（13 組）

■赤ちゃんを連れた保護者を対象としたプログラム「ベビーカーツアー」

・18 ヶ月までの子どもと保護者を対象に、ベビーカーに乗った子どもと大人が、アシスタントキュレーターやコーディネーターと一緒に、ゆったりと作品を鑑賞するツアーを行った。（要申込、定員各回 5 組）

会場	開催日	参加者数
愛知芸術文化センター	8 月 21 日(日)・10 月 15 日(土)	25 人（ 9 組）
名古屋市美術館	8 月 27 日(土)・9 月 17 日(土)	23 人（10 組）
計		48 人（19 組）

■視覚障害者を対象とした鑑賞プログラム「視覚に障がいのある方との鑑賞会」

・視覚に障がいのある方を対象に、「アートな美」のボランティアの方々と一緒に作品について話したり、触ったりして現代アートの鑑賞を行った。（要申込、定員各回 10 名）

・協力：愛知県美術館・アートな美・六点会

会場	開催日	参加者数
愛知芸術文化センター	9 月 29 日(木)・10 月 1 日(土)	18 人

■聴覚障害者を対象とした鑑賞プログラム「聴覚に障がいのある方との鑑賞会」

・聴覚に障がいのある方を対象に、ガイドツアーボランティアが要約筆記による作品ガイドを実施した。（要申込、定員各回 20 名）

・協力：NPO 法人愛知県難聴・失聴者協会

会場	開催日	参加者数
愛知芸術文化センター	9 月 4 日(日)・29 日(木)	21 人

■コーディネーターによるツアー「イスに座って鑑賞会」

・一般来場者を対象に、金曜日の夜間開館時間を利用して、いすに座ってゆったり作品を観て、コーディネーターや他の参加者と話しながら楽しむ鑑賞会を行った。（当日先着受付、定員 15 名）

会場	開催日	参加者数
愛知芸術文化センター	10 月 21 日(金)	11 人

■愛知県高等学校文化連盟との共催プログラム「人間の旅をはじめよう」

・アートやトリエンナーレ、世界について、高校生同士のディスカッションを開催した。（要申込、定員 100 名）。

会場	開催日	参加者数
愛知芸術文化センター	9 月 24 日(土)	95 人

(3) レクチャープログラム

・参加アーティストによるトークやトリエンナーレのテーマやコンセプトを深めるための一般向け講座などを実施した。（当日先着受付、フィールドワークのみ要申込）

■シンポジウム

・芸術監督やキュレーター、参加アーティスト、専門家がパネリストとして登壇し、各テーマについて議論を展開した。

行事名	開催日	会場	参加者数
トランスディメンション－イメージの未来形	8 月 12 日(金)	岡崎市図書館交流プラザりぶら	42 人
オープニングシンポジウム「旅・創造・共同体」	8 月 14 日(日)	愛知芸術文化センター12 階 アートスペース A	160 人
言葉の記録 日本現代美術のオーラル・ヒストリー－80 年代後半から 90 年代前半の名古屋のアートシーンをめぐって－	8 月 21 日(日)	名古屋市美術館 2 階講堂	77 人
現代美術の保存と修復	9 月 18 日(日)	名古屋市美術館 2 階講堂	84 人
国際シンポジウム「文化・成熟・発酵」	10 月 1 日(土)	愛知芸術文化センター12 階 アートスペース A	56 人
	10 月 2 日(日)	愛知芸術文化センター12 階 アートスペース A	73 人
メディア・アートとは何か？IAMAS20 周年から考える	10 月 10 日(月･祝)	名古屋市美術館 2 階講堂	128 人
計			620 人

■アーティストトーク

・参加アーティストが今回の出品やそのプロセス、コンセプトや問題意識などについて、じっくりと語るレクチャースタイルのプログラムを実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
シュレヤス・カルレ	8 月 12 日(金)	岡崎市図書館交流プラザりぶら	22 人
グリナラ・カスマリエワ＆ムラトベック・ジュマリエフ	8 月 13 日(土)	開発ビル 6 階会議室	24 人
ヨルネル・マルティネス	8 月 13 日(土)	水上ビル	23 人
タロイ・ハヴィニ	8 月 14 日(日)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	44 人
松原 慈	8 月 15 日(月)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	68 人
岡部昌生	9 月 3 日(土)	名古屋市美術館 2 階講堂	102 人
佐々木愛	9 月 11 日(日)	開発ビル 6 階会議室	52 人
中村裕太　エドワード・モースの触手－シャミセンガイから縄文土器、日本陶磁まで	9 月 18 日(日)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	28 人
野村 在	9 月 22 日(木･祝)	岡崎シビコ 6 階 展示スペース	49 人
関口涼子＋フェリペ・リボン×港千尋	10 月 16 日(日)	グラスパークビル 2 階 （岡崎地区）	37 人
計			449 人

■レクチャー

・分野を超えた専門家が登壇し、さまざまな角度からアートやトリエンナーレの魅力に迫った。芸術監督やキュレーター、エデュケーターとの対談形式のプログラムも実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
沖縄ーソウル：アジア／アート／女性の視点から自作を語る	8 月 13 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	64 人
ビクトル・ダミコのアートティーチング・トイー動機づけの原理ー	8 月 27 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	47 人
アートに音を視る	8 月 28 日(日)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	66 人
美術の世界へようこそ！ー歴史を旅するボードゲームで遊ぶー	9 月 3 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「ライブラリー」	37 人
シルクロードにおける文化遺産の危機と保護：シリア・イラクを中心に	9 月 4 日(日)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	75 人
浅野祥雲ーB 級と文化・美術のはざまでー	9 月 10 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	67 人
展示照明のワークショップ	9 月 11 日(日)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「ライブラリー」	43 人
なぜものがそう見えるのか？視知覚のメカニズム	9 月 17 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	61 人
見えない粒子で宇宙をさぐるースーパーカミオカンデとニュートリノー	9 月 19 日(月･祝)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	91 人
ものづくりとアートの接点　トヨタのDNA とデザイン	9 月 24 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	41 人
ダンスは何に挑戦するのか？	9 月 25 日(日)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	61 人
歌・声まね・ダンスによるコミュニケーションーヒトとトリの比較ー	10 月 7 日(金)	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 創造活動室 B	31 人
ゲームの何を保存する？ゲームのアーカイブと芸術の哲学	10 月 15 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「ライブラリー」	32 人
計			716 人

■ディスカッション

・専門家によるレクチャーの後、参加者を交えて問題点について話し合う、双方向型のプログラムを実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
芸術祭における人材育成と雇用を考えるーレクチャー＆ディスカッションー	9 月 2 日(金)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	35 人

■フィールドワーク

・まちの歴史や風景に潜む魅力を、まち歩きを通して発見するプログラムを実施した。

行事名	開催日	会場（出発地）	参加者数
長者町の「いま」と「むかし」を歩く	9 月 24 日(土)	愛知芸術文化センター8 階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	15 人
岡崎の「いま」と「むかし」を歩く	10 月 15 日(土)	岡崎シビコ 2 階 催事場	11 人
計			26 人

(4) 学校等団体向けプログラム

・主に児童・生徒に世界最先端の現代芸術に触れてもらうため、団体鑑賞プログラムやアーティスト派遣事業などを行った。

■学校向け団体鑑賞プログラム

・授業、校外学習など様々な学校行事を活用して、児童・生徒に世界最先端の現代美術に触れてもらうため、学校向け団体鑑賞プログラムを実施した。
・県内各地域から幅広く参加があったほか、県外からも参加があり、合わせて 90 校、3,716 人（それぞれ延べ人数）の児童・生徒が来場した。

会場	愛知芸術文化センター	名古屋市美術館	岡崎会場	豊橋会場
実施日	8 月 15 日(月)～10 月 21 日(金)の毎日 （土･日･祝日･休館日を除く）	8 月 16 日(火)～10 月 21 日(金)の火曜日と金曜日 （休館日を除く）	8 月 15 日(月)～10 月 21 日(金)のうち、会場との調整による （土･日･祝日･休館日を除く）	
鑑賞方法	以下の 2 つから選択 ① ガイダンス及び自由鑑賞（全体で 1～2 時間程度） ② 自由鑑賞（90 分程度）	ガイダンス及び自由鑑賞（全体で 1 時間程度） 各回 80 名まで	自由鑑賞のみ	
観覧料	無料（引率の教員を含む）			

○実績（学校数）

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	その他（合同）	計
24 校［校］ (26.7%)	33 校［校］ (36.7%)	19 校 (21.1%)	1 校 (1.1%)	8 校 (8.9%)	3 校 (3.3%)	2 校 (2.2%)	90 校 (100.0%)

［ ］は特別支援学級数で内数

○実績（人数）

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	その他（合同）	計
1,792 人 (48.2%)	1,091 人 (29.4%)	585 人 (15.7%)	82 人 (2.2%)	61 人 (1.6%)	29 人 (0.8%)	76 人 (2.0%)	3,716 人 (100.0%)

○実績（地域別・学校数）

名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	東三河	県内計	岐阜県	滋賀県	三重県	静岡県	県外計	計
37	20	6	3	8	6	80	1	4	1	4	10	90

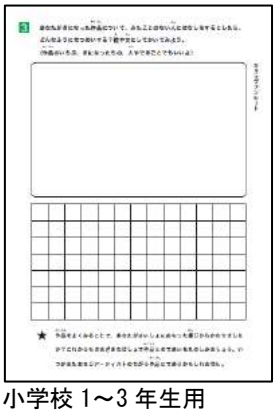
愛知芸術文化センター8 階「プラットフォーム」でのガイダンスの様子

鑑賞の様子

■学校向けワークシート「キャラヴァンシート」

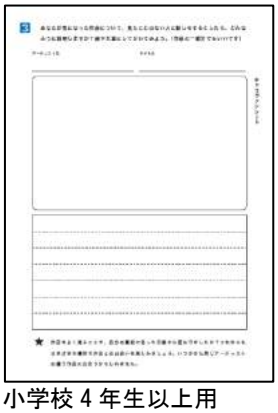
・学校向け団体鑑賞プログラム参加者向けに、自由鑑賞時に児童・生徒が使用するワークシートを 2 種類作成し、公式 Web サイトに印刷用データを掲載した。

小学校 1～3 年生用
（表面）



小学校 1～3 年生用
（裏面）

小学校 4 年生以上用
（表面）



小学校 4 年生以上用
（裏面）

■アーティスト派遣事業

・アートとの出会いを通じて、より多くの子どもたちの感性や創造性の成長に働きかけるため、アーティストを学校に派遣した。

・オスカー・ムリーリョ及び松原慈については、アーティスト派遣事業により児童・生徒が今回の出品作品の制作過程に関わった。

派遣アーティスト	内容	派遣先	日程	参加者数
オスカー・ムリーリョ （現代美術）	オスカー・ムリーリョがコロンビアやインドなど多くの国で実施してきた長期的なプロジェクト「フリークエンシーズ・プロジェクト」を、県内の小学校（3 校）とブラジル人学校（1 校）で実施した。プロジェクトチームが子どもたちの机の上にキャンバスを張り、5 ヶ月間、子どもたちが普段通りの学校生活の中で自由に思いついたことをキャンバスに描いた。子どもたちの持つ創造性や教室での楽しい雰囲気、子どもたちの成長そのものが記録されたキャンバスは、オスカー・ムリーリョの作品の一部となってトリエンナーレの会場で展示された。	岡崎市立 秦梨小学校	2 月 29 日(月)～ 7 月 25 日(月)	16 人
		学校法人 カンティーニョ学園	3 月 1 日(火)～ 7 月 21 日(木)	115 人
		名古屋市立 御園小学校	3 月 2 日(水)～ 7 月 25 日(月)	51 人
		豊橋市立 石巻小学校	3 月 4 日(金)～ 7 月 22 日(金)	63 人
松原 慈 （現代美術）	盲学校の生徒と行う造形ワークショップを実施した。 子どもたちは愛知県陶磁美術館という普段とは違う環境で自然との触れ合いを通し、複数のプログラムを楽しみながら、新鮮かつ充実した特別な 1 日を過ごした。粘土を触るプログラムでは、リラックスした子どもたちの持つ、ごく自然な感覚がそのまま形となって残る。さまざまな感覚器官を通じて感じとる光・造形など、単に目で見るのではない表現を探った。	愛知県立 名古屋盲学校	5 月 19 日(木)	16 人
		愛知県立 岡崎盲学校	5 月 20 日(金)	10 人

山田うん （舞台芸術）	ダンサーであり振付師でもある山田うんは、年間を通じて、小学校や障がい者施設、保育園や幼稚園等での活動を多数行い、山田うん率いるダンスカンパニー「Co.山田うん」では、週に1度、10年近く重度の障がい者施設で出張授業をしている。 今回、豊橋の特別支援学校に赴き、ワークショップを実施した。 子どもたちは、山田うんと一緒に、障がいの程度に関係なく、リズムやかけ声に合わせて楽しみながら身体を動かし、山田うんは、子どもたちの反応や運動能力、集中力、エネルギーの向かっていく方向をみながらプログラムを調整し、楽しい雰囲気の広がる時間を展開した。	豊橋市立 くすのき特別 支援学校	6月10日(金)	64人
佐藤克久 （現代美術）	ワークショップを滝中学校・滝高等学校の美術部の生徒たちを対象に 2 日間にわたって実施した。 「ウソ」をテーマとしたディスカッションや絵画制作などを通じて、生徒が内面に向き合うことで真実に近づいていく過程を作品化し、名古屋市美術館での作品展示を行った。	学校法人 滝学園 滝中学校・ 滝高等学校	9月23日(金)・ 27日(火)	32人 ×2日
計				399人

■アーティスト派遣事業関連レクチャー

・「フリークエンシーズ・プロジェクト」について、愛知県内及び世界30カ国で開催されたプロジェクトの全容を伝えるプログラムを実施した。

行事名	開催日	会場	参加者数
フリークエンシーズ・プロジェクトについて	9月18日(日)	愛知芸術文化センター8階 ギャラリーJ「プラットフォーム」	42人

(5) その他

■名古屋市美術館「夏休み こどもの美術館 2016」との共催プログラム「アーティステント」

・小学 3 年生から中学生までを対象に、名古屋市美術館のトリエンナーレ展示作品を鑑賞して、アーティストの特徴をつめこんだテントを制作するプログラムを行った。(要申込、定員 20 名)

会場	開催日	参加者数
名古屋市美術館	8 月 20 日(土)	15 人

■名古屋市美術館「夏休み こどもの美術館 2016」との共催プログラム「どうくつに絵を描こう」

・一般来場者を対象に、洞窟のような暗闇の中で絵をみたり描いたりするプログラムを行った。(当日受付、定員なし)

会場	開催日	参加者数
名古屋市美術館	8 月 19 日(金)・24 日(水)	158 人

■一般向け団体鑑賞プログラム

・ガイダンスや作品解説を希望する 20 名以上の団体を対象に、愛知芸術文化センター及び名古屋市美術館においてボランティア等による一般向け団体鑑賞プログラム(要申込)を実施し、16 団体 340 人が参加した。

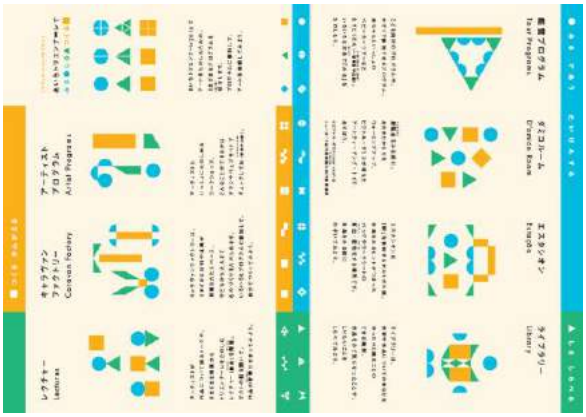
■リーフレットの送付

・普及教育プログラムの紹介及び参加者募集のためのリーフレットを 2 種類作成し、愛知県内の小中学校、高等学校及び特別支援学校の全児童・生徒に配布した。

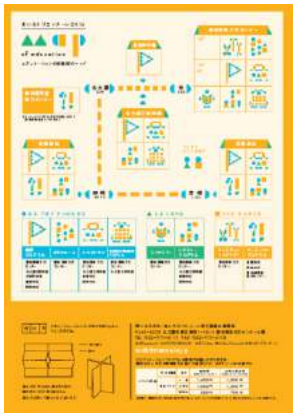
「あいちトリエンナーレでみる●しる▲つくる■」A4、二つ折り
※小学生用(下図)及び中学生用を作成

(表面)

(中面)



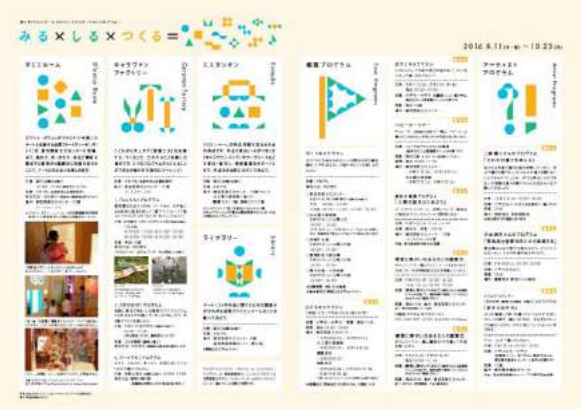
(裏面)



「みる×しる×つくる=」A4、二つ折り

(表面)

(中面)



(裏面)

4　連携事業

(1) モバイル・トリエンナーレ

・8 月から 9 月の週末に、期間限定で参加アーティストの作品を巡回展示するモバイル・トリエンナーレ「旅する展覧会」を開催した。（入場無料）
・トリエンナーレ本展で展示される作品とは異なる作品を展示した。
・作品展示に併せ、ワークショップやガイドツアーなどを開催した。

■出品アーティスト

現代美術	味岡伸太郎、ニコラス・ガラニン、キオ・グリフィス、タロイ・ハヴィニ、今村 文、ジョアン・モデ、森北 伸、オスカー・ムリーリョ、中村裕太、ウダム・チャン・グエン、二藤建人、大巻伸嗣、岡部昌生、佐々木愛、柴田眞理子、田島秀彦、高橋士郎、竹川亘彰、山田 亘
映像プログラム	伊藤高志、ボリス・ラペ、小川 育、高嶺 剛、山村浩二

■開催地及び日程

開催市町	会場	日程	日数	入場者数
設楽町	設楽町田口特産物振興センター	8 月 26 日(金)～28 日(日)	3 日	419 人
大府市	大府市勤労文化会館	9 月 9 日(金)～11 日(日)	3 日	656 人
一宮市	一宮市博物館	9 月 16 日(金)～19 日(月･祝)	4 日	1,451 人
安城市	安城市民ギャラリー	9 月 22 日(木･祝)～25 日(日)	4 日	1,523 人
計				4,049 人

※大府市の入場者数には、「Art & Breakfast Day あいちトリエンナーレ 大府」の参加者数を含む。

■ワークショップ

開催市町	タイトル	開催日	参加者数
設楽町	LOCUS FABER ツクロッカ「移動型バスミュージアム MOBIUM:バスを万華鏡にする」	8 月 28 日(日)	36 人
大府市	田島秀彦「カットアップ＆リミックス～イメージを並列したり重層して作るコラージュ絵画～」	9 月 11 日(日)	15 人
一宮市	LOCUS FABER ツクロッカ「移動型バスミュージアム MOBIUM:バスを万華鏡にする」	9 月 18 日(日)	38 人
安城市	今村 文「ミツロウ絵の具で絵を描いてみる」	9 月 24 日(土)	14 人
計			103 人

■主催

あいちトリエンナーレ実行委員会、設楽町・設楽町教育委員会(設楽町会場)、大府市(大府市会場)、一宮市・一宮市教育委員会(一宮市会場)、安城市・安城市教育委員会(安城市会場)

［設楽町］

［大府市］

［一宮市］

［安城市］

(2) 舞台芸術公募プログラム

・あいちトリエンナーレ 2016 のテーマ・コンセプトを反映した舞台公演を、公募により選考した 15 組の地元文化芸術団体等と共催で開催した。（応募数：40 の団体・個人）
・音楽・演劇・舞踊などさまざまなジャンルの舞台公演を行い、18 公演で 7,887 人の入場者があった。

■公演一覧

会場	団体名	分野	演目	公演日	入場者数
愛知県芸術劇場 大ホール	Yoko Tsukamoto テアトル･ド･バレエカンパニー	バレエ	Yoko Tsukamoto テアトル・ド・バレエ・カンパニー公演 春の祭典～サン・ミッシェル島に慕いを馳せて～・真夏の夜の夢	10 月 1 日(土)	1,138 人
	名古屋芸術大学	ミュージカル	ショービジネスに乾杯！2016～Wind and Musical～　～見果てぬ夢を追い続けたショービジネスのスターたち～	10 月 2 日(日)	1,315 人
愛知県芸術劇場 コンサートホール	吉田 文	パイプオルガン・その他舞台芸術	Homo Orans et Harmonia Mundi ～祈る人、そして世界の調和へ～	9 月 24 日(土)	657 人
	愛知ロシア音楽研究会	音楽	ロシア音の旅・おはなしの音楽	9 月 25 日(日)	1,097 人
愛知県芸術劇場 小ホール	perky pat presents	演劇	霊長類　南へ	9 月 24 日(土)	195 人
	シネクドキズム実行委員会	現代音楽･ﾐｯｸｽﾒﾃﾞｨｱ	今井智景 音楽と写真と映像の作品「シネクドキズムⅡ＜コンティニュイティー＞」	9 月 25 日(日)	76 人
	ナゴコン	ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰﾀﾞﾝｽ	シールェ（scire）	9 月 26 日(月)	238 人
	KITO,Akira Brass Band！	音楽	sign～世界の外のどこへでも～	9 月 27 日(火)	93 人
	room16	演劇	THE 12TH PARTY 沈澱タイ	9 月 29 日(木)	300 人 (2 公演)
	音楽クラコ座	現代音楽	音楽クラコ座 vol.6 「アメリカ音楽電気的歴史旅行」	9 月 30 日(金)	86 人
	shelf	演劇	shelf volume 22 『GHOSTS－COMPOSITION/IBSEN』（イプセン著『幽霊』より）	10 月 2 日(日)	118 人
名古屋市芸術創造センター	東海バロックオペラ制作委員会	オペラ	クラウディオ・モンテヴェルディ「ポッペアの戴冠」	9 月 24 日(土)	653 人 (2 公演)
	愛知芸術文化協会（ANET）	舞踊･音楽･伝統芸能	巡礼 JUNREI ～満天に星は流れ、また輝きて～	9 月 25 日(日)	558 人
	一般社団法人現代舞踊協会中部支部	現代舞踊	コンテンポラリーダンス 2016「ガリバー」～人間（人体）への不思議な旅～	10 月 1 日(土)	882 人 (2 公演)
	正絃社合奏団	邦楽	正絃社合奏団 30 周年記念コンサート～華舞歳々～《三代舞踏団とともに》	10 月 2 日(日)	481 人
計					7,887 人

(3) 芸術大学連携プロジェクト

・あいちトリエンナーレ及び現代アート等に関する情報発信及び地元芸術大学の連携拠点として設けた 2 か所の「アートラボあいち」で、県内の 3 つの芸術大学（愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学）と連携し、企画展示等を行った。

■トリエンナーレ会期中に開催した展覧会

アートラボあいち大津橋

展覧会名		参加作家等	日程	入場者数※
「Sky Over Ⅲ」	前期	阿部大介、名知聡子、山内毬弥	8 月 10 日(水)～9 月 11 日(日)	1,136 人
	後期	荒木由香里、勝 翔子、設楽 陸	9 月 17 日(土)～10 月 23 日(日)	1,196 人
計				2,332 人

※期間中のアートラボ大津橋の入場者数

アートラボあいち長者町

展覧会名	参加作家等	日程	入場者数※
「Sky Over Ⅲ」出展作家と担当教員による小作品展	阿部大介、名知聡子、山内毬弥、荒木由香里、勝 翔子、設楽 陸（参加教員） 倉地比沙支（愛知県立芸術大学教授） 須田真弘（名古屋芸術大学教授） 平林 薫（名古屋造形大学教授）	8 月 10 日(水)～10 月 23 日(日)	10,082 人

※期間中のアートラボ長者町の入場者

「Sky Over Ⅲ」

アートラボあいち大津橋

アートラボあいち長者町

(4) 特別連携事業

・あいちトリエンナーレ 2016 と同時期に愛知県内で開催される、トリエンナーレのテーマや企画と連携した内容で実施される事業を「特別連携事業」とし、一体的かつ相互に広報展開を図った。

■事業一覧

会場	会期	事業名
愛知県陶磁美術館	7 月 2 日(土)～8 月 28 日(日)	企画展　弥生への旅　朝日遺跡 －2000 年前のキャラヴァンサライー
	9 月 10 日(土)～10 月 23 日(日)	特別企画展「人が大地と出会うとき」
豊田市美術館	7 月 15 日(金)～9 月 25 日(日)	杉戸 洋－こっぱとあまつぶ
愛知県立芸術大学	9 月 3 日(土)～9 月 24 日(土)	愛知県立芸術大学創立 50 周年記念展示 「芸術は森からはじまる」
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT／他	9 月 10 日(土)・11 日(日)・ 22 日(木･祝)・24 日(土)・25 日(日)	まちとつくる演劇
名古屋港ガーデン埠頭～築地口エリアー帯	9 月 22 日(木･祝)～10 月 23 日(日)	アッセンブリッジ・ナゴヤ 2016
七ツ寺共同スタジオ	9 月 22 日(木･祝)・24 日(土)・ 25 日(日)	七ツ寺共同スタジオプロジェクト 「往還Ⅱ～原初の岬から～」
名古屋市科学館	10 月 14 日(金)・15 日(土)	プラネタリウム×アートピア　特別投影 「宇宙の音、星の音」In Brother Earth

(5) 並行企画事業

・あいちトリエンナーレ 2016 と同時期に美術館・大学・ホールなどで開催される最先端の現代美術展や舞台公演を「並行企画事業」とし、一体的かつ相互に広報展開を図った。

■事業一覧

会場	会期・公演日	事業名
岐阜県現代陶芸美術館	7 月 23 日(土)～9 月 4 日(日)	土の冒険のぼうけん Magical Miracle Ceramic
損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホール／他	8 月 11 日(木･祝)～10 月 23 日(日)	「人類と人形の旅」 Human with puppet
電気文化会館 ギャラリー	9 月 2 日(金)～9 月 11 日(日)	電気文化会館開館 30 周年記念 THE NEXT ～次代を創る 10 人の表現者たち～
刈谷市美術館	9 月 17 日(土)～11 月 6 日(日)	しりあがり寿の現代美術 回・転・展
清須市はるひ美術館	10 月 4 日(火)～12 月 11 日(日)	榊原澄人展
豊田市美術館	10 月 15 日(土)～12 月 25 日(日)	「蜘蛛の糸」展

(6) パートナーシップ事業

・民間企業や自治体、地元文化芸術団体等が原則として愛知県内で行う文化芸術事業を「パートナーシップ事業」として募集し、相互に広報協力を行った。
・平成 27 年 7 月から募集を行い、344 件を決定した。
・応募分野は、全体のおよそ 4 分の 3 を占める美術のほか、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能など多岐に渡った。地域別では、全体の 3 分の 2 以上を占める名古屋のほか、愛知県内の各地域から幅広く応募があった。特に豊橋市が新たに会場に加わったことにより、東三河からの申請件数が増加した。

■分野別内訳

美術	音楽	演劇	舞踊	伝統芸能	その他	合計
255 件 (74.1%)	26 件 (7.6%)	8 件 (2.3%)	11 件 (3.2%)	3 件 (0.9%)	41 件 (11.9%)	344 件 (100.0%)

■地域別内訳

名古屋	尾張	西三河	東三河	その他	合計
243 件 (70.6%)	26 件 (7.6%)	47 件 (13.7%)	26 件 (7.5%)	2 件 (0.6%)	344 件 (100.0%)

■事業一覧

No.	事業名
1	木の匙～中田喜直を歌う～
2	森祥子のピアノの世界 ～ワンコイン(100 円)ピアノコンサート～
3	Grow!vol.2
4	イタリアバロック名歌集～綴られた悲劇
5	第 14 回 私のマチエール展 “愛しのペット”
6	被爆 70 年祈念連携プロジェクト　岡部昌生「被爆樹に触れて」
7	茨木のり子の人生と詩の世界 おんなのことば
8	YAHAGI JAZZ NIGHT ‘15
9	講演会「アートとサイエンスを俯瞰する」
10	かわぐちあゆみ展
11	いけばなスペース 第 8 回いけばな展 -有松町並み保存地区町屋にいける-
12	室内合唱団 Alitheia 1st Concert
13	大駱駝艦パフォーマンス
14	Choreographed by akari depth1『点と点と・・・』
15	第 4 回　新たな表現者たち
16	アートミラ ‘21
17	あらまほ伝統と創造 TOUR 2015-2016 月光～上弦～ CRESCENT
18	あらまほ伝統と創造 TOUR 2015-2016 月光～上弦～ CRESCENT
19	アニメサロン☆名古屋 第 2 回
20	オトナの部活展
21	NAGOYA クリエイティブフォーラム 2015
22	MireyHIROKI art project in 淑楓祭
23	第 5 回幸苑会展
24	交差する表現/ D×Pressions 2015 -3 大学交流企画展-
25	第 23 回　紅の会書展
26	エーヴィゲ・ハルモニースペシャルコンサート
27	第 44 回岡崎市老人クラブ作品展
28	第 16 回　奥三河アートフェスティバル
29	梶浦みなみ展 ～マカロナージュ～
30	2016 年度　山田良太つくろーぜ会　作品展覧会 たのしむ展
31	愛知祝祭管弦楽団　2016-2019「ニーベルングの指環」4 部作　序夜「ラインの黄金」
32	Artist unit-NAGI Contemporary Art Exhibition in NAGOYA TV tower “ 4.5jigen ”
33	“INSIGHT” フォト＆アート展
34	Art Exhibition in 普門寺 もみじ祭り「壺中」～境界のない世界への門に立つ時～
35	開館 20 周年記念特別展　安土・桃山の城郭革命-信長・秀吉・家康と金箔瓦-
36	G・A・M 展(グローバル・アーティスト・ムーブメント)
37	日進児童合唱団第 11 回定期演奏会
38	森岡完介展～知と理と美～ （シルクスクリーン）
39	堀江良一展　木版画・油彩画
40	加藤美奈子展 -ドローイング、リトグラフ-
41	近代ヨーロッパの光と影 ルノワールの時代
42	ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳 わたしの国貞
43	a ホルン会　第 12 回アンサンブルコンサート
44	水戸部七絵展
45	第 7 回岡崎五万石のつどい
46	市制 100 周年記念事業　渡辺おさむ展　おかざきの匠と現代アート
47	市制 100 周年記念事業 造形作家玉田多紀とおかざきの子どもたち展 ～ダンボールの海に眠るシードラゴンの伝説～
48	あなたのために叫ぶ舞台 ～Message from Gamushara～
49	もうひとつの卒展 Another of degree show
50	珍獣派展 EPISODE2
51	林真理子チャリティ講演会

52	オリーブバレエクラス 14th 発表会 2016　ピアノジョイントコンサートⅡ
53	Hitomi kanda（笑）2016 展
54	第 17 回人生の達人のための音楽会「第九特別演奏会」
55	そこを右に曲がると…いや左かもしれない
56	第 19 回 創春会展
57	知的な障害のある人の作品展 第 4 回「アート i」展
58	家原利明展
59	大須アパートアートフェア「あけだにちほ個展“よしゅう ふくしゅう”」
60	所蔵企画展　ステキな旅 ―美術で世界を旅しよう！―
61	ヨーロッパ近代絵画のあゆみ
62	法隆寺金堂壁画模写春季展特別陳列「若き作家たちの模写作品―古典に学び、伝える―」
63	ベストセレクション in A・C・S ～版画・ドローイング～
64	中部フィル夏休みスペシャル in 春日井
65	山田彊一と「愛知のアート力」展―「あいちトリエンナーレ 2016」にむけて
66	山本富章展
67	The Chairs ver.14 The Chairs 20th Anniversary
68	We Dance（小野友美・野々村麻里 2 人展）
69	大須アパートアートフェア「渡辺恵理個展“私は可愛くありたい”」
70	LOVE & PEACE 2016
71	Grow!vol.3
72	Michiyo Kishi Exhibition -海の底を仰ぐ-
73	日本画 4 人展「OUT PUT 2」
74	佐藤久美子個展「私の中では動いてる」
75	名美アートリウム 青美展
76	名美アートフェア 2016
77	高橋漠ガラス展　素材の景色
78	オカチな AMR
79	花の香り展
80	荻野遼介展
81	小杉滋樹展

82	佐藤克久展
83	劇団福祉座特別公演
84	第 8 回みどりの会 創作美術展
85	三井淑香展「エイプリルフール」
86	動物のいる風景
87	フィリップ食品実験講座
88	大竹広治 ヴァイオリンコンチェルトシリーズ vol.1「バロック」
89	大竹広治 ヴァイオリンコンチェルトシリーズ vol.1「バロック」
90	劇団子子孫孫第 4 回本公演「2200 年　宇宙の恋」
91	シアターム―ンプロデュース公演「ロミオとジュリエット≠バッドエンディング」
92	第 16 回　日本チェンソーアート競技大会 IN 東栄
93	Roots of Kawaii「内藤ルネ」展　～夢をあきらめないで～
94	創立 50 周年記念コレクション展「蒐集の半世紀―学びと成果―」
95	古本有理恵　銅版画展
96	関野準一郎　東海道五十三次
97	AYUMI EXHIBITION 2016
98	「モノノコダマを見つけにいこう!」造形ワークショップ
99	高橋之子人形展『星降る森の物語』
100	杉浦イッコウ展
101	髙梨芳実展
102	吉原治良〔覚えがき〕展
103	日本・ミャンマー国際児童画展
104	三上俊希展―呼吸する空間―
105	俳優館創立 30 周年記念公演ミュージカル「はだしのゲン」
106	第 2 回 Estudio Keiko 生徒公演
107	水谷昇雅展
108	MUSEUM MARKET
109	大須にじいろ映画祭 2016
110	Steel’s Voice スティール・ヴォイス展
111	生誕 130 年 画集刊行記念 横井礼以展

112	古川美術館開館 25 周年記念展「名品コレクション花鳥の宴」
113	爲三郎記念館特別企画「竹田耕三追悼展～有松絞りを世界へ」
114	戦場の装美　甲冑
115	SAKURA TOWER by NAKED
116	スエイシユミ展
117	STREET & PARK PROJECT
118	加藤松雄×加藤 K 展　Genetic conversation Exhibition
119	平松幸雄展
120	坂口篤子展
121	降旗芳美・久野静香展
122	PALAIS
123	加藤恵一展
124	都市の木質化プロジェクト@長者町会場
125	「Double Diablerie」Folios in Aichi
126	愛知県立芸術大学創立 50 周年記念油画専攻企画・名古屋市民ギャラリー矢田開館 15 周年記念事業「INTERWOVEN－編み込まれた世代－」～愛知県立芸術大学出身作家展～
127	愛知県立芸術大学創立 50 周年記念油画専攻企画・名古屋市民ギャラリー矢田開館 15 周年記念事業「INTERWOVEN－編み込まれた世代－」～ボストン美術館芸術大学×愛知県立芸術大学～
128	あいち国際女性映画祭 2016
129	「キャラバンの風」展
130	ハンガリーフェスティバル in 愛知“マリンバ演奏とハンガリーのロック・シーン ”
131	巨匠にみる「絵とは何か」展 NO.18
132	丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展
133	日本壮心流創流 110 周年記念全国剣詩舞道大会
134	KagaQ 実験教室「結晶を作ろう」 ～ 自然が織り成す物質のカタチ～
135	やさしいかわらのおはなし
136	郷土作家　宮嶋政穂展
137	シャガール展 ―色彩が語る愛―

138	大須アパートアートフェア【タイの伝統工芸カービング】講師：みか　石鹸・野菜・果物彫刻～身近な素材でお部屋や食卓を飾りませんか？～
139	大須アパートアートフェア【タイの伝統工芸　カービング】講師：みか【個展と体験教室】石鹸・野菜・果物彫刻～身近な素材でお部屋や食卓を飾りませんか？～
140	FLIRTLINERS
141	アートな舗道デザイン
142	-越境する身体-西村陽平と出会った子どもたち
143	神田京子個展
144	"I've felt like this somewhere before." 池谷保、前川祐一郎、松田啓佑 3人展
145	織田真二個展
146	山口貴子個展
147	岡直イラスト展『彼方の星の夢語り』
148	第7回セントラルサムホール絵画展
149	上山明子乾漆彫刻展
150	Water～きらめく世界～
151	第6回5/R 賞受賞作家展
152	浅村理江個展
153	半世紀の軌跡～1968-201 長谷川純展
154	～星とサーカス～ 帆刈 晴日日本画展
155	原田睦乃個展
156	名古屋造形大グループ展「時々刻々」
157	Nannka4Artists
158	長久保怜美展
159	酒井薫個展 2012－2016
160	橋本友加里展－ジングルー
161	リトルアーティスト展
162	大須アパートアートフェア【捨てる神・拾う神（Bloom again）】クリエーター：小島園子（キャンドル）・寺前奈々（陶器）・向井弥寿子（石けん）
163	古川美術館開館25周年特別展「加藤金一郎と丹羽和子～絵は人生」
164	古川美術館 分館 爲三郎記念館特別展　「磯田晧と12人の作家たち」
165	五島夕夏個展「かくれんぼうてん」
166	ゆかりバレエ 公演 at August～ゆかりバレエ定期発表公演 改め～
167	味岡伸太郎展
168	トリクローム/TriChome(三人展)
169	丸沼芸術の森所蔵　アンドリュー・ワイエス 水彩・素描展
170	ー純化された風景ー　徐 凡軒(ジョ ハンケン)作品展
171	ー自然への想いー加藤ノブヤ作品展
172	碧亜希子　モザイク造形展
173	CRAZY3 中村紋子 柳武志 小田早人
174	アートな木の家具展　～針葉樹と広葉樹～
175	うみべとあそぶ
176	足助ゴエンナーレ2016『藝術的桃源郷』
177	Nexus
178	佐久間友香 新家未来 田口由花展
179	林友加作陶展
180	正守千絵展
181	大須アパートアートフェア【猫大好き！ボブ山画伯と暗黒電波美術展】暗黒電波美術家ボブ山
182	壁絵錦三(かべえきんさん) 2016
183	北名古屋市市制施行10周年記念事業 田んぼアート
184	平川ヒロ個展－渡渉とともに分断するー
185	現代いけばなアート展
186	漫画家による仏の世界展
187	～2016ヤングアーティスト旋風～アート、アート、アート
188	森からのメッセージ2016
189	荒井志帆個展ーホロスコープー
190	平成28年岡崎アートコミュニティプロジェクト事業「東明ワークショップ」
191	ART & Science
192	「The Projectionー康生地区と旧本多忠次邸」～髙橋耕平の映像より～
193	それぞれの現在 2016 夏展
194	アートのつながり展ー熊本地震復興支援のためにー
195	大須アパートアートフェア【チャーリーとフルタジュン展】＜作家＞チャーリー・ホッパー、フルタジュン
196	A 早川文彩展
197	色をつける世界
198	Bounding Stones
199	夏の特別展「大橋裕之と蒲郡」
200	PLAY vol.1ー表現における遊戯性ー
201	現役名大生の科学実験道場 名大祭特別企画 夏はやっぱり実験祭り 名大博物館を遊びつくせ！
202	白石絵美個展―星屑―
203	つらくも七瀬個展「Go Whenever You Want to」
204	Oh My ART 2016
205	吉田佳代子展 リトグラフ
206	LIFE WORK 2016
207	ワークショップマルシェ2016
208	Ryohei Sugiura exhibition JAM FACE CLUB
209	ピアノと電子オルガンによる楽器内容紹介音楽会
210	perky pat presents 10　霊長類 南へ
211	市橋安治展 油彩画
212	新海史子展～ドローイング & プリント～
213	『ぶんしん、なぅ。』こどもワークショップvol.11
214	ギャラリー矢田パートナーシップ<Next>#4
215	「STORY」日本キャンドルアート協会作品展
216	愛知県立芸術大学 国際交流事業 グラハム・エラード & スティーブン・ジョンストン [FOR AN OPEN CAMPUS]
217	Adam Weston 'New Beginning' アダム・ウェストン（抽象画）展
218	米山より子展
219	Paraphrase
220	第3回Dance de Yuina Le Reve主催ダンス公演　Magic BoxⅢ「なないろの道」
221	亀谷政代司 レリーフ・立体展

222	現代アートの鑑賞事業 映像と音との新しいインタラクション
223	市制施行110周年記念 放浪の天才画家　山下清展
224	波多の明翠展～KISEKI Ⅱ～
225	豊橋会場「水上ビル（大豊ビル）」PR事業
226	アートパッション Vol.5
227	青のシンフォニー“魅惑のブルー”
228	未来への波涛 Vol.15
229	ポンちゃん展
230	日本画3人展「ICON」
231	小渡 アート・ミルフィーユ2016
232	現代版画における写真の活用
233	演劇グループ"ZERO”30周年公演
234	旧門谷小学校美術展「そこにあるもの(こと)／そこにないもの(こと)」
235	とよはし都市型アートイベント sebone
236	アート倶楽部カルチェ・ラタン主催（協力：古川美術館） 加藤金一郎・丹羽和子展 金一郎と和子の「色」
237	月灯りの移動劇場『はてしない物語』
238	トラス構造ピラミッド アート2016
239	平成28年岡崎アートコミュニティプロジェクト事業 「Mobile Art Living 」
240	北名古屋市市制施行10周年記念市民協働推進補助事業 「10歳のあなたへ」
241	アート倶楽部カルチェ・ラタン主催（協力：宗次ホール） 第1回ランチタイムクラシックコンサート
242	中部ガス名豊ギャラリー企画展「中村正義相関図～顔・カオ・貌」
243	金山ブラジルコーヒー45周年企画 Master’s photo exhibition vol.2
244	日本画家 伊藤正次 襖絵の世界
245	アドマッチ展～3656の世界～
246	竹谷出写真展 JAPAN PRIZM～凍てる残像
247	中部春陽会2015年5/R賞受賞作家　伊藤浩子個展
248	ちいさないきものたち　神谷菜穂 日本画展
249	初の祝日「山の日」記念 里山、再考！

250	岡崎グランプリ PRESENTS ヘルメットデザインコンテスト
251	柴田制作所展2016@mocamoca
252	お月見宇宙旅行
253	宝石の煌めきカーニバル
254	ブラジリアン・アート・フェスティバル
255	étoile-エトワル-
256	サミゾチカラの「とよがわの恵み・ヒロッタージュ」
257	CHIC CHICKS
258	高橋誠アトリエライブ
259	『光の探究』岡本智晴　日本画展
260	名古屋電子音響音楽コンサート「プチット・フォルム」
261	「The Vision～次世代のペインターたち～」
262	ART POSTER展
263	大いなる未来への旅
264	法隆寺金堂壁画模写秋季展 特別陳列「模写、事始め展 教科書ワンダーランド」
265	第3回「拝啓、あいちトリエンナーレ監督　地元彫金作家も頑張ってます　敬具」展
266	大塚くるみ 陶展 ～RE：土より～
267	ちびっ子藝大 sakura panda × 東京藝術大学
268	“Hoo doc”&“Paradoxical Sleep”
269	ESTUDIO KEIKO Presents フラメンコライブ 「LEON」
270	オルゴナイトアートセラピー ＆ティーパーティー
271	ユーリー・ミラー・ファジー・ファンタジー-抑圧と解放の実験室-
272	REAL×FANTASY　-リアル×ファンタジー-
273	ミカヅキフタツ×升井理映子展
274	ナゴパル文化祭2016「N：BOOK STORE」
275	田口友里衣展「here or there -過ぎてゆく日々-」
276	へんなをどり展
277	自由意志2016
278	「performative phase」
279	「おいじゃあアートキャンプ！大展示会」
280	from the forest

281	アートまるケット 日比野克彦ディレクション「ながれミながら」
282	～院展の画家たち～ 秋澄む日本画展
283	第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会プレイベント アティックアート展
284	FAB&ART in THE CUPS
285	ミントデザインズ展
286	たかはまのたからもの
287	「みちくさツアー」
288	Summer Showcase 2016 Nagoya
289	松尾龍 個展
290	ながおたくま原画展 ようこそゾウぶつえんへ
291	第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会プレイベント ざわめく、きらめき、あいちのアート/障害者福祉施設での活動
292	第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会プレイベント 「居場所づくりのアート」 久保田翠氏
293	浅田政志写真展『アルバムのチカラ』『みんなで南三陸』
294	金子親一写真展「NUDIST」
295	ながくてアートフェスティバル2016
296	柴田雅光 作陶展
297	紫水晶からの往復書簡
298	鶴見千春クロッキーと版画展
299	岡崎市制100周年記念　葵三大イベント～岡崎の教育 力・技・美の祭典～第53回造形おかざきっ子展
300	OKASHIN ART PROJECT2016
301	大石未貴展ーいたいところー
302	橋本晶子 個展「Call if you notice.”気づいたら電話して”」
303	若手作家刺激プログラム motion#3
304	時空の旅先で出会った隠語文化/尾張口頭伝承の映像表現
305	YELLOW
306	JIA愛知 建築家フェスティバル2016
307	アートを読む　現代芸術を深く知る本
308	CHIIKAKO ROSY Solo Exhibition （チカコ ローズィー作品展）

309	孤独の絶景 2016 -海・森・月-
310	フスマ倶楽部 第 2 回 展覧会
311	土屋敦資展～版画～
312	筆どうぶつえん
313	Art_Obulist 2016「急げ！ゆっくり」/Hurry!slowly
314	dbcd（デシベルカンデラ）2016
315	白澤真生個展『ドロローグ』
316	安祥文化のさと『創造の旅(キャラバン)コンサート』
317	「もっと光を」こどもたちのアート教室
318	名古屋ワンピース倶楽部 はじめてかもしれない展
319	企画展「bones」
320	「うつくしふしぎなワクワクこばこ」造形ワークショップ
321	岡崎市制 100 周年・開館 20 周年記念「ブリューゲルとバロックの巨匠 ルーベンス、レンブラント、ベラスケス、光と影の天才たち」
322	花房さくら展「ラフラフライフ」
323	森田暁子展
324	10 の空間展
325	それぞれの発信
326	宮本薫-千姿万態-展
327	名和智明小品展
328	安藤千都勢陶展
329	目の愛護デー企画 虚構オメガ特別公演「虹」
330	第 5 回 AYA EXHIBITION-Ⅱ
331	第 5 回新たな表現者たち
332	ウッドデザインパーク
333	岡部昌生+鯉江良二　ヒロシマの礫（つぶて）あとはこれをどこに投げるかだ！
334	まるでお笑いライブ!?アートの見方が変わり、「あいちトリエンナーレ」を 10 倍楽しめる 30 の視点 名古屋ライフハック研究会 vol.37
335	庄司達展
336	中西夏之展
337	祝部、晴と褻の位相領域
338	ベートーヴェン【原典版】第九 演奏会
339	アーティストトーク「修史家（ヒストリオグラファー）としてのアーティスト」
340	Photo Exhibition「其処に在る光」
341	JIA 愛知 建築家フェスティバル 2016 港千尋氏講演会
342	孤独の絶景 2016 PART2 -見える世界の向こう側-
343	「芸大通り（GEIDAI－DORI）～University Street～」
344	まつもトリエンナーレ 2016

※決定順に記載
※事業名は申請時のもの

(7)　ボランティア

・トリエンナーレの会場運営（来場者の案内・誘導等）、作品ガイド（対話式による作品鑑賞）などを多くのボランティアに担ってもらい、トリエンナーレを盛り上げていただいた。
・ガイドツアーボランティアについては、書類及び面接による選考を行った。
・ボランティア登録者にはトリエンナーレの概要や接遇に関する研修を実施したほか、ガイドツアーボランティア登録者については、作品に関する研修を実施した。
・活動に伴う交通費相当分として、半日あたり 500 円相当の記念品（500 円分クオカード等）を支給した。

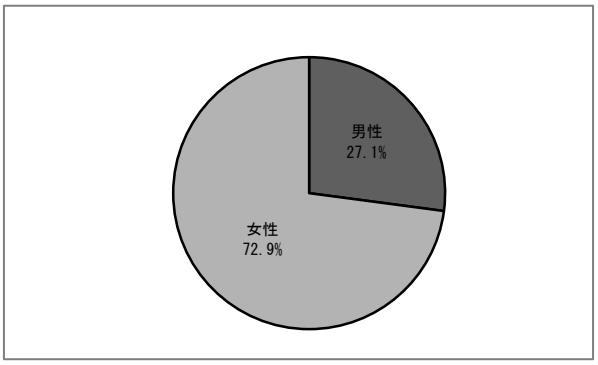
○ボランティアの登録者数及び活動実績

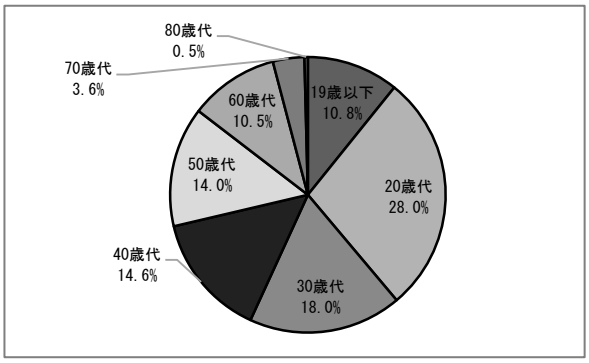
活動区分	活動内容	登録者数（名）				活動回数（回）			
		名古屋	豊橋	岡崎	計	名古屋	豊橋	岡崎	計
会場運営ボランティア	来場者の案内・誘導等	839	115	154	1,108	4,719	901	1,106	6,726
		71.2%	9.7%	13.1%	94.0%	61.8%	11.8%	14.4%	88.0%
ガイドツアーボランティア	対話型による作品鑑賞	70	－	－	70	548	184	184	916
		6.0%	－	－	6.0%	7.2%	2.4%	2.4%	12.0%
計		909	115	154	1,178	5,267	1,085	1,290	7,642
		77.2%	9.7%	13.1%	100.0%	69.0%	14.2%	16.8%	100.0%
		実登録者数　1,144 名				実活動者数　842 名			

※複数の活動区分への応募が可能なため、登録者数の計と実登録者数は一致しない

○登録者の年代別・男女別割合

区分	19 歳以下	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	計
男性	18	52	54	50	52	59	21	4	310
	1.6%	4.5%	4.7%	4.4%	4.5%	5.2%	1.8%	0.4%	27.1%
女性	105	269	152	116	109	61	21	1	834
	9.2%	23.5%	13.3%	10.2%	9.5%	5.3%	1.8%	0.1%	72.9%
計	123	321	206	166	161	120	42	5	1,144
	10.8%	28.0%	18.0%	14.6%	14.0%	10.5%	3.6%	0.5%	100.0%





○研修会

行事名	開催日	会場
全体研修	1月9日(土) ※1日2回開催	愛知芸術文化センター 小ホール
	1月13日(水) ※1日2回開催	愛知芸術文化センター アートスペースA
基礎研修	2月10日(水) ※1日2回開催	愛知芸術文化センター アートスペースA
	2月14日(日) ※1日2回開催	愛知芸術文化センター 小ホール
オリエンテーション ＆基礎研修(2)	6月26日(日) ※1日2回開催	JPタワー名古屋 ホール＆カンファレンス
	6月29日(水) ※1日2回開催	愛知芸術文化センター アートスペースA
直前研修	7月24日(日) ※1日2回開催	JPタワー名古屋 ホール＆カンファレンス
	7月27日(水)	名古屋市美術館 講堂
	7月23日(土)	穂の国とよはし芸術劇場PLAT 創造活動室A
	7月29日(金)	穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース
	7月23日(土)・25日(月)	岡崎市図書館交流プラザリブラ ホール
ガイドツアーボランティア専門研修	4月24日(日)・5月22日(日)・6月19日(日)・7月17日(日)・8月10日(水)・12日(金)・16日(火)・17日(水)・18日(木)・9月9日(金)・10月7日(金)・11月13日(日) ※計12回開催	愛知芸術文化センター アートスペースE.F他
ガイドツアーボランティア集中研修	6月12日(日)・7月6日(水)・8月12日(金)・14日(日) ※計4回開催	愛知芸術文化センター他

(8)　市民団体等によるあいちトリエンナーレ 2016 連携事業

・あいちトリエンナーレの開催目的である「文化芸術の日常生活への浸透」及び「地域の魅力の向上」を図るための事業を、市民団体や NPO 等から募集した。（応募数：19 団体・26 事業）
・ワークショップやトークショーなどによりあいちトリエンナーレ 2016 の機運醸成や賑わいを創出する事業、マップの作成などにより情報発信の充実を図る事業など 15 事業（14 団体）が選定した。
・意見交換会・SNS・報告会等を通じて情報共有を行い、実施団体相互の活動の活性化も図った。

実施団体	事業名	事業内容
NPO 法人コラボキャンパス三河	大学生が見る・伝える・発信するトリエンナーレ 2016 岡崎会場！	大学生が主体となって岡崎会場の情報発信と自主イベントを企画・実施した。
名古屋コンテンポラリーアートマップ	Nagoya Contemporary Art Map	現代美術の展示を企画しているギャラリーの情報を掲載したマップを制作し配布した。
わらしべ長者町の会	わらしべ長者町コインプロジェクト	トリエンナーレを盛り上げる長者町オリジナルコインを製作し、来場者に配付した。
NPO 法人まちの縁側育くみ隊	まちとアートのしゃべり場	トリエンナーレを盛り上げようという長者町の動きをさらに後押しするために、発表の場を設け、長者町来場者へのおもてなしに繋げた。
名古屋スリバチ学会	あいちトリエンナーレ 2016 開催地フィールドワーク「豊橋に立つその 1 豊川河岸段丘を歩く」・「豊橋に立つその 2 豊橋の SEBONE を歩く」	フィールドワークを実施し、参加者各自の関心領域に応じた探索の成果を互いに共有することにより、地域やまちの魅力に対する理解を深めた。
あい撮りカメラ部	写真と SNS を利用したあいちトリエンナーレの情報発信事業	SNS 上に写真を投稿することによって、愛知県のみならず、世界中のアート・写真好きの人への認知拡大、興味関心の喚起、会場へ足を運ぶきっかけ作りを行った。
長者町アートアニュアル実行委員会	第 16 回長者町ゑびす祭りにおける長者町山車プロジェクト 2016 でのクロッシングトーク	第 16 回長者町ゑびす祭りにおいて、あいちトリエンナーレ 2010･2013･2016 の参加アーティストによるトークイベントを開催した。
長者町大縁会実行委員会	長者町大縁会 2016 における、あいちトリエンナーレ 2016 オープニングトーク	長者町の夏祭りである「長者町大縁会」オープニングにおいて、あいちトリエンナーレ 2016 参加アーティスト等によるトークイベントを開催した。
アタント	現代アートであそぼう・かこう・親子でワークショップ	あいちトリエンナーレ（PLAT 会場内）の作品を参加者と一緒に鑑賞し、現代アートの楽しさを伝える親子ワークショップを開催した。
Mikawa Art Center	あいちトリエンナーレ 2016　三河まっぷ～キャラヴァンサライができるまで～	市民に向けた周知活動や、訪れた鑑賞者がまちなかを巡りやすくなる媒体として、岡崎・豊橋会場の周辺マップ・作品鑑賞ガイドを作成した。
Mikawa Art Center	キュレーターとゆく、あいちトリエンナーレ 2016 三河の旅	岡崎・豊橋会場を 1 日で巡るバスツアーを開催。キュレーターが作品を解説し、充実した鑑賞機会を提供した。
豊橋駅前大通地区まちなみデザイン会議	豊橋会場における情報発信拠点設置事業	豊橋会場のまちなかにある作品、公演、イベントの情報発信拠点を設置し、来場者の鑑賞補助、市民の交流の場とした。
全国芸術祭サポーターズミーティング in あいち	第 2 回全国芸術祭サポーターズミーティング in あいち	全国の芸術祭で活動するサポーターが一堂に介する機会を継続し、その永続的なネットワークを構築するための情報交換の場として、当該事業を開催した。
KIDS がつくる！「KIDS アート新聞」	KIDS がつくる！「KIDS アート新聞」	あいちトリエンナーレ 2016 と、それにかかわるアーティストやまちの人・会場について、こども自ら取材し、新聞として発信した。
Aichi Art Travel 実行委員会	Aichi Art Travel	愛知県内のアートイベントや展覧会を巡るためのマップを作成。トリエンナーレ会場周辺の協力店舗情報もマップに掲載した。

５　その他

(1) 会場運営

・展示室やインフォメーション等にスタッフを配置したほか、来場者案内等においてボランティアの協力を得るなど、会場内の利便性向上に努めた。また、混雑時にはスタッフの増員や順路の変更等により、会場内の安全確保を図った。
（※ ボランティアについては、51 ページ「ボランティア」を参照）
・会場間交通としてベロタクシーを運行（愛知芸術文化センター～長者町会場）し、来場者へのサービス向上を図った。
（※ ベロタクシーについては、68 ページ「ベロタクシー」を参照）
・乳児をお連れの方にも気軽にご来場いただけるよう、愛知芸術文化センター8 階に臨時の授乳スペースを設置したほか、各会場においても対応可能なスペースを用意した。
・次回トリエンナーレの検討基礎資料とするため、来場者等アンケート調査や有識者ヒアリングを行った。また、あいちトリエンナーレ 2016 開催による経済波及効果及びパブリシティ効果を算出した。
（※ アンケート結果については、86 ページ「アンケート調査結果」を参照）
（※ 経済波及効果については、133 ページ「経済波及効果」を参照）
（※ パブリシティ効果については、134 ページ「パブリシティ効果」を参照）

■インフォメーション

・愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、栄会場、PLAT 会場、豊橋駅前大通会場、東岡崎駅会場、康生会場にインフォメーションを設置し、トリエンナーレに関するチラシやマップを配架したほか、当日のイベント情報を掲出するなど情報発信を行った。また、来場者からの様々な問い合わせ等に対応した。
・トリエンナーレに関する問い合わせに対応するため、実行委員会事務局内にコールセンターを設置した。

■チケット販売

・愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、栄会場、PLAT 会場、豊橋駅前大通会場、東岡崎駅会場、康生会場にチケット販売所を設置し、国際展会期中販売券の販売を行った。

■バリアフリー対応

・身体に障がいをお持ちの方にもご来場いただき、現代美術等に触れていただくため、会場内のバリアフリー対策や鑑賞会を実施した。
・会場内におけるバリアフリー対策の情報を公式 Web サイトに掲載し、来場者への周知を図った。

会場内のバリアフリー対策	・会場内の段差を解消するため、簡易スロープ・ゴムマット・移動に使用するための手動車椅子を配備した。 ※簡易スロープ［名古屋地区］長者町会場（伝馬町ビル・学書ビル） ［岡崎地区］六供会場（石原邸） ゴムマット　［名古屋地区］栄会場（中央広小路ビル） ［豊橋地区］豊橋駅前大通会場（開発ビル） ・名古屋、豊橋及び岡崎地区において、会場間の移動に介助や案内を必要とする方に対応するため、土日及び祝祭日に介助スタッフの会場巡回を委託した。（委託先：社会福祉法人 AJU 自立の家） ・上下移動の手段が階段しかなく、車椅子等をご利用の方の鑑賞が難しい会場では、タブレット端末（画像）により展示作品をご案内した。
鑑賞会	・視覚に障がいのある方を対象に、作品解説を聞いたり作品に触れたりできるボランティアガイドによる鑑賞会を実施した。※9 月 29 日(木)・10 月 1 日（土)の計 2 日(各 1 回ずつ) ・聴覚に障がいのある方を対象に、要約筆記を使用したボランティアガイドによる鑑賞会を実施した。※9 月 4 日(日)・9 月 29 日(木)の計 2 日（各 1 回ずつ）

その他	・携帯用の公式ガイドブックとして無料配布した「ポケットマップ」に、多機能トイレ設置場所の案内を掲載した。

■会場サイン

・メインビジュアル、ロゴを活用したサイン計画を策定し、各会場の屋内外に来場者誘導のためのサインを設置するとともに、開催機運醸成のためのフラッグ等をまちなかの街路灯などに設置した。

［名古屋地区］愛知芸術文化センター
オアシス地下連絡通路（地下 2 階）

［豊橋地区］豊橋駅コンコース

［岡崎地区］東岡崎駅 バス停

［名古屋地区］街路灯フラッグ（広小路通）

■ユニフォーム

・まちなか会場のスタッフ、ボランティアスタッフ、ベロタクシースタッフ等、服装にレギュレーションのないスタッフは、同じデザインのＴシャツ及びスタッフ証を着用し、国際芸術祭としての統一感を図った。

(2) 広報・ＰＲ

■パブリシティ実績

・多くの新聞、テレビ等のメディアを通じて広く情報が発信され、確認できたパブリシティ件数は 1,598 件であった。

種別	掲載・放映件数	内訳		
		全国	地方	海外
新聞	558 件	34 件	521 件	3 件
雑誌	283 件	133 件	136 件	14 件
テレビ	92 件	7 件	84 件	1 件
ラジオ	45 件	0 件	45 件	0 件
Web	620 件	国内：589 件		31 件
計	1,598 件	1,549 件		49 件

※新聞については、平成 26 年 7 月 28 日から平成 29 年 1 月 8 日までの件数
※雑誌については、平成 26 年 9 月から平成 29 年 1 月までの件数
※テレビについては、平成 26 年 8 月から平成 28 年 10 月までの件数
※ラジオについては、平成 26 年 11 月から平成 28 年 10 月までの件数
※Web については、平成 26 年 8 月から平成 29 年 1 月までの件数

■記者等への情報提供

・企画内容や参加アーティスト等の主要な情報が決定した際に記者発表会を開催したほか、海外での情報発信や、記者クラブへの情報提供を行った。

○記者発表会

・愛知県内で 5 回、東京都内で 1 回、大阪府内で 1 回の記者発表会を開催した。
・記者発表会では、芸術監督やキュレーターによる企画概要の説明のほか、参加アーティストの出演やビデオメッセージの放映などを行った。

区分	開催日	会場	主な発表内容	参加数
愛知	平成 26 年 8 月 2 日(土)	愛知県芸術劇場 大リハーサル室	芸術監督就任について	43 人
	平成 26 年 10 月 29 日(水)	愛知県芸術劇場 小ホール	テーマ・コンセプト、メインビジュアルについて	13 社
	平成 27 年 3 月 26 日(木)	愛知県芸術劇場 小ホール	展開概要について	9 社
	平成 28 年 3 月 30 日(金)	愛知県芸術劇場 小ホール	概要、分野ごとの展開内容、主な特徴、参加アーティスト	60 人
	平成 28 年 8 月 10 日(水)	愛知芸術文化センター アートスペース A	見どころ/ポイント紹介、芸術監督からのメッセージ、参加アーティスト	58 人
東京	平成 28 年 4 月 8 日(金)	国際文化会館 講堂	概要、分野ごとの展開内容、主な特徴、参加アーティスト	85 人
大阪	平成 28 年 4 月 14 日(木)	国立国際美術館 講堂	概要、分野ごとの展開内容、主な特徴、参加アーティスト	31 人

○海外での情報発信

・アジアで最大のアートフェア「アートバーゼル香港」においてプレス関係者等に対して PR を行った。その他、中国、台湾、韓国においてもプレスキャラヴァンを行った。

・海外へのメール配信サービス e-flux の活用（英語：開幕時）、及び共同通信 PR ワイヤーを活用し、多言語（英語、ポルトガル語、中国語、韓国語、マレー語、アラビア語、ヘブライ語：入稿原稿英語）にて情報を配信した。（平成 28 年 8 月末）

○記者クラブへの情報提供

・平成 26 年 7 月から平成 28 年 10 月までに、愛知県政記者クラブ及び中部芸術文化記者クラブを中心に、計 84 回の資料配付（メール配信を含む）を行った。
・企画内容や参加アーティスト等の主要な情報が決定した際に、プレスリリースを作成し、記者発表会において出席者へ配布した。また、公式 Web サイトのプレス向け情報ページにも掲載した。
・会期中の原則毎週金曜日に、翌週末までのイベントスケジュールや主なトピックスを掲載した「ウィークリーリリース」を発行し、愛知県政記者クラブ及び中部芸術文化記者クラブを中心に 9 回配布した。また、公式 Web サイトのプレス向け情報ページにも掲載した。

■取材への対応

・作品解説や会場案内を行うとともに、芸術監督やアーティストへのインタビューのコーディネートを行うなど、取材内容によって個別に対応した。
・内覧会開催日から閉幕日まで、国内外からの 271 件の会場取材に対応した。

○取材件数

・メディア別・時期別取材件数

（単位：件）

	ﾌﾟﾚｽﾂｱｰ 8/10-11	8/11-15	8/16-31	9/1-15	9/16-30	10/1-15	10/16-23	合計	割合
新聞	27	14	10	8	0	6	3	68	25.1%
雑誌	22	2	6	1	0	11	0	42	15.5%
テレビ	4	15	16	7	2	4	2	50	18.5%
ラジオ	3	2	0	2	2	0	0	9	3.3%
Web	30	8	5	7	2	6	1	59	21.8%
その他	23	3	3	3	2	4	5	43	15.9%
合計	109	44	40	28	8	31	11	271	
割合	40.2%	16.2%	14.8%	10.3%	3.0%	11.4%	4.1%		

・メディア別・地域別取材件数（プレスツアーを除く）

（単位：件）

	県内	県外	海外	合計	割合
新聞	26	11	4	41	25.3%
雑誌	8	4	8	20	12.3%
テレビ	34	12	0	46	28.4%
ラジオ	5	1	0	6	3.7%
Web	17	12	0	29	17.9%
その他	8	6	6	20	12.3%
合計	98	46	18	162	
割合	60.5%	28.4%	11.1%		

○プレス証の発行
・会場への入場が必要となる取材にはプレス証を発行した。
・内覧会開催日から閉幕日まで、プレス証を発行した報道関係者は 540 人であった。

・メディア別・時期別プレス証発行件数

（単位：件）

	ﾌﾟﾚｽﾂｱｰ 8/10-11	8/11-15	8/16-31	9/1-15	9/16-30	10/1-15	10/16-23	合計	割合
新聞	35	37	12	16	0	5	6	111	20.6%
雑誌	29	4	13	2	0	7	0	55	10.2%
テレビ	9	39	95	28	8	5	3	187	34.6%
ラジオ	7	5	0	6	6	0	0	24	4.4%
Web	45	13	9	11	2	21	6	107	19.8%
その他	37	4	2	2	2	4	5	56	10.4%
合計	162	102	131	65	18	42	20	540	
割合	30.0%	18.9%	24.3%	12.0%	3.3%	7.8%	3.7%		

・メディア別・地域別プレス証発行件数（プレスツアーを除く）

（単位：件）

	県内	県外	海外	合計	割合
新聞	58	12	6	76	20.1%
雑誌	16	6	4	26	6.9%
テレビ	141	37	0	178	47.1%
ラジオ	14	3	0	17	4.5%
Web	37	25	0	62	16.4%
その他	10	3	6	19	5.0%
合計	276	86	16	378	
割合	73.0%	22.8%	4.2%		

○プレスツアーの実施
・報道関係者向けに内覧会開催日及び開幕日に、芸術監督はじめキュレーター等が各会場で作品を解説するプレスツアーをバスツアー形式で実施。（バスの手配は 2016 新規、国内プレス 2 台、海外プレス 1 台）2 日間通しで 109 人が参加した。

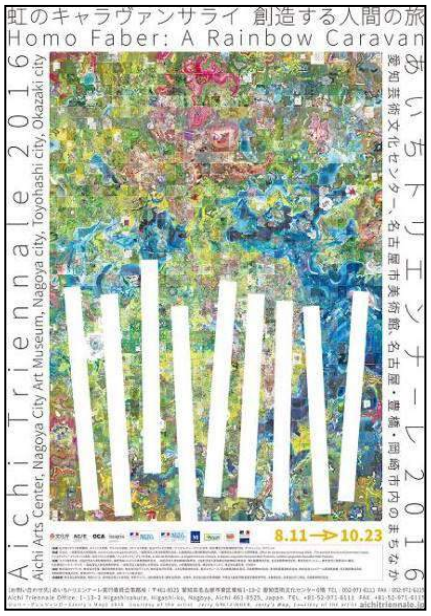
○プレスルームの設置
・8 月 10 日から 14 日までの 5 日間、愛知芸術文化センター12 階のアートスペース E、F にプレスルームを設置した。
・プレスルームにはスタッフが常駐し、プレス証の発行、プレスキットの配付、イベント告知、打合せスペースの提供、Wi-Fi 通信環境の提供、荷物一時預かりなどのサービスを提供した。

■広報用印刷物

・チラシ、ポスター等の広報用印刷物は、あいちトリエンナーレ 2016 全体を広報するものから、現代美術、舞台芸術、普及教育などそれぞれの分野を広報するものまで、計 175 種類を作成した。

・印刷物全体

種別	種類	数量
チラシ、リーフレット	70	3,404,523
ポスター	22	31,517
一般配布冊子（個別プログラム	12	32,010
ノベルティ	15	153,300
ポケットマップ（日本語）	2	400,000
アーティストガイド	3	128,000
普及教育ツール	8	42,008
リリース資料	10	16,403
梱包資材（封筒等）	18	85,880
その他	15	15,305
合計	175	4,308,946



ポスター

■ＰＲ動画

・あいちトリエンナーレを PR するために、概要、芸術監督・アーティストのインタビュー、作品情報等を盛り込んだ PR 動画を制作し、以下のとおり放映した。

・先行告知用 9 本、本告知用 6 本、スナップ映像 30 本、合計 45 本のプロモーション動画を制作した。

区分	内容
Web サイト	あいちトリエンナーレ公式 Web サイト、愛知県公式 Web サイト
公共施設等のモニター	愛知芸術文化センター、市町村役場窓口、公益財団法人愛知県国際交流協会等
街頭ビジョン	サカエチカデジタルサイネージ、ブロッサデジタルサイネージ、中部国際空港大型ビジョン
その他	各種イベントの PR ブース等

■Web サイトを用いた広報

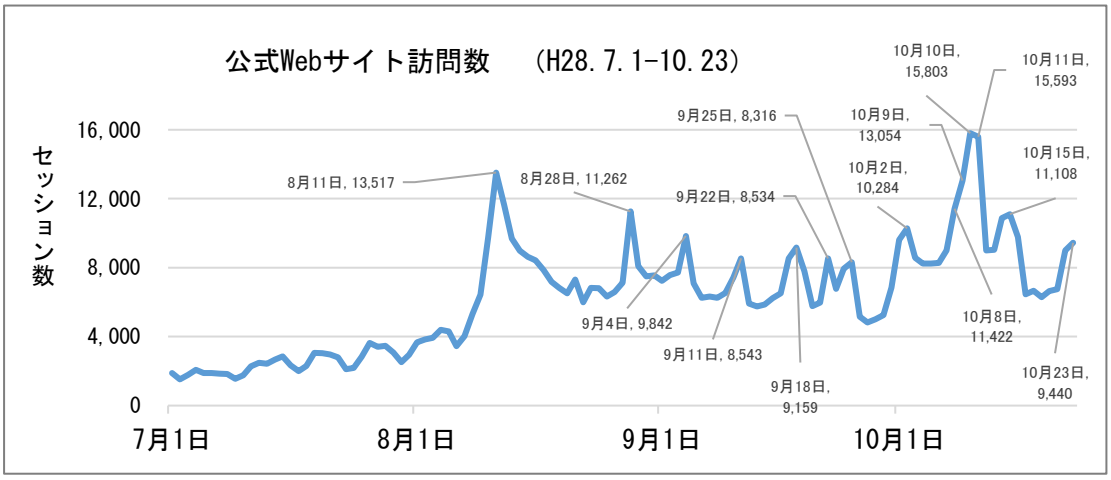
・公式 Web サイトを中心に、ツイッター、フェイスブックでも即時性の高い情報発信を行った。
・今回からの試みとして、Web ディスプレイ広告を活用した広報を行った。

○公式 Web サイト

・会期中には 127 の国と地域からアクセスがあり、その総数は 2,354,597 ページビュー※（596,761 セッション※）であった。
※ページビュー数：ページへのアクセス数（クリック単位）
セッション数：Web サイトへ訪れたユーザー数（人単位）

・ニュース

・アーティスト



○Web サイト広告

・平成 28 年 7 月から 11 月までにバナーの掲出、ブログ、記事掲載などの広告出稿の合計は 33 件（国内 29 件、海外 4 件）であった。
・今回、新たにママブロガーを活用した情報発信（マンマ・ママ）を行った。

○Web ディスプレイ広告

・自社サイトや様々な提携サイトのコンテンツページに広告を表示する Yahoo!ディスプレイアドネットワーク（YDN）、Google ディスプレイネットワーク（GDN）の Web ディスプレイ広告により、東海三県等のターゲット層に集中して広報を行った。

No.	掲出期間	活用媒体	ターゲット層	年齢層	告知内容
1	H28.04.22 －30	YDN GDN	美術・芸術・アート・写真・映画・音楽・旅行・エンタメ関連・エンターテインメント・旅行　関心層	10 代～40 代	特別先行前売期間
	H28.05.01 －31				フリーパス販促期間
2	H28.08.12 －31	GDN	美術・芸術・アート・写真・映画・音楽・旅行・エンタメ関連・エンターテインメント・旅行　関心層 夏休み・子ども・教育・体験イベント・バザー・保育園、子育て、幼稚園、小学校	10 代～40 代 子ども有	普及教育プログラム
		YDN GDN	夏休み・イベント・夏フェス・フェス・ビアガーデン・遊園地・花火・アウトドア・動物園・サファリパーク・水族館・キャンプ場・キャンプ・バーベキュー・ハイキング・科学館・お出かけ・レジャー・日帰り旅行・海外旅行・国内旅行・プール・海水浴　等	10 代～40 代	あいトリ NAVI
3	H28.09.30 －10.09	GDN	美術・芸術・アート・写真・映画・音楽・旅行・エンタメ関連・エンターテインメント・旅行　関心層	10 代～40 代	全体周知
			劇団四季・シルクドソレイユ・芸術祭・トリエンナーレ・愛知県芸術劇場・愛知芸術文化センター・ミュージカル・カンパニーＤＣＡ・フィリップドゥクフレ・ブロードウェイ・エリザベート・オーヴォ・オペラ・喜劇・エンターテイメントショー・マンマミーア・美女と野獣・ＣＡＴＳ・ライオンキング・ウィキッド・レミゼラブル 等	20 代～50 代	パフォーミングアーツ

○メールニュース

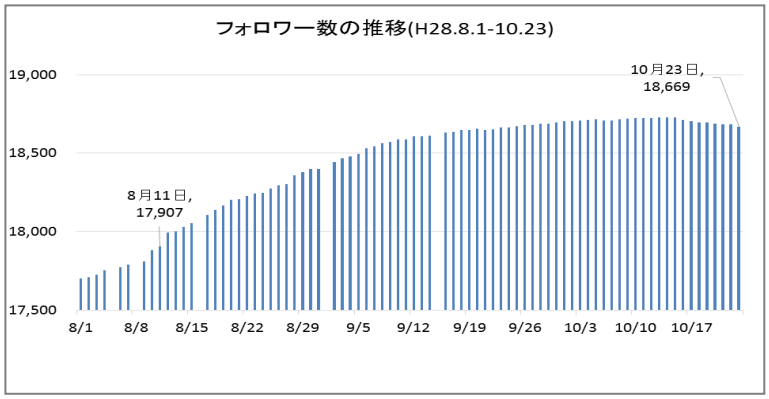
・平成 26 年 7 月から平成 28 年 10 月まで、あいちトリエンナーレ 2016 の開催概要、アーティストの作品制作に関する情報やイベント情報等を「あいちトリエンナーレニュース」としてメールニュースの登録者へ配信した。

○ツイッター

・準備の様子や開幕後のニュース、お知らせや緊急情報などをリアルタイムで配信した。

Twitter 基本概要（平成 28 年 10 月 23 日現在）
アカウント名：Aichi_Triennale（平成 22 年 2 月 24 日開設）
フォロー数：2,339 件
フォロワー数：18,669 件
ツイート数：2,017 件（平成 26 年 8 月 1 日から平成 28 年 10 月 23 日まで）

・あいちトリエンナーレ公式アカウント（@Aichi_Triennale）のフォロワー数の増加と、特別先行前売券の販売促進のため、公式アカウントをリツイートした参加者に対し特別先行前売券及びトリエンナーレパッケージのしるこサンドを抽選でプレゼントするキャンペーンを実施した。10 日間のキャンペーン期間中に、フォロワーが約 500 人増加した。

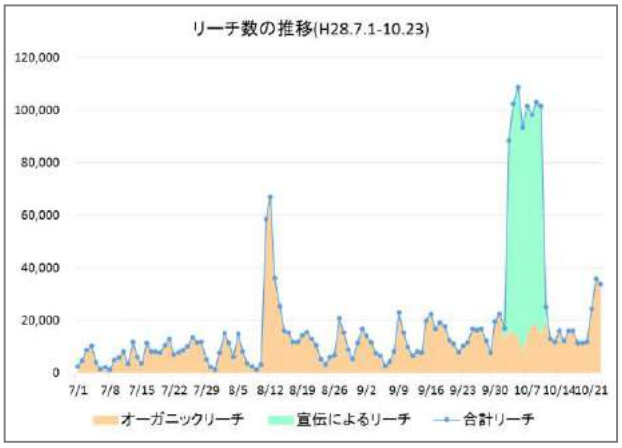


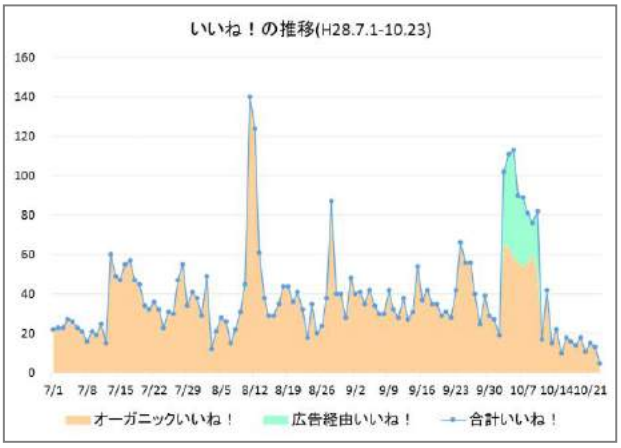
○フェイスブック

・公式 Facebook「AICHI TRIENNALE」に関連するコンテンツを見た人は、最も多かった日で 108,727 人にのぼった。

Facebook 基本概要（平成 28 年 10 月 23 日現在）
アカウント名：AICHITRIENNALE（平成 23 年 7 月 25 日開設）
合計いいね！数: 13,896
最大合計リーチ数※：108,727
※1 日当たりにコンテンツを見た人の数で最大の日（平成 28 年 10 月 5 日）

・今回から、新たに Facebook を活用したリンクアド配信を行った。広告配信期間は、リーチ数、いいね！数ともに大きく増え、ユーザーによる情報拡散も含め、効果が高い結果となった。





■愛知県、市町村、交通機関等と連携した広報・ＰＲ

・愛知県、愛知県内の市町村、交通機関、その他団体等と連携し、各種広報活動を行った。

○愛知県、市町村との連携

区分	主な内容
愛知県	・新聞内「広報あいち」への掲載（13 回） ・テレビ番組「まるまる◎あいち」「SKE48 のあいちテル!」等での放送（7 回） ・ラジオ番組「あいち県政リポート」「AICHI SATURDAY TOPICS」「Redio Freaks」での放送（9 回） ・県公式 Web サイトのトップページへのトリエンナーレバナーの掲出のほか、「Ai レポート」「インターネット情報局」「穂っとネット東三河」等へ紹介情報の掲載 ・愛知県広報動画「愛知の引力」へ紹介情報の掲載 ・国際観光コンベンション課が出展した台湾・韓国・香港・中国（上海・広東省）観光プロモーションで PR を実施 ・愛知県図書館でトークイベント「アートを読む」を開催
名古屋市	・広報誌「広報なごや」への掲載（3 回） ・テレビ番組「おもてなし隊なごや」での放送（2 回）
豊橋市	・広報誌「広報とよはし」への掲載（12 回） ・ラジオ番組「広報エフエム豊橋」での放送（8 回） ・参加アーティスト等を講師に招いて「よくわかるトリエンナーレカレッジ」を開催（5 回）
岡崎市	・広報誌「広報おかざき」への掲載（10 回） ・ラジオ番組「市政情報 763」での放送（7 回） ・岡崎アート広報大臣「オカザえもん」による PR 活動を実施
その他市町村	・市町村広報誌への掲載（41 市町村、計 93 回）

○交通機関との連携

区分	主な内容
名古屋市交通局	・駅構内及び地下鉄車内にポスター等を掲出（ポスター146 枚、リーフレット 10,000 枚） ・「あいちトリエンナーレ 2016 スタンプラリー」を実施（参加者数約 3,000 人、ポスター3,262 枚掲出） ・「あいちトリエンナーレ 2016 オリジナルドニチエコきっぷ」を発売（15,000 枚うち 500 枚は国際展チケットとセット販売） ・「駅ちかウォーキング 2016 AUTUMN」にトリエンナーレ会場を組み込んで実施（参加者数 4,411 人）
名古屋鉄道株式会社	・駅構内及び電車内にポスター等を掲出（ポスター3,720 枚、リーフレット 15,000 枚）
東海旅客鉄道株式会社	・駅構内にポスターを掲出（30 駅、76 枚）
近畿日本鉄道株式会社	・駅構内にポスターを掲出（17 駅、42 枚）
愛知環状鉄道株式会社	・「愛環ぶらっとウォーキング」にトリエンナーレ会場を組み込んで実施（参加者数 756 人）
名古屋臨海高速鉄道株式会社	・駅構内及び電車内にポスター等を掲出（ポスター67 枚、リーフレット 500 枚）
中部国際空港株式会社	・セントレアのターミナルビル内大型ビジョンで PR 動画を放映
県営名古屋空港	・空港内の手荷物受取所、観光紹介コーナーにポスターを掲出（19 枚）
愛知県タクシー協会岡崎支部	・タクシーの車体へ PR 用マグネットを添付（187 台） ・車内にリーフレットを設置（4,250 枚）

○その他団体等との連携

区分	主な内容
商店街組合等	・名古屋地区、豊橋地区、岡崎地区のまちなかの街路灯にフラッグ広告を掲出（愛知芸術文化センターから長者町会場までの商店街 482 枚（街路灯 241 基）、PLAT 会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場及びその周辺商店街 96 枚（街路灯 63 基）、東岡崎駅会場、康生会場、六供会場及びその周辺商店街 410 枚（街路灯 410 基））

公益財団法人 愛知県国際交流協会	・機関紙「あいち国際プラザ」への掲載（4 回） ・ラジオ番組「GLOBAL VOICE」での放送（1 回） ・展示スペースにおいて、パネル展示
一般社団法人 愛知県観光協会	・PR スペースにおいて、動画放映、ポスター掲出 ・公式 Web サイト「Aichi Now」による情報発信 ・新東名開通「あいち・なごやの観光展」において、リーフレット・トリエンナーレパッケージのしるこサンドを配布
公益財団法人 あいち男女共同参画財団	・あいち国際女性映画祭 PR コーナーでのポスター掲出、チラシ配布
愛知県生涯学習推進センター	・「学びネットあいち」への情報掲載
東海総合通信局	・地域コラボ TOKAIDOUGAWeb サイトでのプロモーションビデオ配信
一般財団法人 自治体国際化協会	・クレアメールマガジンでの配信
独立行政法人 国際交流基金	・各事務所でのポスター掲出、チラシ配布
愛知県職員組合連合会	・機関誌「愛知県職」への掲載（2 回）
株式会社ジェイアール 東海高島屋	・参加アーティスト佐藤翠の作品を展示（8 月 10 日から 8 月 23 日まで）
株式会社パルコ	・名古屋パルコにて、パネル展を開催
スーパー・ コンビニエンスストア	・愛知県と流通業者との包括協定などを活用し、愛知県内のスーパーやコンビニエンスストアにポスター掲出やリーフレットを設置
書店	・名古屋市内の大型書店を中心に、ポスター掲出、しおり等の設置 ・ガイドブック等の取扱店において、トークイベントを開催
チケットプレゼント 企画	・雑誌、テレビ、ラジオ等のタイアップ企画として、チケットプレゼント企画を実施（36 企画）
あい撮りカメラ部	・市民団体等によるあいちトリエンナーレ 2016 連携事業に採択した「あい撮りカメラ部」に写真と SNS を利用した情報発信事業を委託 ・公式 Web サイトにて撮影写真を紹介

■広告

・主に国際展特別先行前売券発売日、開幕日直前及び会期中に、各種メディアへの広告や交通広告を展開した。

○各種メディア広告

・新聞、雑誌、ラジオに計 83 件の出稿を行った。

種別	広告出稿件数
新聞	34 件
雑誌	24 件
テレビ	0 件
ラジオ	25 件
計	83 件

【中日新聞はじめ 5 紙：平成 28 年 8 月 8 日・9 日朝刊に掲載】

○交通広告

・名古屋市営地下鉄、JR、名古屋鉄道、愛知環状鉄道、豊橋鉄道の駅構内、車両等にポスター等を掲出した。

・特別先行前売券発売日及び開幕日付近に、特に乗降客の多い名古屋駅、栄駅、金山駅を中心にパネル、ボード、デジタルサイネージ等の広告掲出を行った。開幕時には中部国際空港にも広告掲出を行った。

区分	内容
ポスター	14,416 枚（地下鉄 846 枚、名鉄 9,372 枚、JR3,728 枚、愛知環状鉄道 240 枚、豊橋鉄道 230 枚）
無照明パネル	11 枠（地下鉄 9 駅）
ボード広告	1 枠（地下鉄栄駅）
懸垂幕	2 枚（金山総合駅コンコース）
デジタルサイネージ広告	236 枠（地下鉄名古屋駅 78 枠、名鉄名古屋駅 22 枠、名鉄中部国際空港駅 36 枠、JR 名古屋駅地下通路 42 枠、JR 名古屋駅中央コンコース 58 枠）

名鉄名古屋駅（デジタルサイネージ）

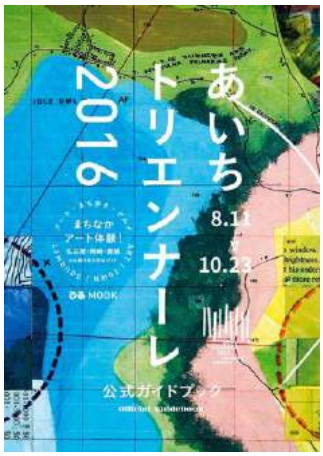
金山総合駅（懸垂幕）

(3) 公式出版物

■公式ガイドブック

・トリエンナーレをより楽しむための情報を掲載した公式ガイドブックを発行した。

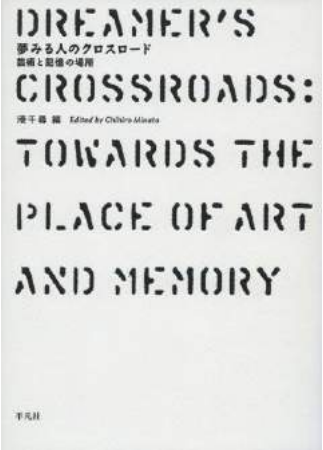
発売日	7 月 15 日（金）
判型等	A5 判、160 ページ（ポケットマップ付き）
言語	日本語
発行部数	19,500 部
販売額	1,300 円（税込）
販売場所	・愛知県内の書店及び全国の主要書店 ・愛知県内のコンビニエンストア（名古屋市・豊橋市・岡崎市内トリエンナーレ会場周辺店舗） ・インターネット書店 ・トリエンナーレオフィシャルショップ
内容	・アーティスト紹介・作品解説 ・アーティストインタビュー ・まちの魅力紹介 ・お役立ち情報（おすすめコース、イベント、グッズ、アクセス情報等）
制作・発行	ぴあ株式会社



■公式コンセプトブック「夢みる人のクロスロード 芸術と記憶の場所」

・あいちトリエンナーレ 2016 のテーマを読み解くための公式コンセプトブックを発行した。

発行日	8 月 10 日（水）
判型等	A5 判変形（210mm×148mm）、152 ページ
言語	日本語
発行部数	4,500 部
販売額	1,620 円（税込）
内容	・「旅と創造」をめぐる文章と写真を集めたあいちトリエンナーレ 2016 のコンセプトブック ・港芸術監督が編者となり、総勢 18 名の執筆陣によるエッセイを収録
制作・発行	株式会社平凡社



■公式カタログ

・トリエンナーレに出品された国内外 119 組のアーティストにカタログを発行した。

発行日	10 月 7 日（金）
判型等	A5 判変形（210mm×148mm）、296 ページ
言語	バイリンガル（日本語・英語）
発行部数	4,500 部
販売額	2,700 円（税込）
内容	・芸術監督及びキュレーターエッセイ ・国際展出品作＋アーティストページ ・トリエンナーレ出品作品リスト
制作・発行	株式会社平凡社

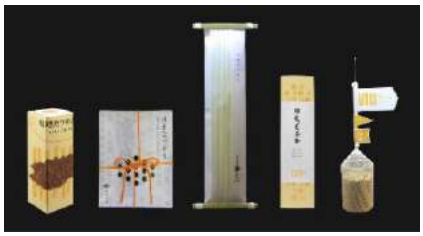
(4) オフィシャルグッズ

・公式デザイナーが、メインビジュアルを基調にデザインする「公式デザイナーグッズ」、地元名産品のパッケージをリデザインする「あいちの逸品 リ・デザイングッズ」、参加アーティストのデザインによる「アーティストグッズ」を作成し、オフィシャルショップ等で販売した。
・参加アーティストの既成グッズ、書籍、DVD 等の「既成アーティストグッズ」や、テーマやコンセプトから選定した「セレクトグッズ」をオフィシャルショップで販売した。

■オフィシャルグッズ

区分	品目数	備考
公式デザイナーグッズ	11 品目（13 種類）	ピンバッジ、クリアファイル、レインボーブロックメモ、リキッドボールペン、Tシャツ、厚手キャンバスショルダートート、レンチキュラータンブラー、手ぬぐい、歯ブラシ、レンチキュラーポストカード、組飴
あいちの逸品 リ・デザイングッズ	5 品目（5 種類）	・げんこつぼー／有限会社髙田屋製菓（犬山市） ・日月もなか／株式会社川村屋（豊田市） ・手延きしめん／有限会社たつみ麺店（安城市） ・味噌カツのたれ／合資会社八丁味噌（岡崎市） ・濱納豆／國松本店（豊橋市）
アーティストグッズ	5 品目（37 種類）	ポストカード（15 種）、缶バッジ（8 種）、キーホルダー（8 種）、ブックカバー（4 種）、トートバッグ（2 種）
計	21 品目（55 種類）	

公式デザイナーグッズ


あいちの逸品 リ・デザイングッズ

アーティストグッズ

■オフィシャルショップ

場所	開設期間	売上金額	備考
愛知芸術文化センター10 階	8 月 10 日(水) ～10 月 23 日(日)	8,219 千円	利用者数 6,642 人

※上記以外の店舗でも販売

(5) ベロタクシー

・会場間（愛知芸術文化センター～長者町会場）の移動手段としてベロタクシーを運行し、来場者へのサービス向上と開催機運の醸成を図った。
・車体には国際展参加アーティストの大巻伸嗣がデザインしたラッピングを施し、まちなかでの祝祭感の演出や「動く広告塔」としてPR面でも大きな効果を果たした。
・プレ走行を含め3,236人が乗車し、乗客の方からも「街が華やかになる」など好評をいただいた。

運行期間	8月4日(木)～10日（水）／プレ走行（運休日8月8日） 8月11日(木･祝)～8月31日(水)／毎日運行（運休日8月22日） 9月1日(木)～10月23日(日)／土日祝のみ運行
運行日数	45日（プレ走行含む）
運行台数	6台
運行経路	愛知芸術文化センター ～ 長者町会場
運賃	無料 （ただし、会期中は「国際展チケット」または「パフォーミングアーツ（有料公演）チケット」が必要）
利用者数	3,236人

出発式

停留所（長者町会場）

走行中の様子

(6) 旅行商品

・観光客を誘致するため旅行会社と連携してバスツアーを実施したほか、チケット付宿泊プランやチケット提示による割引サービスを提供いただけるホテルを「パートナーホテル」と位置付けて連携を図った。

■旅行会社との連携

・旅行会社への旅行商品の催行を働きかけ、3 社から 5 本のバスツアー、宿泊と国際展チケットがセットになった個人旅行プラン（1 社）が催行された。バスツアーには、愛知県内外から 113 人の参加者があった。

■ホテルとの連携

・名古屋市内の 20 件、豊橋市内の 3 件、岡崎市内の 3 件をパートナーホテルとして決定し、実施プランを公式 Web サイトで紹介した。チケット付き宿泊パック、チケット付き食事パックについては、合計で 622 件の利用があった。

(7) 会場周辺店舗との連携

・トリエンナーレ会場としての一体感のある盛り上げやにぎわいを創出するとともに、来場者へのおもてなし・サービス向上のため、会場周辺の飲食店等と連携を図った。

・ポスターの掲出、チラシ・会場マップの配架といった広報協力のほか、国際展チケットを提示した方へのサービス提供やトリエンナーレ関連メニューの提供などで協力いただいた店舗を「パートナーショップ」と位置付け、店舗情報を掲載したマップ（Aichi Art Travel Map）を作成した。作成したマップは、会場インフォメーション等に配架したほか、公式 Web サイトにも掲載した。

協力店舗数	名古屋地区：123 件（うち、マップ掲載店舗：105 件） 豊 橋 地 区：28 件（うち、マップ掲載店舗：22 件） 岡 崎 地 区：26 件（うち、マップ掲載店舗：17 件）
マップ発行部数	52,000 部（vol.1：30,000 部・vol.2：22,000 部）

※チケット提示によるサービスの提供、トリエンナーレ関連メニューの提供、その他店舗独自のサービスの提供にご協力いただいた店舗を、会場周辺店舗マップに掲載

会場周辺店舗マップ（Aichi Art Travel Map）

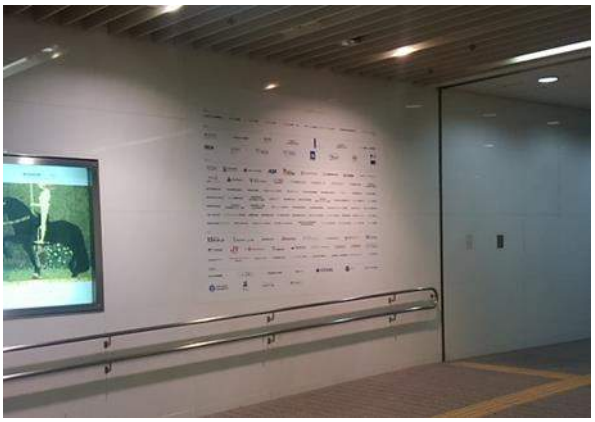
パートナーショップ ステッカー
※該当店舗に配付し、店頭に掲出を依頼

(8) 企業・団体等からの協賛・協力

・企業、団体及び個人（以下、企業等）から、寄付、チケット購入、製品・場所の提供など、257 件の御支援を頂いた。

■協賛等の内容

種類		対応等	支援を頂いた件数
協賛	寄付	・愛知芸術文化センター会場での企業等広報資料等（パンフレット、グッズ等）の配布、新聞広告や愛知県内の全小中高生向けのチラシなどへの企業等名又はロゴタイプの掲載など、各種広報媒体等で企業等の PR を行った。また、オープニングレセプションの招待状など、金額に応じた特典も設けた。 ・トリエンナーレについて、特定公益増進法人である公益社団法人企業メセナ協議会の助成対象活動として認定を受け、企業等が同協議会を通じてトリエンナーレ実行委員会に寄付すると、法人税法上、一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、下記の算式で損金限度額まで算入できるようにした。 【特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額】＝（資本等の金額(※)×0.375%＋所得の金額×6.25%）×1/2　(※)資本金と資本積立金額の合計額	37 件
	チケット購入	・100 枚以上まとめて購入の場合に、通常の前売り価格よりも廉価で提供した。 ・チケット購入価格の 4 分の 3 を「寄付金額」に当てはめて、PR 及び特典の対応を行った。	169 件
協力	作品展示や広告スペースの提供、製品やサービスの提供	・提供スペースの使用料や製品・サービスの料金を市場価格により現金換算し、換算価格の 2 分の 1 を「寄付金額」に当てはめて、PR 及び特典の対応を行った。	33 件
会場提供	まちなかの展示スペース等の提供	・一律に PR 及び特典の対応を行った。	11 件
有償広告掲載		・企業等と実行委員会が有償広告の掲載に係る契約を結び、ポケットマップの有償広告スペースに企業等の広告を掲載した。 ・企業等が広告宣伝費として処理すれば、法人税法上、損金に算入される。	7 件
計			257 件



企業等ロゴタイプの掲示

会期中のイベント・プログラム

■8 月

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
8 日（月）	芸文	14:00-15:30	舞台芸術	こどものためのワークショップ／ダニ・リマ カンパニーダンサー	無料	18 人
10 日（水）	全会場	13:30-18:00	―	一般内覧会	招待者	1,554 人
	芸文	10:30-11:30	―	記者会見	報道関係者	―
		11:30-12:15	―	プレスツアー(愛知県美術館 10 階)	報道関係者	―
		12:15-13:00	―	プレスツアー(愛知県美術館 8 階)	報道関係者	―
		16:00-17:00	舞台芸術	『Little collection of everything』／ダニ・リマ	招待者	145 人
	市美	13:30-14:00	―	プレスツアー	報道関係者	―
	栄会場	14:30-15:00 17:00-17:15	―	プレスツアー	報道関係者	―
	長者町	15:30-16:30	―	プレスツアー	報道関係者	―
	名古屋東急ホテル	18:00-19:30	―	オープニングレセプション	招待者	1,350 人
	名駅	10:00-20:00	現代美術	あいちトリエンナーレ 2016 関連企画展示／佐藤翠 ※ジェイアール名古屋タカシマヤ 1F メインステージ ※8 月 23 日（火）まで	無料	―
11 日（木祝）	芸文	15:00-16:00	舞台芸術	『Little collection of everything』／ダニ・リマ	要チケット	175 人
	長者町会場周辺	11:00-19:00	現代美術	映像プログラム ※10 月 23 日（日）まで	無料	―
	名駅	10:00-10:30	―	プレスツアー	報道関係者	―
	PLAT	15:45-16:15	―	プレスツアー	報道関係者	―
	水上ビル	16:30-17:00	―	プレスツアー	報道関係者	―
	豊橋駅前	17:15-18:00 18:15-18:45	―	プレスツアー	報道関係者	―
	豊橋市公会堂	19:30-20:15	現代美術	「絵馬・絵巻/プロジェクション」／石田尚志	無料	600 人
	東岡崎駅	11:00-11:30	―	プレスツアー	報道関係者	―
	康生	12:00-12:30 12:45-13:15	―	プレスツアー	報道関係者	―
	六供	14:30-15:00	―	プレスツアー	報道関係者	―
12 日（金）	芸文	19:00-20:00	舞台芸術	『Little collection of everything』／ダニ・リマ	要チケット	125 人
	岡崎市内	13:00-16:15	普及教育	シンポジウム／トランスディメンション―イメージの未来形	無料	42 人
		17:00-19:00	普及教育	アーティストトーク／シュレヤス・カルレ	無料	22 人
13 日（土）	芸文	11:00-13:00	普及教育	レクチャー／沖縄－ソウル：アジア／アート／女性の視点から自作を語る	無料	64 人
		15:00-16:00	舞台芸術	『Little collection of everything』／ダニ・リマ ※終演後アフタートーク	要チケット	126 人
	長者町会場周辺	8:30-11:30	現代美術	Art & Breakfast Day あいちトリエンナーレ長者町／三田村光土里	要参加費	100 人
	アートラボ	14:00-16:00	連携事業	アーティストトーク／阿部大介、名和聡子、山内毬弥	無料	30 人
	豊橋駅前	15:30-17:30	普及教育	アーティストトーク／グリナラ・カスマリエワ＆ムラトベック・ジュマリエフ	無料	24 人
		18:30-20:30	普及教育	アーティストトーク／ヨルネル・マルティネス	無料	23 人
14 日（日）	芸文	14:00-18:00	現代美術	オープニングシンポジウム／「旅・創造・共同体」	無料	160 人
		15:00-16:00	舞台芸術	『Little collection of everything』／ダニ・リマ	要チケット	105 人
		11:00-12:30	普及教育	アーティストトーク／タロイ・ハヴィニ	無料	44 人
	長者町会場周辺	8:30-11:30	現代美術	Art & Breakfast Day あいちトリエンナーレ長者町／三田村光土里	要参加費	70 人
15 日（月）	芸文	14:00-16:00	普及教育	アーティストトーク／松原 慈	無料	68 人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
16 日（火）	豊橋市内	13:00-14:30	舞台芸術	こどものためのワークショップ／ダニ・リマ カンパニーダンサー	無料	15 人
17 日（水）	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第 1 回「オキュパイ/生存権/ユーモア」	無料	42 人
	PLAT	15:00-16:00	舞台芸術	『Little collection of everything』／ダニ・リマ ※終演後アフタートーク	要チケット	125 人
18 日（木）	PLAT	15:00-16:00	舞台芸術	『Little collection of everything』／ダニ・リマ	要チケット	152 人
19 日（金）	芸文	16:40-19:06	現代美術	映像プログラム	要国際展券	125 人
		19:15-20:45	現代美術	映像プログラムオープニングイベント ゲストトーク「東と西」／キドラット・タヒミック×港千尋	要国際展券	125 人
	市美	10:30-11:30 14:00-15:00	普及教育	どうくつに絵を描こう	無料	94 人
20 日（土）	芸文	10:30-20:30	現代美術	映像プログラム	要国際展券	316 人
	市美	10:00-15:30	普及教育	アーティステント	無料	15 人
	長者町	11:00-14:00	現代美術	ルアンルパ特別授業「こどものための楽しい空間作り」	無料	－
21 日（日）	芸文	11:00-20:25	現代美術	映像プログラム	要国際展券	254 人
		10:00-11:00	普及教育	ベビーカーツアー	要国際展券	14 人
	市美	13:30-16:30	普及教育	シンポジウム／言葉の記録 日本現代美術のオーラル・ヒストリー－80 年代後半から 90 年代前半の名古屋のアートシーンをめぐって－	無料	77 人
	アートラボ	16:00-17:30	連携事業	アーティストトーク／西村佳子	無料	9 人
	豊橋市内	8:30-10:30	現代美術	Art & Breakfast Day あいちトリエンナーレ豊橋／三田村光土里	要参加費	17 人
23 日（火）	芸文	17:40-20:18	現代美術	映像プログラム	要国際展券	82 人
	豊橋地区	10:30-12:00	普及教育	こどもキャラヴァン	無料	3 人
24 日（水）	芸文	18:30-20:20	現代美術	映像プログラム	要国際展券	42 人
		10:30-12:00	普及教育	こどもキャラヴァン	無料	11 人
	市美	10:30-11:30 14:00-15:00	普及教育	どうくつに絵を描こう	無料	64 人
	長者町	16:00-17:30	現代美術	ルル学校「公共空間とは何か」／ルアンルパ	無料	－
		19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第 2 回「インドネシアの状況とルアンルパの活動について」	無料	25 人
25 日（木）	芸文	17:30-19:38	現代美術	映像プログラム	要国際展券	86 人
		19:50-20:35	現代美術	映像プログラムゲストトーク「映像・映画の越境」／大木裕之×濱治佳	要国際展券	46 人
	市美	10:30-12:00	普及教育	こどもキャラヴァン	無料	13 人
26 日（金）	芸文	17:25-20:45	現代美術	映像プログラム	要国際展券	67 人
	アートラボ	19:30-21:10	連携事業	ALA-SCOPE02「映像レーベル・SOL CHORD の作家たち」上映＋トーク／大木裕之	無料	38 人
	岡崎地区	10:30-12:00	普及教育	こどもキャラヴァン	無料	11 人
	設楽町内	9:00-21:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 設楽町	無料	154 人
27 日（土）	芸文	10:00-19:40	現代美術	映像プログラム	要国際展券	323 人
		19:50-20:35	現代美術	映像プログラムゲストトーク「旅・移動・移民」／金子 遊	要国際展券	38 人
		14:00-16:00	普及教育	レクチャー／ビクトル・ダミコのアートティーチング・トイー動機づけの原理－	無料	66 人
	市美	9:30-17:00	普及教育	ちびっこオアシス ※8 月 28 日(日)・9 月 17 日(土)・18 日(日)・19 日(月・祝)・10 月 9 日(日)・10 日(月・祝)も開催	無料	－
		10:00-11:00	普及教育	ベビーカーツアー	要国際展券	13 人
	設楽町内	9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 設楽町	無料	109 人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
28 日（日）	芸文	10:45-20:44	現代美術	映像プログラム	要国際展券	288 人
		14:00-16:00	普及教育	レクチャー／アートに音を視る	無料	66 人
		16:30-17:00	現代美術	パブローブフロアトーク／「西尾美也に聞きたい！100 の質問」	要国際展券	―
	設楽町内	9:00-17:00	連携事業	トリエンナーレ 旅する展覧会 in 設楽町（ワークショップ／「移動型バスミュージアム MOBIUM:バスを万華鏡にする」／LOCUS FABER ツクロッカ）	無料	156 人（36 人）
30 日（火）	芸文	17:00-20:35	現代美術	映像プログラム	要国際展券	146 人
31 日（水）	芸文	11:00-19:05	現代美術	映像プログラム	要国際展券	201 人
		14:00-16:30	現代美術	映像プログラム活弁イベント「発掘の旅」作品上映＆トーク／安井喜雄×越後谷卓司	要国際展券	107 人
		17:15-18:00	現代美術	映像プログラムゲストトーク「第三の映画」／伊藤高志×荒木優光×港千尋	要国際展券	112 人
	長者町	16:00-17:30	現代美術	ルル学校「記憶と表現」／ルアンルパ	無料	―
		19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第 3 回「もうひとつの場所をつくる：オルタナティブスペースと路上について」	無料	29 人
	名古屋市内	18:00-19:00	連携事業	あいちトリエンナーレ 2016 関連イベントコンサート『旅するモーツァルト』	無料	120 人

■9 月

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
1 日（木）	芸文	18:00-20:18	現代美術	映像プログラム	要国際展券	72 人
2 日（金）	芸文	17:30-19:37	現代美術	映像プログラム	要国際展券	107 人
		19:45-20:30	現代美術	映像プログラムゲストトーク「夜の虹」／ミヤギフトシ	要国際展券	50 人
		18:00-20:00	普及教育	ディスカッション／芸術祭における人材育成と雇用を考える－レクチャー＆ディスカッション－	無料	35 人
	名古屋市内	20:30-21:15	現代美術	「絵馬・絵巻／プロジェクション」／石田尚志	無料	1,263 人
3 日（土）	芸文	11:00-20:45	現代美術	映像プログラム	要国際展券	401 人
		14:00-16:00	現代美術	レクチャー／美術の世界へようこそ！－歴史を旅するボードゲームで遊ぶ－	無料	37 人
	市美	14:00-15:30	普及教育	アーティストトーク／岡部昌生	無料	102 人
	栄	17:00-18:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞 presents 伊藤正人アーティストトーク「仲田の母」／山田 亘	要国際展券	―
	長久手市内	10:00-12:00	普及教育	コラムプロジェクト「交わる水－邂逅する北海道／沖縄」によるプログラム「旅するお弁当」	無料	14 人
4 日（日）	芸文	11:00-18:10	現代美術	映像プログラム	要国際展券	349 人
		10:00-11:30	普及教育	聴覚に障がいのある方との鑑賞会	要国際展券	6 人
		14:00-16:00	普及教育	レクチャー／シルクロードにおける文化遺産の危機と保護：シリア・イラクを中心に	無料	75 人
	長者町会場周辺	19:00-21:00	現代美術	コラムプロジェクト関連企画「交わる水－邂逅する北海道／沖縄」ライブイベント『北海道×沖縄　交差する風音』	要参加費	65 人
	栄会場	11:00-19:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞社[なるへそ文化センター] presents 港千尋展覧会[SEPTEMBER STEPS 秋の旅人]／山田 亘　※9 月 25 日(日)まで	要国際展券	―
6 日（火）	芸文	18:30-20:46	現代美術	映像プログラム	要国際展券	93 人
7 日（水）	芸文	17:40-20:45	現代美術	映像プログラム	要国際展券	79 人
	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第 4 回「シンガポールの美術館とオルタナティブスペースの関係性：歴史、政治、文化の関係からみえてくるもの」	無料	28 人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
8日（木）	芸文	17:55-20:45	現代美術	映像プログラム	要国際展券	73人
9日（金）	芸文	18:00-20:12	現代美術	映像プログラム	要国際展券	97人
	長者町	14:00-15:30	現代美術	ルル学校「翻訳とエージェンシー」／ルアンルパ	無料	―
	大府市内	9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 大府市	無料	147人
10日（土）	芸文	11:00-20:46	現代美術	映像プログラム	要国際展券	439人
		11:00-13:00 15:00-16:00	現代美術	パブローブ／ボーダーを家庭用編み機を使って作るワークショップ	要国際展券	―
		14:00-16:00	普及教育	レクチャー／浅野祥雲―B級と文化・美術のはざまで―	無料	67人
	豊橋駅前	10:30-16:00	普及教育	アーティストプログラム／東海道中膝栗毛を5分で表現する／小林耕平	無料	5人
	大府市内	9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 大府市	無料	193人
11日（日）	芸文	10:25-18:51	現代美術	映像プログラム	要国際展券	581人
		19:00-19:45	現代美術	映像プログラムゲストトーク「芝居と映画」／高嶺剛×港千尋	要国際展券	124人
		14:30-17:30	舞台芸術	『虹のカーニヴァル』サンバワークショップ	無料	64人
		10:30-12:00	普及教育	かぞくキャラヴァン	要国際展券	12人
		14:00-16:00	現代美術	レクチャー／展示照明のワークショップ	無料	43人
	豊橋駅前	14:00-15:30	普及教育	アーティストトーク／佐々木愛	無料	52人
	大府市内	8:30-10:30	現代美術	Art & Breakfast Day あいちトリエンナーレ大府／三田村光土里	要参加費	22人
		9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 大府市（ワークショップ／「カットアップ＆リミックス～イメージを並列したり重層して作るコラージュ絵画～」／田島秀彦）	無料	294人 (15人)
14日（水）	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第5回「超過密都市に公共圏の種を撒く。香港アーバン・ガーデニングとストリートのデザイン」	無料	33人
16日（金）	芸文	13:30-16:30	舞台芸術	プロデュースオペラ『魔笛』（学校招待公演）	招待者	1,927人
	アートラボ	19:30-21:10	連携事業	ALA-SCOPE02「映像レーベル・SOL CHORDの作家たち」上映＋トーク／前田真二郎	無料	30人
	一宮市内	9:30-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 一宮市	無料	200人
17日（土）	芸文	15:00-18:00	舞台芸術	プロデュースオペラ『魔笛』	要チケット	1,833人
		13:00-15:00	普及教育	レクチャー／なぜものがそう見えるのか？視知覚のメカニズム	無料	61人
	市美	10:00-11:00	普及教育	ベビーカーツアー	要国際展券	10人
	長者町	14:00-15:30	現代美術	ルル学校「地域の文化と物語」／ルアンルパ	無料	―
	栄	18:00-19:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞presents 港千尋 アーティストトーク／山田 亘	要国際展券	―
	アートラボ	14:00-16:00	連携事業	アーティストトーク／勝翔子、荒木由香里、設楽陸	無料	12人
	岡崎市内	17:00-19:05	現代美術	映像プログラム	要国際展券	57人
	一宮市内	9:30-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 一宮市	無料	372人
18日（日）	芸文	14:00-16:00	現代美術	レクチャー／フリークエンシーズ・プロジェクト	無料	42人
		15:00-16:30	舞台芸術	ワクワク！オペラ体験！	無料	250人
		16:30-18:00	普及教育	アーティストトーク「エドワード･モースの触手―シャミセンガイから縄文土器､日本陶磁まで」／中村裕太	無料	28人
	市美	14:00-16:00	普及教育	シンポジウム／現代美術の保存と修復	無料	84人
	一宮市内	9:30-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 一宮市（ワークショップ／「移動型バスミュージアムMOBIUM:バスを万華鏡にする」／LOCUS FABER ツクロッカ）	無料	476人 (38人)

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
19日（月祝）	芸文	15:00-18:00	舞台芸術	プロデュースオペラ『魔笛』	要チケット	1,795人
		10:30-12:00	普及教育	かぞくキャラヴァン	要国際展券	14人
		13:00-14:30	普及教育	レクチャー／見えない粒子で宇宙をさぐる－スーパーカミオカンデとニュートリノ－	無料	91人
	一宮市内	9:30-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 一宮市	無料	403人
21日（水）	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第6回「人間や動植物が＜移住＞することとは何か？－外国人移住労働者と協同するmixriceのソーシャルプロジェクトを事例に」	無料	18人
22日（木祝）	康生会場	14:00-15:30	普及教育	アーティストトーク／野村 在	無料	49人
	安城市内	9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 安城市	無料	274人
23日（金）	安城市内	9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 安城市	無料	416人
24日（土）	芸文	9:45-16:30	普及教育	高校生鑑賞プログラム「人間の旅をはじめよう」	無料	95人
		14:00-16:00	普及教育	レクチャー／ものづくりとアートの接点 トヨタのDNAとデザイン	無料	41人
		15:00-16:40	連携事業	舞台芸術公募プログラム『霊長類 南へ』／perky pat presents	要チケット	195人
		18:45-21:00	連携事業	舞台芸術公募プログラム『Homo Orans et Harmonia Mundi～祈る人、そして世界の調和へ～』／吉田 文	要チケット	657人
	長者町	14:00-15:30	現代美術	ルル学校「都市のゲリラ」／ルアンルパ	無料	－
		10:30-12:30	普及教育	フィールドワーク／長者町の「いま」と「むかし」を歩く	無料	15人
	芸創	14:00-16:30 18:30-21:00	連携事業	舞台芸術公募プログラム『クラウディオ・モンテヴェルディ「ポッペアの戴冠」』／東海バロックプロジェクトオペラ制作委員会	要チケット	653人
	オアシス21	12:00-19:30	舞台芸術	『虹のカーニヴァル』	無料	7,000人
	安城市内	9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 安城市（ワークショップ「ミツロウ絵の具で絵を描いてみる」／今村 文）	無料	366人 （14人）
25日（日）	芸文	11:00-13:00	普及教育	レクチャー／ダンスは何に挑戦するのか？	無料	61人
		16:00-17:30	連携事業	舞台芸術公募プログラム『今井智景 音楽と写真と映像の作品「シネクドキズムⅡ＜コンティニュイティー＞」』／シネクドキズム実行委員会	要チケット	76人
		18:00-21:15	連携事業	舞台芸術公募プログラム『ロシア音の旅・おはなしの音楽』／愛知ロシア音楽研究会	要チケット	1,097人
	芸創	18:00-21:00	連携事業	舞台芸術公募プログラム『巡礼 JUNREI～満天に星は流れ、また輝きて～』／愛知芸術文化協会	要チケット	558人
	オアシス21	12:00-18:30	舞台芸術	『虹のカーニヴァル』	無料	10,000人
	安城市内	9:00-17:00	連携事業	モバイル・トリエンナーレ 旅する展覧会 in 安城市	無料	467人
26日（月）	芸文	19:00-20:30	連携事業	舞台芸術公募プログラム『シールェ（scire）』／ナゴコン	要チケット	238人
27日（火）	芸文	19:00-20:30	連携事業	舞台芸術公募プログラム『sign～世界の外のどこへでも～』／KITO,Akira Brass Band!	要チケット	93人
	栄	11:00-19:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞社[なるへそ文化センター] presents 沖 啓介展 意思の結晶[crystallized will]／山田 亘 ※10月10日（月・祝）まで	要国際展券	－
28日（水）	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第7回「コレクティブ・アジアと雑誌のカー芸術批評誌ACTと台南のアート」	無料	50人
	栄	13:00-19:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞社[なるへそ文化センター]企画 TIMES GALLERY presents「大田中印刷」パフォーマンス「新聞の未来に光あれ！！」／山田 亘	要国際展券	－
29日（木）	芸文	10:00-11:30	普及教育	聴覚に障がいのある方との鑑賞会	要国際展券	15人
		13:30-15:30	普及教育	視覚に障がいのある方との鑑賞会	要国際展券	5人
		13:00-14:45 17:30-19:15	連携事業	舞台芸術公募プログラム『The 12TH PARTY 沈澱タイ』／room16	要チケット	300人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
30日（金）	芸文	19:00-20:30	連携事業	舞台芸術公募プログラム『音楽クラコ座 vol.6「アメリカ音楽電気的歴史旅行」』／音楽クラコ座	要チケット	86人
	豊橋市公会堂	18:00-18:45	現代美術	映像プログラムゲストトーク「魔術の宵」／山村浩二×港千尋	要国際展券	99人
		19:00-19:50	現代美術	映像プログラム	要国際展券	123人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	招待者	64人

■10月

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
1日（土）	芸文	14:00-18:00	現代美術	国際シンポジウム「文化・成熟・発酵」	無料	56人
		10:30-12:30	普及教育	視覚に障がいのある方との鑑賞会	要国際展券	13人
		17:00-19:15	連携事業	舞台芸術公募プログラム『2016 Yoko Tsukamoto テアトル・ド・バレエカンパニー公演 春の祭典・真夏の夜の夢』／Yoko Tsukamoto テアトル・ド・バレエカンパニー	要チケット	1,138人
	長者町	14:00-15:30	現代美術	ルル学校「地域とまちづくり」／ルアンルパ	無料	－
	芸創	13:30-14:45 17:00-18:45	連携事業	舞台芸術公募プログラム『コンテンポラリーダンス2016「ガリバー」～人間（人体）への不思議な旅～』／一般社団法人現代舞踊協会中部支部	要チケット	882人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	600人
2日（日）	芸文	13:00-17:00	現代美術	国際シンポジウム「文化・成熟・発酵」	無料	73人
		18:30-20:45	連携事業	舞台芸術公募プログラム『ショービジネスに乾杯！2016～Wind and Musical～～見果てぬ追い続けたショービジネスのスターたち～』／名古屋芸術大学	要チケット	1,315人
		19:00-20:30	連携事業	舞台芸術公募プログラム『shelf volume 2「GHOSTS-COMPOSITION」（イプセン著「幽霊」より）』／shelf	要チケット	118人
	芸創	16:00-17:40	連携事業	舞台芸術公募プログラム『正絃社合奏団30周年記念コンサート～華舞歳々～』／正絃社合奏団	要チケット	481人
	岡崎地区	10:00-16:00	普及教育	アーティストプログラム／誰かの重さを考える／二藤建人	無料	9人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	940人
3日（月）	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	370人
4日（火）	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	448人
5日（水）	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第8回「制度の外部で研究を続けていくこと-ジョグジャカルタのインディペンデント・リサーチセンター、KUNCIの実践-」	無料	43人
6日（木）	康生	15:00-19:00	舞台芸術	『OPEN GATE 2016』／アジアン・サウンズ・リサーチ（プロジェクト・ディレクター:Sachiko M）	要チケット	110人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	314人
7日（金）	芸文	19:00-20:00	舞台芸術	『SOLO』／イスラエル・ガルバン	要チケット	184人
	PLAT	18:00-20:00	普及教育	レクチャー／歌・声まね・ダンスによるコミュニケーション－ヒトとトリの比較－	無料	31人
	康生	15:00-19:00	舞台芸術	『OPEN GATE 2016』／アジアン・サウンズ・リサーチ（プロジェクト・ディレクター:Sachiko M）	要チケット	105人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	562人
8日（土）	芸文	18:00-19:00	舞台芸術	『SOLO』／イスラエル・ガルバン ※終演後アフタートーク	要チケット	198人
		10:30-12:00	普及教育	こどもキャラヴァン	無料	11人
	長者町	14:00-15:30	現代美術	ルル学校「ローカル／カルチャーとウェブマガジン：「LIVERARY」のつくり方」／ルアンルパ	無料	－
	豊橋市公会堂	11:30-11:45 (1日4公演)	現代美術	パフォーマンス／『Lifespan』／アローラ＆カルサディーラ	要国際展券	228人
	豊橋公園	14:00-15:00	舞台芸術	『Chicken Legz』／アニマル・レリジョン	要国際展券	402人
	康生	15:00-19:00	舞台芸術	『OPEN GATE 2016』／アジアン・サウンズ・リサーチ（プロジェクト・ディレクター:Sachiko M）	要チケット	198人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	1,040人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
9日（日）	芸文	18:00-19:00	舞台芸術	『SOLO』／イスラエル・ガルバン	要チケット	206人
	豊橋市公会堂	11:30-11:45（1日4公演）	現代美術	パフォーマンス／『Lifespan』／アローラ＆カルサディーラ	要国際展券	336人
	豊橋公園	14:00-15:00	舞台芸術	『Chicken Legz』／アニマル・レリジョン	要国際展券	703人
	康生	15:00-19:00	舞台芸術	『OPEN GATE 2016』／アジアン・サウンズ・リサーチ（プロジェクト・ディレクター:Sachiko M）	要チケット	302人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	1,040人
10日（月祝）	芸文	14:30-16:00 17:30-19:00	舞台芸術	ダンスワークショップ／イスラエル・ガルバン	要参加費	56人
	市美	14:00-16:30	普及教育	シンポジウム／メディア・アートとは何か？IAMAS 20周年から考える	無料	128人
	長者町	14:00-15:30	現代美術	ルル学校『アート活動をしていないアーティストのためのレジデンシー Residency For Artists On Hiatus (RFAOH)』／ルアンルパ	無料	－
	栄	18:00-19:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞presents 沖啓介 アーティストトーク／山田 亘	要国際展券	－
	豊橋市公会堂	11:30- 1日4公演	現代美術	パフォーマンス／『Lifespan』／アローラ＆カルサディーラ	要国際展券	354人
	豊橋公園	14:00-15:00	舞台芸術	『Chicken Legz』／アニマル・レリジョン	要国際展券	1,067人
	岡崎地区	10:30-12:00	普及教育	こどもキャラヴァン	無料	5人
	康生会場	15:00-19:00	舞台芸術	『OPEN GATE 2016』／アジアン・サウンズ・リサーチ（プロジェクト・ディレクター:Sachiko M）	要チケット	412人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	1,040人
11日（火）	芸文	19:30-21:00	舞台芸術	ダンスワークショップ／イスラエル・ガルバン	要参加費	42人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	694人
12日（水）	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第9回「境界線を越えつつ、日常に問いを差し込んでいくこと。Dislocate＋多様な声の表現と対話の場　公-差-転」	無料	38人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	613人
13日（木）	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	661人
14日（金）	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	701人
15日（土）	芸文	11:10-11:25 12:10-12:25	現代美術	パフォーマンス／『Fossil of Contact 接触化石』／松原 慈	要国際展券	－
		15:00-17:00	現代美術	パブローブ関連イベント／山下陽光のパブローブの使い方	要国際展券	－
		19:30-21:10	舞台芸術	『CONTACT』／カンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレ※終演後アフタートーク	要チケット	604人
		10:00-11:00	普及教育	ベビーカーツアー	要国際展券	11人
		14:00-16:00	現代美術	レクチャー／ゲームの何を保存する？ゲームのアーカイブと芸術の哲学	無料	32人
	長者町	14:00-15:30	現代美術	ルル学校「なごやのみ（ん）なとまち：暮らす･集う･創る」／ルアンルパ	無料	－
	芸創	17:30-19:00	舞台芸術	『FLA.CO.MEN』／イスラエル・ガルバン	要チケット	349人
	岡崎地区	10:30-12:30	普及教育	フィールドワーク／岡崎の「いま」と「むかし」を歩く	無料	11人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	1,232人
16日（日）	芸文	11:10-11:25 12:10-12:25	現代美術	パフォーマンス／『Fossil of Contact 接触化石』／松原 慈	要国際展券	－
		16:00-17:30	現代美術	パブローブ関連イベント／パブローブから考える、芸術空間と公共空間の境界	要国際展券	－
		16:00-17:40	舞台芸術	『CONTACT』／カンパニーDCA／フィリップ・ドゥクフレ	要チケット	659人
	市美	10:30-12:00	普及教育	こどもキャラヴァン	無料	13人
	芸創	13:30-15:00	舞台芸術	『FLA.CO.MEN』／イスラエル・ガルバン	要チケット	384人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
16 日（日）	岡崎地区	10:30-12:00	普及教育	アーティストトーク／関口涼子＋フェリペ・リボン×港千尋	無料	37 人
		13:00-14:30	現代美術	ワークショップ／「香りのパレット」／関口涼子	無料	15 人
	岡崎公園	11:00-17:00	現代美術	ペンタルム／アーキテクツ・オブ・エアー	要国際展券	1,232 人
17 日（月）	長者町	11:00-19:00	現代美術	ルル学校プロジェクト展示／「節約・多産・幸福」／ルアンルパ ※10 月 23 日（日）まで	無料	ー
19 日（水）	長者町	19:30-21:00	現代美術	コラムプロジェクト『コレクティブ・アジア』トーク第 10 回（最終回）「コレクティブ・アジア ラウンドテーブル -余白の時間を共有する-」	無料	32 人
	名古屋市内	18:30-20:30	現代美術	キャラヴァンサライ・メニュー味見会＋レクチャー―八丁味噌の旅／関口涼子＋フェリペ・リボン×港千尋	要参加費	63 人
21 日（金）	芸文	18:00-19:00	普及教育	イスに座って鑑賞会	要国際展券	11 人
	市美	16:00-16:30	舞台芸術	『AIR』／カンパニー・ディディエ・テロン	無料	506 人
22 日（土）	芸文	19:00-20:00	舞台芸術	『MUSIC EXPANDED #1』／小杉武久	要チケット	209 人
	市美	11:00-11:30	舞台芸術	『AIR』／カンパニー・ディディエ・テロン	無料	724 人
	長者町会場周辺（長者町ゑびす祭り）	10:00-16:30	現代美術	歩く山車／LOCUS FABER ツクロッカ	無料	ー
		13:00-16:00	現代美術	ルル学校 卒業式／ルアンルパ	無料	ー
		14:30-15:20	舞台芸術	『LA GRANDE PHRASE』／カンパニー・ディディエ・テロン	無料	1,500 人
	栄	17:00-18:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞 presents「会地今昔圖」カリヲ×名古屋スリバチ学会／レセプション＆トークセッション／山田 亘	要国際展券	ー
	芸創	16:00-17:30	舞台芸術	『いきのね』／Co.山田うん	要チケット	274 人
23 日（日）	芸文	19:00-20:00	舞台芸術	『MUSIC EXPANDED #2』／小杉武久	要チケット	195 人
	長者町会場周辺（長者町ゑびす祭り）	10:00-16:30	現代美術	歩く山車／LOCUS FABER ツクロッカ	無料	ー
		10:00-16:30	現代美術	シャチホコの山車／白川昌生	無料	ー
		13:00-17:00	現代美術	ルル学校によるプロジェクトツアー／ルアンルパ	無料	ー
		12:00-12:50	舞台芸術	『LA GRANDE PHRASE』／カンパニー・ディディエ・テロン	無料	1,740 人
	栄	14:00-15:00	現代美術	大愛知なるへそ新聞 presents 伊藤正人「仲田の海」出版記念作家サイン会／山田亘	要国際展券	ー
	芸創	14:00-15:30	舞台芸術	『いきのね』／Co.山田うん	要チケット	290 人
	アートピア	17:15-18:15	舞台芸術	『秘密の閨』／青木涼子	要チケット	340 人

〈場所〉
芸文＝愛知芸術文化センター／市美＝名古屋市美術館／長者町＝長者町会場／栄＝栄会場／名駅＝名古屋駅会場
アートラボ＝アートラボあいち／芸創＝名古屋市芸術創造センター／アートピア＝名古屋市青少年文化センター／PLAT＝PLAT 会場／水上ビル＝水上ビル会場／豊橋駅前＝豊橋駅前大通会場／東岡崎＝東岡崎駅会場／康生＝康生会場／六供＝六供会場
〈入場〉
要国際展券＝国際展チケットが必要
〈人数〉
「ー」は人数をカウントしていないもの

Ⅵ　来場者数の状況等

1　来場者数

■プログラム別、会場別

・最終的な来場者数は、当初想定した 60 万人を超え 601,635 人となった。
・プログラム別では、国際展の来場者（491,178 人）が最も多く、全体の 81.6%を占めている。
・国際展の来場者数を会場別で比較すると、メイン会場である愛知芸術文化センターが 137,926 人で最も多い。また、今回新たに展開した豊橋地区では 90,266 人であった。

プログラム		来場者数	割合	内訳		
現代美術	国際展	491,178 人	81.6%	愛知芸術文化センター	137,926 人	(28.1%)
				名古屋市美術館	67,613 人	(13.8%)
				長者町会場	57,655 人	(11.7%)
				栄会場	34,640 人	(7.0%)
				名古屋駅会場	25,384 人	(5.2%)
				その他会場	2,148 人	(0.4%)
				名古屋地区計	325,366 人	(66.2%)
				PLAT 会場	50,981 人	(10.4%)
				水上ビル会場	18,310 人	(3.7%)
				豊橋駅前大通会場	19,440 人	(4.0%)
				その他会場	1,535 人	(0.3%)
				豊橋地区計	90,266 人	(18.4%)
				東岡崎駅会場	17,352 人	(3.5%)
				康生会場	32,694 人	(6.7%)
				六供会場	25,500 人	(5.2%)
				岡崎地区計	75,546 人	(15.4%)
				計	491,178 人	(100.0%)
	映像プログラム	5,102 人	0.8%			
舞台芸術	パフォーミングアーツ	29,646 人	4.9%			
	プロデュースオペラ	5,805 人	1.0%			
普及教育	創作プログラム	43,641 人	7.3%			
	レクチャープログラム等	1,932 人	0.3%			
連携事業	モバイル・トリエンナーレ	4,049 人	0.7%	設楽町	419 人	
				大府市	656 人	
				一宮市	1,451 人	
				安城市	1,523 人	
	舞台芸術公募プログラム	7,887 人	1.3%			
	芸術大学連携プロジェクト	12,395 人	2.1%	※8 月 11 日から 10 月 23 日まで		
計		601,635 人	100.0%			

（豊橋地区来場者数）

プログラム	来場者数	割合	内訳
国際展	90,266 人	97.0%	・PLAT 会場 50,981 人 ・水上ビル会場 18,310 人 ・豊橋駅前大通会場 19,440 人 ・その他会場 1,535 人
その他	2,821 人	3.0%	・映像プログラム 222 人 ・パフォーミングアーツ 2,464 人 ・レクチャープログラム等 135 人
計	93,087 人	100.0%	（来場者全体の 15.5%）

（岡崎地区来場者数）

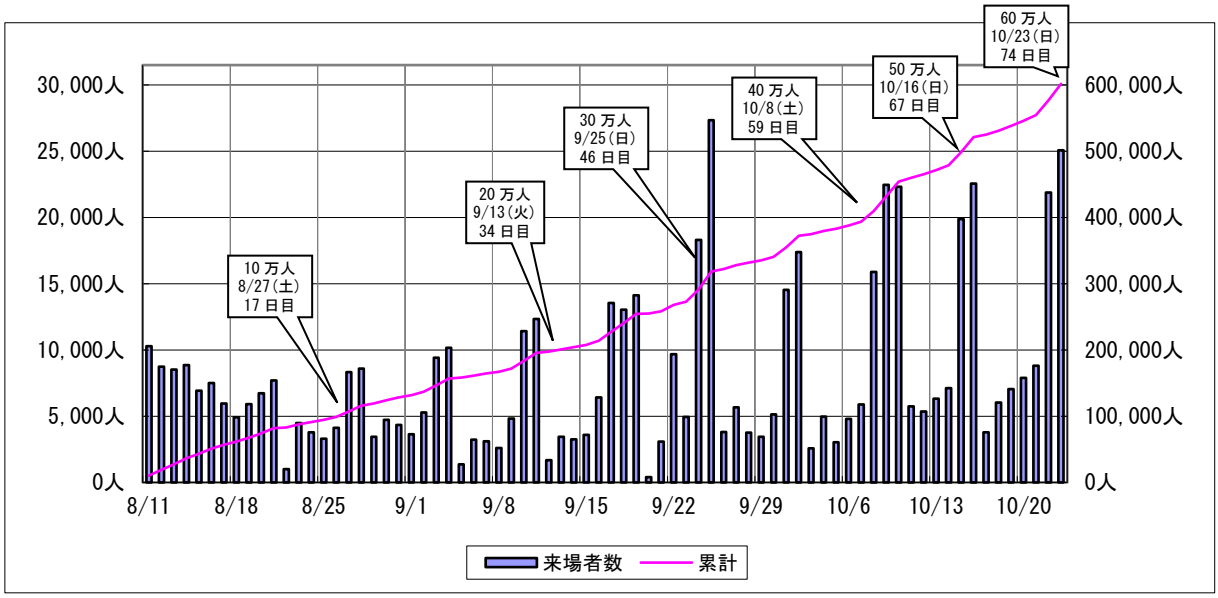
プログラム	来場者数	割合	内訳
国際展	75,546 人	98.2%	・東岡崎駅会場 17,352 人 ・康生会場 32,694 人 ・六供会場 25,500 人
その他	1,354 人	1.8%	・映像プログラム 57 人 ・パフォーミングアーツ 1,127 人 ・レクチャープログラム等 170 人
計	76,900 人	100.0%	（来場者全体の 12.8%）

■開催日別

・一日あたりの平均来場者数は 8,130 人（平日 4,610 人、土日祝 14,629 人）で、会期末に向かって増加した（8 月 6,106 人、9 月 7,069 人、10 月 11,362 人）。

・会期中で来場者が最も多かったのは、オアシス 21 で『虹のカーニヴァル』（2 日目）を開催した 9 月 25 日（日）の 27,352 人で、最終日 10 月 23 日（日）の 25,058 人がそれに続いた。

8 月				9 月				10 月			
日目	日	来場者数（人）	累計（人）	日目	日	来場者数（人）	累計（人）	日目	日	来場者数（人）	累計（人）
1	11(木祝)	10,285	10,285	22	1(木)	3,628	131,862	52	1(土)	14,542	354,844
2	12(金)	8,748	19,033	23	2(金)	5,292	137,154	53	2(日)	17,396	372,240
3	13(土)	8,511	27,544	24	3(土)	9,425	146,579	54	3(月)	2,580	374,820
4	14(日)	8,855	36,399	25	4(日)	10,172	156,751	55	4(火)	4,958	379,778
5	15(月)	6,936	43,335	26	5(月)	1,378	158,129	56	5(水)	3,038	382,816
6	16(火)	7,509	50,844	27	6(火)	3,221	161,350	57	6(木)	4,810	387,626
7	17(水)	5,958	56,802	28	7(水)	3,111	164,461	58	7(金)	5,895	393,521
8	18(木)	4,925	61,727	29	8(木)	2,604	167,065	59	8(土)	15,880	409,401
9	19(金)	5,918	67,645	30	9(金)	4,813	171,878	60	9(日)	22,472	431,873
10	20(土)	6,736	74,381	31	10(土)	11,420	183,298	61	10(月祝)	22,325	454,198
11	21(日)	7,700	82,081	32	11(日)	12,329	195,627	62	11(火)	5,745	459,943
12	22(月)	1,014	83,095	33	12(月)	1,673	197,300	63	12(水)	5,349	465,292
13	23(火)	4,483	87,578	34	13(火)	3,457	200,757	64	13(木)	6,314	471,606
14	24(水)	3,794	91,372	35	14(水)	3,245	204,002	65	14(金)	7,116	478,722
15	25(木)	3,303	94,675	36	15(木)	3,583	207,585	66	15(土)	19,877	498,599
16	26(金)	4,122	98,797	37	16(金)	6,411	213,996	67	16(日)	22,553	521,152
17	27(土)	8,329	107,126	38	17(土)	13,545	227,541	68	17(月)	3,783	524,935
18	28(日)	8,590	115,716	39	18(日)	13,038	240,579	69	18(火)	6,025	530,960
19	29(月)	3,444	119,160	40	19(月祝)	14,114	254,693	70	19(水)	7,048	538,008
20	30(火)	4,724	123,834	41	20(火)	411	255,104	71	20(木)	7,887	545,895
21	31(水)	4,350	128,234	42	21(水)	3,086	258,190	72	21(金)	8,799	554,694
				43	22(木祝)	9,674	267,864	73	22(土)	21,883	576,577
				44	23(金)	4,951	272,815	74	23(日)	25,058	601,635
				45	24(土)	18,301	291,116				
				46	25(日)	27,352	318,468				
				47	26(月)	3,813	322,281				
				48	27(火)	5,672	327,593				
				49	28(水)	3,753	331,706				
				50	29(木)	3,448	335,154				
				51	30(金)	5,148	340,302				



■国際展の来場者内訳

・国際展（創作プログラムを含む）の来場者については、一般来場者が 80.4%を占めているが、中学生以下の来場者も 10.0%と高くなっている。

・有料・無料の別でみると、有料来場者（一般・大学生・高校生）が 86.7%、無料来場者（高校生（学校行事観覧）・中学生以下・招待者）が 13.3%となっている。

一般	大学生	高校生	高校生 (学校行事観覧)	中学生以下	招待者	計
429,803 人 (80.4%)	23,996 人 (4.5%)	4,195 人 (0.8%)	625 人 (0.1%)	53,366 人 (10.0%)	22,834 人 (4.2%)	534,819 人 (100.0%)
（うち創作プログラム）						
31,905 人 (73.1%)	－	－	－	11,736 人 (26.9%)	－	43,641 人 (100.0%)

（一般・学生・招待者別）

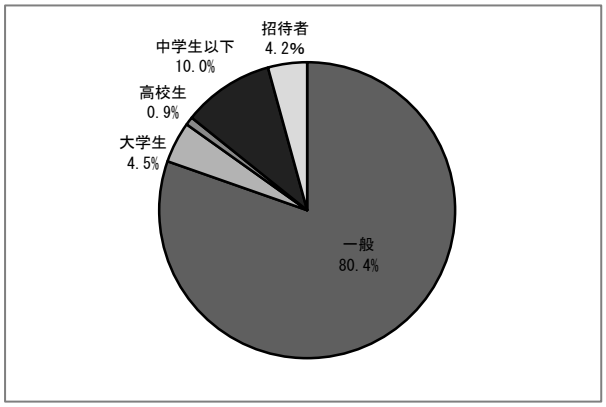
一般	大学生	高校生	中学生以下	招待者	計
429,803 人 (80.4%)	23,996 人 (4.5%)	4,820 人 (0.9%)	53,366 人 (10.0%)	22,834 人 (4.2%)	534,819 人 (100.0%)

（有料・無料別）

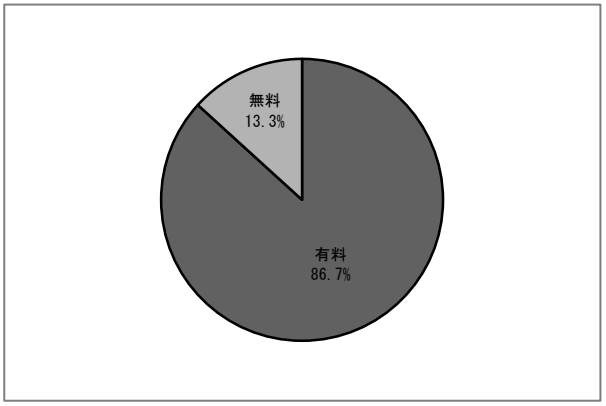
有料	無料	計
426,089 人 (86.7%)	65,089 人 (13.3%)	491,178 人 (100.0%)

※創作プログラムは除く

○一般・学生・招待者別



○有料・無料別



２　チケットの販売状況

■国際展

・国際展全体では、チケットの販売枚数は 100,813 枚となった。
・特別先行前売券は、販売期間 1 か月で 40,113 枚（全体の 39.8%）を販売し、トリエンナーレの PR にも効果があった。
・チケットの種類別では、普通チケット（82,481 枚、81.8%）が最も多いが、豊橋地区限定チケット（4,962 枚、4.9%）や岡崎地区限定チケット（6,475 枚、6.4%）も好評であった。

チケットの種類（販売期間）			特別先行前売券（4 月 1 日～4 月 30 日）	前売券（5 月 1 日～8 月 10 日）	会期中販売券（8 月 11 日～10 月 23 日）	計
普通チケット		一　般	37,154 枚	5,914 枚	16,466 枚	59,534 枚
		大学生	1,870 枚	435 枚	1,696 枚	4,001 枚
		高校生	1,089 枚	162 枚	275 枚	1,526 枚
	各種割引	一　般	－	－	14,352 枚	14,352 枚
		大学生	－	－	2,627 枚	2,627 枚
		高校生	－	－	441 枚	441 枚
フリーパス		一　般	－	2,854 枚	1,048 枚	3,902 枚
		大学生	－	364 枚	127 枚	491 枚
		高校生	－	59 枚	14 枚	73 枚
	各種割引	一　般	－	－	910 枚	910 枚
		大学生	－	－	173 枚	173 枚
		高校生	－	－	20 枚	20 枚
豊橋地区限定チケット			－	－	4,962 枚	4,962 枚
岡崎地区限定チケット			－	－	6,475 枚	6,475 枚
愛知県美術館10階限定チケット ※			－	－	1,326 枚	1,326 枚
計			40,113 枚 (39.8%)	9,788 枚 (9.7%)	50,912 枚 (50.5%)	100,813 枚 (100.0%)
売上額			37,681,827 円	16,432,917 円	67,529,949 円	121,644,693 円

※販売期間 10 月 11 日から 10 月 23 日まで

○一般・大学生・高校生別

区分	普通チケット	フリーパス	計
一般	73,886 枚	4,812 枚	78,698 枚（ 89.4%）
大学生	6,628 枚	664 枚	7,292 枚（ 8.3%）
高校生	1,967 枚	93 枚	2,060 枚（ 2.3%）
計	82,481 枚	5,569 枚	88,050 枚（100.0%）

※豊橋地区限定チケット、岡崎地区限定チケット、愛知県美術館 10 階限定チケットを除く

■パフォーミングアーツ

・愛知芸術文化センターを中心に、11 企画 32 公演(内劇場公演：7 企画 18 公演)を開催し、3,714 枚(16,440,840 円)のチケットを販売した。

	演目等	販売枚数(枚)	券種	枚数(枚)	単価(円)	販売金額(円)
1	ダニ・リマ 『Little collection of everything』 【愛知県芸術劇場 小ホール／4 公演】 【穂の国とよはし芸術劇場 PLAT／2 公演】	526	一般	233	3,000	698,400
			学生	18	1,500	27,000
			子ども	111	500	55,500
			一般(当日)	113	3,500	395,500
			学生(当日)	22	1,500	33,000
			子ども(当日)	29	500	14,500
2	イスラエル・ガルバン 『SOLO』 【愛知県芸術劇場 小ホール／3 公演】	502	一般	430	5,000	2,112,500
			学生	14	3,000	42,000
			一般(当日)	58	5,000	290,000
3	イスラエル・ガルバン 『FLA.CO.MEN』 【名古屋市芸術創造センター／2 公演】	598	S	435	6,000	2,488,200
			S 学生	9	3,000	27,000
			A	90	4,000	359,600
			A 学生	9	2,000	18,000
			S(当日)	25	6,000	150,000
			A(当日)	30	4,000	120,000
4	カンパニーDCA / フィリップ・ドゥクフレ 『CONTACT』 【愛知県芸術劇場 大ホール／2 公演】	1,028	SS	196	8,000	1,559,280
			S	485	6,000	2,800,860
			A	135	4,000	537,600
			A 学生	103	2,000	206,000
			SS(当日)	9	8,000	72,000
			S(当日)	68	6,000	408,000
			A(当日)	31	4,000	124,000
			A 学生(当日)	1	2,000	2,000
5	Co.山田うん 『いきのね』 【名古屋市芸術創造センター／2 公演】	447	S	289	4,000	1,130,200
			S 学生	40	2,000	80,000
			A	61	3,000	183,000
			A 学生	11	1,500	16,500
			S(当日)	23	4,000	92,000
			A(当日)	23	3,000	69,000
6	小杉武久 『MUSIC EXPANDED#1』 『MUSIC EXPANDED#2』 【愛知県芸術劇場 小ホール／2 公演】	354	一般	271	4,000	1,059,800
			学生	19	2,000	38,000
			一般(当日)	64	4,500	288,000
			―	―	―	―
7	青木涼子 『秘密の閨』 【名古屋市青少年文化センター／1 公演】	259	S	183	4,000	710,400
			S 学生	11	2,000	22,000
			A	21	3,000	63,000
			A 学生	4	1,500	6,000
			S(当日)	22	4,000	88,000
			A(当日)	18	3,000	54,000
計		3,714		3,714		16,440,840
		収入金額（手数料金額を除いたもの）				14,432,481

※団体割引等があるため、枚数×単価は販売金額と一致しない

■プロデュースオペラ

・愛知芸術文化センター大ホールで 2 公演を開催し、3,522 枚（33,640,830 円）のチケットを販売した。

	演目等	販売枚数（枚）	券種	枚数（枚）	単価（円）	販売金額（円）
1	W.A モーツァルト作曲 『魔笛』 【大ホール／2 公演】	3,522	S	1,471	15,000	21,535,350
			A	309	12,000	3,580,080
			B	312	9,000	2,727,900
			C	477	6,000	2,808,600
			D	498	3,000	1,479,300
			D(学生)	367	1,500	549,000
			S(当日)	31	15,000	465,000
			A(当日)	18	12,000	213,600
			B(当日)	16	9,000	144,000
			C(当日)	23	6,000	138,000
	計	3,522		3,522		33,640,830
収入金額（手数料金額を除いたもの）						30,910,050

※団体割引等があるため、枚数×単価は販売金額と一致しない

３　アンケート調査結果

・トリエンナーレ来場者の満足度や要望・意見等を把握するため、国際展、映像プログラム、パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ、普及教育プログラムの来場者へのアンケート調査を行った。
・また、会期後には、ボランティア等を対象にした関係者アンケートや、愛知県内小・中・高等学校等を対象とした文化芸術関係機関等アンケートも行った。

(1) 来場者アンケート

区分	対象者数	回収数	回収割合	該当ページ
国際展	491,178 人	3,198 人	0.7%	86
映像プログラム	5,102 人	403 人	7.9%	93
パフォーミングアーツ	4,397 人	576 人	13.1%	96
プロデュースオペラ	3,628 人	218 人	6.0%	99
エデュケーションプログラム（ダミコルーム）	21,012 人	87 人	0.4%	102
エデュケーションプログラム（キャラヴァンファクトリー）	22,601 人	74 人	0.3%	105
レクチャープログラム	1,422 人	477 人	33.5%	108
モバイル・トリエンナーレ	4,049 人	541 人	13.4%	111

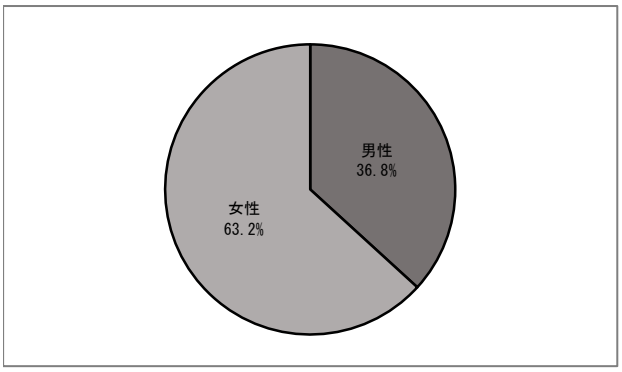
■国際展

実施時期	8 月～10 月
調査対象	国際展の来場者
配布・回収方法	会場出入口付近において、タブレット端末（アンケートシステム）を用いた対面式アンケートを実施
回収数/来場者数	3,198 人/491,178 人（0.7%）

【回答者の属性】
・性別では、女性が 63.2%、男性が 36.8%となっている。年齢別では、30 代までの世代が 57.3%を占め、40 代以上が 42.7%となっている。
・住まいでは、名古屋市内 29.8%、愛知県内（名古屋市以外）36.1%、愛知県外（海外含む）34.1%となっている。
・これまでに訪れたことのある芸術祭を聞いたところ、「あいちトリエンナーレ 2013」と答えた方が 46.1%あった。一方で「訪れたことがない」と答えた方も 23.2%と、トリエンナーレ 2016 をきっかけに初めて芸術祭に触れた方も多い。

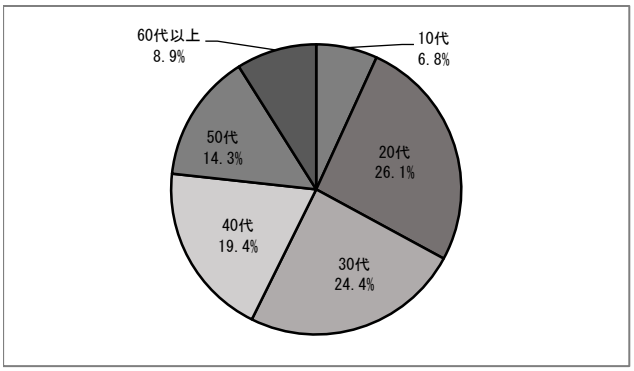
○性別

選択肢	数	比率
男性	1,167	36.8%
女性	2,006	63.2%
計	3,173	100.0%



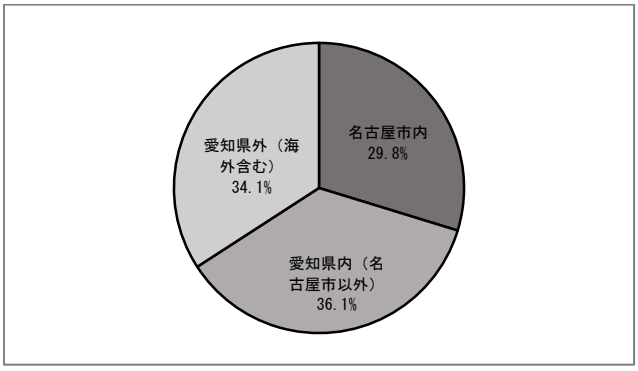
○年齢

選択肢	数	比率
10 歳以下	216	6.8%
20 代	825	26.1%
30 代	772	24.4%
40 代	614	19.4%
50 代	453	14.3%
60 歳以上	283	8.9%
計	3,163	100.0%



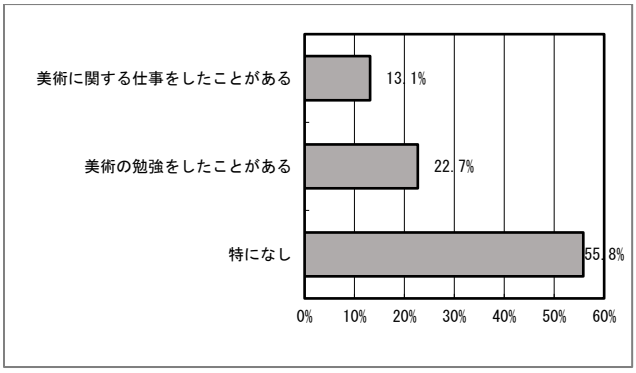
○お住まい

選択肢	数	比率
名古屋市内	919	29.8%
愛知県内（名古屋市以外）	1,116	36.1%
愛知県外（海外含む）	1,055	34.1%
計	3,090	100.0%



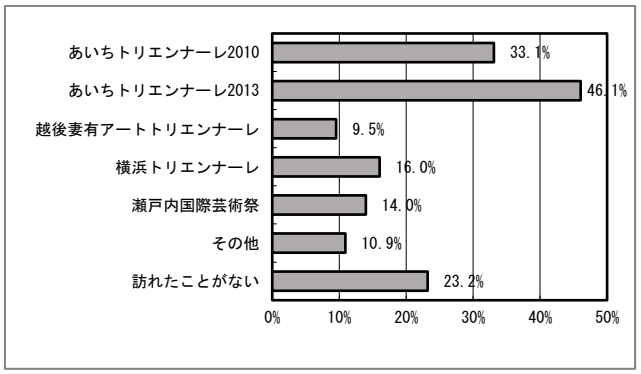
○美術に関する仕事の経験の有無等（複数回答可）

選択肢	数	比率
美術に関する仕事をしたことがある	419	13.1%
美術の勉強をしたことがある	726	22.7%
特になし	1,786	55.8%
計	2,931	―



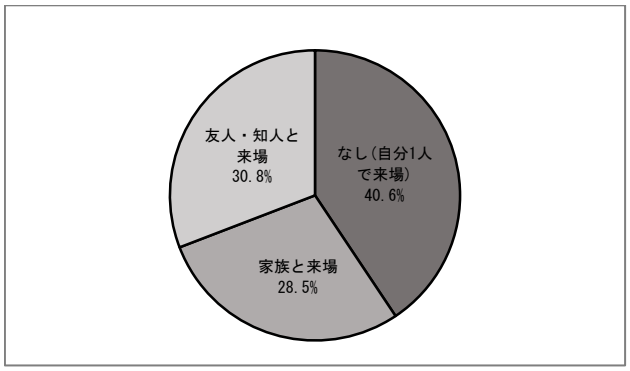
○これまでに訪れたことのある芸術祭（複数回答可）

選択肢	数	比率
あいちトリエンナーレ 2010	1,059	33.1%
あいちトリエンナーレ 2013	1,473	46.1%
越後妻有アートトリエンナーレ	305	9.5%
横浜トリエンナーレ	513	16.0%
瀬戸内国際芸術祭	447	14.0%
その他	350	10.9%
訪れたことがない	742	23.2%
計	4,889	―



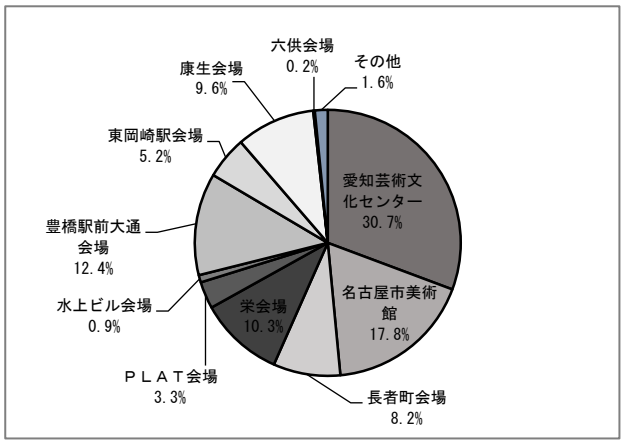
○本日の同伴者数

選択肢	数	比率
なし（自分１人で来場）	1,277	40.6%
家族と来場	897	28.5%
友人・知人と来場	969	30.8%
計	3,143	100.0%



○アンケートの回答場所

選択肢	数	比率
愛知芸術文化センター	964	30.7%
名古屋市美術館	559	17.8%
長者町会場	256	8.2%
栄会場	323	10.3%
PLAT 会場	103	3.3%
水上ビル会場	28	0.9%
豊橋駅前大通会場	390	12.4%
東岡崎駅会場	162	5.2%
康生会場	301	9.6%
六供会場	6	0.2%
その他	49	1.6%
計	3,141	100.0%



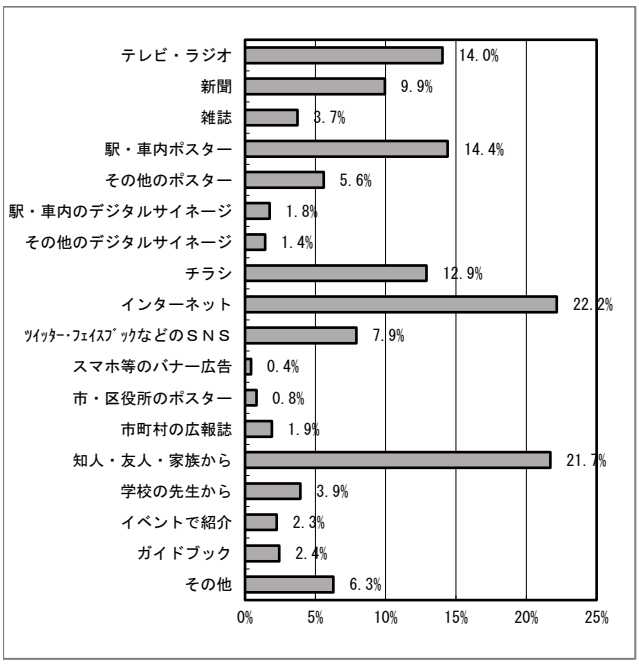
【来場理由】

・トリエンナーレを何で知ったか聞いたところ、「インターネット」（22.2%）、「知人・友人・家族から」（21.7%）、「駅・車内ポスター」（14.4%）の順で多くなっている。

・トリエンナーレに来た理由を聞いたところ、「美術に関心がある」（53.8%）、「過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから」（28.9%）、「知人・友人・家族に誘われた」（14.7%）の順で多くなっている。

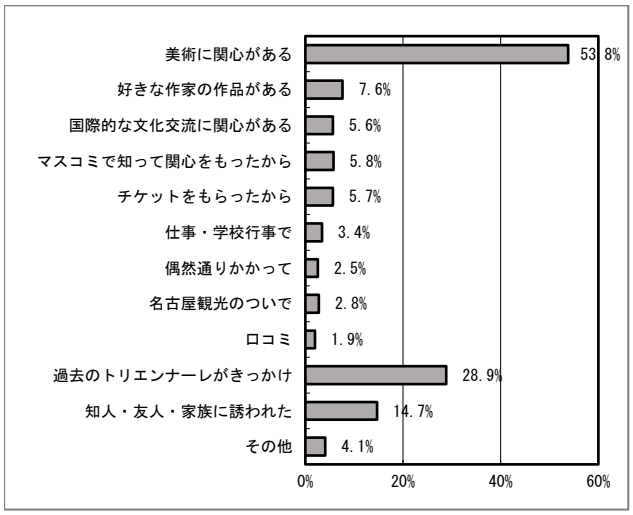
○あいちトリエンナーレ 2016 を何で知り、来場しようと思いましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
テレビ・ラジオ	449	14.0%
新聞	318	9.9%
雑誌	119	3.7%
駅・車内ポスター	461	14.4%
その他のポスター	179	5.6%
駅・車内のデジタルサイネージ	56	1.8%
その他のデジタルサイネージ	46	1.4%
チラシ	413	12.9%
インターネット	709	22.2%
ﾂｲｯﾀｰ･ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ等のＳＮＳ	253	7.9%
スマホ等のバナー広告	14	0.4%
市町村・区役所のポスター	26	0.8%
市町村の広報誌	61	1.9%
知人・友人・家族から	694	21.7%
学校の先生から	126	3.9%
イベントで紹介	72	2.3%
ガイドブック	78	2.4%
その他	201	6.3%
計	4,275	―



○あいちトリエンナーレ 2016 に来た理由を教えてください（複数回答可）

選択肢	数	比率
美術に関心がある	1,720	53.8%
好きな作家の作品がある	243	7.6%
国際的な文化交流に関心がある	180	5.6%
マスコミで知って関心をもったから	185	5.8%
チケットをもらったから	181	5.7%
仕事・学校行事で	109	3.4%
偶然通りかかって	81	2.5%
名古屋観光のついで	88	2.8%
口コミ	62	1.9%
過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから	923	28.9%
知人・友人・家族に誘われた	469	14.7%
その他	130	4.1%
計	4,371	―



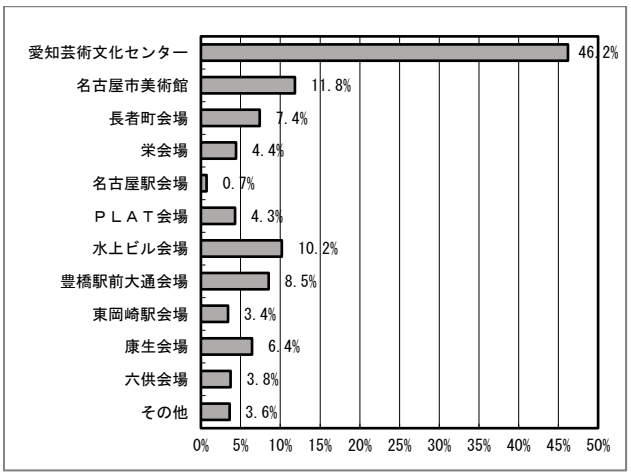
【国際展の感想】

・面白かった会場については、愛知芸術文化センターが 46.2%と最も高くなっている。その他会場についても、来場者の人数が相対的に少ないため割合はそれほど高くなっていないが、自由意見欄にはそれぞれ良かった旨の記述が多く見られた。

・国際展の展示作品の感想を聞いたところ、「大変良かった」「良かった」が合わせて 82.6%となっており、全体的に好評であった。

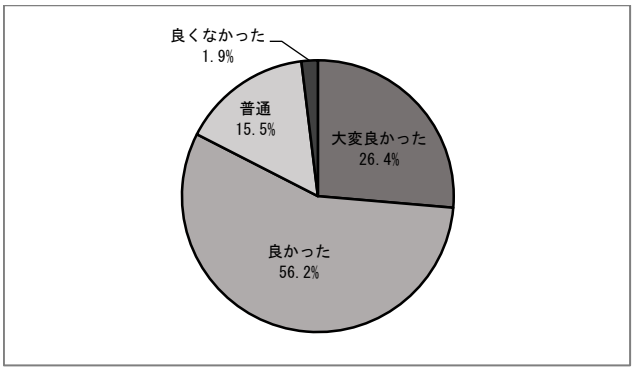
○最も面白かった会場はどこでしたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
愛知芸術文化センター	1,478	46.2%
名古屋市美術館	378	11.8%
長者町会場	237	7.4%
栄会場	142	4.4%
名古屋駅会場	23	0.7%
PLAT 会場	138	4.3%
水上ビル会場	326	10.2%
豊橋駅前大通会場	273	8.5%
東岡崎駅前会場	109	3.4%
康生会場	206	6.4%
六供会場	120	3.8%
その他	115	3.6%
計	3,545	―



○国際展の展示作品の感想をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変良かった	801	26.4%
良かった	1,707	56.2%
普通	472	15.5%
良くなかった	59	1.9%
計	3,039	100.0%



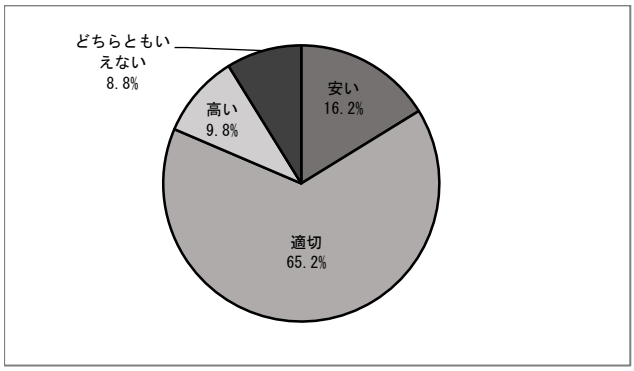
【運営について】

・入場料金については、「安い」「適切」が 81.4%であった。

・開催時期については、「今の時期でよい」が 64.1%で最も多いが、「遅いほうがよい」も 23.8%あった。

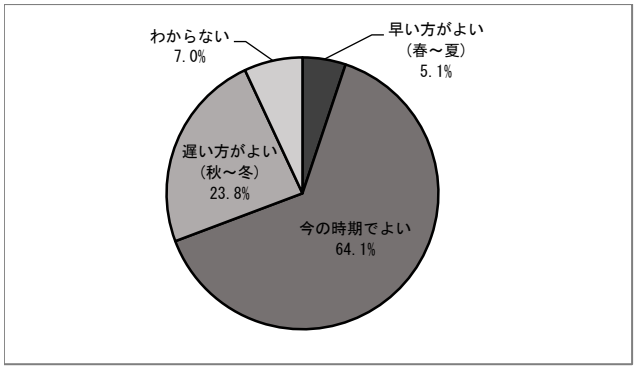
○入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
安い	502	16.2%
適切	2,020	65.2%
高い	302	9.8%
どちらともいえない	273	8.8%
計	3,097	100.0%



○開催時期についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
早い方がよい（春～夏）	159	5.1%
今の時期でよい	1,983	64.1%
遅い方がよい（秋～冬）	735	23.8%
わからない	215	7.0%
計	3,092	100.0%



【トリエンナーレ全体について】

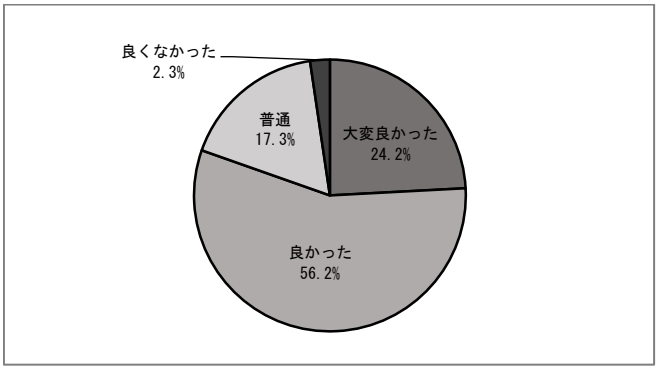
・トリエンナーレ全体の感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせると 80.4%であり、全般的に好評であった。

・トリエンナーレにはどんな効果があると思うか聞いたところ、「文化芸術の発展」（41.8%）や「文化芸術の日常生活への浸透」（39.0%）が多かったが、これらに次いで、「地域の活性化」（36.3%）や「地域の魅力の向上」（27.5%）という回答も多くあり、地域づくりへの効果も期待されていることが窺われる。

・次回 3 年後のトリエンナーレに行きたいかどうかという質問については、78.7%が「絶対行く」「たぶん行く」と回答した。

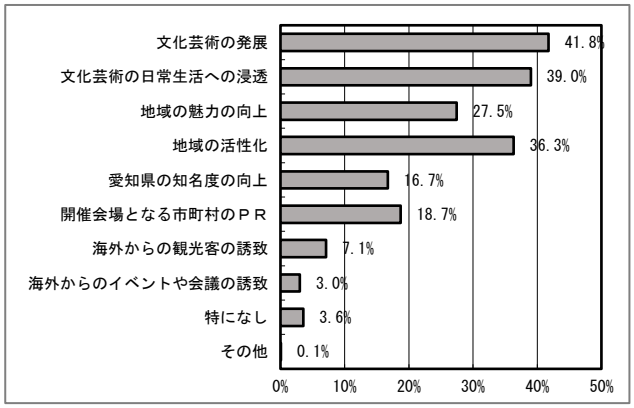
○あいちトリエンナーレ 2016 について、全体的な感想をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変良かった	733	24.2%
良かった	1,706	56.2%
普通	524	17.3%
良くなかった	71	2.3%
計	3,034	100.0%



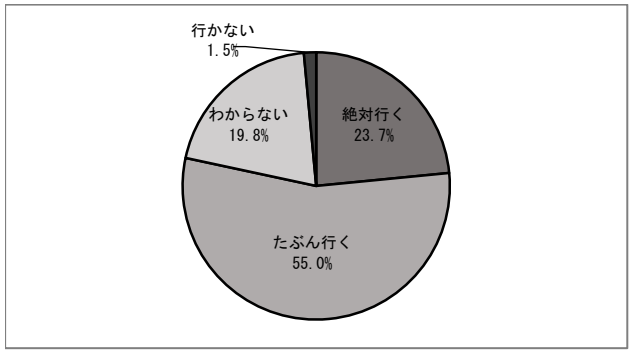
○あいちトリエンナーレには、どんな効果があると思いますか（複数回答可）

選択肢	数	比率
文化芸術の発展	1,336	41.8%
文化芸術の日常生活への浸透	1,247	39.0%
地域の魅力の向上	878	27.5%
地域の活性化	1,162	36.3%
愛知県の知名度の向上	535	16.7%
開催会場となる市町村のＰＲ	599	18.7%
海外からの観光客の誘致	227	7.1%
海外からのイベントや会議の誘致	97	3.0%
特になし	114	3.6%
その他	2	0.1%
計	6,197	―



○次回３年後のトリエンナーレに行きたいと思いますか

選択肢	数	比率
絶対行く	731	23.7%
たぶん行く	1,695	55.0%
わからない	611	19.8%
行かない	45	1.5%
計	3,082	100.0%



○自由意見抜粋

《次回のあいちトリエンナーレがより良いものとなるためのご意見》
・回を追うごとに家族連れが増えているので、今の取組み方のまま続けてほしい。
・今回は色々な国の作品を見られて良かった。次回、国内の魅力的な若いアーティストがたくさん育っていることを期待する。
・展示方法、作品のジャンル、すべてがバランスよく調整されていて作品をよりよく鑑賞できた。
・とくかく続けることで美術の発展や愛知のアピールに繋げてほしい。
・わくわくする面白いインパクトのある展示が見たい。
・世界的に有名な作家の作品も良かったが、若手作家の作品ももっと見てみたい。
・知名度のあるアーティストの作品が見たい。
・まちなかの展示が増えると親しみやすくて良い。
・もっと参加型の作品があると大人も子どもも楽しめる。
・もっと体験型の展示が多い方が受け入れられやすいように思う。
・地域とのつながりのある作品をもっと増やしてほしい。
・目玉の作品を印象的なものにすると良いと思う。
・工業の盛んな地域なので、インダストリアルアート的に特化したら面白いし特色が出る。
・現代アート過ぎてわかりにくい部分がある。
・美術を普段あまり見ない友人を誘うには、ちょっと通向けな内容だったかなと感じた。
・子供向けイベントが増えるともっといい。
・子どもに開かれた展示会にしてほしい。
・難解な美術のため、わかりにくい。もっと背景がわかるようにしないと作家のコンセプトがあるのに伝わらない。
・テレビなどの広告媒体をもっと使って世間に開催を呼びかけるべき。
・アートに関心のない人にもわかりやすい発信をすべき。

・東京でもっとアピールした方がいいと思う。
・毎年開催のプチトリエンナーレがあると良い。
・グッズを充実してほしい。

《会場運営に関するご意見》
・各会場にスタッフがいて説明してくれたのが良かった。
・インフォメーションは親切で分かりやすかった。
・スタッフのトレーナーの色がわかりやすかった。
・スタッフの案内が丁寧で嬉しかった。
・ボランティアの方が熱心に活動されており大変好感が持てた。
・ボランティアガイドの方の説明を聞けたり、気さくに声をかけてくれたり、親切な対応が嬉しかった。
・岡崎市内はレンタサイクルのサービス、市内での誘導など手厚く、快適に回ることができた。
・美術館以外の場所をもっとわかりやすくしてほしい。
・会場間の案内板を増やしてほしい。
・来場者参加型なのは良いが、バリアフリーに欠けている。
・休憩スペースが多めにあるとうれしい。
・天候に左右される作品をあらかじめ明記してほしい。
・ベロタクシーをもっと走らせてほしい。
・カフェスペースを増やしてほしい。
・無料で見られる作品の一覧がほしい。
・会場によって休館日と開催時間が違ったので困った。
・作品ガイドツアーがたくさんあるとうれしい。
・作家や作品のコンセプトがもっとわかると良い。
・作品の説明をもう少し詳しく表示してほしい。

《開催会場に関するご意見》
・建物の構造と作品が調和していて良かった。
・魅力的な歴史ある建物が多く、とても楽しい。
・名古屋の会場は徒歩で移動できるので、ありがたい。
・名古屋駅付近に大きな会場があれば、他県の鑑賞者も気軽に訪れることができるのではないか。
・まちなかの案内が少なく、わかりにくかった。
・会場によって展示場所がわかりにくかった。
・開催場所をコンパクトにまとめてほしい。
・会場が分散していて回るのが大変。回り切れない。
・会場が増えた分、1 箇所の内容が薄くなった。
・もっといろいろな場所で開催してもらうと、県内の行ったことがない土地へ行くきっかけになる。
・自然の多い地方など、愛知県の中でも様々な個性のある会場があるといいのではないか。
・屋外展示を増やすなど、興味がない人にも興味を持たせるような工夫をしてはどうか。
・大きな公園内や屋外で自然光を取り入れたダイナミックな作品が見たい。

■映像プログラム

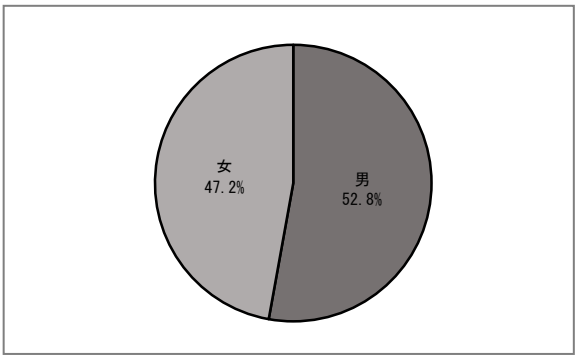
実施時期	8 月 19 日(金)～9 月 11 日(日)、9 月 17 日（土）、9 月 30 日（金）
調査対象	映像プログラム（愛知芸術文化センター、松應寺（岡崎市）、豊橋市公会堂（豊橋市）の来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、上映終了後に出口付近で回収
回収数/来場者数	403 人/5,102 人（7.9%）

・回答者の年齢をみると、40 代以上が 75.2%を占め、50 代が 27.9%と一番多い。
・ご覧になった動機は、71.2%が「トリエンナーレの催しへの興味・関心」と回答している。
・催しの感想については、「大変良かった」「良かった」を合わせると 78.0%となり、概ね好評であった。

【回答者の属性】

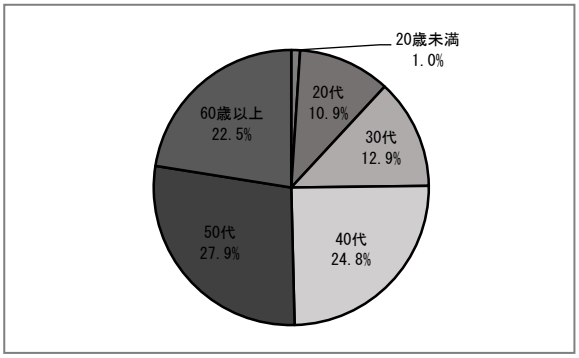
○性別

選択肢	数	比率
男	158	52.8%
女	141	47.2%
計	299	100.0%



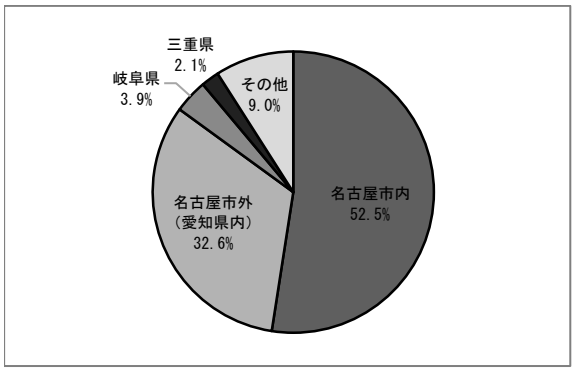
○年齢

選択肢	数	比率
20 歳未満	4	1.0%
20 代	42	10.9%
30 代	50	12.9%
40 代	96	24.8%
50 代	108	27.9%
60 歳以上	87	22.5%
計	387	100.0%



○お住まい

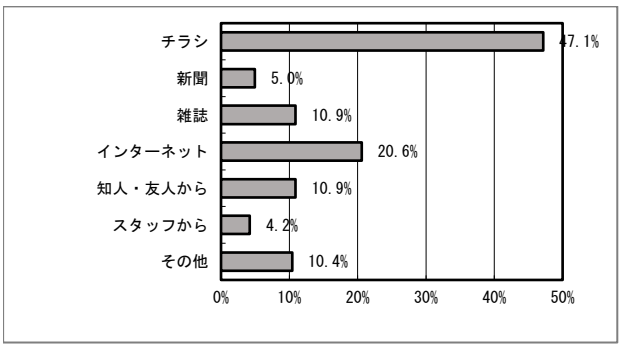
選択肢	数	比率
名古屋市内	203	52.5%
名古屋市外（愛知県内）	126	32.6%
岐阜県	15	3.9%
三重県	8	2.1%
その他	35	9.0%
計	387	100.0%



【来場理由】

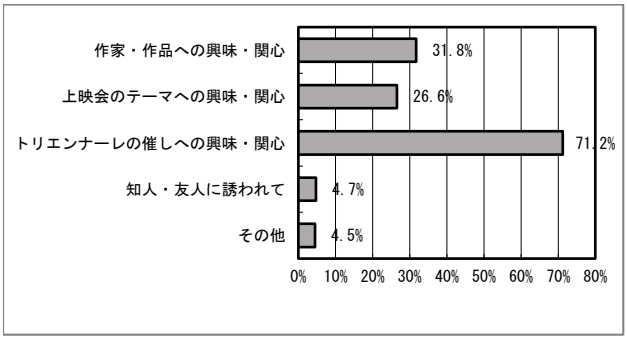
○本日の催しはどこでお知りになりましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
チラシ	190	47.1%
新聞	20	5.0%
雑誌	44	10.9%
インターネット	83	20.6%
知人・友人から	44	10.9%
スタッフから	17	4.2%
その他	42	10.4%
計	440	―



○本日の催しをご覧になった動機は何ですか（複数回答可）

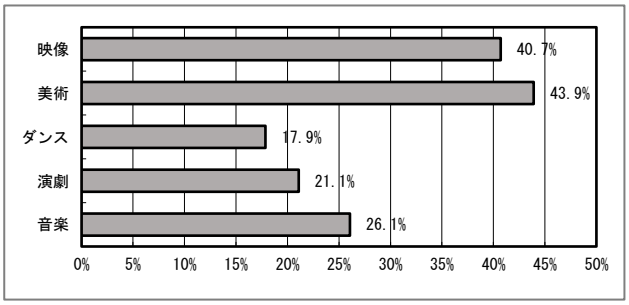
選択肢	数	比率
作家・作品への興味・関心	128	31.8%
上映会のテーマへの興味・関心	107	26.6%
トリエンナーレの催しへの興味・関心	287	71.2%
友人・知人に誘われて	19	4.7%
その他	18	4.5%
計	559	―



【関心のあるジャンル】

○どんなジャンルに関心がありますか（複数回答可）

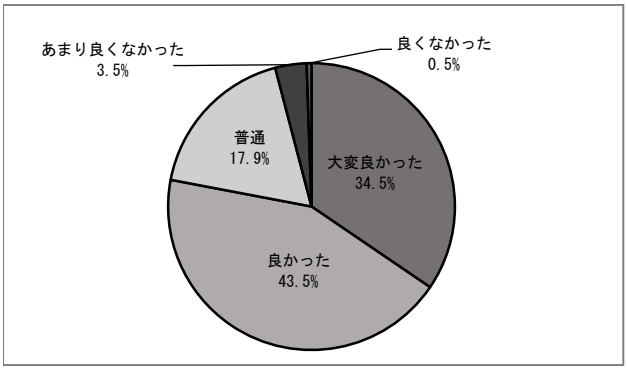
選択肢	数	比率
映像	164	40.7%
美術	177	43.9%
ダンス	72	17.9%
演劇	85	21.1%
音楽	105	26.1%
計	603	―



【催しの感想】

○本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	127	34.5%
良かった	160	43.5%
普通	66	17.9%
あまり良くなかった	13	3.5%
良くなかった	2	0.5%
計	368	100.0%



○自由意見抜粋

・この機会でしか見ない、見られない映像作品。一般向けではないのであろうが、楽しみにしている。
・8 月 27 日から様々な映像を見た。どれも素晴らしい。たぶん自分の選択だけでは出会う事のなかった作品である。
・普段見ない世界各国の作品は面白い。
・作品の成り立ちや、位置づけ、背景が知りたい。解説リーフレットの拡充を求める。
・美術館が閉まる時刻から上映されるのは、ありがたい。
・小ホールで上演した意味が分かった。ただの上映会じゃなかった。今ここだけの映像体験ができた。

（「三人の女」）

・古い映画を活弁付きで見せてもらい興味深かった。字幕とは異なる臨機応変の弁士の妙技を楽しむことができた。

（弁活イベント「発掘の旅」作品上映＆トーク）

■パフォーミングアーツ

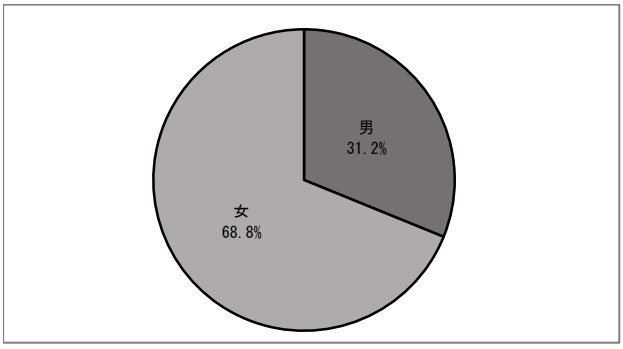
実施時期	8 月 11 日(木)～10 月 23 日(日)
調査対象	パフォーミングアーツ（愛知県芸術劇場大ホール・小ホール、名古屋市芸術創造センター、名古屋市青少年文化センター、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT）7 演目 17 公演の来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収
回収数/来場者数	576 人/4,397 人（13.1%）

・回答者の年齢をみると、40 代が 30.0%と一番多く、その他は 20 代から 60 歳以上まで幅広いが、20 歳未満は 3.9%と少ない。
・ご覧になった動機は、回答者の 63.0%が「出演者・作品への興味・関心」と答えているが、「トリエンナーレの催しに興味があるから」も 44.3%と多くなっている。
・催しの感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせて 96.2%を占め、大変好評であった。

【回答者の属性】

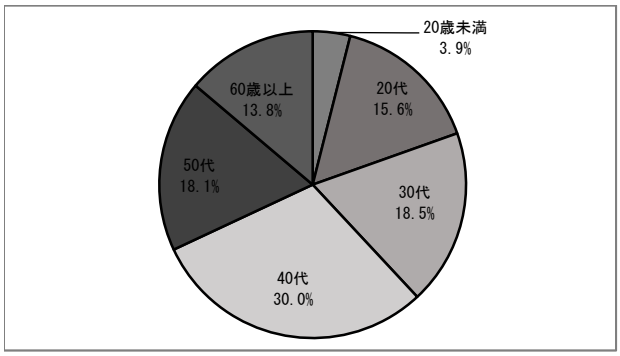
○性別

選択肢	数	比率
男	119	31.2%
女	263	68.8%
計	382	100.0%



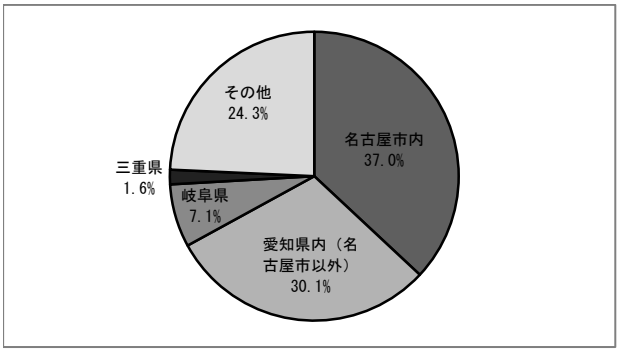
○年齢

選択肢	数	比率
20 歳未満	22	3.9%
20 代	87	15.6%
30 代	103	18.5%
40 代	167	30.0%
50 代	101	18.1%
60 歳以上	77	13.8%
計	557	100.0%



○お住まい

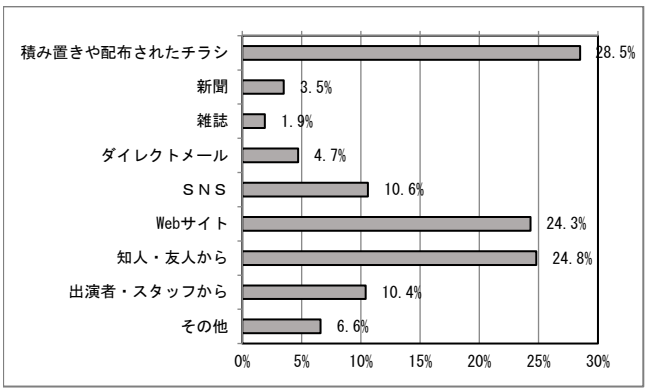
選択肢	数	比率
名古屋市内	204	37.0%
愛知県内（名古屋市以外）	166	30.1%
岐阜県	39	7.1%
三重県	9	1.6%
その他	134	24.3%
計	552	100.0%



【来場理由】

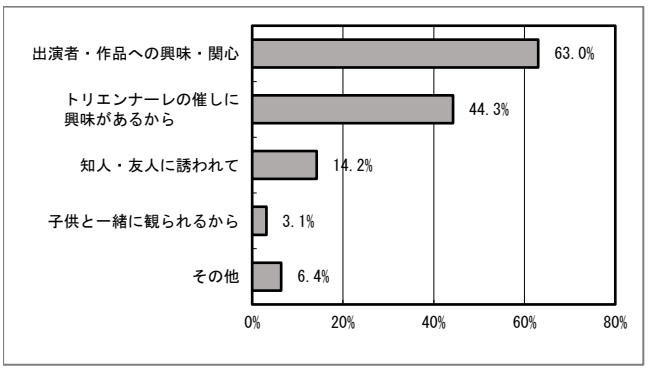
○本日の催しはどこでお知りになりましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
積み置きや配布されたチラシ	164	28.5%
新聞	20	3.5%
雑誌	11	1.9%
ダイレクトメール	27	4.7%
ＳＮＳ	61	10.6%
Web サイト	140	24.3%
知人・友人から	143	24.8%
出演者・スタッフから	60	10.4%
その他	38	6.6%
計	664	―



○本日の催しをご覧になった動機は何ですか（複数回答可）

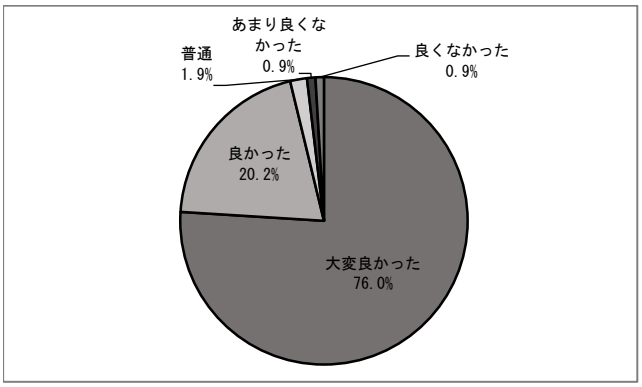
選択肢	数	比率
出演者・作品への興味・関心	363	63.0%
トリエンナーレの催しに興味があるから	255	44.3%
友人・知人に誘われて	82	14.2%
子どもと一緒に観られるから	18	3.1%
その他	37	6.4%
計	755	―



【催しの感想】

○本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	402	76.0%
良かった	107	20.2%
普通	10	1.9%
あまり良くなかった	5	0.9%
良くなかった	5	0.9%
計	529	100.0%



○自由意見抜粋

・客を飽きさせないアクションと、道具の使い方に感動した。目線の誘導も上手く、時間を忘れて見ていた。日常的にある物から生み出される様々な場面、そして、道具の場所がどんどん変わっていくという勢いにとても心がのめり込んだ。（ダニ・リマ『Little Collection of everything』名古屋公演）

・子供も楽しめる作品とのことで自分が楽しめるか不安な部分もあったが、あいちトリエンナーレのパフォーミングアーツらしい作品で、ふだんカチカチになった頭がやわらかくなるのを体験することができた。オリンピックの開催中にリオの方が公演というのがまたステキだなと思った。
（ダニ・リマ『Little Collection of everything』名古屋公演）

・思ってもみないことばかりの連続でとっても楽しかった。単純な言葉や日常の何でもない作品にどんどん強烈な意味が付けられていくのが面白いと思った。
（ダニ・リマ『Little collection of everything』豊橋公演）

・本当に素晴らしく感動した。音楽がない中でのフラメンコを初めて鑑賞し、とても新鮮で感じるものが多かった。45 分がアッという間だった。また是非フラメンコを拝見したい。その後のトークショーも楽しく、人柄にも惹かれた。（イスラエル・ガルバン『SOLO』）

・フラメンコの概念を破り、肉体・舞踊・声・歌・叫び・宇宙・自然・祈り・人間の喜怒哀楽が一体となる根源的な表現を見せてもらい、大変感動した。（イスラエル・ガルバン『FLA.CO.MEN』）

・静けさと激しさの緩急のリズムにのみこまれました‼憂鬱感に沈んでいた心が、休む…活動する…というリズムでエネルギーを正しく受けとめられるようになった気がする。
（イスラエル・ガルバン『FLA.CO.MEN』）

・大変感動した。人間の成せる無限の可能性を垣間見ることができた気がした。世界で活躍する一流のカンパニーの舞台が観られるのも、こういった国際芸術祭ならではだと思った。これからもあいちトリエンナーレで様々な舞台作品が観られることを楽しみにしている。
（カンパニーDCA / フィリップ・ドゥクフレ『CONTACT』）

・不思議な映像、ユーモア、音楽、ダンス、アクロバット・・・すべがたったの 100 分で見事に演出されていた。とにかく斬新！またぜひ公演を観たい。（カンパニーDCA / フィリップ・ドゥクフレ『CONTACT』）

・予想のできない動きの連続に驚くばかりだった。力強いたくましい神事のおどり、フォーメーション、バリエーション豊かな舞に感動、単調な音楽の中、どのようにしてキッカケがあるのか、とにかくびっくりした。心の底にまだ音が響いている。すばらしかった。（Co.山田うん『いきのね』）

・群舞と土、炎による力強さ、リズムとともに、踏みしめられていくもの、畳みかけるもの、貴重な印象が残る作品だった。宙に舞うたびに砂ぼこりがたちこめ、汗に光る肌に黒い土がつく変化。たっぷり見せていただいた。ありがとうございます。（Co.山田うん『いきのね』）

・公演、舞台、室内、衣、すべてすばらしく感動した。（青木涼子『秘密の閨』）

・能のストーリーはよくわからないが、幻想さ、能と西洋音楽のコラボ、語り方など大変面白かった。（青木涼子『秘密の閨』）

・音と光の演奏は中毒になりそう。いろんな音がアートになるんですね。（小杉武久『MUSIC EXPANDED#1』『MUSIC EXPANDE#2』）

・2 日間にわたり小杉さんの代表作をナマに接することができて幸せだった。なつかしさもあり、不変なところもあり最高だった。（小杉武久『MUSIC EXPANDED#1』『MUSIC EXPANDE#2』）

■プロデュースオペラ

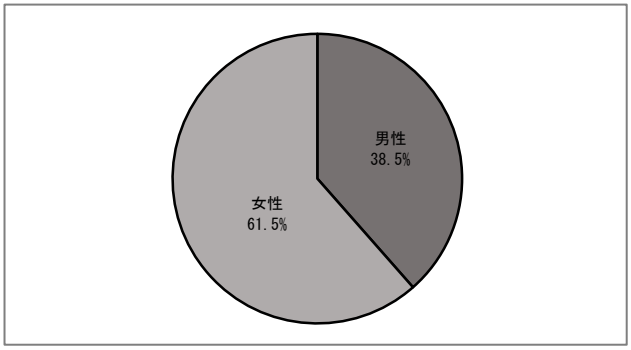
実施時期	9 月 17 日(土) 、9 月 19 日(月・祝)
調査対象	プロデュースオペラの来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収
回収数/来場者数	218 人/3,628 人 (6.0%)

・回答者の属性をみると、他のプログラムに比べ年齢層が高くなっており、60 歳以上が約 35.9%で一番多く、50 歳代が 25.2%で続いている。
・来場理由を聞いたところ、回答者の 50.9%が「作品への興味・関心」を選んでおり、『魔笛』という演目の人気の高さが伺える。また、「演出者」・「出演者」との回答もそれぞれ 23.4%・22.5%と高くなっている。
・公演の感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせて 90.2%を占め、大変好評であった。
・自由記述欄には、「斬新で面白かった」「歌も演奏も良かった」等の意見があった。

【回答者の属性】

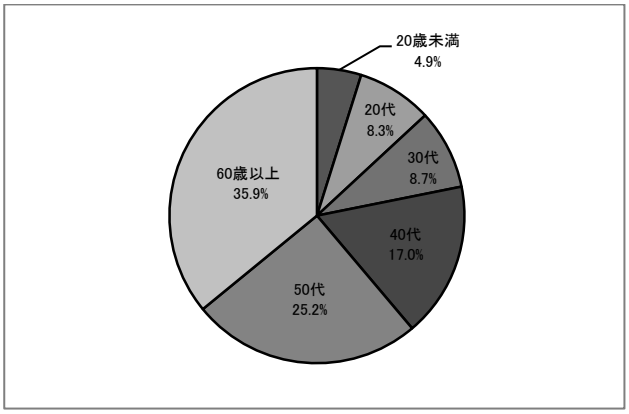
○性別

選択肢	数	比率
男性	62	38.5%
女性	99	61.5%
計	161	100.0%



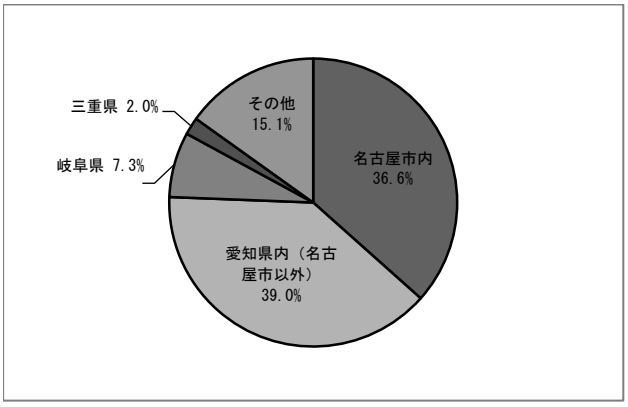
○年齢

選択肢	数	比率
20 歳未満	10	4.9%
20 歳代	17	8.3%
30 歳代	18	8.7%
40 歳代	35	17.0%
50 歳代	52	25.2%
60 歳以上	74	35.9%
計	206	100.0%



○お住まい

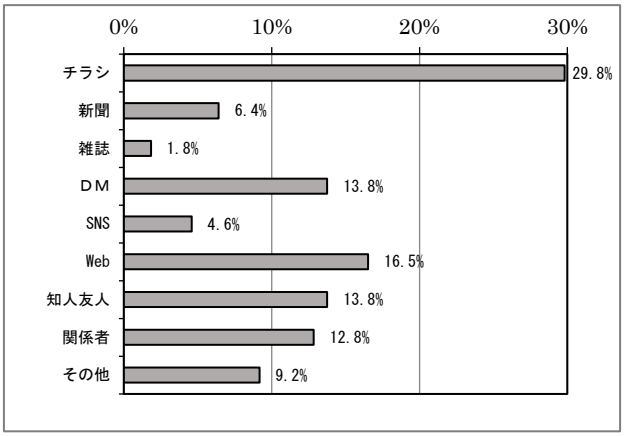
選択肢	数	比率
名古屋市	75	36.6%
愛知県内（名古屋市以外）	80	39.0%
岐阜県	15	7.3%
三重県	4	2.0%
その他	31	15.1%
計	205	100.0%



【来場理由】

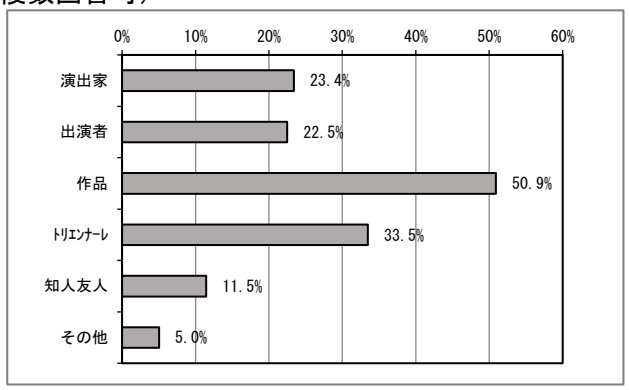
○本日の催しはどこでお知りになりましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
チラシ	65	29.8%
新聞	14	6.4%
雑誌	4	1.8%
ダイレクトメール	30	13.8%
SNS	10	4.6%
Web サイト	36	16.5%
知人・友人から	30	13.8%
出演者・スタッフから	28	12.8%
その他	20	9.2%
計	237	―



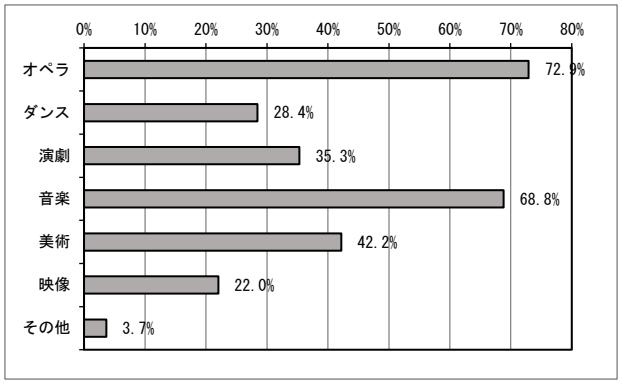
○本日の催しをご覧になった動機はなんですか（複数回答可）

選択肢	数	比率
演出家	51	23.4%
出演者	49	22.5%
作品への興味・関心	111	50.9%
あいちトリエンナーレの催しへの関心	73	33.5%
友人・知人に誘われて	25	11.5%
その他	11	5.0%
計	320	―



○どんなジャンルに関心がありますか（複数回答可）

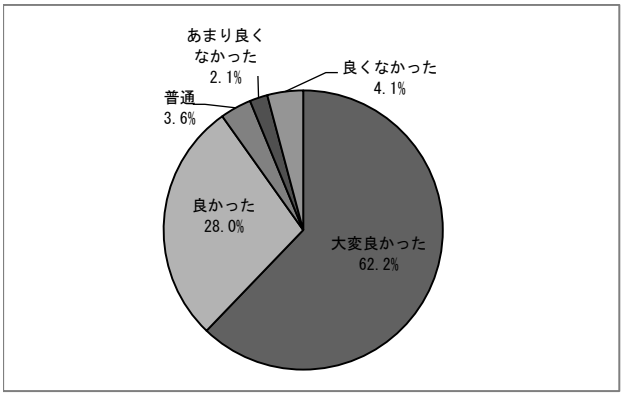
選択肢	数	比率
オペラ	159	72.9%
ダンス	62	28.4%
演劇	77	35.3%
音楽	150	68.8%
美術	92	42.2%
映像	48	22.0%
その他	8	3.7%
計	596	―



【催しの感想】

○本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	120	62.2%
良かった	54	28.0%
普通	7	3.6%
あまり良くなかった	4	2.1%
良くなかった	8	4.1%
計	193	100.0%



○自由意見抜粋

《全般》
・はじめは、装飾の少ない舞台とあまりにカジュアルな王子に驚いた。オペラはゴージャスできらびやかなものという感覚が強かったので、そういう固まったセンスを良い意味でうちくだいてくれた。ナレーション（日本語）もびっくりしたが、とてもわかりやすくて良かった。こういう、わかりやすく楽しいオペラがもっと増えて欲しい。
・演出、バレエ、演奏、最高だった。トリエンナーレらしい公演。次回も期待します。

《演出》
・とてもすっきりとした演出で、逆にモーツァルトの世界に（音楽を通じて）広がりと奥行きをもたせてくれた。セリフ部分とナレーションベースで進行し、アリアで結ぶ形式は、作品全体に流れができて、とても良かった。ダンスと合唱を舞台装置として巧く扱い、モーツァルトの描くファンタジーに、無限の可能性、想像をかきたてる公演になったと思う。
・オペラのナレーション（日本語）に慣れないので、現実に引き戻されるような戸惑いがあった。
・オーソドックスな演出を期待していたが現代アートの演出で少しがっかりしたが、あいちトリエンナーレでの上演にふさわしい演出だったという点では良かった。

《装置》
・舞台装置が簡易かと思っていたが照明や動かし方でとても素晴らしく感じた。音楽も歌も良く素敵な時間を過ごすことができた。また観たいと思った。
・舞台装置がモダンで素敵だった。衣装もシンプルで、内容がわかりやすい。

《その他》
・笑えるところもあり、チケットの価格も優しく、初めてのオペラだったが楽しめた。
・生でオペラを見たのは今回が初めてだったがとても面白かった。トリエンナーレ以外での上演であればどうしようか悩んでいるうちに見逃していたように思うので、とても良い機会をありがとうございました。

■エデュケーションプログラム（ダミコルーム）

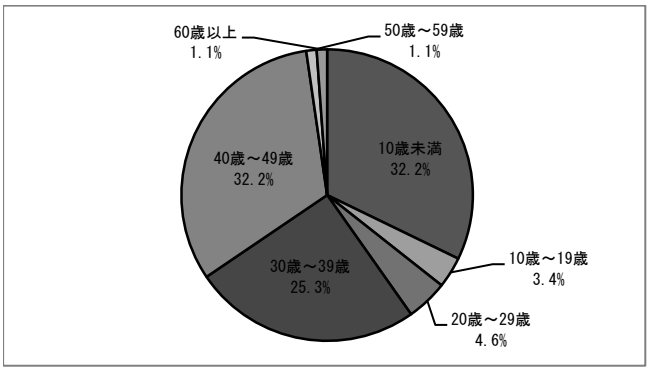
実施時期	会期中 3 回
調査対象	ダミコルーム参加者
配布・回収方法	プログラム終了後に参加者にアンケート用紙を配付し、その場で回収
回収数/参加者数	87 人/21,012 人（0.4%）

・「今日は楽しかったですか」という質問については、「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせて 96%を占め、大変好評であった。
・「今日体験したことをこれからもやってみたいですか」という質問については、「ぜひやってみたい」と「やってみたい」を合わせて 96%を占め、参加者の今後の美術に関する活動のきっかけになることが期待される。
・また、「今日の体験でアートが身近になりましたか」という質問において、「身近になった」が 87%となっており、これらの参加者に美術館へ足を運んでもらうきっかけになったと思われる。

【回答者の属性】

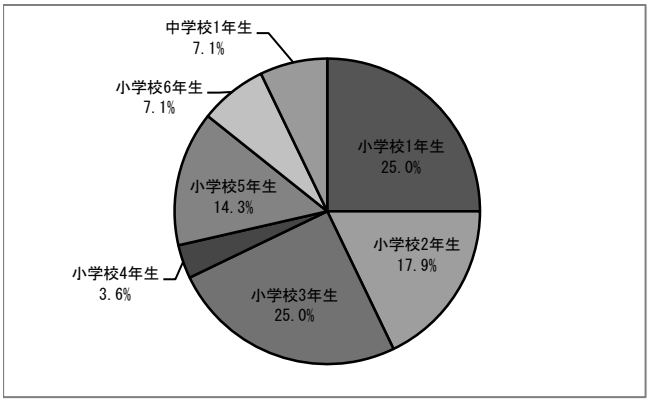
○年齢

選択肢	数	比率
10 歳未満	28	32.2%
10 歳～19 歳	3	3.4%
20 歳～29 歳	4	4.6%
30 歳～39 歳	22	25.3%
40 歳～49 歳	28	32.2%
50 歳～59 歳	1	1.1%
60 歳以上	1	1.1%
計	87	100.0%



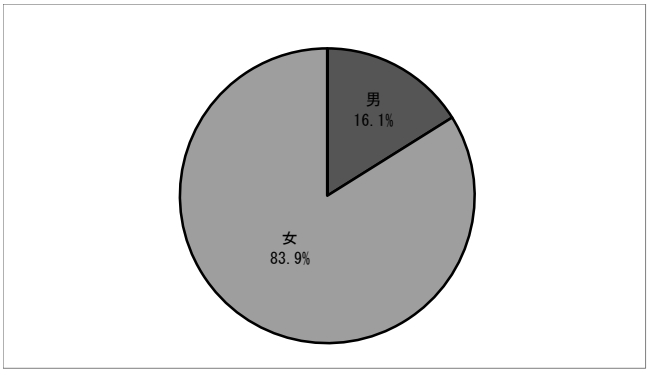
○学年

選択肢	数	比率
小学校 1 年生	7	25.0%
小学校 2 年生	5	17.9%
小学校 3 年生	7	25.0%
小学校 4 年生	1	3.6%
小学校 5 年生	4	14.3%
小学校 6 年生	2	7.1%
中学校 1 年生	2	7.1%
中学校 2 年生	0	0.0%
中学校 3 年生	0	0.0%
高校 1 年生	0	0.0%
高校 2 年生	0	0.0%
高校 3 年生	0	0.0%
大学生	0	0.0%
回答なし（未就学児を含む）	(59)	－
計	28	100.0%



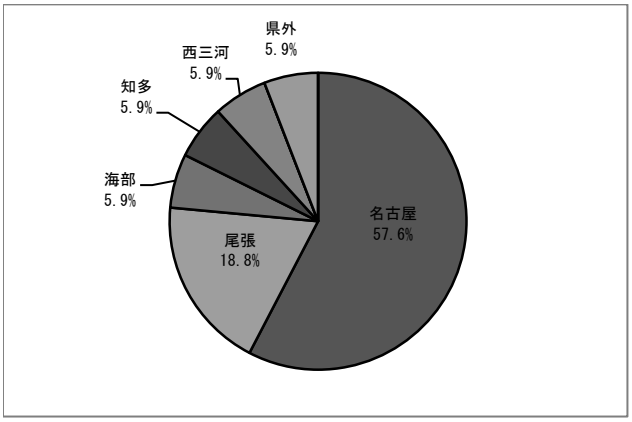
○性別

選択肢	数	比率
男性	14	16.1%
女性	73	83.9%
計	87	100.0%



○お住まい

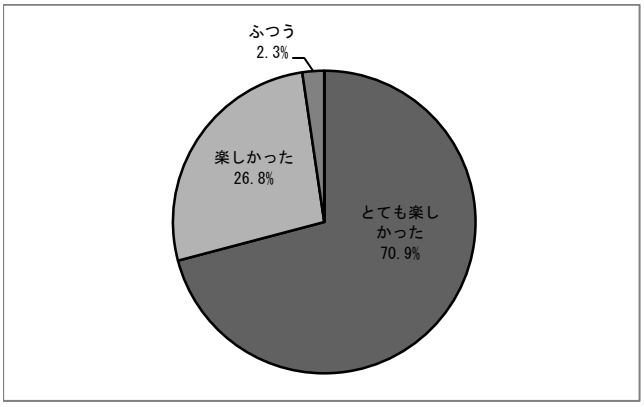
選択肢	数	比率
名古屋	49	57.6%
尾張	16	18.8%
海部	5	5.9%
知多	5	5.9%
西三河	5	5.9%
東三河	0	0.0%
県外	5	5.9%
計	85	100.0%



【感想】

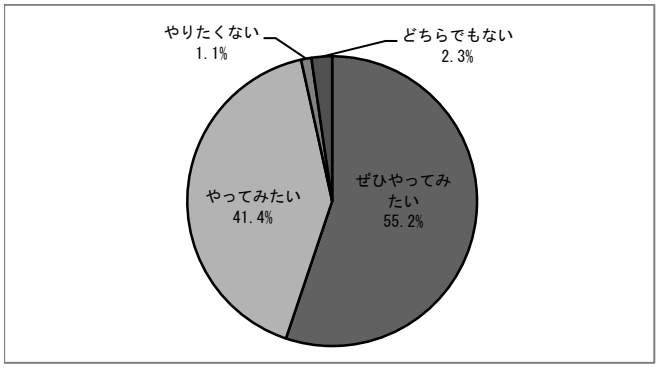
○今日は楽しかったですか

選択肢	数	比率
とても楽しかった	61	70.9%
楽しかった	23	26.8%
ふつう	2	2.3%
楽しくなかった	0	0.0%
計	86	100.0%



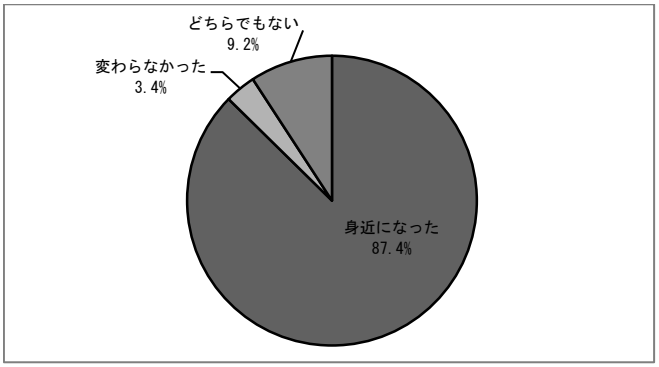
○今日体験したことをこれからもやってみたいですか

選択肢	数	比率
ぜひやってみたい	48	55.2%
やってみたい	36	41.4%
やりたくない	1	1.1%
どちらでもない	2	2.3%
計	87	100.0%



○今日の体験でアートが身近になりましたか

選択肢	数	比率
身近になった	76	87.4%
変わらなかった	3	3.4%
どちらでもない	8	9.2%
計	87	100.0%



○自由意見抜粋

・自宅ではできないことが体験でき、楽しかった。どんなものでもアートになると思わせてもらう体験ができたので、これからはゴミすらも、愛おしくなりそう。
・思っていたよりも子供が楽しんでいた。特にコラージュが良かった。
・コラージュが楽しかった。
・美術教育の発端？を知ることができて良かった。
・3 歳の孫ですが、良い経験だったと思う。
・はぎれ等でこれだけ面白いもようが出来あがったのがすごいと思った。
・来年もまたやりたい。
・また遊びに来たい。
・当日参加できるプログラムが充実していて良かった。
・小学生と 4 才の子供が夢中になっていたので、良い企画だと思った。

■エデュケーションプログラム（キャラヴァンファクトリー）

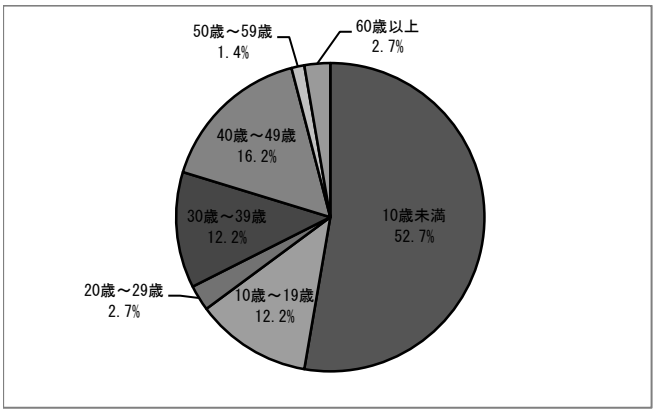
実施時期	会期中 3 回
調査対象	キャラヴァンファクトリー参加者
配布・回収方法	プログラム終了後に参加者にアンケート用紙を配付し、その場で回収
回収数/参加者数	74 人/22,601 人（0.3%）

・「今日は楽しかったですか」という質問については、「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせて 98%を占め、大変好評であった。
・「今日体験したことをこれからもやってみたいですか」という質問については、「ぜひやってみたい」と「やってみたい」を合わせて 96%を占め、参加者の今後の美術に関する活動のきっかけになることが期待される。
・また、「今日の体験でアートが身近になりましたか」という質問において、「身近になった」が 91%となっており、これらの参加者に美術館へ足を運んでもらうきっかけになったと思われる。

【回答者の属性】

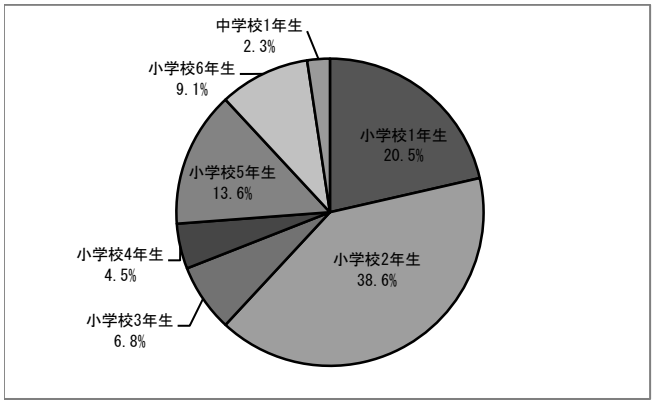
○年齢

選択肢	数	比率
10 歳未満	39	52.7%
10 歳～19 歳	9	12.2%
20 歳～29 歳	2	2.7%
30 歳～39 歳	9	12.2%
40 歳～49 歳	12	16.2%
50 歳～59 歳	1	1.4%
60 歳以上	2	2.7%
計	74	100.0%



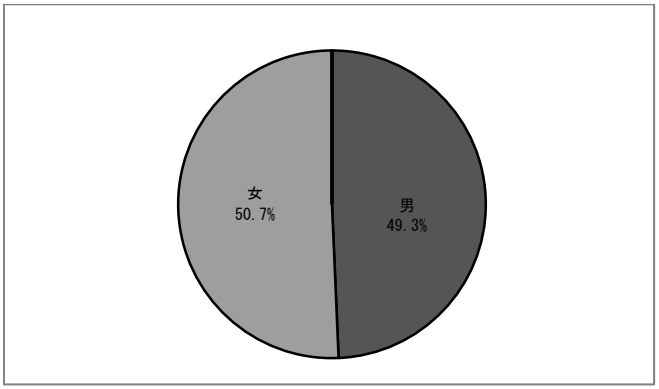
○学年

選択肢		数	比率
小学校	1 年生	9	20.5%
	2 年生	17	38.6%
	3 年生	3	6.8%
	4 年生	2	4.5%
	5 年生	6	13.6%
	6 年生	4	9.1%
中学校	1 年生	1	2.3%
	2 年生	0	0.0%
	3 年生	0	0.0%
高等学校	1 年生	0	0.0%
	2 年生	0	0.0%
	3 年生	0	0.0%
大学生		2	4.5%
回答なし（未就学児を含む）		(30)	－
計		44	100.0%



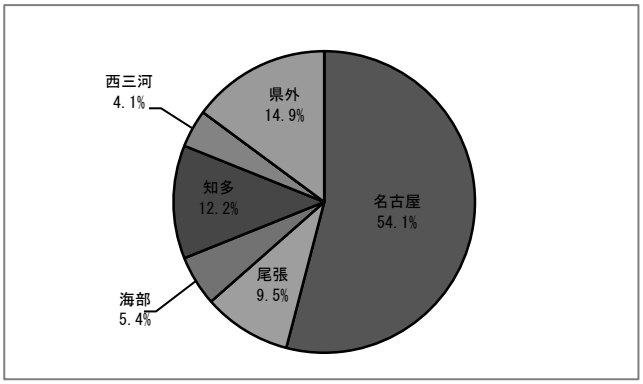
○性別

選択肢	数	比率
男性	36	49.3%
女性	37	50.7%
計	73	100.0%



○お住まい

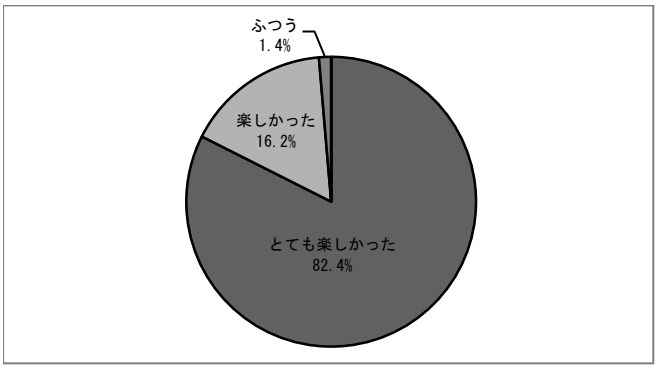
選択肢	数	比率
名古屋	40	54.1%
尾張	7	9.5%
海部	4	5.4%
知多	9	12.2%
西三河	3	4.1%
東三河	0	0.0%
県外	11	14.9%
計	74	100.0%



【感想】

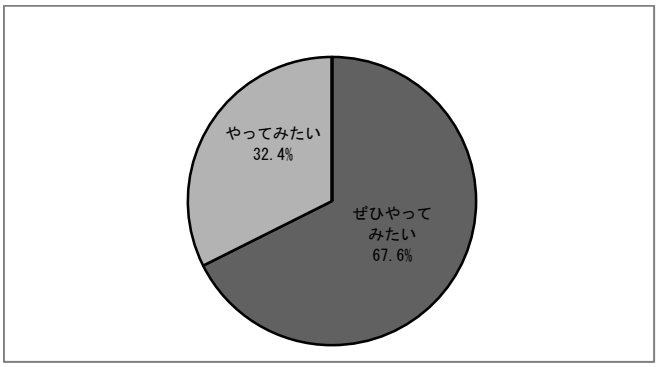
○今日は楽しかったですか

選択肢	数	比率
とても楽しかった	61	82.4%
楽しかった	12	16.2%
ふつう	1	1.4%
楽しくなかった	0	0.0%
計	74	100.0%



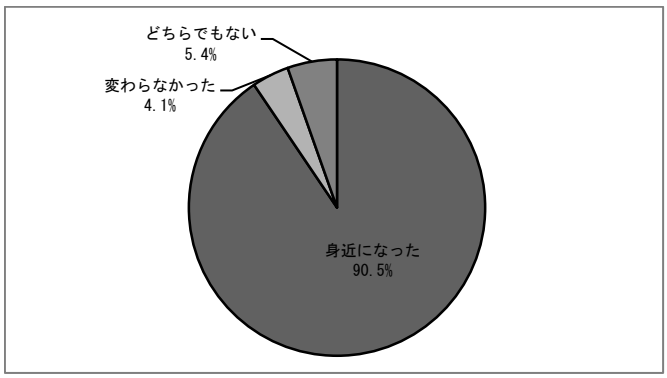
○今日体験したことをこれからもやってみたいですか

選択肢	数	比率
ぜひやってみたい	48	67.6%
やってみたい	23	32.4%
やりたくない	0	0.0%
どちらでもない	0	0.0%
計	71	100.0%



○今日の体験でアートが身近になりましたか

選択肢	数	比率
身近になった	67	90.5%
変わらなかった	3	4.1%
どちらでもない	4	5.4%
計	74	100.0%



○自由意見抜粋

・4 人でチームをくんだので、もっと話し合いの時間があると良かったと思う。
・とても、いい企画と思った。
・のりやボンドが素材によってくっつかなかった。
・すごく楽しかった～！
・また参加したい。
・思っていたより楽しかった。
・これからも 3 つの素材だけで図工したい。
・スタッフの方がとても親切でありがたかった。
・今日は楽しかった。童心にかえることができた。

■レクチャープログラム

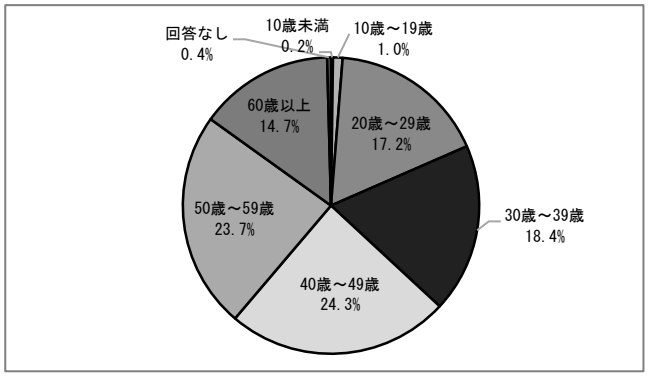
実施時期	レクチャープログラムの開催日
調査対象	レクチャープログラム（オープニングシンポジウム、国際シンポジウム、ライブラリー企画等を除く 26 プログラム）
配布・回収方法	受付時にアンケート用紙を配布し、プログラム終了後に出口付近で回収
回収数/参加者数	477 人/1,422 人（上記 26 プログラムの入場者数）（33.5%）

・回答者の属性をみると、他のプログラムに比べて年齢層が満遍なく分布しており、男女の割合も近い。住まいは名古屋市内の方が半数近くとなっており、愛知県内の参加者が全体の 8 割に達している。
・「プログラムの満足度はいかがでしたか」という質問については、「とても良かった」と「良かった」を合わせて 89.5%を占め、大変好評であった。

【回答者の属性】

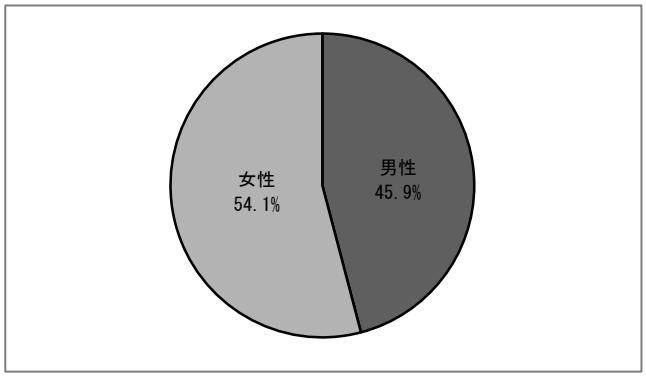
〇年齢

選択肢	数	比率
10 歳未満	1	0.2%
10 歳～19 歳	5	1.0%
20 歳～29 歳	82	17.2%
30 歳～39 歳	88	18.4%
40 歳～49 歳	116	24.3%
50 歳～59 歳	113	23.7%
60 歳以上	70	14.7%
回答なし	2	0.4%
計	477	100.0%



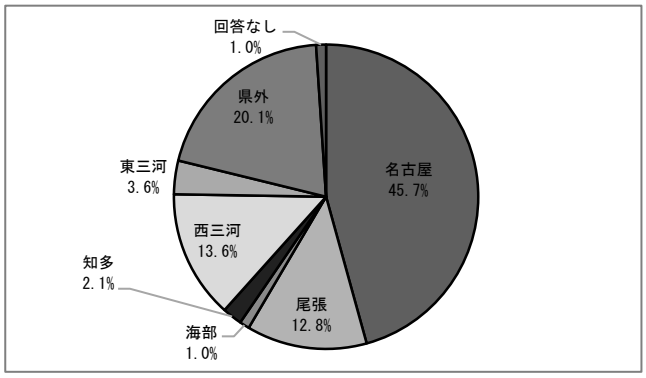
〇性別

選択肢	数	比率
男性	219	45.9%
女性	258	54.1%
回答なし	0	0.0%
計	477	100.0%



〇お住まい

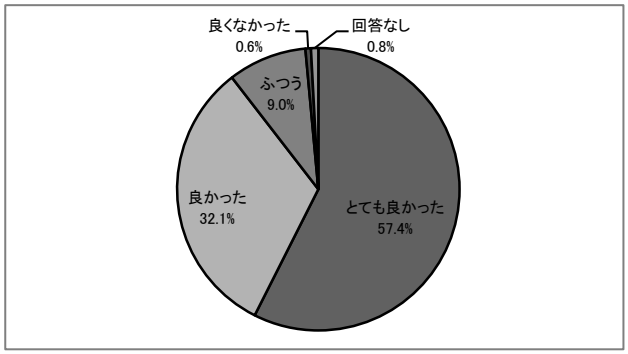
選択肢	数	比率
名古屋	218	45.7%
尾張	61	12.8%
海部	5	1.0%
知多	10	2.1%
西三河	65	13.6%
東三河	17	3.6%
県外	96	20.1%
回答なし	5	1.0%
計	477	100.0%



【感想】

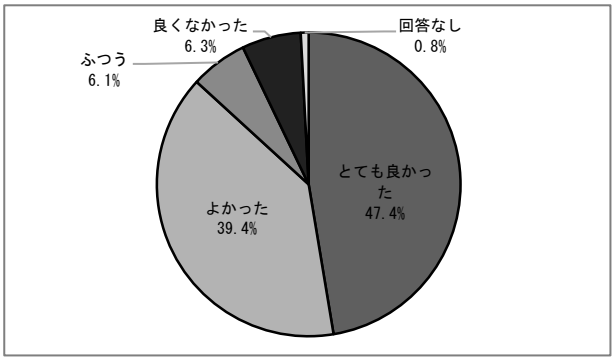
○プログラムの満足度はいかがでしたか

選択肢	数	比率
とても良かった	274	57.4%
良かった	153	32.1%
ふつう	43	9.0%
良くなかった	3	0.6%
回答なし	4	0.8%
計	477	100.0%



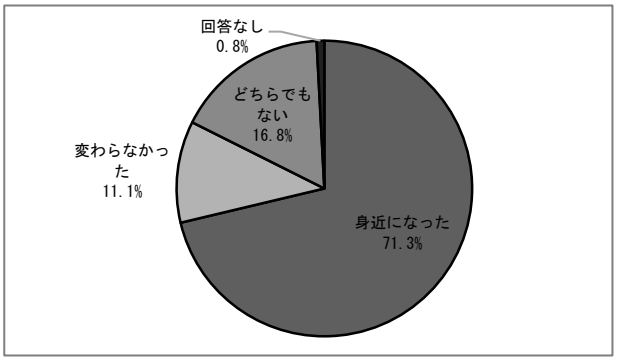
○プログラムの理解度はいかがでしたか

選択肢	数	比率
とても良かった	226	47.4%
良かった	188	39.4%
ふつう	29	6.1%
良くなかった	30	6.3%
回答なし	4	0.8%
計	477	100.0%



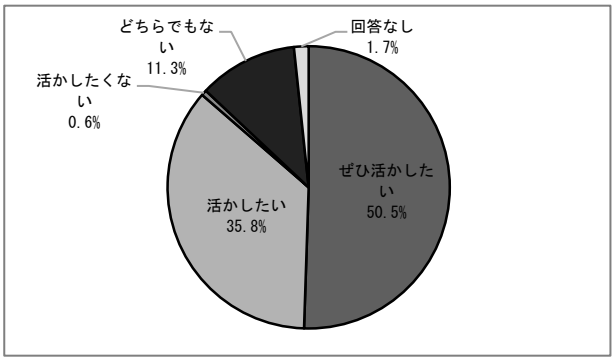
○今日のプログラムでアートが身近になりましたか

選択肢	数	比率
身近になった	340	71.3%
変わらなかった	53	11.1%
どちらでもない	80	16.8%
回答なし	4	0.8%
計	477	100.0%



○今日の聞いたことや体験したことを今度に活かしたいですか

選択肢	数	比率
ぜひ活かしたい	241	50.5%
活かしたい	171	35.8%
活かしたくない	3	0.6%
どちらでもない	54	11.3%
回答なし	8	1.7%
計	477	100.0%



○自由意見抜粋

・勉強になった。
・会場で作品を先に観ていたが、作家さんの話を聞いてより考えるところが深まり、視野が広がってとても良かった。
・作品についての思いがとてもわかるトークだった。
・アートのあり方を広い意味で展開している。今回のトリエンナーレ、すばらしいと思う。
・幼児教育に関わっている。美術（感性）教育に思うことも多く、勉強のためと参加した。
・今回のあいちトリエンナーレを理解する上でも、とても有意義だった。
・わかりやすくて楽しかった。ありがとうございました！
・今回のトリエンナーレで、アートがとても広く、身近なもの、ことだと思うようになった。
・パフォーマンスが直接見ることができて貴重な体験ができた。
・トークイベントがあることでより作品の内情まで知ることができた。
・普段聞けないことも聞けて良かった。専門的だが分かりやすく、これからのことに活かしたい。
・最新の研究についてとても楽しく教えていただき、この日を選んで来て良かった。

■モバイル・トリエンナーレ

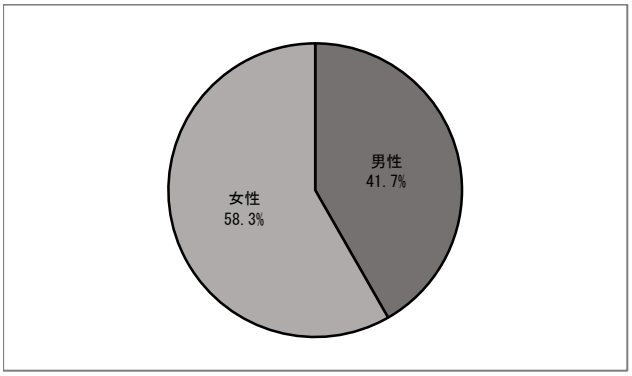
実施時期	モバイル・トリエンナーレの開催日
調査対象	モバイル・トリエンナーレの来場者（4 会場）
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、出口付近に設置したアンケートボックスにて回収
回収数/来場者数	541 人/4,049 人（13.4%）

・国際展来場者は 30 代までの年齢層が 6 割弱を占めるが、モバイル・トリエンナーレにおいては、各年代が満遍なく来場している。また、住まいについては、開催市町内が 6 割を占めるなど、地域に近いイベントであった。
・展示内容の感想については、「良かった」と「まあ良かった」を合わせて 91.6%を占め、好評であった。また、展示を見て「あいちトリエンナーレ」に行ってみたいと思ったかという質問において、6 割の方が「思った」と答えている。

【回答者の属性】

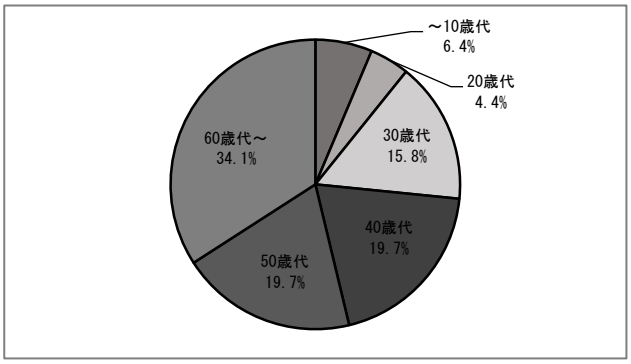
○性別

選択肢	数	比率
男性	217	41.7%
女性	303	58.3%
計	520	100.0%



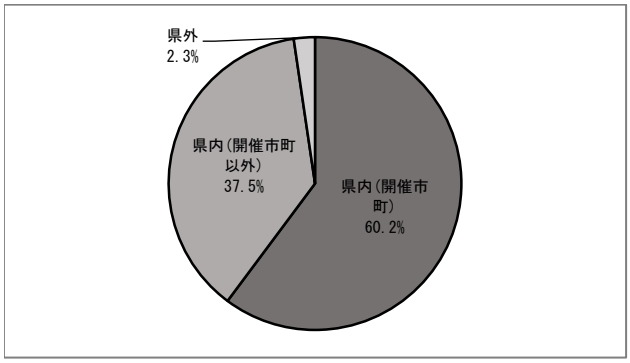
○年代

選択肢	数	比率
～10 歳代	33	6.4%
20 歳代	23	4.4%
30 歳代	82	15.8%
40 歳代	102	19.7%
50 歳代	102	19.7%
60 歳代～	177	34.1%
計	519	100.0%



○住まい

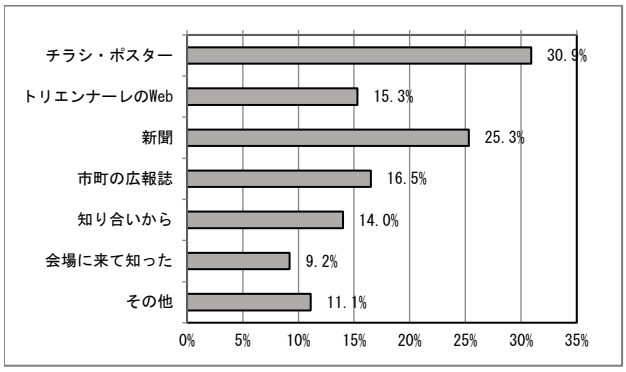
選択肢	数	比率
県内（開催市町）	310	60.2%
県内（開催市町以外）	193	37.5%
県外	12	2.3%
計	515	100.0%



【来場理由】

○モバイル・トリエンナーレをどのようにお知りになりましたか（複数回答可）

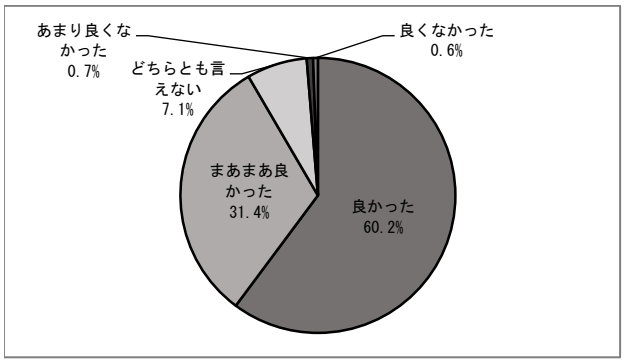
選択肢	数	比率
チラシ・ポスター	167	30.9%
トリエンナーレの Web	83	15.3%
新聞	137	25.3%
市町の広報誌	89	16.5%
知り合いから	76	14.0%
会場に来て知った	50	9.2%
その他	60	11.1%
計	662	ー



【展示の感想】

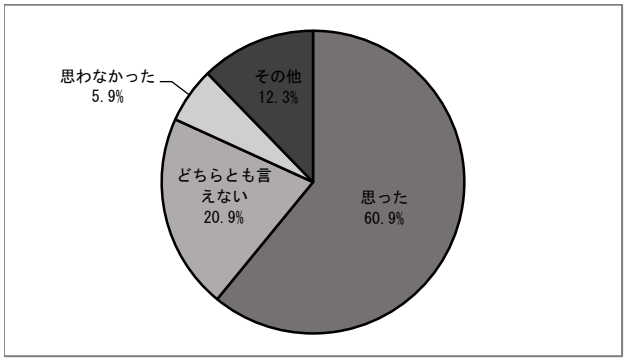
○展示の内容はいかがでしたか

選択肢	数	比率
良かった	322	60.2%
まあまあ良かった	168	31.4%
どちらとも言えない	38	7.1%
あまり良くなかった	4	0.7%
良くなかった	3	0.6%
計	535	100.0%



○本日の展示を見て、あいちトリエンナーレ本展に行ってみたいと思いましたか

選択肢	数	比率
思った	318	60.9%
どちらとも言えない	109	20.9%
思わなかった	31	5.9%
その他	64	12.3%
計	522	100.0%



○自由意見抜粋

・作品を直接目にする機会を得て、名古屋へ大作を観に行く気持ちになった。コンパクトで接しやすい雰囲気で良い。
・なかなか田舎から小さい子供連れで美術館へ行けないので、近所でアート作品が見られて良かった。
・ガイドさんの存在も良かった。現代アートにはじめて触れた。
・できれば市全体を歩きながら（長者町のように）鑑賞したかった。
・博物館とトリエンナーレの作品が混在しているのが、面白かった。
・外の毛糸を結ぶアートは自分も体験できて楽しかった。写真も撮っていいとの事で、カラフルなアートは家に帰ってからも写真としてまた楽しめて、とても良かった。
・アーティストの方から直接教えていただけて、子供もとても楽しかったようだ。（ワークショップアンケートより）

(2) 関係者アンケート

区分	調査対象数	回収数	回収割合	該当ページ
ボランティア	842 名	217 名	25.8%	113
舞台芸術公募プログラム事業参加団体	15 団体	15 団体	100.0%	117
パートナーシップ事業参加団体	344 団体	69 団体	20.1%	119

■ボランティア

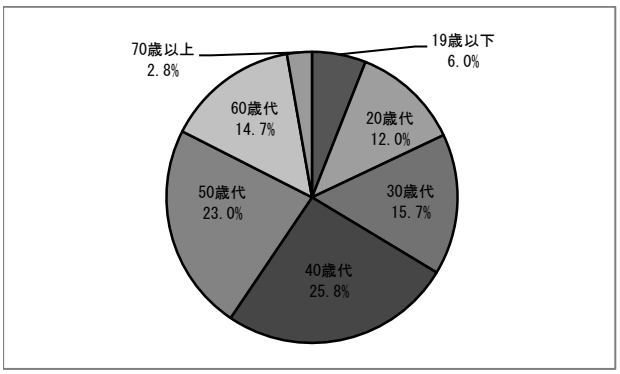
実施時期	11 月～12 月
調査対象	ボランティア参加者
配布・回収方法	メール・Web
回収数/対象数	217 名/842 名（25.8%）

【回答者の属性】

・10 歳代から 70 歳以上まで、幅広い年代の方に参加していただいた。職業については会社員と主婦が多くなっている。
・以前にボランティア活動を経験したことのある方が 62.7%を占め、そのうち 63.2%の方が「過去のあいちトリエンナーレでのボランティア」経験ありと回答している。
・一方、今回初めてボランティア活動を経験するという方が 37.3%あり、前回より大幅に増加した。

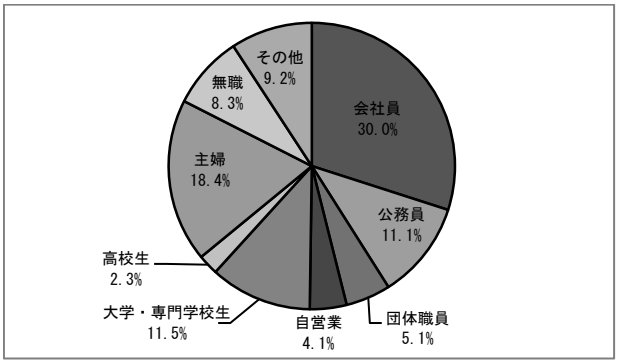
○年代

選択肢	数	比率
19 歳以下	13	6.0%
20 歳代	26	12.0%
30 歳代	34	15.7%
40 歳代	56	25.8%
50 歳代	50	23.0%
60 歳代	32	14.7%
70 歳以上	6	2.8%
計	217	100.0%



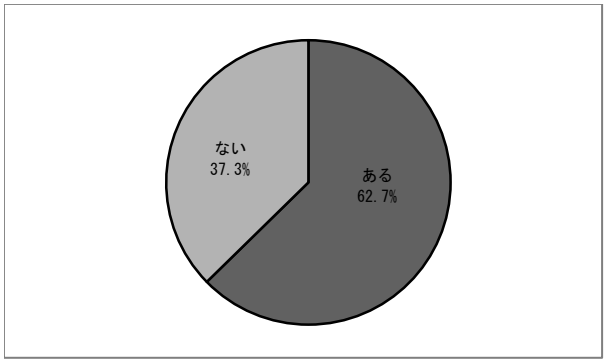
○職業

選択肢	数	比率
会社員	65	30.0%
公務員	24	11.1%
団体職員	11	5.1%
自営業	9	4.1%
大学・専門学校生	25	11.5%
高校生	5	2.3%
主婦	40	18.4%
無職	18	8.3%
その他	20	9.2%
計	217	100.0%



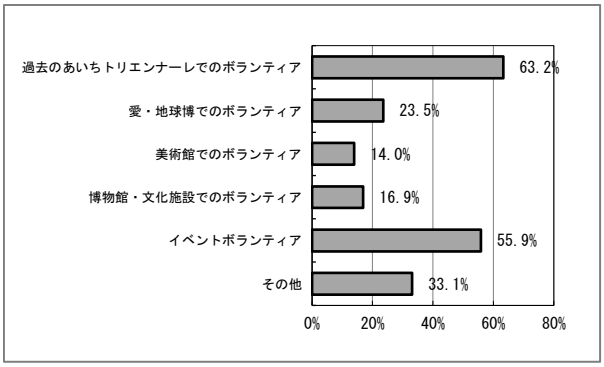
○あいちトリエンナーレ 2016 のボランティアに参加する前にボランティア活動に参加した経験がありますか

選択肢	数	比率
ある	136	62.7%
ない	81	37.3%
計	217	100.0%



○これまで、どのような活動に参加されましたか（複数回答可）
（※前問で「ある」と回答した方のみ）

選択肢	数	比率
過去のあいちトリエンナーレでのボランティア	86	63.2%
愛・地球博でのボランティア	32	23.5%
美術館でのボランティア	19	14.0%
博物館・文化施設でのボランティア	23	16.9%
イベントボランティア	76	55.9%
その他	45	33.1%
計	281	―

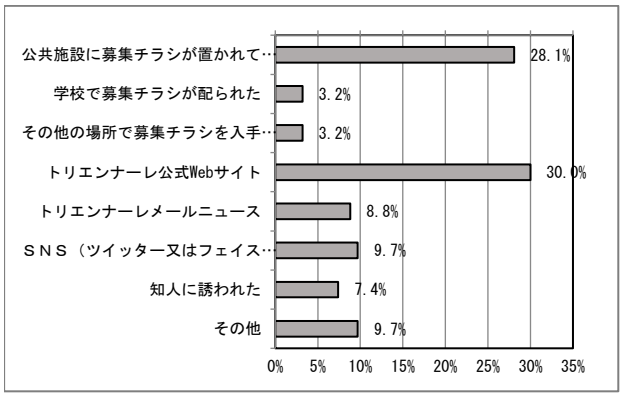


【参加理由】

・募集を知ったきっかけは、「公式 Web サイト」と「公共施設」に置かれていたチラシが多い。
・参加理由としては、トリエンナーレや現代アートに興味があったという人が最も多いが、「ボランティア活動に興味がある」「人との交流が好き」「社会や人のためになりたい」との回答も多くなっている。

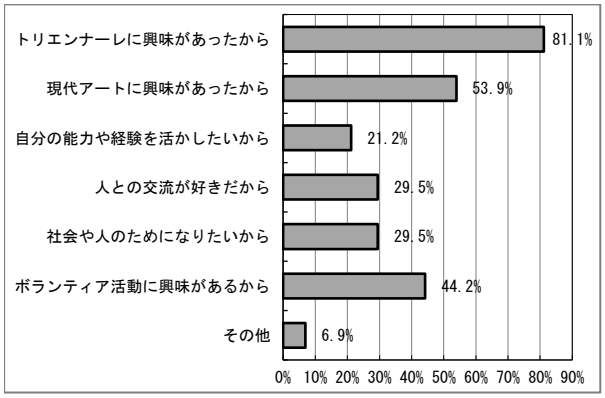
○ボランティア募集について、どのように知りましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
公共施設に募集チラシが置かれていた	61	28.1%
学校で募集チラシが配られた	7	3.2%
その他の場所で募集チラシを入手した	7	3.2%
トリエンナーレ公式 Web サイト	65	30.0%
トリエンナーレメールニュース	19	8.8%
ＳＮＳ（ツイッター又はフェイスブック）	21	9.7%
知人に誘われた	16	7.4%
その他	21	9.7%
計	217	―



○ボランティアに参加した理由をお聞かせください（複数回答可）

選択肢	数	比率
トリエンナーレに興味があったから	176	81.1%
現代アートに興味があったから	117	53.9%
自分の能力や経験を活かしたいから	46	21.2%
人との交流が好きだから	64	29.5%
社会や人のためになりたいから	64	29.5%
ボランティア活動に興味があるから	96	44.2%
その他	15	6.9%
計	578	―



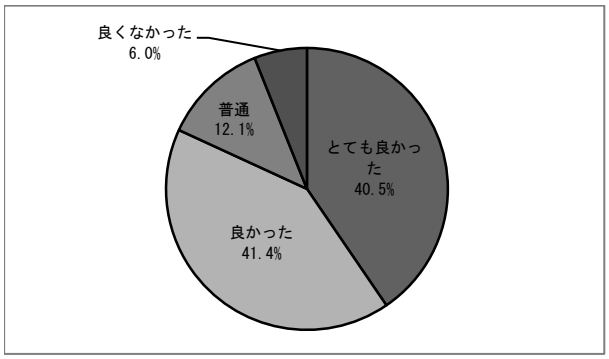
【感想】

・ボランティア活動に参加して、「とても良かった」「良かった」という回答は 81.9%にのぼった。その理由として、「来場者と交流することができた」が 68.2%、「現代アートの知識を身につけることができた」が 61.9%と高くなっている。

・次回のトリエンナーレなど、今後このような芸術イベントにボランティアとして参加したいか聞いたところ、84.3%の方が「参加したい」又は「参加を検討したい」と回答した。

○ボランティア活動をしていかがでしたか

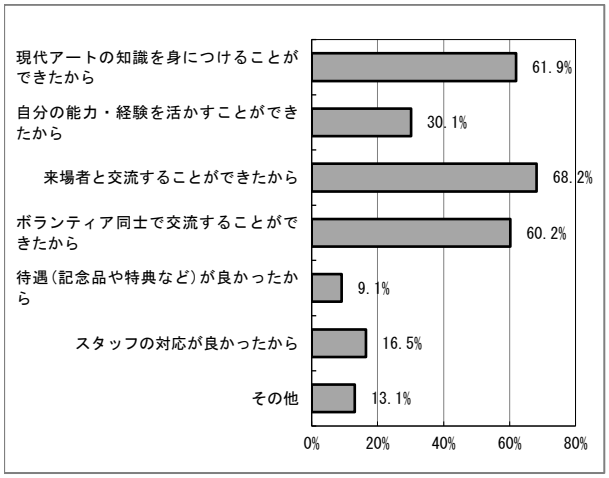
選択肢	数	比率
とても良かった	87	40.5%
良かった	89	41.4%
普通	26	12.1%
良くなかった	13	6.0%
計	215	100.0%



○どのような面で良かったと思いますか（複数回答可）

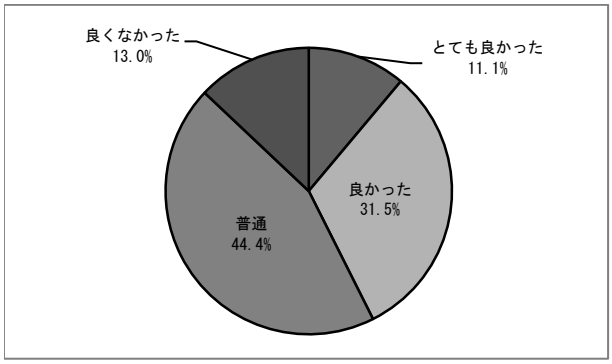
（※前問で「とても良かった」「良かった」と回答した方のみ）

選択肢	数	比率
現代アートの知識を身につけることができたから	109	61.9%
自分の能力・経験を活かすことができたから	53	30.1%
来場者と交流することができたから	120	68.2%
ボランティア同士で交流することができたから	106	60.2%
待遇（記念品や特典など）が良かったから	16	9.1%
スタッフの対応が良かったから	29	16.5%
その他	23	13.1%
計	456	―



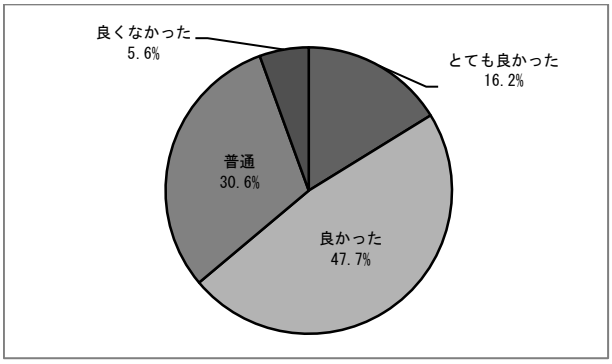
○研修の内容はいかがでしたか

選択肢	数	比率
とても良かった	24	11.1%
良かった	68	31.5%
普通	96	44.4%
良くなかった	28	13.0%
計	216	100.0%



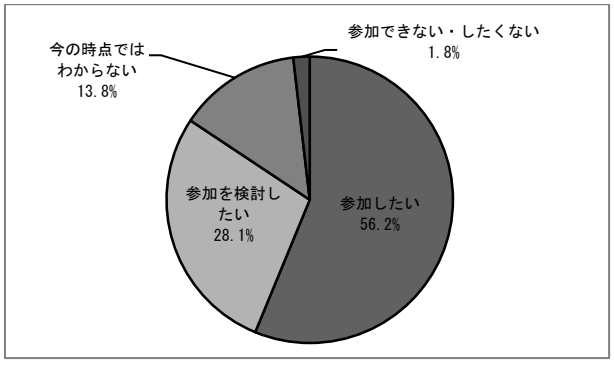
○ボランティア活動の内容についてはいかがでしたか

選択肢	数	比率
とても良かった	35	16.2%
良かった	103	47.7%
普通	66	30.6%
良くなかった	12	5.6%
計	216	100.0%



○今後、トリエンナーレのような芸術イベントにボランティアとして参加したいとお考えですか

選択肢	数	比率
参加したい	122	56.2%
参加を検討したい	61	28.1%
今の時点でわからない	30	13.8%
参加できない・したくない	4	1.8%
計	217	100.0%



○自由意見抜粋

・トリエンナーレが浸透し来場者とのコミュケーションが多くとれて、嬉しい時を過ごすことができた。参加する、見るだけから共に楽しむスタイルに変化していることを自分自身が強く感じた。
・トリエンナーレを一観客としてだけではなくボランティアとして参加することでより深く作品に触れることができたこと、多くのボランティアの方や一般の鑑賞者の方と対話する機会を得たことで自身と美術の生活の中での関わり方を考え直すことができたことがうれしく思う。
・ガイドに参加してくださったお客様の中に、遠くからあいちトリエンナーレだけを見に来たという方が何人もいた。また、他美術館でガイドをしたときは、あいちトリエンナーレで現代アートに目覚めたという方もいた。あいちトリエンナーレが根付いてきていると感じて嬉しかった。
・ボランティアのコミュニティが継続し、ノウハウに継続性がでれば良いと思う。
・作品についてもっと来場者にご案内したかったのに、そういった情報が少なく残念だった。

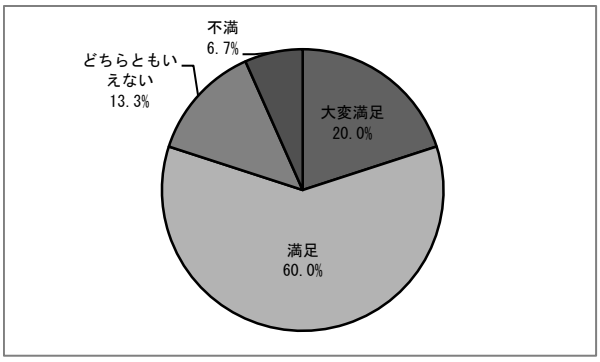
■舞台芸術公募プログラム参加団体

実施時期	11 月
調査対象	舞台芸術公募プログラム参加団体
配布・回収方法	メール
回収数/対象数	15 団体/15 団体（100.0%）

・来場者の反応については、「大変良かった」と「良かった」が合わせて 100.0%、全体的な満足度については、「大変満足」と「満足」が合わせて 80.0%となり、高い評価となった。
・次回参加したいかという質問に対しては、半数以上（53.3%）の団体が「参加したい」と回答した。

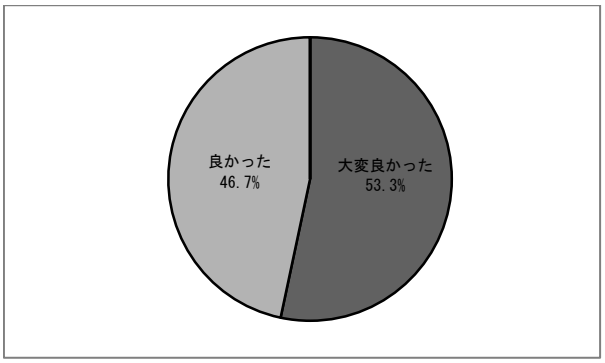
○全体的な満足度をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変満足	3	20.0%
満足	9	60.0%
どちらともいえない	2	13.3%
不満	1	6.7%
計	15	100.0%



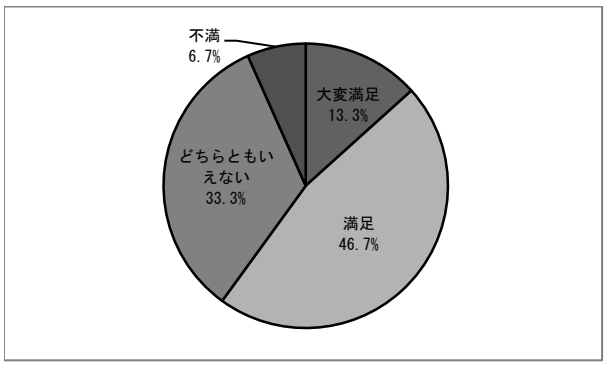
○来場者の反応は良かったと思いますか

選択肢	数	比率
大変良かった	8	53.3%
良かった	7	46.7%
どちらともいえない	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
計	15	100.0%



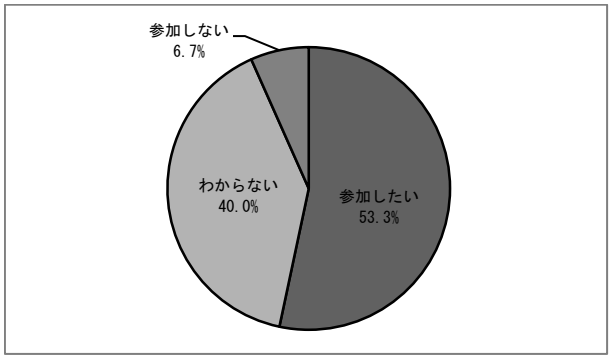
○実行委員会事務局のサポート体制はいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変満足	2	13.3%
満足	7	46.7%
どちらともいえない	5	33.3%
不満	1	6.7%
計	15	100.0%



○次回 2019 年のトリエンナーレにおいて「舞台芸術公募プログラム」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか。

選択肢	数	比率
参加したい	8	53.3%
わからない	6	40.0%
参加しない	1	6.7%
計	14	100.0%



○自由意見抜粋

・こうした機会がなければ開催できない規模の公演を開催できて良かった。
・当該事業への採択が、出演者・スタッフにとって力を出し切る原動力となり、公演の成功につながった。
・どの公演も普段の企画にはない、斬新・意欲的な内容であった。私たちの企画も未だかつてない内容で臨んだ。
・名古屋市芸術創造センターを今回新たに会場にした点は良いと思うが、開催時期をもっと分散させたり、週末の公演日数を増やすなど、実施の選択肢がもう少し幅広いとなお良い。
・普段あまり音楽・舞踊などに足を運ばない人たちに安価な値段で芸術に触れる機会をつくって欲しい。
・トリエンナーレの主催事業に比べて当該事業がどれほど露出していたかを考えると周知されていたとは言い難い。現代美術とパフォーミングアーツ公演に埋もれていたように思う。
・ＰＲの方法についてもっと工夫が欲しい。Web サイトやガイドブックでも公演情報を見つけられなかった。
・参加団体間の交流がもっとあるべきであると思う。プログラムに一体感ができ、より宣伝も見込まれる。

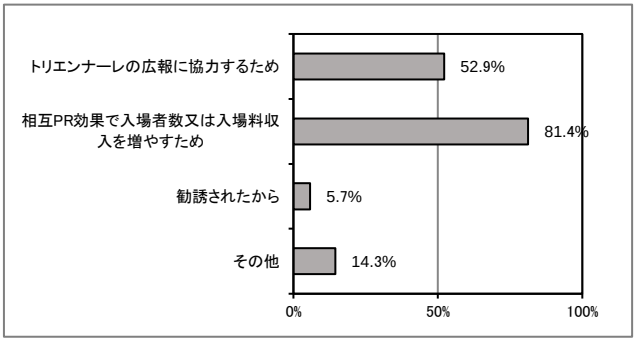
■パートナーシップ事業参加団体

実施時期	11 月
調査対象	パートナーシップ事業参加団体
配布・回収方法	メール
回収数/対象数	70 団体/344 団体（20.3%）

・満足度を聞いたところ、「大変満足」と「満足」が合わせて 65%を占めるものの、「どちらともいえない」との回答も 3 割を超えた。
・効果については、4 割の団体が「自らの事業の知名度があがった」「ブランド力が高まった」と感じている一方で、「特になかった」との回答も 16%あった。
・次回トリエンナーレのパートナーシップ事業にも参加したいか聞いたところ、「是非参加したい」「可能であれば参加したい」が合わせて 87%であった。

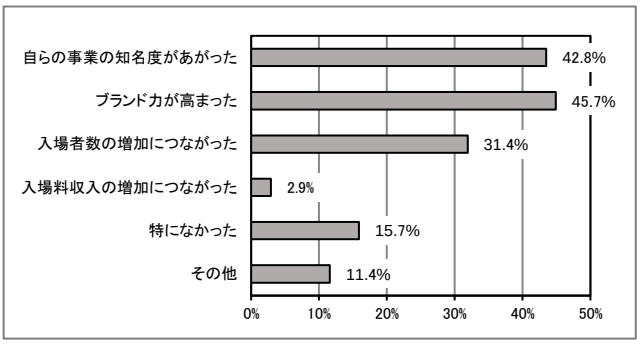
○パートナーシップ事業に参加された理由をお聞かせください（複数回答可）

選択肢	数	比率
トリエンナーレの広報に協力するため	37	52.9%
相互 PR 効果で入場者数又は入場料収入を増やすため	57	81.4%
勧誘されたから	4	5.7%
その他	10	14.3%
計	108	―



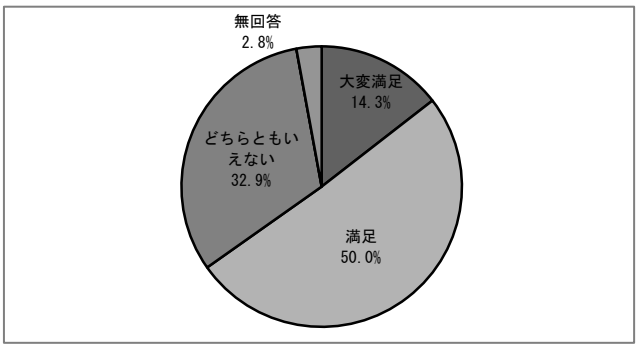
○パートナーシップ事業によって、どのような効果があったと感じられていますか（複数回答可）

選択肢	数	比率
自らの事業の知名度があがった	30	42.8%
ブランド力が高まった	32	45.7%
入場者数の増加につながった	22	31.4%
入場料収入の増加につながった	2	2.9%
特になかった	11	15.7%
その他	8	11.4%
計	104	―



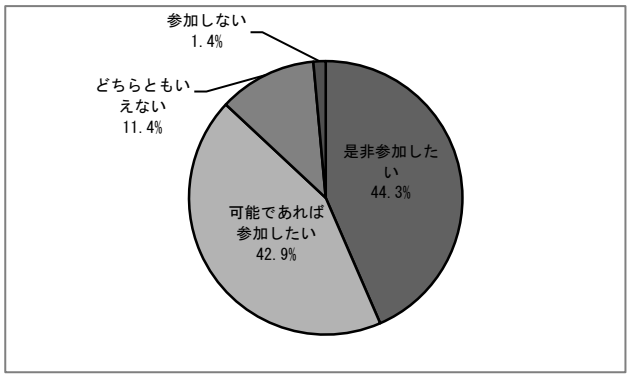
○パートナーシップ事業に対する満足度をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変満足	10	14.3%
満足	35	50.0%
どちらともいえない	23	32.9%
不満	0	0%
無回答	2	2.8%
計	70	100.0%



○次回 2019 年のトリエンナーレに今回と同様のパートナーシップ事業があれば、参加しようと思いますか

選択肢	数	比率
是非参加したい	31	44.3%
可能であれば参加したい	30	42.9%
どちらともいえない	8	11.4%
参加しない	1	1.4%
計	70	100.0%



○自由意見抜粋

・トリエンナーレのホームページに掲載していただけたことで、地元以外の方達にもイベントの情報発信ができた。
・次回も実施されるなら、ぜひ参加し、相互のＰＲになればと思う。
・パートナーシップ事業の Web サイトに掲載いただいたこと、チラシなどにパートナーシップ事業のロゴマークが入ったことで、展示会の出品協力者（作家）にも良い印象を持ってもらえた。
・何年も前からずっと憧れのトリエンナーレ。今回パートナーシップ事業に参加したかったので、展覧会を開いた。夢がかなって感激した。
・パートナーシップ事業は「相互に広報協力を行う」とあるが、トリエンナーレの印がついているだけで、双方とも積極的ではなく、もったいないと感じた。
・パートナーシップ事業とトリエンナーレの広報活動がもう少しリンクできていれば良かった。
・ホームページのパートナーシップ事業紹介ページへ飛ぶボタンがどこにあるのか分かりにくかった。

(3) 文化芸術関係機関等アンケート

区分	調査対象数	回収数	回収割合	該当ページ
愛知県内ギャラリー	85 件	17 件	20.0%	121
愛知県内小・中・高等学校、特別支援学校等	1,664 校	256 校	15.4%	124

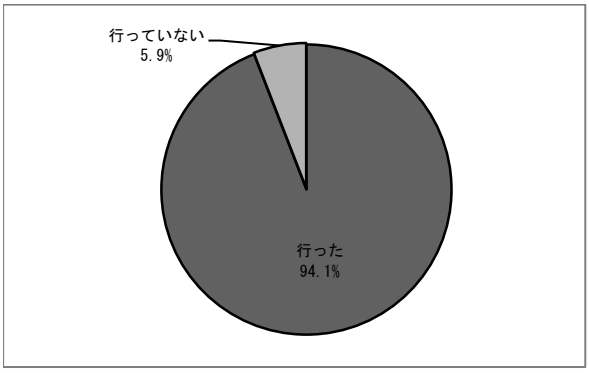
■愛知県内ギャラリー

実施時期	11 月～12 月
調査対象	愛知県内ギャラリー
配布・回収方法	郵送・Web
回収数/対象数	17 件/85 件（20.0%）

・「現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価」を除き、どの質問項目についても、半数以上の方が概ね高い評価をしている。
・総合評価としては、「大変良い」と「良い」が合わせて 64.7%、「どちらともいえない」が 35.3%となっている。
・半数以上が、「芸術の普及啓発」「芸術水準の向上」「創作活動の活性化等」に貢献していると回答している。

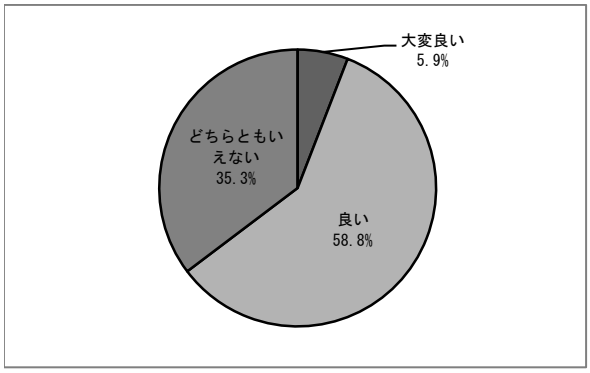
○トリエンナーレにお越しいただけましたか

選択肢	数	比率
行った	16	94.1%
行っていない	1	5.9%
計	17	100.0%



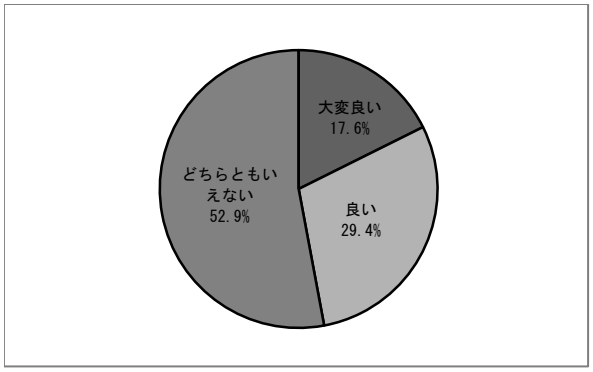
○総合評価

選択肢	数	比率
大変良い	1	5.9%
良い	10	58.8%
どちらともいえない	6	35.3%
良くない	0	0.0%
計	17	100.0%



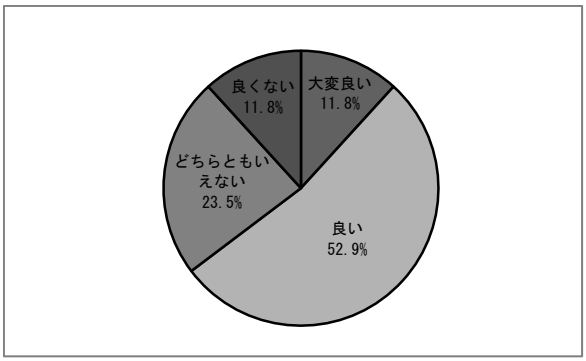
○現代芸術の先端的な動向を紹介する
国際芸術祭としての評価

選択肢	数	比率
大変良い	3	17.6%
良い	5	29.4%
どちらともいえない	9	52.9%
良くない	0	0%
計	17	100.0%



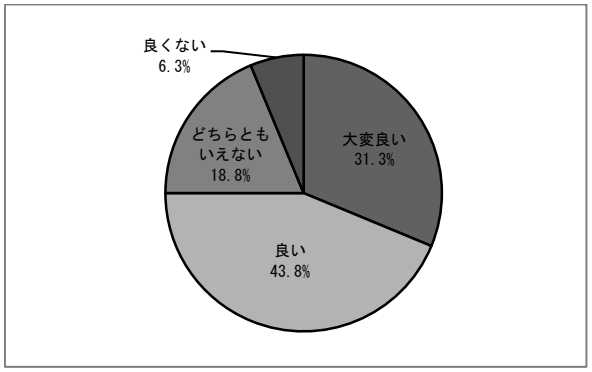
○祝祭的なイベントとしての評価

選択肢	数	比率
大変良い	2	11.8%
良い	9	52.9%
どちらともいえない	4	23.5%
良くない	2	11.8%
計	17	100.0%



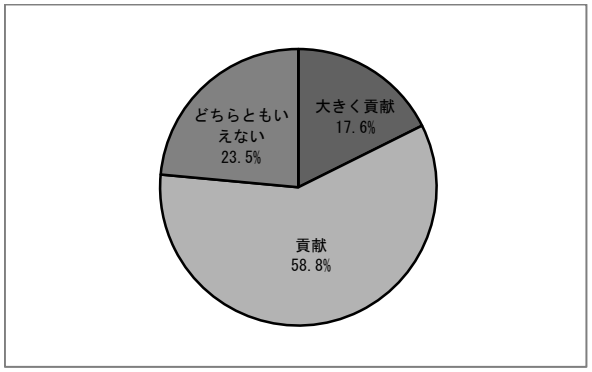
○パフォーミングアーツなどの舞台芸術を積極的に取り込む複合性についての評価

選択肢	数	比率
大変良い	5	31.3%
良い	7	43.8%
どちらともいえない	3	18.8%
良くない	1	6.3%
計	16	100.0%



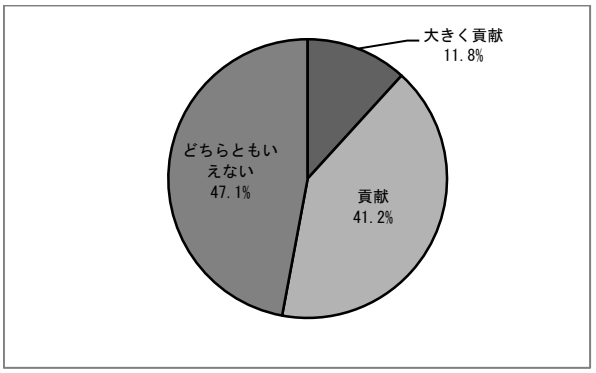
○芸術の普及啓発に貢献したと思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	3	17.6%
貢献	10	58.8%
どちらともいえない	4	23.5%
貢献していない	0	0.0%
計	17	100.0%



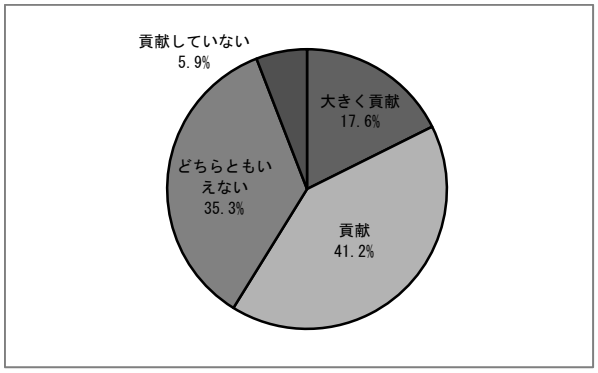
○わが国の芸術水準の向上に貢献したと思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	2	11.8%
貢献	7	41.2%
どちらともいえない	8	47.1%
貢献していない	0	0%
計	17	100.0%



○アーティストへの刺激や、創作活動の活発化等に貢献していると思いますか

選択肢	数	比率
大きく貢献	3	17.6%
貢献	7	41.2%
どちらともいえない	6	35.3%
貢献していない	1	5.9%
計	17	100.0%



○自由意見抜粋

・トリエンナーレには、ギャラリーにできないスケール感を求めることから、愛知県美術館の展示が良かった。
・スケール感のある作品が少なかったように思う。イベント全体の盛り上がりから考えると、国際的に著名な作家はやはり必要ではないだろうか。
・トリエンナーレ、ビエンナーレは国内にかなり増えてきた。「あいちトリエンナーレ」としての特長は何か、ということが求められていると思う。
・普段美術館に行くことが無い人も、「トリエンナーレ」を機会に行く人もいると思う。ただ、まだ観客は、美大・芸大・アート系の学校を出た人が観に行くのが中心の祭典のようにも感じた。
・県民の文化意識を高める工夫が大事だと思う。海外のアーティストを呼ぶのも大切だが、もっと愛知で頑張っている作家を取り上げて、積極的に参加を呼び掛けてほしい。
・フォトジェニックなスポットをもう少し増やして、拡散できると面白いと思う。若い人でも楽しめるようなものがどのエリアにもあると良い。 名古屋という土地柄、ブランド力は大事だと思う。

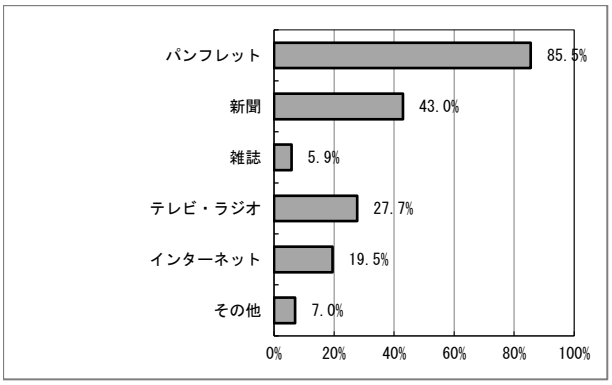
■愛知県内小・中・高等学校、特別支援学校等

実施時期	11 月～12 月
調査対象	愛知県内小・中・高等学校、特別支援学校等
配布・回収方法	郵送・Web、メール、FAX
回収数/対象数	256 校/1,664 校（15.4%）

・トリエンナーレの情報を何で得たかという質問に対して、「パンフレット」と回答している割合が 85.5%と高くなっているが、これは愛知県内の全学校等へ普及啓発リーフレットを送付した効果であると考えられる。
・普及教育リーフレットは、86.3%の学校で児童・生徒に配り、持ち帰ってもらっているため、愛知県内の大部分の児童・生徒に直接行き渡っていると考えられる。

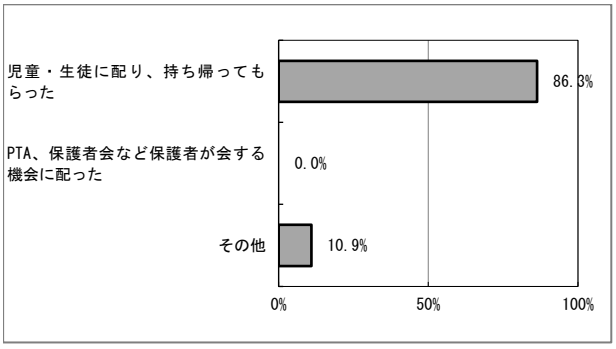
○トリエンナーレの情報を何で得られましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
パンフレット	219	85.5%
新聞	110	43.0%
雑誌	15	5.9%
テレビ・ラジオ	71	27.7%
インターネット	50	19.5%
その他	18	7.0%
計	483	―



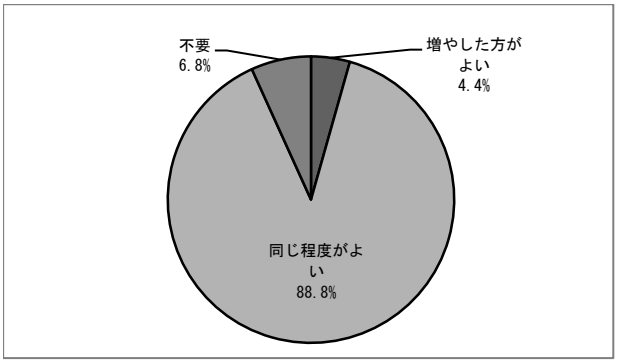
○貴校へ送付させていただいた普及教育リーフレットは、どのような方法で配布されましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
児童・生徒に配り、持ち帰ってもらった	221	86.3%
PTA、保護者会など保護者が会する機会に配った	0	0%
その他	28	10.9%
計	249	―



○送付の回数はいかがでしたか

選択肢	数	比率
増やした方がよい	11	4.4%
同じ程度がよい	223	88.8%
不要	17	6.8%
計	251	―

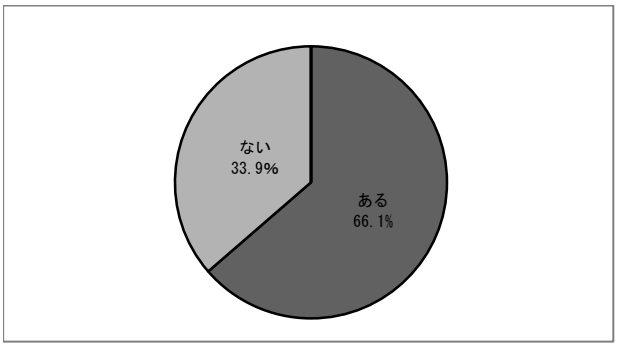


【学校向け団体鑑賞プログラム参加校】

・学校向け団体鑑賞プログラム参加校 90 校（延べ）にアンケートを行い、56 名から回答を得た。
・参加した感想については、「大変良かった」「良かった」が合わせて 98.2%に達し、非常に好評であった。
・参加した児童・生徒が現代美術に興味を持つ機会になったと思うか、という質問については、「とても思う」「思う」が 92.9%に達し、非常に効果があったと考えられる。

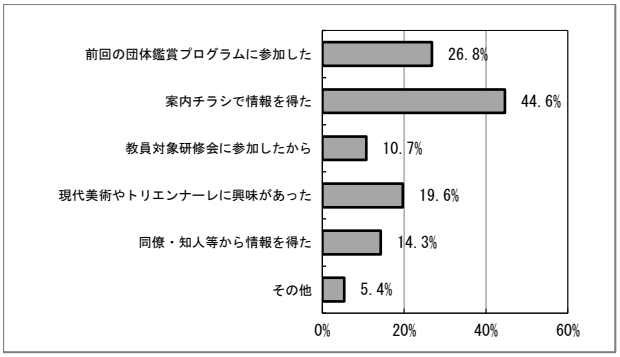
○これまでに、学校団体（部活動含む）で美術展を観覧したことはありますか。

選択肢	数	比率
ある	37	66.1%
ない	19	33.9%
計	56	100.0%



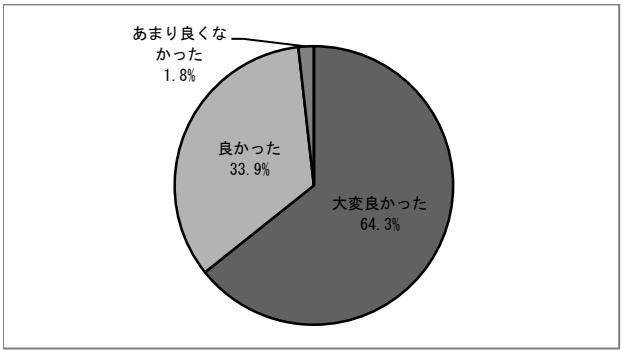
○今回のプログラムをお知りになったきっかけをお聞かせ下さい（複数回答可）

選択肢	数	比率
前回の団体鑑賞プログラムに参加した	15	26.8%
案内チラシで情報を得た	25	44.6%
教員対象研修会に参加した	6	10.7%
現代美術やトリエンナーレに興味があった	11	19.6%
同僚・知人等から情報を得た	8	14.3%
その他	3	5.4%
計	68	―



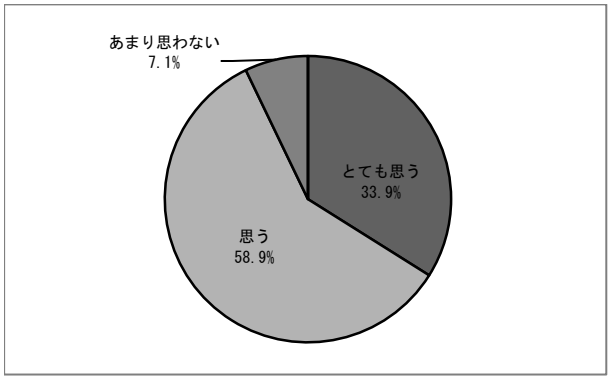
○学校団体鑑賞プログラムに参加していかがでしたか。

選択肢	数	比率
大変良かった	36	64.3%
良かった	19	33.9%
あまり良くなかった	1	1.8%
良くなかった	0	0.0%
計	56	100.0%



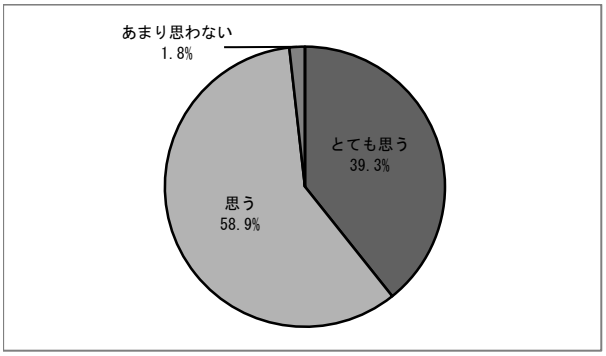
○団体鑑賞に参加したことで、貴校の児童・生徒が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思われますか。

選択肢	数	比率
とても思う	19	33.9%
思う	33	58.9%
あまり思わない	4	7.1%
思わない	0	0.0%
計	56	100.0%



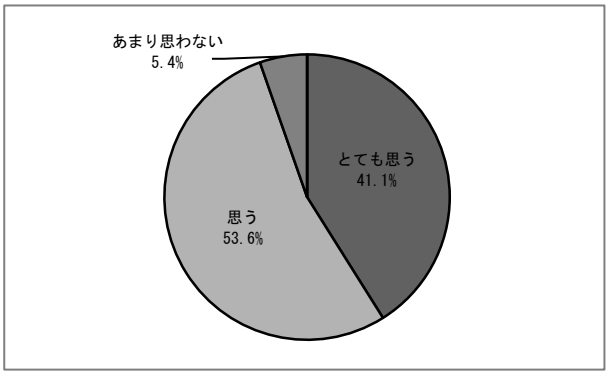
○今後も校外での美術展鑑賞を実施したいと思われますか。

選択肢	数	比率
とても思う	22	39.3%
思う	33	58.9%
あまり思わない	1	1.8%
思わない	0	0.0%
計	56	100.0%



○今後もあいちトリエンナーレの団体鑑賞プログラムに参加したいと思いますか。

選択肢	数	比率
とても思う	23	41.1%
思う	30	53.6%
あまり思わない	3	5.4%
思わない	0	0.0%
計	56	100.0%



○自由意見抜粋

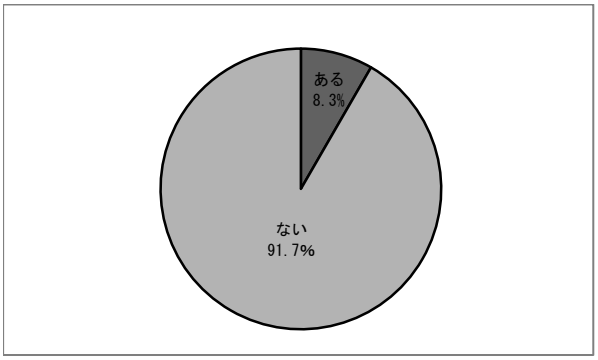
・説明が分かりやすく、いつもは理解できない現代アートを楽しむことができ、生徒も大変喜んでいた。
・額装された作品だけでない様々な表現方法があった。自分たちで紐を結んで作品になるのに驚いた。
・「よくわからない作品もあったが楽しかった」などの声が多かった。
・優しい口調でわかりやすく説明していただき、飽きずに作品を見ることができた。ありがとうございました。
・大きな作品があってびっくりした。
・一つの作品を作るのにとても時間がかかるのが分かった。
・高校生料金は決して安くはない。遠方であると電車代もかかる。無料で参加できありがたかった。
・感想を共有できて新鮮だった。目で見るもの、耳で聞いて感じるものがあり面白かった。
・子ども達の中には、ぜひ 3 年後も見てみたいという声が多く聞かれた。
・また美術館に行ってみたいという生徒が多数いた。館内で対話が行える環境がとてもありがたい。
・土日もできれば開催して欲しい。

【学校等へのアーティスト派遣事業参加校】

・学校等へのアーティスト派遣事業参加校８校にアンケートを行い、６校から回答を得た。
・参加した感想については、「大変良かった」「良かった」が合わせて 98.0%に達し、非常に好評であった。
・参加した児童・生徒が現代美術に興味を持つ機会になったと思うか、という質問については、「とても思う」「思う」が 87.5%に達し、効果があったと考えられる。

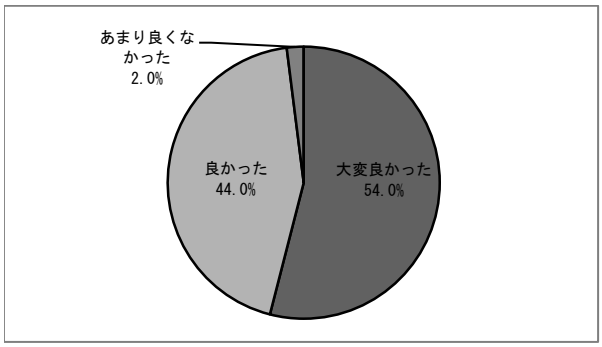
○これまでに、今回と同様の特別授業を実施したことはありますか。

選択肢	数	比率
ある	2	8.3%
ない	22	91.7%
計	24	100.0%



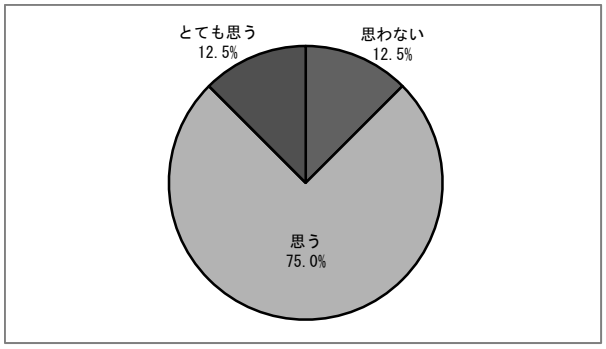
○今回のアーティスト派遣事業を実施していかがでしたか。

選択肢	数	比率
大変良かった	27	54.0%
良かった	22	44.0%
あまり良くなかった	1	2.0%
良くなかった	0	0.0%
計	50	100.0%



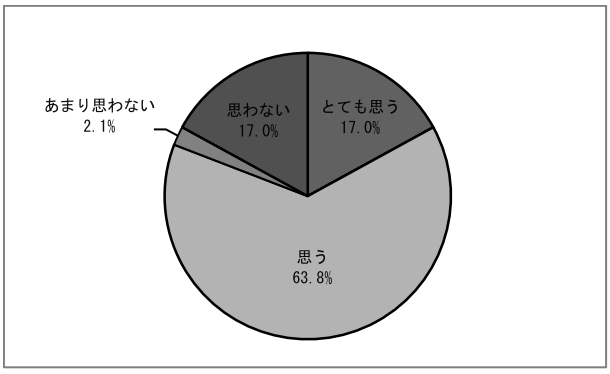
○本事業を受けたことで、児童・生徒達が現代美術あるいは作品制作に興味・関心を持つ機会になったと思われますか。

選択肢	数	比率
とても思う	6	12.5%
思う	36	75.0%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	6	12.5%
計	48	100.0%



○今後もアーティストと連携した授業を行いたいと思いましたか。

選択肢	数	比率
とても思う	8	17.0%
思う	30	63.8%
あまり思わない	1	2.1%
思わない	8	17.0%
計	47	100.0%



○自由意見抜粋

・貴重な経験をさせていただきありがとうございました。
・生徒にとっても教員にとってもとてもいい経験になった。いろいろご協力をいただき、ありがとうございました。
・実施までの期間が短く、打合せや準備などがうまく進まないこともあったが、連絡を取り合い、本校の生徒たちに合わせてこのような機会を与えていただいたことに感謝している。
・私自身が初めての活動で、本事業の意向に沿ったものになったか心配な部分もあるが、このような活動に携われたことをうれしく思う。
・山田うんさん、チョコピーさん、もじゃもじゃさん　3 人の皆さんが、生徒たちのパワーを気持ちよく引き出してくださり、心から「あー良い時間だなぁ」と思った。引き合わせていただき、ありがとうございました。

４　有識者意見

・文化芸術に関する専門的な知識・見識を有する者 9 名にヒアリングを行い、あいちトリエンナーレ 2016 に対する評価や今後の展開に向けたアドバイスをいただいた。
・今回のトリエンナーレは地味であったとの意見や、長者町会場の展開に弱さを感じるなどの意見もあったが、市民目線で楽しめる作品が多かったとの意見や、作品の伸びやかさを引き出すテーマ設定など全体を通じて素晴らしいキュレーションであったとの意見に代表されるように、有識者においても一定の評価を得た。
・また、今後のあいちトリエンナーレに対するアドバイスでは、愛知で行う展覧会としての独自性をしっかり出していってほしいとの意見があった。

■ヒアリング対象者　（敬称略）

氏名	職名等
石井 達朗	舞踊評論家
太下 義之	三菱ＵＦＪリサーチコンサルティング政策研究事業本部芸術・文化政策センター主席研究員／センター長
小島 祐未子	編集者・ライター
高北 幸矢	清須はるひ美術館館長
南條 史生	森美術館館長
藤井 知昭	国際文化研究所所長、愛知芸術文化協会顧問
藤江 充	愛知教育大学名誉教授
森　司	公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長
山口 裕美	アートプロデューサー、アートディレクター

■あいちトリエンナーレ 2016 に対する評価

〇評価できる点

・3 回開催することの意義は大きい。「あいちトリエンナーレ」の認知度が高まったことはもちろんだが、今回初めて見に行った人が、過去のことを調べたりする中で、現代アートに関心を持つ人が増えていくことは良いことである。

・世界各国、日本でさまざまなトリエンナーレ、ビエンナーレが行われているが、他地域から優れたアートを持ち込み、地域の芸術・文化に携わる者に大きな刺激を与えるという意義を持つことが大前提だが、その意味でも愛知にとってこの 3 回は重要だったと評価したい。

・簡潔に言うと「相当良いが、相当地味」であったが、現代アートの国際展のクオリティとしては、全体的に評価できる。

・子供向けプログラムでない作品でも、いろいろな会場で子連れが多かった。小さなお子さんが自由にアートを受け入れている様子が見て取れた。

・テーマから、ゆったり、ほっこりしたトリエンナーレのカラフルで優しい印象が、子どもやファミリー層に受け入れられたのではないか。

・今回は、過去 3 回の中で一番良かった。アートを高等的なものにしていない。わかる人だけ分かれば良いというスタンスではなく、市民目線で楽しめる作品、とっつきやすいが表層的ではない作品が各ジャンルともに多かったと感じる。全体を通じて素晴らしいキュレーションだった。

・先回の「揺れる大地」のようにイメージを規定してしまうテーマより、「虹のキャラヴァンサライ」のような大きなテーマの方が、作家の作品の伸びやかさが感じられてよい。

・拠点都市が増えること自体は良いことである。地域のアイデンティティとアートが響きあう楽しさが生まれる。「あいち」トリエンナーレという以上、名古屋市だけでなく、県内で拠点都市の拡大は必要である。同時に各自治体との密接な連携（資金、マンパワーなど）が、魅力の増幅につながると期待できる。

・キャラヴァンサライというテーマは発展性がありよかった。

・岡崎に加え、豊橋会場がプラスになったが、豊橋では地元の劇団等がトリエンナーレの開催に合わせ、独自にパフォーマンスを行っており、活気に満ちていたように思う。そういう相乗りの効果も含め、会場が広がるのは、地域にとっていろんな意味で刺激となるのではないか。そういう点では、今後も会場を増やすのは、良いことだと思う。

○改善・修正すべき点

・テーマは重要である。2016 の場合は、コンセプトはしっかりしていたが、それがテーマから伝わってこなかった。

・「相当地味」と言わざるを得ない。キービジュアルになる、カメラ映りの良いものがなかったという印象を持った。

・全体として派手さがないという点に関しては、アーティストが有名・無名というということや作品の問題だけでなく、周辺環境を含めた総合力も重要である。

・参加したアーティストと地元との出会い、関係性づくりも大切な要素である。アーティスト、特に国内のアーティストを大切にしていくことで、その芸術祭へのシンパシーは高まる。

・レインボーウィークスは、詰め込みすぎではないか。鑑賞する事が大変であった。毎週末１つ２つの公演でもよいのではないか。

・公募プログラムの位置付けがはっきりしていないように感じる。誰のためのものか。鑑賞者に還元されるようなプログラムになるためにも、トリエンナーレ側は参加団体の要望に配慮するのではなく、よりテーマに沿った内容になるよう導いていく、あるいは一緒に作っていく意識が必要である。

・公募プログラムは地元の団体の参加する楽しみや喜びにつながるかもしれないが、愛知のアーティストの多い少ないは、鑑賞者にとってはほとんど関心がない。愛知の人に世界の最高峰の作品を見せることが大切である。

・岡崎公園多目的広場の「アーキテクツ・オブ・エアー」に入れなかった方も多く、需要と供給のバランスについて考えさせられる。一方で、整理券を現地で受け取るという方法に、人を動かす力も感じた。

・愛知芸術文化センターの大ホールでの公演は、もっとたくさんの方に見に来て欲しかった。PR 不足である。

・会場が増えたことへの配慮が必要である。土地勘がないものにとっては大変なストレスである。時間と空間の連携という視点で、「案内」に一工夫すべきではないか。

・西洋のパフォーミングアーツの心理主義的な展開は、今、袋小路に入っていると思う。その点で、アジアの豊かさ（食・伝統文化など）に着目し、本展でそれを発信していくため、より身体的・原初的な表現への回帰が感じられる作品が増えていくと良い。

・今のようなエリート受けを狙ったかのような、「分かる人間にだけ分かれば良い」といった感のある小難しい概念のテーマのままなら、テーマはあってもなくても良いような気がする。たとえば、「海の復権」を掲げる「瀬戸内」のように、土地の文脈と密接に関わるものであるべきではないか。県の主催事業である以上、政策的意味合いを持つテーマの設定は、事業の継続を担保することになるのではないか。

・外部から見ると、中京圏なのに、なぜ、ものづくりとアートが絡むような展開をしないのかと思う。ディレクターを複数回固定し、政策的意味合いを持ったテーマに取り組み、終わった瞬間から次の準備が始められるようにして行けば、愛知らしさのある、愛知にしかできないアート・フェスティバルになっていくのではないか。

・オペラ作品自体は素晴らしかったが、テーマに沿っていない舞台だった。上演を頼む時期とテーマが決まる時期にズレがある。

・地元のアーティストの起用が少ないのではないか。現地枠を設けても良いと思う。

・三芸大との連携企画を設ける他、美術以外の分野でも良いので、地元の小、中、高校、大学との連携を基本のプランにいれることで、あいちトリエンナーレの開催意義を広くとらえる。

・情報発信、特に海外への発信が弱かった。

・長者町会場のパワーが低下している。都市型の美術展としてあいちトリエンナーレらしい、また現代アートの魅力のひとつでもある「まちなか」らしいものが欲しかった。

・会場を広げたことのデメリットもある。県外からの来場者にとっては、どう回ってよいかわからず、名古屋会場だけですませてしまう人も多かったのではないかと思われる。広がりと深さのバランスは難しいかもしれないが、広報・案内の仕方を工夫する必要がある。

・テーマにインパクトがなかったように思う。3 年に 1 回というトリエンナーレが、その時代の流れの中から生まれた必然性のあるテーマを提示することは、広報的観点からも意味がある。

・あいちトリエンナーレのミッションを明確にする。

・前回の長者町が良かっただけに、今回の弱さが目立った。美術館で現代美術をやっても人は来ない。街の中でやるから、いろいろな人が観に来る。そこに良いものがあれば、他の会場も見たいと思う。

○今後の展開に向けたアドバイス

・イベントが集中しすぎている。集中すると盛り上がり感は出るが、行くことができないイベントが増える。

・今回あまり尖った作品が少なかった。アーティストとともに勇気をもって進んでほしい。

・複数都市での開催になると折角良い作品があるのに、行かないで帰ってしまう人もいるので、地方会場の良さをもっと発信したら良い。

・あいちトリエンナーレは、パフォーミングアーツを取り入れているのが最大の特徴である。バーチャルの世界に埋没している人が多い時代背景のなか、「身体」にもっと着目して欲しい。「言葉」が先に立つと限定的となってしまうが、「身体」によるコミュニケーションには多様性がある。

・地域の芸術団体と連動してもよいのではないか。

・地元が盛り上がるように、芸大系の学生たちがトリエンナーレに来やすくなるような取組も必要ではないか。

・海外の姉妹友好都市などと交流をしてもよいのではないか。

・「見ること」と「表現すること」を、どうつなげるかという点が重要である。2013 は、美術展とのつながりのあるワークショップの開催など、キッズトリエンナーレでそのチャレンジに成功していたと思う。今回の「ダミコルーム」は、ビクトル・ダミコさんにちなんだもので、日本においても「こどもの城」でも紹介された感覚教育の系譜である。教育的な展示は、あいちトリエンナーレの継続的な課題の一つだと思う。

・単純に分類はできないが、いわゆるエンタメ系の作品とシリアス系の作品のバランスが大切だと考えている。愛知の特徴を考えると今後は「メディアアート」にも力点をおいて欲しい。アートとサイエンスや、テクノロジーをつないで、産業界を巻き込むことで、「ものづくり」県を標榜する愛知らしさにつながる。

・「アーティスト・イン・レジデンス」も検討してほしい。若いアーティストに１年間住んでもらいながら、制作を公開したり、地域住民と共創・協働したり、作品を残すなど。アジアも多様だが、特に東南アジアなどの作家にもっと目を向けて欲しい。

・アジアと愛知は、製造業でのつながりも深いはず。4 回目は、あいちトリエンナーレとしての顔を出していきたい時期でもあるから、アジアとの連携をテーマに、愛知で行う展覧会としての独自性をしっかり出していくのも一つの考え方と言えるのではないか。

・3 年に 1 回ではなく、3 年の積み上げに力点を置いたあいトリとしての歩みを進めて欲しい。

・地元をどう巻き込むか、どのような手法で情報発信するかを検討することが必要である。

・あいちトリエンナーレの色合いを出していくため、「場所」、「コンテンツ」で他の芸術祭との差別化を図り、それがある程度踏襲されなくてはいけない。

5　経済波及効果

・トリエンナーレの開催により、愛知県内では約 63.3 億円の経済波及効果があったと考えられる。

■経済波及効果の推計結果

経済波及効果 ①+②+③	直接効果 ①	第 1 次波及効果 ②	第 2 次波及効果 ③
63.3 億円	37.3 億円	14.8 億円	11.2 億円

（推計：名古屋学院大学社会連携センター）

① 直 接 効 果 ：あいちトリエンナーレ実行委員会の平成 26 年度から平成 28 年度までの愛知県内での総支出と来場者消費支出（飲食・買い物、交通費、宿泊費）との合計による最終需要増加額
② 第 1 次 波 及 効 果 ：直接効果が、その他の産業にもたらす生産誘発額
③ 第 2 次 波 及 効 果 ：先の需要の発生により雇用者の所得が生まれるが、その雇用者が消費したことによる生産誘発額

【算出の前提条件等】

・産業連関分析の方法により、「平成 23 年（2011 年）愛知県産業連関表」を用いて算出した。具体的な前提条件等は、以下のとおりである。

○主催者総支出額

・あいちトリエンナーレ実行委員会の平成 26 年度から平成 28 年度までの総支出から、愛知県外への支出約 1 億円を差し引いた額とした。

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度(見込)	計
あいちトリエンナーレ実行委員会総支出（県内）	0.4 億円	1.6 億円	10.1 億円	12.1 億円

○来場者数

・総来場者数は 601,635 人であるが、この中には複数会場を訪れた来場者がいることから、会期中に行った来場者アンケート調査結果を用いて、平均来訪会場数等を算出し、想定実来場者数を 199,303 人とした。うち宿泊者については、同アンケート調査結果を用いて、約 23.7%（47,235 人）と推計した。

総来場者数(A)	平均来訪会場数(B)	平均来訪日数(C)	想定実来場者数 (A÷B×C)	うち宿泊者
601,635 人	3.23 か所	1.07 日	199,303 人	47,235 人

○来場者消費額

・来場者アンケート等からわかる一人当たりの消費額に、想定実来場者数を乗じることで算出した。

区分	一人当たり消費額 （全体平均）	総消費額	（参考） うち豊橋地区	うち岡崎地区
飲食・買い物	6,215 円	12.4 億円	0.9 億円	1.1 億円
交通費	4,286 円	8.6 億円	1.3 億円	1.1 億円
宿泊費	8,948 円	4.2 億円	0.7 億円	0.5 億円
計	－	25.2 億円	2.9 億円	2.7 億円

６　パブリシティ効果

・トリエンナーレのメディア報道におけるパブリシティ効果（広告費換算額）は、33 億円以上と考えられる。

■パブリシティ効果の推計結果

種別	掲載・放映件数	合計金額	備考（対象期間）
新聞(一般紙、ブロック紙、地方紙等)	558 件	1,375 百万円	平成 26 年 7 月～平成 29 年 1 月
雑誌(美術誌、一般紙等)	283 件	145 百万円	平成 26 年 9 月～平成 29 年 1 月
テレビ	92 件	1,397 百万円	平成 26 年 8 月～平成 28 年 10 月
ラジオ	45 件	41 百万円	平成 26 年 11 月～平成 28 年 10 月
Web	620 件	411 百万円	平成 26 年 8 月～平成 29 年 1 月
計	1,598 件	3,369 百万円	

（推計：株式会社 NHK プラネット 中部支社）

※各メディアにおいて掲載・放映された同じ分量を広告出稿した場合の料金を 1 件ごとに算出し、その合計をパブリシティ効果の金額とした。

（新聞・雑誌のパブリシティ効果＝原単位価格×記事面積
テレビ・ラジオのパブリシティ効果＝原単位価格×放送時間
Web のパブリシティ効果＝簡易換算方式（各 Web サイトの広告金額の平均値を基準として加算））

※掲載・放映の確認ができたもののみを対象として算出しているため、実際には 33 億円以上の効果があったと考えられる。

Ⅶ　実行委員会の状況等

1　実行委員会の収支状況

■総括（平成 26 年度～平成 28 年度）

○収入の部　（単位：千円）

区分	平成 26 年度（決算）	平成 27 年度（決算）	平成 28 年度（予算）※	計
事業収入	26	79	232,446	232,551
負担金収入	40,417	158,524	904,158	1,103,099
愛知県負担金	30,313	118,893	734,187	883,393
名古屋市負担金	10,104	39,631	169,971	219,706
広告・協賛金等収入	―	―	18,476	18,476
諸収入（利息等）	352	8	1	361
計	40,795	158,611	1,155,081	1,354,487

○支出の部　（単位：千円）

区分	平成 26 年度（決算）	平成 27 年度（決算）	平成 28 年度（予算）※	計
事業費	37,288	155,184	1,135,789	1,328,261
管理費	3,507	3,427	4,630	11,564
予備費	―	―	14,662	14,662
計	40,795	158,611	1,155,081	1,354,487

※平成 28 年度は、平成 29 年 3 月現在で決算額が未確定のため予算額を記載

■平成 26 年度内訳（決算）

○収入の部

区分		金額（千円）
事業収入	カタログ等販売収入	26
公的負担金収入		40,417
	愛知県負担金	30,313
	名古屋市負担金	10,104
雑収入	受取利息収入等	352
合計		40,795

○支出の部

区分			金額（千円）
事業費			37,288
	事業企画活動費		15,380
		芸術監督・キュレーター等活動費	12,767
		展示等準備費	1,631
		その他事業企画活動費	982
	計画策定費		11,237
		計画策定調査費	4,403
		芸術監督選考費	152
		その他計画策定事務費	6,682
	広報関係費		10,671
		広報業務委託費	5,389
		その他広報関係費	5,282
管理費	管理費		3,507
		運営会議開催費	1,265
		その他管理費	2,242
合計			40,795

■平成 27 年度内訳（決算）

○収入の部

区分		金額（千円）
事業収入	カタログ等販売収入	79
公的負担金収入		158,524
	愛知県負担金	118,893
	名古屋市負担金	39,631
雑収入	受取利息収入等	8
合計		158,611

○支出の部

区分			金額（千円）
事業費			155,184
	現代美術		60,230
		芸術監督・キュレーター等活動費	44,020
		展示制作等準備費	16,210
	舞台芸術		27,983
		パフォーミングアーツ公演準備費	4,189
		プロデュースオペラ舞台制作等準備費	23,794
	普及・教育		7,117
		エデュケーター等活動費	5,577
		普及教育資料等作成費	1,540
	連携事業		19,495
		舞台芸術公募プログラム開催準備費	97
		大学連携・まちなか展開等準備費	16,598
		ボランティア関連経費	2,800
	広報・PR		40,359
		広報業務委託費	25,036
		広報イベント開催費	2,579
		その他広報物等作成費	12,744
管理費	管理費		3,427
		運営会議開催費	600
		その他管理費	2,827
合計			158,611

■平成 28 年度内訳（予算）

○収入の部

区分		金額（千円）
事業収入		232,446
	国際展入場券収入	167,073
	カタログ等販売収入	4,874
	舞台芸術入場券収入	60,499
公的負担金収入		904,158
	愛知県負担金	734,187
	名古屋市負担金	169,971
広告・協賛金等収入	企業協賛、国及び各種文化財団等の助成金等	18,476
雑収入	受取利息収入	1
合計		1,155,081

○支出の部

区分			金額（千円）
事業費			1,135,789
	現代美術		664,900
		芸術監督・キュレーター等活動費	40,763
		展示制作費	396,454
		会場関係費	167,976
		モバイル・トリエンナーレ関係費	3,684
		美術展その他開催費	56,023
	舞台芸術		227,667
		パフォーミングアーツ開催費	107,612
		プロデュースオペラ公演開催費	120,055
	普及・教育		29,631
		エデュケーター等活動費	9,941
		創作・鑑賞プログラム開催費	10,230
		普及教育資料等作成費	3,403
		その他普及活動費	6,057
	連携事業		137,230
		舞台公募ブロググラム開催費	12,296
		大学連携関係費	22,255
		その他まちなか展開関連経費	81,609
		ボランティア	21,070
	広報・PR		76,361
		広報業務委託費	26,234
		広報イベント開催費	3,760
		その他広報関係費	46,367
管理費	管理費		4,630
		運営会議開催費	1,055
		その他管理費	3,575
予備費	予備費		14,662
合計			1,155,081

２　実行委員会委員等

平成 29 年 2 月末日現在

区分	職名	氏名及び就任年月日			
		平成 26 年度		平成 27 年度	平成 28 年度
		H26.4.1			
会長	愛知県知事	大村秀章	→	→	→
会長代行	名古屋市長	河村たかし	→	→	→
副会長	名古屋商工会議所会頭	岡谷篤一	→	→	H28.11.1 山本亜土
	一般社団法人中部経済連合会会長	三田敏雄	→	→	H28.6.9 豊田鐵郎
委員	名古屋商工会議所専務理事	細谷孝利	→	→	H28.11.1 小川秀樹
	一般社団法人中部経済連合会専務理事	伊藤範久	→	→	H28.6.9 小川正樹
	中日新聞社代表取締役社長	小出宣昭	→	→	→
	日本放送協会名古屋放送局局長	吉川幸司	H26.6.13 菅 康弘	→	H28.4.25 中野谷公一
	独立行政法人国際交流基金理事	櫻井友行	→	H27.4.22 柄 博子	→
	愛知芸術文化センター総長	神田真秋	→	→	→
	愛知県県民生活部長	寺澤義則	→	H27.4.1 川島 毅	→
	名古屋市観光文化交流局長	宮村喜明 (市民経済局長)	→	→	H28.4.1 渡邊正則
	公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長	中野秀秋	→	→	H28.6.20 野村道朗
	公益財団法人名古屋市文化振興事業団理事長	平野幸久	→	→	→
	名古屋ボストン美術館館長	馬場駿吉	→	→	→
	愛知県立芸術大学学長	松村公嗣	→	→	→
	大原美術館館長	高階秀爾	→	→	→
	多摩美術大学名誉教授	峯村敏明	→	→	→
	愛知県立芸術大学名誉教授	北爪道夫	→	→	→
	鳥取大学教授	野田邦弘	→	→	→
監事	（公認会計士・税理士）	柘植里恵	→	→	→
	（文化行政経験者）	中谷光孝	→	→	→
顧問	愛知県議会議長	久保田浩文	H26.6.13 三浦孝司	H27.6.3 横井五六	H28.5.25 鈴木孝昌
	名古屋市会議長	藤田和秀	H26.5.28 うかい春美	H27.6.5 藤沢ただまさ	H28.6.2 加藤一登
	愛知県市長会会長	堀 元	H26.6.4 太田稔彦	H27.6.10 伊藤 太	H28.6.8 鈴木淳雄
	愛知県町村会会長	籾山芳輝	→	H27.6.17 久野時男	→
芸術顧問	多摩美術大学学長	建畠 晢	→	→	→

参与	愛知県議会総務県民委員会委員長	伊藤勝人	H26.6.12 吉田真人	H27.6.5 鈴木喜博	H28.5.25 坂田憲治
	名古屋市会経済水道委員会委員長	金庭宜雄	H26.6.19 渡辺房一	H27.6.4 鹿島としあき	H28.5.17 大村光子
	中京テレビ放送代表取締役社長	山本孝義	→	→	H28.6.21 小松伸生
	ＣＢＣテレビ代表取締役社長	大石幼一	H26.6.25 林 尚樹	→	→
	テレビ愛知代表取締役社長	小谷 勝	H26.6.25 高橋美夫	→	→
	東海テレビ放送代表取締役社長	内田 優	→	→	→
	名古屋テレビ放送代表取締役社長	荒木高伸	H26.6.20 横井正彦	→	→
	朝日新聞社名古屋本社代表	横山 宏	→	→	H28.6.24 坂本弘子
	日本経済新聞社常務執行役員名古屋支社代表	泉 宣道	H27.3.27 鈴木 諭	→	H28.4.1 宮本明彦
	毎日新聞社中部本社常務執行役員中部代表	渡会文化	H26.6.24 齊藤善也	→	H28.6.24 小泉敬太
	読売新聞東京本社執行役員中部支社長	尾崎和典	H26.6.24 植松 実	→	H28.6.7 足達 新
	名古屋音楽大学学長	高橋 肇	→	→	H28.4.1 佐藤惠子
	名古屋芸術大学学長	竹本義明	→	→	→
	名古屋造形大学学長	小林亮介	→	→	→
	愛知県小中学校長会会長	岡田 豊	→	H27.5.28 加藤千博	→
	愛知県公立高等学校長会会長	岩間 博	→	H27.4.14 小川和夫	H28.5.10 笹尾幸夫
	名古屋市立小中学校長会会長	辻 正人	→	H27.4.15 小口博則	H28.4.20 鈴木直政
	愛知県私学協会会長	石田正城	→	→	→
	公益財団法人科学技術交流財団理事長	松尾 稔	→	～H27.5.9	－
	愛知芸術文化協会顧問	藤井知昭	→	→	→
	愛知県美術館館長	村田眞宏	→	H27.4.1 島 敦彦	→
	愛知県芸術劇場館長	丹羽康雄	→	→	→
	名古屋市美術館館長	松永恒裕	H26.5.1 横井政和	→	→
	豊橋市副市長	－	－	H28.2.1 堀内一孝	→
	岡崎市副市長	－	－	H28.2.1 寺田雄司	→
アドバイザー	独立行政法人国際交流基金文化事業部長	伊東正伸	→	→	→
	東北大学大学院教授	－	H26.4.22 五十嵐太郎	→	→
幹事	愛知県県民生活部文化芸術課長	岩田道人	→	H27.4.1 松原光彦	H28.4.1 陣内さゆり
	名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部長	鈴木政二 (市民経済局文化観光部長)	→	→	H28.4.1 山内正照
	名古屋商工会議所企画振興部長	吉田吉彦	→	H27.6.9 田中 豊	→
	一般社団法人中部経済連合会企画部長	村田純一	→	→	H28.6.27 森 浩英
	愛知芸術文化センター管理部長	長屋 徹	→	H27.4.1 岩田道人	→
	公益財団法人愛知県文化振興事業団常務理事	上田信子	→	→	H28.6.20 知崎剛久

※職名は平成 28 年 4 月現在のもの

３　実行委員会事務局組織

区分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
事務局長	愛知芸術文化センター長	愛知芸術文化センター長	愛知芸術文化センター長
愛知県県民生活部文化芸術課国際芸術祭推進室 （専任組織）	国際芸術祭推進室長 （事務局次長）	国際芸術祭推進室長 （事務局次長）	国際芸術祭推進室長 （事務局次長）
	主幹（国際芸術祭）	主幹（調整） 主幹（事業）	主幹（調整） 主幹（事業）
	調整グループ　5 名	調整グループ　7 名	調整グループ　10 名
	【愛知県】 ・職員　3 名 ・非常勤嘱託員　2 名	【愛知県】 ・職員　5 名 ・非常勤嘱託員　2 名	【愛知県】 ・職員　6 名 ・非常勤嘱託員　2 名 ・臨時的任用職員　1 名（※2） 【名古屋市】 ・職員　1 名
	事業グループ　4 名	事業第一グループ　8 名	事業第一グループ　16 名
	【愛知県】 ・職員　4 名	【愛知県】 ・職員　5 名 ・臨時的任用職員　3 名（※1）	【愛知県】 ・職員　5 名 ・非常勤嘱託員　1 名 ・臨時的任用職員　7 名（※2） ・市町村等職員実務研修生 2 名（岡崎市、一宮市） 【名古屋市】 ・職員　1 名
		事業第二グループ　7 名	事業第二グループ　11 名
		【愛知県】 ・職員　5 名 ・非常勤嘱託員　1 名 ・臨時的任用職員　1 名（※1）	【愛知県】 ・職員　5 名 ・非常勤嘱託員　1 名 ・臨時的任用職員　4 名（※2） ・市町村等職員実務研修生 1 名（津島市）
	計 11 名	計 25 名	計 40 名

〇愛知芸術文化センター（管理部、愛知県美術館）
〇公益財団法人愛知県文化振興事業団
〇名古屋市美術館

(※1) 平成 27 年 12 月から平成 28 年 3 月まで
(※2) 平成 28 年 4 月から 11 月または 12 月まで

■あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

（愛知県県民生活部　文化芸術課　国際芸術祭推進室内）
〒461-8525
愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2　愛知芸術文化センター内
TEL：052-971-6111
FAX：052-971-6115

（資料）あいちトリエンナーレの開催経緯

■平成 17 年度（2005 年度）

平成 18 年 3 月	・「新しい政策の指針」公表

我が国屈指の複合的文化芸術施設である愛知芸術文化センターの機能や蓄積を十分に活用するとの観点や、経済面のみならず、文化芸術面においても世界に向けた創造力、発信力を一層強化しながら、心の豊かさや潤いのある生活が実感できる魅力的な地域づくりに繋げていくとの視点から、平成 18 年 3 月に策定した「新しい政策の指針」において、「愛知芸術文化センターを拠点として、国際的に注目される文化芸術イベントの開催をめざす」こととした。

■平成 18 年度（2006 年度）

平成 18 年 12 月 25 日	・「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」報告書 ～文化芸術あいち百年の軸をつくる～

平成 18 年度に開催した「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」において、「文化芸術施策の総合戦略としての愛知ビエンナーレを開催すべき」との提言を受ける。

■平成 19 年度（2007 年度）

平成 19 年 12 月	・「文化芸術創造あいちづくり推進方針」策定

国際芸術祭の開催を「文化芸術政策全体を推進するための先導的役割を担う取組」として位置づける。

平成 20 年 3 月 21 日	・「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」公表

初回となる 2010 年は、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、現代美術を中心に、舞台芸術も含めた芸術祭を開催していくこと、この地域から世界に向けた、新しい芸術の創造・発信に加え、芸術文化の普及・教育、祝祭的な賑わいを図ることなどを盛り込んだ基本構想を策定・公表。

○「あいち国際芸術祭（仮称）基本構想」の概要

開催意義	「国際文化交流の豊富な基盤やノウハウ」、「世界にも誇り得る複合的文化芸術施設とその活動の蓄積」、「様々な文化芸術資源」などを十分に活かしながら、経済面だけではなく文化芸術面でも日本、世界に貢献。
開催目的	・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。 ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。 ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。
事業構想	・創造・発信：初回（2010 年）は美術部門の現代美術を基軸とするが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、音楽、舞踊、オペラなども併せて展開。 ・普及・教育：美術、舞台芸術などの部門で幅広い層を対象にした様々な普及・教育プログラムを展開。 ・祝祭的展開：美術、舞台芸術を始め、伝統芸能、生活文化も含む様々な部門で県民に親しまれる事業を展開。

■平成 20 年度（2008 年度）

平成 20 年 6 月 28 日	【設立総会】 ・実行委員会の設立 【第 1 回運営会議】 ・平成 20 年度事業計画及び収支予算等決定

平成 20 年 7 月 22 日	・芸術監督選任（平成 20 年 8 月 1 日芸術監督就任）

○芸術監督
建畠 晢（国立国際美術館館長）

平成 20 年 10 月 14 日	【第 2 回運営会議】 ・正式名称、テーマ、基本方針決定・公表

○正式名称、テーマ・基本方針の決定・公表
・正式名称
あいちトリエンナーレ 2010 / Aichi Triennale 2010
・テーマ
都市の祝祭　Arts and Cities
・基本方針（要約）
あいちトリエンナーレ 2010 を愛知・名古屋の文化のシンボルとして多くの市民に親しまれ、海外への芸術の発信基地としても注目されるユニークな特色をもったものにするために、次の三つの基本方針を掲げた。
方針①　美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介する。
方針②　美術館や劇場のみならずまちなかへも進出し、都市の祝祭としての高揚感を演出する。
方針③　現代美術を基軸にしつつ、オペラやダンス、音楽などのパフォーミング・アートをも積極的に取り込む。

平成 21 年 3 月 25 日	【第 3 回運営会議】 ・企画概要、ロゴマーク公表 ・平成 21 年度事業計画及び収支予算等決定

○ロゴマークの公表
《ロゴマークデザインのコンセプト》
・あいちトリエンナーレの頭文字、ＡとＴを組合せ、芸術の先端的な動向を示す矢印として形作られている。
・その矢印は、従来のロゴマークのような固定的なものではなく、あらゆる方向を指し示すことで、芸術表現の多様性、国内外への発信、祝祭的ひろがりを表現できる。
・また、街中にもひろがる会場では、視覚的な案内表示としても機能するように考えられている。

あいち
トリエンナーレ
2010

デザイナー：山本 誠（愛知県生まれ、東京都在住。愛知県立芸術大学卒業）

■平成 21 年度（2009 年度）

平成 21 年 8 月 21 日	【第 4 回運営会議】 ・企画概要公表

平成 22 年 3 月 25 日	【第 5 回運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 22 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 22 年度（2010 年度）

平成 22 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2010 開催 （8 月 21 日～10 月 31 日）

平成 23 年 3 月 25 日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ 2010 開催結果報告 ・平成 23 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 23 年度（2011 年度）

平成 23 年 7 月 20 日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定

平成 23 年 7 月 28 日	・芸術監督選任（平成 23 年 8 月 1 日芸術監督就任）

○芸術監督
五十嵐太郎（東北大学大学院工学研究科教授（都市・建築学））

平成 23 年 10 月 21 日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表

○テーマ
揺れる大地 － われわれはどこに立っているのか ： 場所、記憶、そして復活
Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

平成 24 年 3 月 29 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 24 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 24 年度（2012 年度）

平成 24 年 7 月 25 日	【運営会議】 ・企画概要公表

平成 25 年 3 月 22 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 25 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 25 年度（2013 年度）

平成 25 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2013 開催 （8 月 10 日～10 月 27 日）

○開催概要
・正式名称　あいちトリエンナーレ 2013／Aichi Triennale 2013
・テーマ　揺れる大地－われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活
Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection
・開催期間　2013 年（平成 25 年）8 月 10 日（土）～10 月 27 日（日）[79 日間]
・会場　[名古屋地区] 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、中央広小路ビル、オアシス２１、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など
[岡崎地区] 東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場
・来場者数　626,842 人
・芸術監督　五十嵐太郎
・開催内容　[現代美術] 招聘作家による国際美術展、企画コンペによる展示、映像プログラム、モバイル・トリエンナーレ
[舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ
[普及・教育] キッズトリエンナーレ、学校向けプログラム
[祝祭的展開・まちなか展開] 祝祭ウィーク事業、大学連携プロジェクト、建築関連プロジェクト

平成 26 年 3 月 26 日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ 2013 開催結果報告 ・平成 26 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 26 年度（2014 年度）

平成 26 年 7 月 22 日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定

平成 26 年 7 月 25 日	・芸術監督選任（平成 26 年 8 月 1 日芸術監督就任）

○2016 芸術監督
港 千尋（写真家・著述家 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授（映像人類学））

平成 26 年 10 月 29 日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表

○テーマ
虹のキャラヴァンサライ　創造する人間の旅
Homo Faber: A Rainbow Caravan

平成 27 年 3 月 26 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 27 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 27 年度（2015 年度）

平成 28 年 3 月 30 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 28 年度事業計画及び収支予算等決定

■平成 28 年度（2016 年度）

平成 28 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2016 開催 （8 月 11 日～10 月 23 日）

○開催概要
・正式名称　あいちトリエンナーレ 2016／Aichi Triennale 2016
・テーマ　虹のキャラヴァンサライ　創造する人間の旅
Homo Faber : A Rainbow Caravan
・開催期間　2016 年（平成 28 年）8 月 11 日（木・祝）～10 月 23 日（日）[74 日間]
・主な会場　[名古屋地区] 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか（長者町会場、栄会場、名古屋駅会場）
[豊橋地区] PLAT 会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場
[岡崎地区] 東岡崎駅会場、康生会場、六供会場
・開催内容　[現代美術] 国際展、映像プログラム
[舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ
[普及・教育] 創作プログラム、鑑賞プログラム、レクチャープログラム、学校等団体向けプログラム
[連携事業] モバイル・トリエンナーレ、舞台芸術公募プログラム、芸術大学連携プロジェクト、特別連携事業、並行企画事業、パートナーシップ事業、サポート体制（ボランティア、市民団体等によるあいちトリエンナーレ 2016 連携事業）

（資料）あいちトリエンナーレ実行委員会規約

第１章　総　則

（名称）

第１条　本会は、あいちトリエンナーレ実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（事務所）

第２条　実行委員会は、事務所を愛知県名古屋市東区東桜一丁目１３番２号に置く。

（目的）

第３条　実行委員会は、あいちトリエンナーレ（以下「トリエンナーレ」という。）の準備及び開催運営等を行うことにより、次に掲げる事項を達成することを目的とする。

（１）新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献すること。

（２）現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ること。

（３）文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ること。

（事業）

第４条　実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

（１）トリエンナーレの準備及び開催運営

（２）その他実行委員会の目的を達成するために必要な事業

第２章　組　織

（委員）

第５条　実行委員会の委員は、次のとおりとする。

（１）別表１に掲げる職にある者

（２）若干名の学識経験者

２　前項第２号に規定する委員は、第１２条第１項第１号に規定する運営会議（以下「運営会議」という。）の同意を得て会長が委嘱する。

（役員）

第６条　実行委員会に、次の役員を置く。

（１）　会長　　１名

（２）　会長代行　　１名

（３）　副会長　　２名

（４）　監事　　２名

２　会長は、愛知県知事をもって充てる。

３　会長代行は、名古屋市長をもって充てる。

４　副会長は、名古屋商工会議所会頭及び一般社団法人中部経済連合会会長をもって充てる。

５　監事は、運営会議の同意を得て会長が委嘱する。

（職務）

第７条　会長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。

２　会長代行は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

３　副会長は、会長代行とともに会長を補佐する。

４　監事は、実行委員会の業務及び会計を監査する。

（任期）
第８条　役員及び委員の任期は３年とする。ただし、再任を妨げない。
２　補欠又は増員により選任された役員及び委員の任期は、前項本文の規定にかかわらず、前任者又は他の現任者の残任期間とする。
３　役員及び委員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

（芸術監督）
第９条　実行委員会に、トリエンナーレの学芸業務の最高責任者として芸術監督を置く。
２　芸術監督は、運営会議において選任し、会長が委嘱する。

（顧問、芸術顧問及び参与）
第 10 条　実行委員会に、顧問、芸術顧問及び参与を置くことができる。
２　顧問、芸術顧問及び参与は、会長が委嘱する。
３　顧問は、実行委員会の運営に関し、会長の相談に応じる。
４　芸術顧問は、トリエンナーレの学芸業務に関し、会長及び芸術監督の相談に応じる。
５　参与は、実行委員会の事業に関し、会長の相談に応じる。

（アドバイザー）
第 11 条　実行委員会に、トリエンナーレの展開に関し専門的な観点から助言を得るため、アドバイザーを置くことができる。
２　アドバイザーは、会長が委嘱する。

第３章　会　議

（会議）
第 12 条　実行委員会に、次の会議を置く。
（１）運営会議
（２）有識者部会
（３）幹事会
２　前項に定めるもののほか、実行委員会に会長が必要と認める会議を置くことができる。

（運営会議）
第 13 条　運営会議は、会長、副会長その他の委員をもって構成する。
２　運営会議は、次の事項を議決する。
（１）事業計画及び収支予算
（２）事業報告及び収支決算
（３）その他実行委員会の運営に関する重要な事項
３　運営会議は、会長が召集する。
４　運営会議の議長は、会長がこれに当たる。
５　運営会議は、構成員の３分の２以上の出席をもって成立する。
６　運営会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
７　やむを得ない理由のため運営会議に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前２項の規定の適用については、その構成員は出席したものとみなす。
８　会長が必要と認める場合、あらかじめ通知した事項に対する構成員による書面表決をもって、運営会議の議決に代えることができる。
９　会長は、必要と認めるときは、運営会議に構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（有識者部会）
第14条　トリエンナーレの芸術部門の企画に関し、専門的な観点から芸術監督に助言を行うため、運営会議に有識者部会を置く。
２　有識者部会は、第５条第１項第１号に規定する委員のうちから会長が指名する者及び同項第２号に規定する委員をもって構成する。
３　有識者部会に部会長を置き、第５条第１項第１号に規定する委員のうちから会長が指名する者をもって充てる。
４　部会長は、有識者部会の事務を掌理する。
５　芸術監督は、有識者部会の経過及び結果を会長に報告する。
６　前条第３項、第４項及び第９項の規定は、有識者部会について準用する。この場合において、それらの規定中「運営会議」とあるのは「有識者部会」と、「会長」とあるのは「部会長」と読み替えるものとする。

（幹事会）
第15条　実行委員会の円滑な運営を図るため、運営会議の下に幹事会を置く。
２　幹事会は、幹事長、幹事長代理及び幹事をもって構成し、それぞれ、別表２に掲げる職にある者をもって充てる。
３　第１３条第３項から第９項までの規定は、幹事会について準用する。この場合において、それらの規定中「運営会議」とあるのは「幹事会」と、「会長」とあるのは「幹事長」と読み替えるものとする。

第４章　会長の専決処分

（会長の専決処分）
第16条　会長は、運営会議の議決事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができる。
２　会長は、前項の規定により専決処分をしたときは、これを次の運営会議において報告しなければならない。

第５章　事務局

（事務局）
第17条　実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。
２　事務局は、愛知県県民生活部文化芸術課国際芸術祭推進室に置く。
３　事務局には、所要の職員を置く。
４　事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第６章　会　計

（経費）
第18条　実行委員会の活動に必要な経費は、負担金その他の収入をもって充てる。

（会計年度）
第19条　実行委員会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

第７章　補　則

（委任）
第20条　この規約に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附　則

１　この規約は、平成２０年６月２８日から施行する。

２　実行委員会の設立当初の役員及び委員並びに顧問は、第５条及び第６条並びに第１０条第１項及び第２項の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

３　実行委員会の設立当初の役員及び委員の任期は、第８条第１項の規定にかかわらず、設立の日から平成２３年３月３１日までとする。

４　実行委員会の設立当初の会計年度は、第１８条の規定にかかわらず、設立の日から平成２１年３月３１日までとする。

附　則

この規約は、平成２０年１０月１日から施行する。

附　則

この規約は、平成２０年１０月１４日から施行する。

附　則

この規約は、平成２１年８月１日から施行する。

附　則

この規約は、平成２３年７月　８日から施行する。

附　則

この規約は、平成２４年７月２５日から施行する。

附　則

この規約は、平成２８年７月２９日から施行する。

別表１（第５条関係）

区　分	職　　名
委員	愛知県知事
	名古屋市長
	名古屋商工会議所会頭
	一般社団法人中部経済連合会会長
	名古屋商工会議所専務理事
	一般社団法人中部経済連合会専務理事
	中日新聞社代表取締役社長
	ＮＨＫ名古屋放送局長
	独立行政法人国際交流基金理事
	愛知芸術文化センター総長
	愛知県県民生活部長
	名古屋市観光文化交流局長
	公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長
	公益財団法人名古屋市文化振興事業団理事長

別表２（第１５条関係）

区　分	職　　名
幹事長	愛知県県民生活部文化芸術課長
幹事長代理	名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部長
幹　事	名古屋商工会議所企画振興部長
	一般社団法人中部経済連合会企画部長
	愛知芸術文化センター管理部長
	公益財団法人愛知県文化振興事業団常務理事

（資料）あいちトリエンナーレの推移

項目	2010	2013	2016
名称	あいちトリエンナーレ 2010 Aichi Triennale 2010	あいちトリエンナーレ 2013 Aichi Triennale 2013	あいちトリエンナーレ 2016 Aichi Triennale 2016
テーマ	都市の祝祭 Arts and Cities	揺れる大地－われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活 Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection	虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅 Homo Faber : A Rainbow Caravan
芸術監督 （就任当時の職）	建畠 哲 （国立国際美術館館長）	五十嵐太郎 （東北大学大学院工学研究科（都市・建築学）教授）	港 千尋 （多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授（映像人類学））
会期	平成 22 年（2010 年） 8 月 21 日(土) ～10 月 31 日(日)[72 日間]	平成 25 年（2013 年） 8 月 10 日(土) ～10 月 27 日(日)[79 日間]	平成 28 年（2016 年） 8 月 11 日(木･祝)～10 月 23 日(日)[74 日間]
会場	・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場、 ・納屋橋会場 ※その他、名古屋城、オアシス 21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、中央広小路ビル、オアシス 21、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・松本町会場	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・栄会場 ・名古屋駅会場 ■豊橋地区 ・PLAT 会場 ・水上ビル会場 ・豊橋駅前大通会場 ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・六供会場
参加アーティスト数	24 の国と地域から 131 組	34 の国と地域から 122 組	38 の国と地域から 119 組
来場者数	572,023 人	626,842 人	601,635 人
国際展展示面積	18,127 ㎡	33,963 ㎡	21,644 ㎡
プロデュースオペラ・演目	オッフェンバック作曲 『ホフマン物語』	プッチーニ作曲 『蝶々夫人』	W.A.モーツァルト作曲 『魔笛』
全体事業費(決算額)	（平成 20～22 年度） 1,207,537 千円	（平成 23～25 年度） 1,178,248 千円	（平成 26～28 年度） 1,354,486 千円※
経済波及効果	約 78.1 億円	約 69.0 億円 （うち愛知県内 約 58.2 億円）	愛知県内 約 63.3 億円
パブリシティ効果 （広告費換算）	47 億円以上	55 億円以上	33 億円以上
ボランティア登録者数（実人数）	1,289 人	1,310 人	1,144 人
主な特徴 （新たな展開）	－	・象徴的なテーマ展開 ・建築の視点の導入 ・まちなか展開の拡大（岡崎市内での展開） ・建築関連プロジェクト ・モバイル・トリエンナーレ（移動型展示） ・パブリック・プログラム	・参加アーティストと企画体制の地域的な拡がり ・まちなか展開の拡大（豊橋市内での展開） ・グループとして多様な活動をするアーティストを紹介 ・舞台芸術公演が集中する「レインボーウィークス」 ・コラムプロジェクト　等

※平成 28 年度分は平成 29 年 3 月現在で決算額が未確定のため予算額で積算

あいちトリエンナーレ 2016 開催報告書

平成 29 年 3 月

編集：あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
発行：あいちトリエンナーレ実行委員会

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
（愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内）
〒461−8525
愛知県名古屋市東区東桜1-13-2　愛知芸術文化センター６階
Tel: 052-971-6111　Fax: 052-971-6115
E-mail:geijutsusai@pref.aichi.lg.jp